

リアホナ

総大会の 説教

七十人、中央若い男性会長会、
中央初等協会会長会顧問が
新しく召される

3つの新しい神殿が
発表される



© GREG OLSEN, 聖書に描かれた人々

「エマオへの道」 グレグ・オルセン画

「この日、ふたりの弟子が、……エマオという村へ行〔つた〕……。語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。……一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。彼らは互^{たがい}に言った、『道々お話しになったとき、また聖書を説き明^{あか}してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか。』」
(ルカ 24 : 13, 15, 30 - 32)

中央女性部会

- 8 家庭を光と真理で満たす
チェリル・A・エズプリン
- 11 神様からの家族
キャロル・M・ステューブズ
- 14 家族の宣言の擁護者
ボニー・L・オスカーソン
- 17 慰め主
ヘンリー・B・アイリング管長

土曜午前の部会

- 22 「〔これは〕わたしが選ぶところの断食……ではないか」
ヘンリー・B・アイリング管長
- 26 幸福の計画
ボイド・K・バックー会長
- 29 とともに高め合いましょう
リンダ・K・バートン
- 32 種まきのたとえ
ダリン・H・オークス長老
- 36 信じることを選ぶ
L・ホイットニー・クレートン長老
- 39 世界中どこでも——
なぜ結婚と家族が大切なのか
L・トム・ペリー長老

土曜午後の部会

- 43 教会役員の支持
データー・F・ウークトドルフ管長
- 45 2014年度教会監査部報告
ケビン・R・ジャーゲンセン
- 45 2014年度統計報告
ブルック・P・ヘイルズ
- 46 そこで彼らは恐れを静め
デビッド・A・ベドナー長老
- 50 なぜ結婚、なぜ家族か
D・トッド・クリストファーソン長老
- 54 福音の音楽
ウィルフォード・W・アンダーセン長老
- 56 末日聖徒は努力し続ける民です
デール・G・レンランド長老
- 59 真に善良で偽りのない人
マイケル・T・リングウッド長老
- 62 主は光
クエンティン・L・クック長老

中央神権部会

- 67 ヤングアダルト——
最も偉大な世代の人々
M・ラッセル・バラード長老
- 70 勝つことのできる、勝つはずの戦い
ウリセス・ソアレス長老
- 77 父親の役割——
わたしたちの永遠の行く末
ラリー・M・ギブソン
- 80 誠実であることについて
データー・F・ウークトドルフ管長
- 84 神権と個人の祈り
ヘンリー・B・アイリング管長
- 88 神権——神聖な賜物
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 91 神殿の祝福
トーマス・S・モンソン大管長
- 93 信仰に立ち返る
ローズマリー・M・ウィクソム
- 96 主を仰ぎ見る
ジョセ・A・ティシェラ長老
- 98 あなたにとって福音は
今でも素晴らしいものですか
ジェラルド・コセー ビショップ
- 101 放蕩息子を待つ
ブレント・H・ニールソン長老
- 104 憐れみと愛の神の恵み
ジェフリー・R・ホランド長老
- 107 恵みの賜物
データー・F・ウークトドルフ管長

日曜午後の部会

- 111 選択の自由を保ち、
信教の自由を守る
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 114 命の木のそばにとどまる
ケビン・W・ピアソン長老
- 117 福音がもたらす永遠の観点
ラファエル・E・ピノ長老
- 119 御国が来ますように
ニール・L・アンダーセン長老
- 123 あなたが責任を負うなら
ホルヘ・F・ゼバヨス長老
- 126 生めよ、増えよ、地を従わせよ
ジョセフ・W・シターティ長老
- 129 安息日は喜びの日
ラッセル・M・ネルソン長老
- 72 末日聖徒イエス・キリスト教会の
中央幹部と中央役員
- 133 大会で話された実話や物語の索引
- 134 指導者の言葉——
大会を生活に取り入れる
- 136 教会のニュース



疑問への答えを見つけてみましょう
 尋ね求める気持ちで
 大会号を学ぶことは、
 個人的な靈感を受けるうえで
 役立ちます。
 このQRコードを読み取るか
lds.org/go/answers515
 にアクセスすれば、
 今大会の話者が答えている
 幾つかの大切な質問や疑問を
 参照できます。



第185回年次総大会

2015年3月28日 土曜夜、中央女性部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—リンダ・K・パートン。開会の祈り—ビバリー・ティンギー。閉会の祈り—レイナ・I・アプト。音楽—ユタ州ソルトレーク、マレー、カマス、パークシティ地域へのステークに集う初等協会の少女、若い女性、扶助協会の姉妹から成る合同聖歌隊；指揮—エリン・バイク・トル；オルガニスト—リンダ・マーゲッツ。「主のみ言葉は」『賛美歌』46番；音楽の発表、「神様からの家族」ニリー、ザブリスキー編曲、未刊；“From Homes of Saints Glad Songs Arise,” Hymns, 297番、ウィルバーク編曲、未刊；メドレー：「家庭の愛」『賛美歌』181番；「親しく語り合はん」『賛美歌』140番；“Our Savior’s Love,” Hymns, 113番、トル、マーゲッツ編曲、未刊。

2015年4月4日 土曜午前、一般部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り—ティモシー・J・ダイクス長老。閉会の祈り—ラリー・J・エコウ・ホーク長老。音楽—タバナクル合唱団；指揮—マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト—アンドリュウ・アンズワース、クレア・クリスチャンセン。「導きたまえよ」『賛美歌』41番；「神に栄え」『賛美歌』33番；「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番、ザブリスキー編曲、プラム刊；「山の上に」『賛美歌』2番；「主に来たれ」『賛美歌』67番、マーフィー編曲、未刊；「救い主、われ信ず」『賛美歌』72番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊。

2015年4月4日 土曜午後、一般部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り—ジン・A・スティープズ。閉会の祈り—ランディー・D・ファンク長老。音楽—ユタ州デビスおよびウィーバー郡地域のヤング・シングル・アダルトステークに集う会員から成る合同聖歌隊；指揮—ソニヤ・スパーリング；オルガニスト—ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ。「造り主の主を」『賛美歌』37番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊；「主イエスの愛に」『賛美歌』109番、マーフィー編曲、未刊；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番、エリオット編曲、ジャックマン刊。

2015年4月4日 土曜夜、神権部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—

ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り—デビッド・L・ベック。閉会の祈り—ロバート・C・ゲイ長老。音楽—ブリガム・ヤング大学の神権者聖歌隊；指揮—ロナルド・ステアリー；オルガニスト—リチャード・エリオット、アンドリュウ・アンズワース。「山の強さのため」『賛美歌』23番、トム・ダーハム編曲、ジャックマン刊；“On This Day of Joy and Gladness,” Hymns, 64番、ステアリー編曲、未刊；「天よりの声聞け」『賛美歌』166番；「主よ、嵐すさび」『賛美歌』59番、ステアリー編曲、未刊。

2015年4月5日 日曜午前、一般部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り—リンダ・S・リーブズ。閉会の祈り—ケビン・S・ハミルトン長老。音楽—タバナクル合唱団；指揮—マック・ウィルバーク；オルガニスト—クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「主はよみがえりぬ」『賛美歌』114番、ウィルバーク編曲、未刊；“Consider the Lilies,” ホフマン、ライアン編曲、ジャックマン刊；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番；「イエス様よみがえる」『子供の歌集』44；「主はよみがえりぬ（アレヤ）」『賛美歌』115番、ウィルバーク編曲、未刊。

2015年4月5日 日曜午後、一般部会

管理—トーマス・S・モンソン大管長。司会—ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り—S・ギフォード・ニールセン長老。閉会の祈り—青柳弘一長老。音楽—タバナクル合唱団；指揮—マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト—ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ。「贖いの主」『賛美歌』73番、ウィルバーク編曲、未刊；「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20、ホフハインス編曲、未刊；「来ませ、王の王」『賛美歌』29番；「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36、マーフィー編曲、未刊；「われ主を愛して」『賛美歌』134番、マーフィー編曲、未刊。

総大会の説教の入手

総大会の説教をさまざまな言語で聴くことができます。インターネットで conference.lds.org にアクセスし、言語を選択してください。大会説教は「福音ライブラリー」モバイルアプリでも利用できます。通常、総大会後6週間以内に、大会の映像と音声録音したものが配送センターを通じて入手できるようになります。障がいのある会員が利用できる形式の総大会に関する情報は disability.lds.org で入手できます。

ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

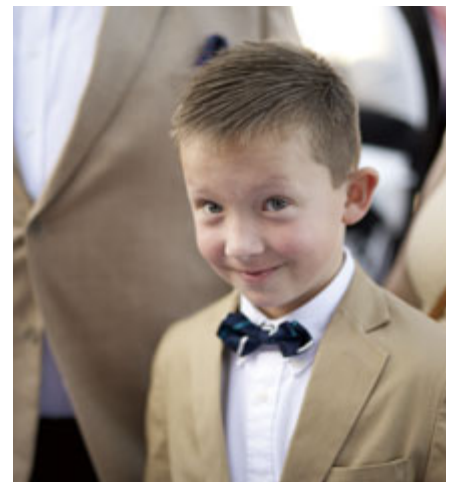
表紙

表紙—写真／コディー・ベル

裏表紙—写真／レスリー・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティ—ウェルデン・C・アンダーセン、コディー・ベル、ヤナイ・ビンガム、エール・ホルヘス、ランディー・コリアー、ウェストン・コルトン、マーク・デービス、クレグ・ダイヤモンド、ナサニエル・レイ・エドワーズ、ブランドン・フリント、アシュリー・ラーセン、オーガスト・ミラー、レスリー・ニルソン、ブラッド・スレード、クリスティーナ・スミス。ひまわりの写真—クエンティン・L・クック家の厚意により掲載。航空機内—クレグ・マーシャル・ジェacobセン。合衆国ミネソタ州ウッドベリー—サンドラ・ウォールクウィスト。合衆国オレゴン州マクミンビル—ジェード・ウェスト。コートジボワール、アビジャン—ルシアン・アフォーイとアガサ・アフォーイ、フィリップ・アサードとアネリス・アサード。フランス、ベルピニャン—ルネイ・カスターニョ。フィンランド、ヘルシンキ—クッカ・フリストロム。南アフリカ、ヨハネスブルグ—クリストフェル・ゴールデン家の厚意により掲載。パチカン市—フーマム。タイ、バンコク—サーティット・カイワルワタナ。インド、ムンバイ—ウエンディー・キラー。カナダ、ケベック州モントリオール—ルホン・リュクイ。メキシコ、カンパチエ州シウダッド・デル・カーメン—エクトル・マヌエル・マルティネス。アルゼンチン、ネウケン州サンマルティン・デ・ロス・アンデス—コルトン・モンドラゴン。香港、ナショナルグラフィック・コンテスト写真—ブライアン・ヤン。ブラジル、リオ・グランデ・ド・ノルテ州ナタール—クレベール・テックス。イングランド、ロンドン—ケイミ・ウェディック。



末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレーグ・A・カードン

顧問: マービン・B・アーノルド, クリストフェル・ゴールデン, ラリー・R・ローレンス, ジェームズ・B・マルティン, ジョセフ・W・シターティ

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワーナー

業務ディレクター: ピンセント・A・ポーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボグ

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

出版補佐: リサ・カロリナ・ロベス

執筆・編集: ブリタニー・ビーティ, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ローリー・フラウ, ギャレット・H・ガーフ, ラリン・ポーター, ガント, ジル・ハッキング, シャーロット・ラーカバル, ミンディ・アン・リービット, マイケル・R・モリス, サリー・ジョンソン・オデカーク, ジョシュア・J・パーキ, ジョアン・ビンボロ, リチャード・M・ロムニー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・ウィティン

編集インターン: エリス・タン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ビーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, マンディー・M・ベントレー, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, ネット・ギネス, コリン・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロフグレン, スコット・M・ムーイ, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テアー, K・ニコール・ウォーケンホースト

知的財産コーディネーター: コレット・ネバカー・オース

制作主幹: ジェーン・アン・ビーターズ

制作: コニー・パウソープ, フリッジ, ジュリー・パーデット, フライアン・W・キュギ, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン, ゲイル・テイト・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳・制作課長: 森田康貴

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙)でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

年間購読: 国内 1,030円(送料込み)

海外 1,030円(+送料実費) 海外在住の方はお近くのディスクリビューションセンターへのお申し込みをお勧めします。

普通号/大会号 100円

【リアホナ】へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ iahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は iahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

【リアホナ】(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ハンガリー語, アイランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ルルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

© 2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

【リアホナ】に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2015 Vol. 39 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5).

NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368 Salt Lake City, UT 84126-0368, USA



話者リスト (50音順)

アイリング, ヘンリー・B 17, 22, 84
アンダーセン, ウィルフョード・W, 54
アンダーセン, ニール・L 119
ウィクソム, ローズマリー・M 93
ウークトドルフ, ディーター・F 43, 80, 107
エスプリン, チェリル・A 8
オークス, ダリン・H 32
オズカーソン, ボニー・L 14
ギブソン, ラリー・M 77
クック, クエンティン・L 62
クリストファーソン, D・トッド 50
クレイトン, L・ホイットニー 36
コセー, ジェラルド 98
シターティ, ジョセフ・W 126
ジャーゲンセン, ケビン・R 45
スティーブンズ, キャロル・M 11
ゼバヨス, ホルヘ・F 123
ソアレス, ウリセス 70
ティシェラ, ジョセ・A 96
ネルソン, ラッセル・M 129, 101
バートン, リンダ・K 29
バックナー, ボイド・K 26
バラード, M・ラッセル 67
ピアソン, ケビン・W 114
ピノ, ラファエル・E 117
ヘイルズ, ブルック・P 45
ヘイルズ, ロバート・D 111
ベドナー, デビッド・A 46
ペリー, L・トム 39
ホルランド, ジェフリー・R 104
モンソン, トーマス・S 88, 91
リングウッド, マイケル・T 59
レンランド, デール・G 56

テーマ別索引

あ愛 11, 26, 29, 50, 62, 80, 96, 101, 104
証 36, 67, 70, 80, 93, 101
アダムとエバ 26, 46, 50, 104, 117
安息日 36, 62, 67, 129
イエス・キリスト 17, 36, 46, 50, 62, 67, 77, 80, 91, 93, 96, 101, 104, 107, 111, 114, 119
一致 11, 62
祈り 22, 84, 91, 114
インスティテュート 67
疑い 36, 93, 101
永遠の命 114, 117
恐れ 46
思いやり 11, 17
親の務め 14, 39, 50, 54, 126, 129
か改宗・改心 32, 56, 93
家族 8, 11, 14, 26, 39, 50, 62, 101, 126, 129
家族歴史 129
活発化 93, 101
家庭 8, 14, 54, 62
神の属性 11, 126
観点 117, 119
寛容 111
奇跡 98, 119
希望 36, 101, 117
義務 88, 123
逆境 11, 17, 36, 62, 91, 96, 117, 119
教会の発展 45, 119
教会の召し 59, 88
悔い改め 26, 56, 107
啓示 84
結婚 14, 26, 29, 39, 50, 67, 126
謙遜 59, 84
さ再臨 119
祝福 22, 36, 88, 91
贖罪 17, 46, 50, 56, 62, 70, 96, 104, 107, 123

ジョセフ・スミス 8, 111
信教の自由 111
神権 77, 84, 88
信仰 36, 46, 62, 84, 93, 98, 101, 114
真実 8
親切 29
神殿 26, 91
救いの計画 14, 26, 50, 111, 117, 126
聖学研究 98, 129
聖約 11, 17, 29, 46, 59, 114, 129
聖霊 8, 17, 54, 84, 98, 111
セミナー 67
選択の自由 36, 70, 111, 123
た耐え忍ぶ 114
断食 22, 67, 84, 129
父親の務め 14, 29, 77
父なる神 11, 77
デート 67
テクノロジー 67, 96
弟子の務め 32, 59, 67, 80, 114, 123
伝道活動 91, 111, 126
道徳 26
な忍耐 54, 101, 129
は母親の務め 14
光 8, 36
フェローシップ 93
復活 104, 107
復活祭 91, 104, 107
平安 17, 46, 91
奉仕 22, 59, 80, 84, 129
ホームティーチング 84
ポルノグラフィ 67, 70
ま恵み 36, 46, 50, 59, 80, 104, 107
モルモン書 8, 114
やヤングアダルト 67
優先順位 32
誘惑 70
喜び 26, 93, 96



末日聖徒イエス・キリスト教会 第185回年次総大会の見どころ

「総 大会の話のテーマには割り当てがあります。しかし、それは中央幹部から来るのではなく、御霊の導きによります」と十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は説明した（32ページ）。中央女性部に始まり、復活祭の日曜日に閉幕した今回の靈感あふれる総大会で、話者は家族、断食、神殿活動、弟子としての務め、安息日、救い主の贖罪など、福音のさまざまなテーマについて語った（3ページ参照）。

今大会の見どころを以下に紹介する。

- トーマス・S・モンソン大管長は新しい神殿の建設を発表した。コートジボワール・アビジャン、ハイチ・ポルトープ

ランス、タイ・バンコクである。大管長はこのことについて、次のように語った。「これらの地域、そして世界中で神殿がある場所に住む忠実な会員にとって、何とすばらしい祝福が用意されていることでしょう。」（91ページ）

- 教会員は七十人第一定員会の新たな教員5人、新しい中央若い男性会長会、そして中央初等協会会長会の新しい顧問一人を支持した。
- 2014年度統計報告では、1,530万人の教会員が3,114のステーク、561の地方部に集っていると発表された。昨年に3つの新しい神殿が奉献され、合わ

せて144の神殿で儀式が執行されている。

- 大会の様子は95か国語に通訳された。昨年10月からの新制度により、3人の話者が英語以外の言語で話した。

復活祭の週末には、何人もの話者が救い主の復活について証を述べた。「キリストは……神の御子です」とトーマス・S・モンソン大管長は証した。「イエス・キリストこそ、最初の復活祭の朝に墓から出て来られた御方、神の全ての子供たちに永遠の命の賜物をもたらしただけの御方です。」（93ページ）■









中央初等協会会長会第二顧問
チェリル・A・エスプリン

家庭を光と真理で満たす

家族が世の圧力に耐えられるように、わたしたちは光と福音の真理で満たされていなければなりません。

この家族が「神様からの家族」¹を歌って神聖な真理を教えるのを聞き、わたしの心は御霊で満たされました。わたしたちが御霊のささやきを感じ、光と真理で満たされる方法はたくさんありますが、霊を鼓舞してくれる音楽もその一つです。

わたしが光と真理で満たされるという概念を特に大切に思うようになったのは、ずっと前のある経験がきっかけでした。中央若い女性管理会の姉妹たちが、霊的に強い家族と家庭を築くというテーマで教える集会に出席したときのことで、目に見える形で教えようと、一人の指導者がソーダの缶を2本使ってデモンストレーションをしました。片手に空の缶、反対の手にはまだ開いていない、ソーダがいっぱいに入った缶を持ちました。まず、空の缶を強く握ると、圧力に屈してすぐに曲がり、やがて潰れてしまいました。次に反対の手で開いていない缶を強く握りましたが、缶は圧力に屈せず、空の缶のように曲がったり、潰れたりしませんでした。缶が満たされていたからです。

このデモンストレーションを自分自身の生活と家庭と家族に当てはめました。御

霊と福音の真理に満たされていると、わたしたちを押し潰そうとするこの世の勢力に持ちこたえる力があります。しかし、霊的に満たされていないと、外からの圧力に屈しない内なる力がないために、強く押しされると潰れてしまうこともあるでしょう。

光と福音の真理で満たされていなければ、わたしたちと家族が世の圧力に耐えられないことをサタンは知っています。だからこそサタンは、その力の限りを尽くして福音の真理をぐらつかせ、曲げ、破壊しようとし、わたしたちを真理から遠ざけようとするのです。

わたしたちの多くはバプテスマを受け、聖霊の賜物を授かっています。聖霊の役割は全てのことの真理を明らかにし、教えることです。² その賜物を授かる特権には、真理を求め、知っている真理に従って生活し、その真理を分かち合い、擁護するという責任が伴います。

光と真理で満たされるように最もよく努力できる場所は家庭です。先ほどの歌の折り返しの歌詞は、「主の御心にかなう人になるため、主が……すてきな家族」³を下さったことを思い起こさせます。家庭は地上における主の教室であり、わたしたち



が福音を学び、福音に従って生活できるよう助ける場所です。わたしたちは、霊的に強め合うという神聖な義務を負って家族の一員になるのです。

永遠の家族と御霊にあふれた家庭は、何もしないで自然にできるわけではありません。時間を掛けて熱心に努力し、家族の一人一人が自分の務めを果たす必要があります。家庭は皆同じではありませんが、真理を求める人が一人でもいる家庭は違いを生み出すことができます。

わたしたちは、祈りと、聖文を学び深く考えること、そして生ける預言者の言葉を学ぶことを通して霊的な知識を深めるよ



う、繰り返し勧められています。ディーター・F・ワークトドルフ管長は総大会の説教で、光と真理の証あかしを受けることについて次のように述べています。

「永遠で全能の神……が、誠心誠意願ひ求める人に語り掛けてくださるのです。

神は夢や示現を通して、また、思いや感情を通して語り掛けてくださいます。」

ワークトドルフ管長はこう続けました。「神は皆さんのことを心に懸けておられます。皆さん一人一人の質問に耳を傾け、こたえてくださいます。祈りの答えは、神御自身の方法で、神御自身の時に与えられます。だからこそ、主の御声を聞けるように

なる必要があるのです。」⁴

ある家族歴史の短いストーリーが良い例です。

数か月前、わたしは曾祖父の姉であるエリザベス・ステイリー・ワーカーの証を読みました。エリザベスは子供の頃、家族と一緒にスイスからアメリカに移住しました。

結婚後、エリザベスは夫や子供と、ネバダ州との州境に近いユタ州に住み、郵便物の集配所をしていました。家は旅行者の宿でもあり、昼夜を問わず旅行者のために食事を用意しなければなりませんでした。非常にきつい疲れる仕事でしたし、ほとんど休むこともできませんでした。しかし、

彼女にとって最も気がかりだったのは、そこに来る人々の会話でした。

このときまでエリザベスは、モルモン書が真実であり、預言者ジョセフ・スミスが神の権能を受けて行動したこと、またジョセフのメッセージが命と救いの計画であることを当然のことだと思ってきました。しかし、彼女の日常はそのような信条を強める生活とは程遠いものでした。

訪れる旅行者の中には博識で、高学歴の頭のいい人々がいて、食卓を囲んで話すのは決まって、ジョセフ・スミスは「ずる賢いペテン師」で、金のために自分でモルモン書を書いて売ったのだという話でした。



まるで、それ以外の考え方は全てばかっているという態度をして、「モルモンイズムはたわ言だ」と断言しました。

このような話の全てがエリザベスを独りぼっちだと感じさせました。話せる人もなく、働きながら祈る以外、祈る時間さえありませんでした。自分の宗教を嘲る人々に対して、怖くて何も言えませんでした。彼らの言うことが本当かもしれないと思うようになり、自分の信条を擁護することはできないと感じました。

後に、エリザベスと家族は引っ越します。もっと考える時間ができ、常に何かに気を取られるというようなことはなくなったとエリザベスは語っています。よく地下室に行き、心を悩ませていることについて天の御父に祈りました。博識に見える人々が福音はたわ言だと言ったことや、ジョセフ・スミスやモルモン書について言ったことについてです。

ある夜、エリザベスは夢を見ました。こう述べています。「わたしは狭い馬車道の端に立っているようでした。道は低い丘の麓かもとに沿って続いています。丘の中腹に一人の人が見え、彼は下を向いて少年に向かって話し掛けている、または話し掛けている

かのように見えました。少年はひざまずき地面に開いた穴をのぞき込んでいます。彼は腕を伸ばし、穴から何かを取り出そうとしているかのようです。穴の上にあったと思われる石の蓋ふたが見えました。道には大勢の人がいますが、丘の中腹の二人にはまったく関心がないようです。その夢は何か強くわたしの心に訴えるものがあり、すぐ目を覚ましました。……夢のことは誰にも話せませんでした。でも、わたしは確信しています。それは天使モロナイが金版を手に入れた少年ジョセフに〔指示を与えた〕場面であると。〕

1893年の春、エリザベスは神殿の奉獻式に出席するためにソルトレーク・シティーへ行きました。そのときの経験をこう述べています。「神殿で、夢で見たのと同じ場面の絵を見ました。それは〔一枚〕の色ガラスの窓だったと思います。クモラの丘をじかに見るよりも現実味のあるものでした。天使モロナイがジョセフ・スミスに〔金〕版を託している場面を夢で示されたのだと確信しています。〕

その夢を見てからずっと後、88歳直前に亡くなる数か月前に、エリザベスはある強い印象を受け、このように語りました。

「その思いは本当に明瞭で、……まるで誰かが『あなたの証を地面に埋めてはならない』と語り掛けているようでした。』⁵

それから何世代もたった今、エリザベスの子孫は彼女の証から力を受け続けています。わたしたちもエリザベスのように、わたしたちが大切にしている真理に敵対し、それを嘲る、疑い深い人や批判する人の多い世界に生きています。混乱させるような話や矛盾するメッセージが聞こえてくるかもしれません。わたしたちはエリザベスのように最善を尽くして今与えられている光と真理を手放さないようにしなければなりません。難しい状況にあるときは特にそうです。祈りの答えは劇的な方法で与えられないかもしれませんが、静かな時間を見つけて、より一層の光と真理を求めなければなりません。そして、光と真理を受けたら、わたしたちはそれに従って生活し、それを分かち合い、擁護する責任を負うのです。

心と家庭を救い主の光と真理で満たすとき、どのような状況にも耐えられる内なる力が得られることを証します。イエス・キリストの御名なにより、アーメン。■

注—2015年4月4日、エスプリン姉妹は中央初等協会会長会第二顧問から解任され、第一顧問として支持されました。

注

1. 「神様からの家族」〔2014年度 分かち合いの時間の概要——家族は永遠です〕28-29
2. モロナイ 10:5 参照
3. 「神様からの家族」
4. ディーター・F・ウークトドルフ「光と真理の証を受ける」〔リアホナ〕2014年11月号, 21
5. エリザベス・ステイラー・ワーカー, "My Testimony, Written for My Children and Their Children after I Am Gone," 1939年, 22-26 参照, ネバダ大学ラスベガス校, 特別コレクション: 原文(英語)においては、つづりと大文字は標準的な用法に修正



中央扶助協会会長会第一顧問
キャロル・M・スティーブンス

神様からの家族

誰もが神の家族の一員であり、必要とされています。

初等協会で教えられている純粋で簡潔な福音の真理ほど美しく、深いものがあるでしょうか。今夜ここに参加している初等協会の皆さんは、これからわたしがお話しようとしている歌を知っていますね。去年、聖餐会の発表のために習った歌です。

この集会で先ほど歌われた「神様からの家族」¹の歌詞は、わたしたちに純粋な教義を思い出させてくれます。家族が神から与えられたものというだけでなく、わたしたち一人一人が神の家族の一員であることが分かります。

歌詞の最初の1行目は、「あなたもわたしもみな、かみさまの子ども」であると教えています。また、家族の宣言からは、「前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し〔ていた〕」ことが分かります。その前世でわたしたちは、女性の永遠の特性について学びました。わたしたちが「天の両親から愛されている霊の……娘」²であるを知っていました。

肉体を得るために地上に来て、この真理は変わりませんでした。誰もが神の家族の一員であり、必要とされています。地上での家族はそれぞれが異なります。しかし、堅固で伝統的な家族を作ろうと最善を尽くしている限り、わたしたちはいつも神の家族の一員です。これは、既婚や未婚、子供の有無、経済状況、地位などとはまった

く関係がありません。ソーシャルメディア上のステータスとも関係ありません。

わたしたちには居場所があります。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。」³

歌詞の2行目では1行目を詳しく説明しています。「ちじょうにおくられ、かぞくのなかでまな〔び〕」ます。

前世でわたしたちは、肉体を持つ期間が必要であることを学びました。わたしたちは「〔天の御父の〕計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。」⁴

リチャード・G・スコット長老はこう述べています。「わたしたちがこの世に来る目的は、試しを受けて成長することであると前世で教わりました。」⁵ それぞれの経験に合わせて、成長は多くの形をとってやって来ます。わたしは、離婚の経験や、見捨てられて苦しみ、不安を抱いた経験や、一人親の責任を負うといった経験はありませんでした。子供を亡くしたことや、子どもを授からなかったこと、同性に引かれたこともありません。虐待や慢性病、依存症に堪えなければならないこともありませんでした。そうしたことはわたしにとっての、成長の機会ではなかったのです。

ですから、今「それじゃ、スティーブンス姉妹には分からないわ」と思った人がいるでしょう。それに対してわたしは、「たぶん、そのとおりです」と答えます。わたしは、皆さんの苦しみを完全には理解していません。でも、わたしをひざまずかせたわたし個人の試練や試しを通して、あの御方をよく知るようになりました。その御方は「悲しみの人」で⁶、全てを経験し、全てを理解しておられます。それに、先ほど挙げた地上での試練をわたしは全て、娘、母、祖母、姉妹、おば、友人の立場として経験しました。

神の聖約を守る娘として与えられる機会には、自分の試練から学ぶことだけではありません。わたしたちが聖約したとおりに、



苦しんでいる他の神の家族を支えるために、共感と思いやりの心で一致する機会でもあるのです。

そのように行えば、どのような悲しみや失望に遭っても、道のりの大変さを知っておられる救い主が最後まで導いてくださることを理解し、確信するようになります。主は真に慈愛の御方です。主に従うとき、主の愛は、一部はわたしたちを通して、「とこしえに続」⁷ きます。

そして、わたしたちは神の娘として、また、イエス・キリストの弟子として「[[わたしたちの心に] 神が植え付けられた思いやりの精神に従って行動[します。]]」⁸ わたしたちの影響力は自分の家族だけにとどまりません。

先日、アリゾナ州チンリステークのヤッツイー姉妹を訪問し、丸太と土でできた彼女の家に行く機会がありました。家に招き入れられて最初に目に留まったのは、壁やテーブルに飾られた額入りのさまざまな家

族と宣教師の写真でした。「ヤッツイー姉妹、お孫さんは何人いらっしゃるのですか」とわたしは聞きました。

わたしの質問に驚いて、彼女は肩をすくめました。わたしはその反応に戸惑い、彼女の娘のイエローヘア姉妹を見ました。「母は何人孫がいるか知らないんです。わたしたちは数えたりしませんし、子供は皆、母を『おばあちゃん』と呼んでいるのですから。母は皆のおばあちゃんなんです」と彼女は答えました。

ヤッツイー姉妹の愛と影響力は、血のつながった家族だけにとどまっていません。彼女は神の家族に善を行い、祝福を与え、養い、守ることで、自分の影響力の範囲を広げることの意味を理解しています。「女性性は子供の信仰を強めることによって、現在と将来にわたって家族を強めることに貢献している」⁹ ことを理解しているのです。

歌詞の3行目は、現世の目的をさらに説明しています。「しゅのみこころにかなうひ

とになるため、しゅがくださったすてきなかぞく」。主は、「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」¹⁰ と教えられました。また、家族の宣言は、天の両親に愛された霊の娘として、わたしたちには神の属性と永遠の状態と目的があることを教えています。神はわたしたちが一つになることを望んでおられます。わたしたちが一つになることは神にとって必要なことなのです。それぞれ異なる生活を営みながらも一致し¹¹、永遠の家族の一員として神と結び固められ、天の御父のみもとに戻るために必要な全てを知りたいと願っている、聖約を守る娘となることを神は望んでおられるのです。

「聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。」¹² バプテスマのときに、また聖なる神殿で受ける儀



式と交わす聖約は、幕の両側の神の家族を結び合わせます。つまり、御子を通してわたしたちを御父に結びつけるのです。救い主は祈られました。「あなたがわたしのうちにおられ……るように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためです。」¹³

現世にあつて、救い主の教えを研究して実践するために時間を使うとき、わたしたちはもっと主ようになります。主が道であられること、ただ一つの道であられることを理解するようになり、この世の試練を克服して癒やしを受け、天の家に帰ることができるのです。

英語では歌詞の最後は次のようになっています。「こうして、おとうさまはあいをしめされる。かぞくは神のものだから。」子供たちのための御父の計画は、愛の計画です。それは、御父の子供たち、家族を御自分と一つにするための計画です。ラッセル・M・ネルソン長老は次のように教えました。「天の御父がその子供たちに願うことは、たった二つです。……不死不滅と永遠の命、つまり、みもとに帰り、御父とともに生きることです。」¹⁴ この願いが実現するのは、わたしたちも人々に手を差し伸べて神の計画を分かち合い、御自分の家族に対する天の御父の愛を分かち合うときです。

20年前、大管長会と十二使徒定員会は、全世界に向けて家族に関する宣言を発表しました。その後、家族に対する攻撃はさらに強くなりました。

神の娘としての神聖な責任を全うしようとするなら、わたしたちは、天の御父の家族のための計画が持つ永遠の意義と、その計画に関する真理を教えるという個人の責任を理解しなければなりません。ハワード・W・ハンター大管長は次のように説明しています。

「現代の世の中を取り巻く悪の潮流を食い止め、救い主の御業を押し進めるため



に、中央幹部の同胞として働く教会の女性の力を結集する必要があります。あ[ります]。……

…… 皆さんにもその力強い影響力を発揮して善のために奉仕し、家族と教会と地域社会を強めていただきたいのです。」¹⁵

姉妹の皆さん、わたしたちには家族があります。愛され、必要とされています。教会と神の王国と神の永遠の家族にあつて、わたしたちには神聖な目的、業、場所、役割があります。皆さんは、天の御父が皆さんを愛しておられ、あなたとあなたの愛する人とともに住むことを望んでおられるのを、心の底から知っていますか。「天の御父と御子は完全な御方です。……わたしたちに対する御^{おふたかた}方の望みも完全です。」¹⁶

わたしたちのための御^{おふたかた}方の計画は完全です。そして、その約束は確かです。これらの真理を感謝して証^{あかし}します。イエス・キリストの御^{みな}名によって、アーメン。■

注

1. 「神様からの家族」, 2014年度分かち合いの時間の概要「家族は永遠です」, 28 - 29
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129

3. 若い女性テーマ, 「成長するわたし」(小冊子), 3
4. 「家族——世界への宣言」
5. リチャード・G・スコット「信仰を行使することを最優先とする」『リアホナ』2014年11月号, 92
6. イザヤ 53:3
7. モロナイ 7:47
8. ジョセフ・スミス, 「わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業」, 15で引用
9. 「わたしの王国の娘」, 159
10. 教義と聖約 38:27
11. パトリシア・T・ホランド, “‘One Thing Needful’: Becoming Women of Greater Faith in Christ,” *Ensign*, 1987年10月号, 26 - 33 参照
12. 「家族——世界への宣言」
13. ヨハネ 17:21
14. R・スコット・ロイド, “God Wants His Children to Return to Him, Elder Nelson Teaches,” *LDS.org*にある *Church News*, 2014年1月28日付。lds.org/church/news/god-wants-his-children-to-return-to-him-elder-nelson-teaches
15. ハワード・W・ハンター, 「わたしの王国の娘」, 157で引用:「教会の女性たちへ」『リアホナ』2003年11月号, 113も参照
16. M・ラッセル・バラード, “Let Us Think Straight” (プリガム・ヤング大学ディボーションル, 2013年8月20日): speeches.byu.edu



中央若い女性会長
ボニー・L・オスカーソン

家族の宣言の擁護者

大胆に立ち上がり、結婚や親の務め、家庭を擁護することによって神の王国を築く手助けをしましょう。

すばらしい少女と女性の皆さんとともに集えたことは特権であり喜びです。今晚、一致と愛の精神で、女性の皆さんとここに集えたことは大きな祝福です。

最近、マリー・マデリン・カードンという女性の話を読みました。1850年にイタリアで奉仕するよう召された最初の宣教師から、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを家族とともに聞いた女性です。バプテスマを受けた当時、17歳か18歳の若い女性でした。ある日曜日、北イタリアのアルプスの自宅で家族と礼拝

行事を行っている時、地元の司祭らを含む怒った暴徒らが家を取り囲み、叫び始め、宣教師に外に出て来るよう要求しました。もちろん、福音を教えてもらいたいわけではなく、危害を加えようとしていたのです。そこで、若きマリーが出て行って暴徒と対峙しました。

暴徒らは怒鳴り続け、宣教師に外に出て来るよう求めました。マリーは聖書を高く掲げて彼らに立ち去るよう命じ、宣教師は守られており髪の一毛一本傷つけさせはしないと言い放ちました。彼女自身の言葉をお聞きください。「皆仰天しました。

……神がともにいて、その言葉を授けてくださったのです。そうでなければあのようなことはとうてい言えなかったでしょう。その場は即座に静まり返り、屈強で凶暴な男たちは、か弱く震えてはいるものの、それでいて恐れ知らずの少女の前に力なく立ち尽くすばかりでした。」¹ 司祭らが皆に立ち去るようと言うと、暴徒らは、恥と恐れと後悔の念を抱きながらすすごとと去って行きました。そして、家の中の小さな会衆は無事に集会を終えました。

皆さんの多くと同じ年齢のこの勇敢な若い女性が暴徒と対峙し、勇気と確信をもって、新たに見いだした信仰を擁護する姿を想像できますか。

姉妹の皆さん、怒った暴徒と対峙しなければならない人はこの中にはあまりいないでしょうが、この世ではわたしたちが最も大切にしている基本的な教義が攻撃にさらされています。それは家族の教義です。家庭の神聖さと家族の重要な目的が、あらゆる分野で疑念と批判、攻撃の的となっているのです。

20年前にゴードン・B・ヒンクレイ大管長が初めて「家族——世界への宣言」を読み上げたとき、わたしたちは啓示により





与えられたこの文書の明快さと簡潔さ、真実性に感謝したものです。しかし当時は、その基本的な宣言がこの時代にどれほど必要とされているかをそれほど理解していませんでした。それはメディアやインターネット、学者、テレビや映画、さらには立法者からも吹き込まれる新しいこの世の教えを判断する基準なのです。家族についてのこの宣言は、世の考えを判断するための基準となりました。わたしは、この宣言に示されている原則が、20年近く前に神の預言者によって与えられたときと同じように今日も真実であることを証します。

明らかなことを一つ指摘したいと思います。人生が計画どおりに運ぶことはめったにありません。また、全ての女性が宣言で述べられていることを経験しているわけではないこともわたしたちは承知しています。それでも、主のパターンを理解し、教え、できる限りそれを実現しようと努力することは重要です。

わたしたちにはそれぞれ、主の計画の中で果たすべき役割があり、主にとって同じように価値ある存在です。わたしたちは、愛にあふれた御父がわたしたちの義にかなった望みを御存じであり、聖約を忠実に守る人には御自身の約束を必ず果たしてく

ださることを心に留めておくべきです。天の御父はわたしたち一人一人に使命と計画をお持ちですが、同時に時を定めておられます。現世で直面する最も難しい課題の一つは、主の時を信じる信仰を持つことです。代替案を考えておくことは、聖約を守り、思いやりに満ちた、義にかなった女性となり、人生がどう転んでも神の王国を築くうえで役立つでしょう。理想を追求しつつ予期せぬ出来事に備えるよう、娘たちに教えなければなりません。

「家族——世界への宣言」の20周年となる今年、教会の女性にこの宣言の擁護者となるようチャレンジしたいと思います。マリー・マデリン・カードン姉妹が、新たに見いだした信仰と宣教師を果敢に擁護したように、わたしたちも、結婚や家族、男女の神聖な役割や、神聖な場である家庭の大切さについて主が明らかにされた教義を大胆に擁護しなければなりません。たとえ世界が、これらの原則は時代遅れで、窮屈で、もはや重要ではないと声高に叫んだとしてもです。既婚か独身か、何人子供がいるかに関係なく、全ての女性は家族の宣言に記されている主の計画の擁護者となることができます。主の計画は、わたしたちの計画でもあるべきです。

宣言で教えられている原則のうち、特に固く擁護する必要があると思う原則が3つあります。第1に、男女間の結婚についての原則です。聖文は「ただ、主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない」と教えています。² 神権の祝福を余すことなく受けるには、主の宮において夫と妻として結び固められ、義のうちに協力して働き、聖約に忠実であり続けなければなりません。これは主がその子らのために定められた計画であり、世間がどれほど異を唱え、批判しようとも、主が宣言されたことが変更されることはありません。わたしたちは引き続き義にかなった結婚の模範を示し、人生においてその祝福を受けられるよう努力し、なかなか実現しないときには信仰を持たなければなりません。主が定められたとおりの結婚を擁護しつつ、異なる意見を持つ人々に愛と思いやりを示し続けましょう。

擁護の声を上げるべき次の原則は、母親と父親の神聖な役割を尊ぶという原則です。わたしたちはこの世で目標を高く持つよう子供たちに熱心に教えています。娘たちが、自分には成功し、心に描いたとおりの人物になる可能性があることを理解できるようにしましょう。学ぶことを愛し、

教育を受け、才能を伸ばし、さらには第2のマリー・キュリーやエライザ・R・スノーになれるよう願っています。

わたしたちはまた、母親と父親という役割に勝る名誉も、気高い称号も、重要な役割も、この世に存在しないことを、息子や娘に教えているのでしょうか。わたしたちがこの世で最善のものを目指すよう子供たちを励ますと同時に、天の御父の計画において母親と父親が果たす役割を子供たちが尊び、大切にしよう教えてほしいと願っています。

我が家の末娘のアビーは、母親の役割を擁護するための特別な機会を得ました。ある日子供の学校から、「キャリアデー」を開催するという知らせがありました。学校に来て自分の職業について子供たちに教えたいと思う親は、申込書を提出するように勧められ、アビーは母親業について子供たちに話すために申込書を提出した方がよいと感じました。「キャリアデー」が近づいても学校から連絡がなかったので、学校が申込書を紛失してしまったのだろうと思い、とうとう学校に電話をしました。担当者が慌てて受け入れ先のクラスを探すと、「キャリアデー」の最後にアビーがクラスに来て話をすることに二人の教師が同意してくれました。

アビーは子供たち向けのとても楽しいプレゼンテーションの中で、母親は様々な分野の専門家でなければならないと教えました。薬や心理学、宗教、教育、音楽、文学、芸術、財政管理、装飾、ヘアスタイル、運転、スポーツ、料理、他にもたくさんの分野に長けていなければなりません。これを聞いた子供たちは感心しました。アビーは最後に、毎日お母さんがしてくれる愛情あふれる行いへの感謝の気持ちをカードに書いてもらいました。アビーは、子供たちがこれまでとは違った目でお母さんを見て、母親と父親の務めが価値あるものだと感じました。アビーは今年も「キャリアデー」に申し込みましたが、



6つのクラスから招かれています。

アビーはこの経験についてこう語っています。「この世で子供たちは、親の務めというのはあまり重要な仕事ではなくて、ときにはやむを得ずする面倒な仕事だとさえ感じてしまいがちなんじゃないかと思うの。全ての子供たちに、自分は親にとって最優先すべき大切な存在だと感じてほしいわ。わたしにとって親の務めがどれほど大切かを伝えることで、親が自分のためにしてくれることやその理由に子供が気づくんじゃないかと思うの。」

愛する預言者、トーマス・S・モンソン大管長は、女性と母親、特に自身の母親を尊ぶすばらしい模範です。地上の母親たち

について、このように述べています。「わたしたち一人一人がこの真理を大切に心にとどめておくことができますように。人は、母親を忘れていながら、神を覚えていることなどできません。また、母親を覚えていながら、神を忘れることもできないのです。なぜでしょうか。神と〔地上の〕母親という、この二人の神聖な存在は、創造と愛、犠牲と奉仕において、パートナーであり、一つなのです。」³

わたしたちが立ち上がって擁護しなければいけない最後の原則は、家庭は神聖な場であるという原則です。時折嘲笑的となるある言葉の価値を高めなければなりません。それは、「主婦」という言葉



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

です。女性も男性も、若者も子供も、独身者も既婚者も、全ての人は主婦、つまり家庭を築く人となる努力ができます。わたしたちは、秩序があり、避けどころとなる、聖く安全な場である「家庭を築く」必要があります。家庭は、主の御霊を豊かに感じ、聖文と福音を学び、教え、それを実践する場ではなくてはなりません。全ての人が義にかなった家庭を作ろうと努力するならば、世界は大きく変わるでしょう。家庭を、神殿に次ぐ聖い場として擁護しましょう。

姉妹の皆さん、わたしはこの末日に女性として生きていることに感謝しています。わたしたちには、これまでの世代の女性たちにはなかった機会や可能性があります。大胆に立ち上がり、結婚や親の務め、家庭を擁護することによって神の王国を築く手助けをしましょう。主はわたしたちが、勇敢で揺らぐことのない確固とした戦士として主の計画を擁護し、次の世代に主の真理を教えるよう求めておられるのです。

天の御父が生きて、一人一人を愛しておられることを証します。御子イエス・キリストは救い主、贖い主^{あがな}であられます。イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. マリー・マデリーン・カードン・ギルド, "Marie Madeline Cardon Guild: An Autobiography," cardonfamilies.org/Histories/MarieMadelineCardonGuild.html 参照: "Marie C. Guild autobiography," 約1909年, ユタ州ソルトレーク・シティー, 教会歴史図書館も参照
2. 1コリント11:11
3. トーマス・S・モンソン「ごらん下さい。これはあなたの母です」『聖徒の道』1998年4月号, 7

慰め主

主が慰められるのをわたしたちがお助けすると固く決心した人々に、生けるキリストは慰め主である聖霊を遣わしてくださることを、わたしは証^{あかし}します。

愛する姉妹の皆さん、皆さんとともにいられることはわたしにとって喜びです。わたしは自分の母と、妻と、娘と、義理の娘と、孫娘について考えていました。孫娘のうちの一人がここにあります。このすばらしいプログラムは彼女たちに対する感謝の念を増してくれました。そのようなすばらしい家族があるのは、彼女たちが救い主を中心にした生活をしているからです。わたしたちは今夜、音楽や祈りや霊感あふれる説教を通して主を思い起こしてきました。わたしたちが最も感謝している救い主の特質の一つは、救い主の限りない哀れみです。

今夜、皆さんは、主が皆さんを御存じで、愛しておられることを感じてきました。皆さんの周りに座っている人に対する主の愛を感じてきました。彼女たちは皆さんの姉妹で、天の御父の霊の娘です。御父は皆さんと同様に彼女たちを心にかけて、その全ての悲しみを理解し、助けたいと願っておられます。

わたしから皆さんへの今夜のメッセージは、御父が慰めの要る者に慰めを与えられるうで、皆さんには大切な役割を果たす能力と義務があるということです。助けを求める祈りに御父がどうかたえられるかをさらに知ることができれば、皆さんはそ



の役割を最大限に果たすことができます。

多くの人が、悲しみや孤独や恐れという重荷を背負えるように天の御父に助けを祈り求めています。天の御父はそのような祈りを聞かれ、そのような人々の必要を理解しておられます。御父とその愛する御子である復活されたイエス・キリストは、助けると約束しておられます。

イエス・キリストは次のようになすばらし約束をされました。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」¹

主の忠実な僕^{しもべ}がこの世で背負わなければならない重荷は、主の贖^{あがな}いによって軽くされます。罪の重荷は取り去っていただくことができます。それでも、善良な人々に対するこの世の試練はつらい重荷になることがあります。

皆さんは、愛する人々の生活の中にそのような試練を見たことがあり、助けたいと望んだことがあります。皆さんが彼らに哀れみを感じるのには理由があります。

皆さんは聖約を交わしたイエス・キリストの教会の会員です。主の教会に加わったとき、皆さんの心の中に大きな変化が生じ始めました。皆さんは聖約を交わり、一つの約束を受けました。その約束が皆さんの本質を変え始めたのです。

アルマはモルモン^のの泉のそばで彼自身が語った言葉によって、皆さんがパプテスマのときに約束した事柄と、それが皆さん

自身と皆さんの周囲にいる一人一人、特に皆さんの家族にとって何を意味するかを説明しました。アルマは皆さんが交わしている聖約を今まさに交わそうとしていた人々に語っていました。そして彼らも、主が皆さんに約束されたのと同じ約束を受けました。

「見よ、ここにモルモン^のの泉がある。(この泉はこのように呼ばれていた。)あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所^{ところ}にいても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。」²

これこそが、悲しみや困難の重荷を背負って前進しようともがいている人を助けたいという感情が皆さんの内にある理由なのです。皆さんは、主が彼らの重荷を軽くし、慰められるのを助けると約束しました。聖霊^{たまもの}の賜物を受けたとき、そのような重荷を軽くするのを助ける力が与えられました。

救い主ははりつけになる少し前に、御自身がどのように重荷を軽くするのを助けられるのか、また、重荷を背負う強さをどのように与えられるのかを教えられました。主は弟子たちが悲しむようになることを御存じでした。彼らが将来を恐れ、自分たちだけで前進できるか不安になることを御存じでした。

そこで主は、わたしたちとすべての主の真の弟子たちに与えられたのと同じ約束を彼らに与えられました。

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

それは真理の御霊^{みたま}である。この世はそ





く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」⁴

この数週間、重荷が軽くされるように祈り求めていた神の子供たちの生活の中で、聖霊が送られるという約束が成就するの

インド・ムンバイ

くされるのかを見ました。わたしは主の聖約の僕として一皆さんがしばしばそうしているように「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」⁵ ために彼らとともにいました。

そうすることが良いと知っていたので、祖父母から男の子の両親と彼らとわたしとで葬儀の前に話し合うように招かれたときに、わたしは喜んでそうしたいと思い、平安を感じました。

わたしは、主が彼らを慰められるのをどのようにお助けしたらよいか知るために祈りました。彼らは我が家の居間にわたしとともに腰掛けました。わたしは寒い夜に部屋を温めるために、暖炉に小さな火をくべておきました。

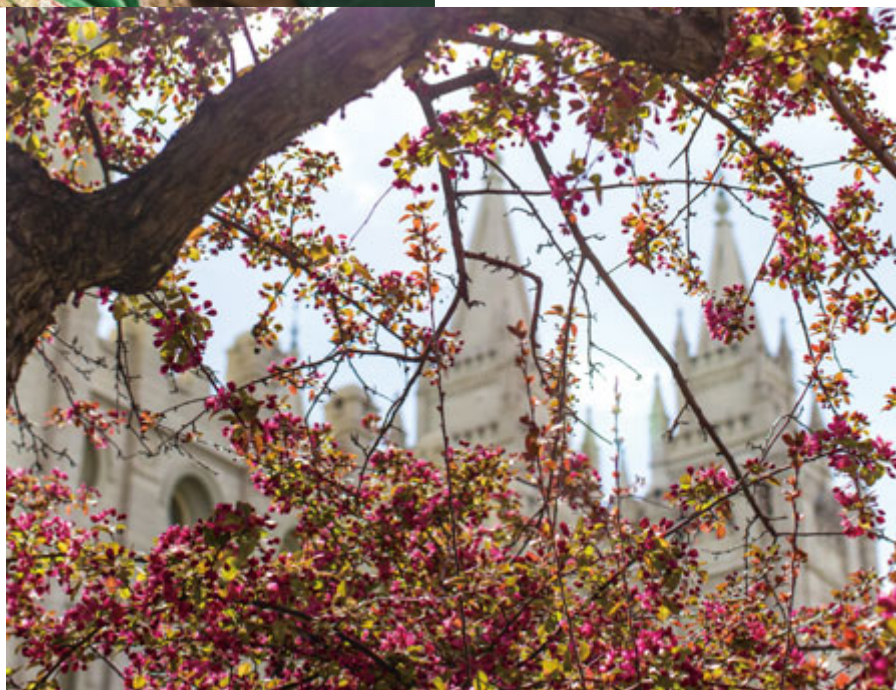
わたしは彼らを愛していることを伝えたいと感じていました。彼らに対する主の愛を感じていると伝えました。ほんのわずかの言葉で彼らに伝えようとしたのは、わたしは彼らに哀悼を感じるが、彼らの痛みと悲しみを自分のことのように完全に理解できる御方は主だけであるということでした。

それを言い終えると、彼らが気持ち話をしている間、愛をもって耳を傾けるべきだという印象を受けました。

ともに座っている間、彼らの方がわたしより多く話しました。その口調や表情から、聖霊が彼らに触れておられるのを感じました。何が起きたのか、どう感じたのかを簡潔な証を交えながら彼らは話してくれました。聖霊はすでに彼らに、永遠の命の希望からもたらされる平安を与えておられました。罪なく死んだ彼らの息子は永遠に彼らのものとなるのです。

わたしはそれぞれに神権の祝福を授けたときに、その場に聖霊の影響があったことを感謝しました。慰め主が訪れ、わたしたち全員に希望と勇気をもたらし、強さを増し加えてくださいました。

その夜、主が御自分の民の重荷をどのように軽くされるかを目にしました。皆さん



れを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」³

それから、こう約束されました。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

わたしは平安をあなたがたに残して行

をわたしは目にしました。主が約束された方法によって、重荷が軽くされるという奇跡が起きました。すなわち、主と天の御父が、主の弟子たちを助けるために、助け主である聖霊を送ってくださったのです。

最近、ある3世代の家族が、5歳の男の子の死を悼んでいました。その男の子は、家族で休日を過ごしているときに事故で亡くなりました。わたしは、再び、主が忠実な人たちを慰め、堪え忍ぶ力をお与える様子を見る機会をいただきました。

わたしは主がどのように彼らの重荷を軽



は、モルモン書の中で、荒々しい監督者たちに背負わされた重荷によって主の民が虐げられていたときのことを覚えているでしょう。

彼らは、わたしたちが愛し仕える多くの人がしているように、助けを求めて祈りました。そのときのことがこう記されています。それが事実であることをわたしは知っています。

『「またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがその後、わたしのために証人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、苦難の中にいる自分の民を訪れるということ、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。』

そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。』⁶

わたしはそのような奇跡が起こるのを何度も何度も繰り返し見てきました。わたしたちは、主が人を強められるのを助けるときに、最もよく人の重荷を軽くすることができます。だからこそ主は、わたしたちに人を慰めることを求められたときに、いつ

でも、どのようなところにおいても、主の証人になるように命じられたのです。

あの幼い男の子の父親と母親は、あの夜、我が家の居間で救い主についての証を述べました。聖霊が来られ、皆慰められました。両親は強さを得ました。悲しみの重荷は消えませんでした。悲しみを背負うことを可能にいただきました。彼らの信仰は増しました。彼らが強さを求め、それにふさわしく生活するなら、強さは増し続けるでしょう。

その夜にもたらされた贖いに対する御霊の証は、ヨブにも、自分の重荷を背負う強さを与えました。

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。』⁷

御霊によるこの証こそが、堪え忍ぶ力をヨブに与えました。ヨブは、試練の時期を忠実に過ごした後に来る喜びを目にするために、嘆きの時期と周囲の人から慰めが得られない時期を過ごそうと決意していました。

それはヨブにとって真実でした。祝福がこの世でヨブにもたらされました。ヨブの話は次の奇跡で終わります。

「主はヨブの終りを初めよりも多く恵ま

れた。……

全国のうちでヨブの娘たちほど美しい女はなかった。父はその兄弟たちと同様に嗣業を彼らにも与えた。

この後、ヨブは百四十年生きながらえて、その子とその孫と四代までを見た。

ヨブは年老い、日満ちて死んだ。』⁸

将来起こる贖罪に関する御霊の証があったからこそ、ヨブは人生の目的の一部である試練を堪え忍ぶことができました。それは御父の偉大な幸福の計画の一部です。御父は御子に、贖いの犠牲を通して、わたしたちに希望を与えることを許されました。それは、御父のみもとに行く道がどれほど険しいときも、わたしたちを慰めることができるようにするためでした。

御父と御子は、旅の途中にある主の弟子たちを慰め、強めるために聖霊を遣わされます。

わたしはあの幼い男の子の葬儀が行われる教会に到着したときに、建物の外でこの慰めの奇跡を目にしました。わたしは、面識のない美しい若い姉妹に呼び止められました。彼女は、この葬儀に来たのは哀悼のためと、できるなら慰めを与えるためであると言いました。

彼女は、自分自身にも慰めが得られることを願って葬儀に来たと言いました。彼女は最近最初の子供を亡くしたのだと言いました。彼女は腕に小さくて可愛らしい女の子を抱いていました。わたしはその幼い女の子の笑顔のをぞき込みました。この赤ちゃんの母親に、この子の名前は何ですかと尋ねると、彼女は即座に元気な声でこう答えました。「この子の名前はジョイ(喜び)です。悲しみの後には必ず喜びが来ます。」

彼女はわたしに証をしていました。唯一の確かな源から彼女に平安と慰めが与えられていたことがわたしには分かりました。神だけが人の思いを御存じであり、神だけが本当の意味で「あなたの気持ちが分かる」とおっしゃることができるので

す。ですから、彼女の喜びとそれに先立つ
悲しみをわたしには想像することしかでき
ませんが、彼女を愛しておられる主はそれ
を御存じなのです。

主が天の御父の子供に平安と喜びの機
会をもたらすのを、わたしたちが主の弟子
としてお助けするたびに、主が感じられる
喜びはわたしには計り知れません。

主が僕であるわたしたち一人一人に、互
いの重荷を負うように助け合うことを求め
ておられることを、わたしは証します。わ
たしたちはそうすると約束しました。主が
贖いと復活により、死の縄目を断たれたこ
とを証します。主が慰められるのをわたし
たちがお助けすると固く決心した人々に、
生けるキリストは慰め主である聖霊を遣わ
してくださることを、わたしは証します。

わたしの母が扶助協会中央管理会の
一員として20年以上前に着けていたバッ
ジに刻まれていた次の言葉が真実である
ことを、皆さんは全員、わたしと同じように
証することができます。「愛はいつまでも
絶えることがない」⁹ わたしは今でも、そ
の言葉の完全な意味は分かりません。し
かし、母が助けの必要な人々に手を差し伸
べるのを見たときに、その一部を理解しま
した。聖文は次の真理を教えています。
「慈愛はキリストの純粋な愛〔である。〕」¹⁰

キリストの愛は決して絶えることがあり
ません。「悲しむ者とともに悲しみ、慰め
の要る者を慰める」¹¹ という促しを、わ
たしたちの心が感じなくなることはないで
しょう。そして、主の代わりに人々に仕え
るときに、主が約束された平安がわたした
ちから離れ去ることもないでしょう。

生ける主であるイエス・キリストと、慰め
主である聖霊が、弱くなったひざを強め、
垂れている手を上げられるのを助けるため
に、¹² 皆さんが本当によく努力しているこ
とに対して、わたしは主の証人として感謝
をお伝えします。わたしの人生の中で、イ
エス・キリストの真の弟子としてわたしを
助け、祝福してくれた、女性たちに心から

感謝しています。イエス・キリストの御名
により、アーメン。■

注

1. マタイ 11:28 - 30
2. モーサヤ 18:8 - 9
3. ヨハネ 14:16 - 17
4. ヨハネ 14:26 - 27
5. モーサヤ 18:9

6. モーサヤ 24:14 - 15
7. ヨブ 19:25 - 26
8. ヨブ 42:12, 15 - 17
9. 1コリント 13:8
10. モロナイ 7:47
11. モーサヤ 18:9
12. 教義と聖約 81:5 参照





大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

「〔これは〕わたしが選ぶところの断食……ではないか」

皆さんの断食献金によって、食物や衣服の提供を支援する以上のことが起こるでしょう。断食献金は心を癒やし、心を変えるでしょう。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会でわたしの愛をお伝えできることを嬉しく思います。この喜びは、救い主の愛が皆さん一人一人と天の御父の全ての子供たちに注がれているという御霊による証から来ています。天の御父は、御自分の子供たちを霊的にも物質的にも祝福することを望んでおられます。天の御父は子供たちの必要、苦悩、希望を一つ一つ理解しておられるのです。

わたしたちが誰かに助けの手を差し伸べるとき、救い主は、それがあたかも御自分に対してなされているかのようにお感じになります。

主は、わたしたち全員がこの世の生涯を終えて将来主にまみえる様子を説明されたとき、それが真実であることを告げられました。今朝、何を話したらよいか分かるよう祈りと断食を重ねたとき、この主にまみえるときの情景が、わたしの心にさらにはっきりと浮かぶようになりました。将来、主と面接していただくときの様子について、

主はその弟子たちに次のように語られました。それは、わたしたちが心の底から望んでいることでもあります。

「そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見

舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいたのを見て、あなたの所に参りましたか。』



すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』¹

皆さんもわたしも、救い主からそのような温かい歓迎を受けたいと思っています。でも、どうしたらそれに値する自分になれるのでしょうか。わたしたちの力が及ばないほどたくさんの、空腹で、家がなくて、寂しい思いをしている天の御父の子供たちがいます。そしてその数はさらに増え続け、わたしたちにできる範囲をはるかに超えています。

そこで、主はわたしたち一人一人ができることを与えてくださいました。この戒めは子供でも理解できるほど非常に簡単です。困っている人とわたしたちにとってすばらしい約束を伴う戒めです。

それは断食の律法です。イザヤ書の言葉は、主の教会におけるわたしたちに向けられた戒めと祝福に関する主の教えです。

「わたしが選ぶところの断食は、悪のな

「わたしが選ぶところの断食は、悪のな

「わたしが選ぶところの断食は、悪のな

「わたしが選ぶところの断食は、悪のな

「わたしが選ぶところの断食は、悪のな



わをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。

また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。

そうすれば、あなたの光が暁のようであらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、あなたの中からくびきを除き、指をさすこと、悪い事を語ることを除き、

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。

主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。』²

このように、主は驚くべき約束を伴った簡潔な戒めをわたしたちに与えてくださいました。今日の教会では、一か月に一度断食をし、貧しい人や困っている人の福利の

ためにビショップや支部会長を通じて惜しみない断食献金を納める機会があります。あなたが納める断食献金のいくらかは、皆さんの周りにいる人や、時には皆さん自身の家族の誰かを助けるために使われます。主の僕たちは、誰を援助すべきか、どのような援助をすればよいかを知るために、啓示が受けられるように祈り、断食します。皆さんの地元の教会で人を助けるために使う必要のない断食献金は、困っている世界中の教会員を祝福するために使われます。

貧しい人のために断食をするという戒めには多くの祝福が伴います。スパンサー・W・キンボール大管長は、その律法に従わないのは不作為の罪であり大きな代価を伴うと述べています。キンボール大管長はこう記しています。「断食をしてその分を困っている人を助けるために使う人への〔主による〕豊かな祝福……が約束されている。義と、天の御父に近くあるということから、靈感と霊的な導きが得られるのである。断食という義に基づく行為を行わなければ、このような祝福にあずかることはできない。』³

つい数週間前、わたしはそのような祝福の一つを受けました。総大会は、通常は断食証会のある週末に開かれるので、わたしはどうしたら困っている人の世話をす

るための戒めにさらに従うことができるかを知るために断食して祈りました。

土曜日の朝、まだ断食中であったわたしは、朝6時に起きて再び祈りました。すると、ワールドニュースを見るように促しを受け、次の記事を読みました。

「大型サイクロン『バム』が、バヌアツの首都ポートビラを直撃し、数多くの家屋が損壊した。バヌアツで少なくとも6人が死亡した。これまでにこの島に上陸したのとしては最も強力な嵐の一つであり、嵐による死者が初めて報告された。

この太平洋の島国全土にサイクロンが吹き荒れ、ほとんどの木がなぎ倒された。』⁴

ワールド・ビジョン（訳注—国際的な慈善団体）の緊急調査チームは、嵐が通過した後に被害の程度を調査する計画である。

彼らは住民に、大学や学校などの頑丈な建物に避難するように通告した。

そして次のように述べた。『「最も強固な建物はセメント造りの教会でした」とケア・インターナショナル（訳注—国際協力NGOの一つ）のインガ・メファムが報告しています。「近くにセメント造りの教会がない人もいました。レベル5という大嵐に耐え得ると考えられる建物を探すのは困難でした。』』⁵

その記事を読んだとき、わたしはバヌア



ツの小さな家を訪問したことを思い出しました。大風に壊されそうな家の中で身を寄せ合っている人たちの様子が心に浮かびました。それから、バヌアツでわたしを温かく迎えてくれた人たちを思い出しました。彼らとその隣人たちが、セメント造りのわたしたちの教会に安全を求めて避難している姿が思い浮かびました。

また、ビショップや扶助協会の会長が会員たちを尋ね歩き、慰め、毛布や食料、飲み水を配っている姿を想像しました。おびえる子供たちが体を寄せ合っている情景を思い浮かべました。

彼らは、わたしがその記事を読んでいた我が家から非常に遠いところにいます。けれども、主がその僕を通して何を行われるかは分かっていました。天の御父の子供たちに対する救助を可能にしたのは断食献金であり、それは彼らのいる所から遠く離れていても主に近くある主の弟子たちが惜しみなく納めたものでした。

そこで、わたしは日曜日まで待つことなく、その日の朝、断食献金をビショップのところに持って行きました。この献金は、ビショップと扶助協会会長によってわたしの近所の誰かを助けるために使われるでしょう。わたしのささやかな献金は、わたしとその家族が住む場所の近くにいる人には必要ではないかもしれませんが、しかし、地元の献金の余剰金が、バヌアツのような遠い所で使われるかもしれません。

別の嵐や悲劇が世界中で起こり、主が愛し、その悲しみを心に受け止めておられる人々を襲うかもしれません。そのとき、皆さんやわたしが今月納めた断食献金の一部は、どこかの誰かを助けるために使われるでしょう。人々が助けを受けると、主はあたかも御自身が助けを受けたように

お感じになります。

皆さんの断食献金によって、食物や衣服の提供を支援する以上のことが起こるでしょう。断食献金は心を癒やし、心を変えてくれるでしょう。この自由意思による献金の果実は、惜しみない献金から支援を受けた人が、その次は困っている他の人を助けるために献金したいと望むようになることです。それは世界中で起こっています。

シエラレオネに住むアビエ・トゥーレイ姉妹は、これを経験しました。1989年に内戦が起こり、何年もの間、国は混乱していました。当時のシエラレオネは、すでに世界で最も貧しい国の一つでした。戦争の間、誰が国を治めているのかははっきりしませんでした。銀行は業務を停止し、行政機関は閉鎖され、治安部隊は無力で、混乱と殺人と悲しみが全土を覆っていました。何万人という人々が命を失い、二百万人以上の人が殺害を逃れるために自分の家を離れざるをえませんでした。⁶

そのような時でさえも、末日聖徒イエス・キリスト教会は成長しました。

最初の支部の一つはトゥーレイ姉妹が住む都市に組織されました。彼女の夫は最初の支部会長でした。内戦の間、彼は地方部会長として奉仕しました。

現在、トゥーレイ姉妹の家に来客があると、彼女は喜んで戦争当時に入手した二つの宝物を見せてくれます。それは、教会の会員がくれた古着の東から受け取った青と白のストライプのシャツと一枚の毛布ですが、今ではもう擦り切れて穴だらけになっています。⁷

彼女はこう語ります。「このシャツは、わたしが初めてもらった服です。……仕事に行く時によくそれを着たものです。とてもすてきで、[その服を着ると、自分がとても美

しくなった気がしましたし、]他に服は持っていませんでしたから。

戦争の間、この毛布はわたしと子供たちを温かく包んでくれました。反政府勢力がわたしたちに攻撃を仕掛けてきたとき、茂みに逃げる際に手にできたのはこれだけでした。それでわたしたちはこの毛布を持って行きました。これがわたしたちを温め続け、蚊からも守り続けてくれたのです。⁸

トゥーレイ姉妹は、戦争で疲弊した国にお金を持って来てくれた伝道部会長にも感謝していると言っています。皆さんのような人が納めた断食献金から捻出されるそれらの資金によって、ほとんどのシエラレオナ人が買えなかった食料を聖徒たちは買えたのでした。⁹

トゥーレイ姉妹は、自分たちが生き延びるために惜しみなく献金してくれた人々についてこう言っています。「このことを行ってくれた人々について考えるとき、神が遣わしてくださった人々だと感じます。ごく普通の人たちが、わたしたちのためにこのような親かな行いをしてくれたのですから。」¹⁰

つい先頃、アメリカ合衆国から一人の訪問者が彼女の家に来ました。彼がその家を訪問している間、テーブルに置かれている一そろいの聖典がこの訪問者の目に留まっていました。彼には、それらがページの余白にメモ書きでたくさん印が付けられた宝物であることが分かりました。あるページは擦り切れ、あるページは破れていました。聖文の表紙は外れていました。

彼は聖文を手に取り、静かにページをめくると、^{じゅうぶん} 什分の一の献金票の黄色の控えがはさんであるのを見つけました。その国では、アメリカドルが金と同じ位価値があるにもかかわらず、アビエ・トゥーレイ姉妹は、什分の一に1ドル、宣教師基金に1ドル、そして彼女の言葉を借りると、「本当に貧しい」人々のために断食献金として1ドルを納めていました。

この訪問者はトゥーレイ姉妹の聖文を閉

じ、この忠実なアフリカ人の母親とともに質素で窓もない家の中に立ってこう思ったのです。自分は今、聖なる場所にいると。¹¹

ちょうど、皆さんやわたしの断食献金から祝福を受けることで心を変えることができるように、他の人の善のために行う断食も人の心を変えるのです。子供であってもそれを感じることができます。

多くの子供たち、また一部の成人は、個人的な理由から、24時間の断食は難しいと思うかもしれません。イザヤの言葉にあるように、断食は「おのれを苦しめる」ことであるとを感じる場合もあるでしょう。賢明な両親は、その可能性を認識し、ジョセフ・F・スミス大管長の勧告に注意深く従うでしょう。「子供たちに断食の原則を教え、彼らが知恵を使って選択できる年齢に達したときに、断食の律法を守らせてあげるとよいでしょう。」¹²

最近わたしは、その勧告が生かされた祝福を目にしました。わたしの孫の一人は、24時間の断食は自分の忍耐の限界を超えていると感じていました。しかし、それにもかかわらず、賢明な両親は彼の心に残るよう、この原則をしっかりと教えました。彼のクラスメートの一人が最近、幼いところを事故で亡くしました。わたしの孫は断食日に、断食を続けるのがいつも非常に難しく感じる時間になったとき、母親にこう質問しました。「もしぼくが断食を

続けたら、悲しんでいる友だちの心はもっと楽になるかな。」

彼の質問は、ジョセフ・F・スミス大管長の勧告が確かなものであることを証明していました。孫は断食の原則を単に理解しただけでなく、それを心にしっかりと根付かせていました。自分の断食と祈りによって、助けを必要としている人が神の祝福に導かれることを感じるようになったのです。もし彼が度々この原則に従って生きるなら、自分自身の人生に神が約束されたすばらしい結果がもたらされるでしょう。靈感を受ける力と誘惑に対抗する能力が増加するという霊的な祝福を受けるでしょう。

わたしたちは、イエス・キリストが^{あらの}荒野に入って断食し祈られた理由を全ては知りません。しかし、少なくともその結果の一つは知っています。それは、救い主は、御自分の神聖な力を誤って使うようにというサタンの誘惑に完全に打ち勝たれたということです。

毎月断食する短い時間と、貧しい人のためにささげるわずかな献金によって、もう罪を犯さないという思いを抱くようになる上で、わたしたちの性質に起こる変化はほんのわずかもかもしれません。しかし、わたしたちが適切に祈り、断食し、困っている人のために献金するとき、次のような大いなる約束があります。

「そうすれば、あなたの光が暁のように

あられわ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。」¹³

わたしたちが努力して、これらの大いなる祝福を自分自身と家族のために受けられるように祈ります。

わたしは証します。イエスはキリストであります。わたしたちは主の教会において、主が御自身の方法で貧しい人の世話をされる業を助けるように招きを受けていること、そして人を助けることによって永遠の祝福を受けると主が約束しておられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. マタイ 25:34-40
2. イザヤ 58:6-11
3. スペンサー・W・キンボール「¹²⁵救いの奇跡」104-105 参照
4. スティーブ・アルマシー、ベン・ブラムフィールド、ローラ・スミス・スパーク、「Cleanup Begins in Vanuatu after Cyclone Batters Islands」, 2015年3月14日付, edition.cnn.com
5. シーン・モリス、スティーブ・アルマシー、ローラ・スミス・スパーク、「Unbelievable Destruction Reported in Tropical Cyclone Pam's Wake」, 2015年3月14日付, edition.cnn.com
6. ピーター・F・エバンズの未出版の手記、「Sister Abie Turay's Story」
7. ピーター・F・エバンズ、「Sister Abie Turay's Story」
8. アビー・トゥーレイの言葉。ピーター・F・エバンズが「Sister Abie Turay's Story」で引用
9. ピーター・F・エバンズ、「Sister Abie Turay's Story」
10. アビー・トゥーレイの言葉。ピーター・F・エバンズが「Sister Abie Turay's Story」で引用
11. ピーター・F・エバンズ、「Sister Abie Turay's Story」; トゥーレイ姉妹に関するビデオ、「We Did Not Stand Alone」lds.org/media-library はlds.org/media-libraryで視聴可能
12. ジョセフ・F・スミス、「Editor's Table」, *Improvement Era*, 1903年12月号, 149
13. イザヤ 58:8-9





十二使徒定員会
ボイド・K・パッカー会長

幸福の計画

教会におけるあらゆる活動の最終的な目的は、男女とその子供たちが家庭で幸せに暮らし、この世と永遠にわたって結び固められるようにすることです。

今から何十年も前の、第二次世界大戦後、わたしは大学に通っていました。そこで、ドナ・スミスと出会いました。それまでに、実りある結婚に欠かせない二つの要素は、クッキーとキスだという話を聞いたことがありました。なかなかよいバランスだと思いました。

わたしは午前中大学に出席し、午後になるとブリガム・シティに戻って来て父の自動車修理工場で働いていました。ドナの午前中最後の講義は、家庭科でした。わたしは学校を出る前にドナの教室に寄りました。教室のドアの窓はすりガラスでしたが、わたしが窓の近くに立つと、ドナは窓の外わたしの影に気づき、そっと教室を出てクッキーとキスをくれました。その後は皆さんのご想像のとおり、わたしたちはローガン神殿で結婚し、人生という二人の大冒険が始まりました。

わたしは長年にわたり、ある重要な原則を度々教えてきました。それは、教会におけるあらゆる活動の最終的な目的は、男女とその子供たちが家庭で幸せに暮らし、この世と永遠にわたって結び固められるようにすることだということです。

時の初めに、
「神々は降って行って、御自分の形に人

を組織し、神々の形に人を形造り、男と女に形造られた。

そして、神々は、『彼らを祝福しよう』と言われた。また、神々は言われた。『彼らに、生み、増え、地に満ち、地を従わせるようにさせよう。』（アブラハム 4：27 - 28）

こうして人類の命のサイクルが地上で始まりました。「アダムはその妻を知り、彼女は彼に息子、娘たちを産んだ。そして、彼らは増えて、地を満たし始めた。



〔それ〕から、アダムの子、娘たちは二人ずつ地に分かれて、……そして、彼らもまた、息子、娘たちをもうけた。』（モーセ 5：2 - 3）

増えて地を満たすようにという戒めは、一度も撤回されたことはありません。それは救いの計画に不可欠であり、人類の幸福の源なのです。この力を正しく行使することにより、わたしたちは天の御父に近づき、完全な喜び、そして神の属性さえも受けることができます。創造の力は、幸福の計画に後から付け加えられたものではありません。それは幸福の計画であり、幸福の鍵なのです。

配偶者を求める欲求は不変で、とても強いものです。この世の生活における幸福や喜び、そして昇栄は、人を常に駆り立てる、この肉体的欲求にどう応えるかに懸かっています。若い男女に宿る創造の力が成熟するにつれて、どのような肉体的な経験とも異なる、非常に個人的な感情が自然に湧き起こります。

理想を言えば、交際はロマンスから始まります。習慣は異なるかもしれませんが、ロマンスによって興奮と期待というよく知られた感情が花開き、時には拒絶も味わいます。月明かりとバラ、ラブレター、愛の歌、詩、手をつなぐことなど、若い男女は互いへの愛をさまざまな方法で表現します。周囲の世界は消えうせ、二人は至福の時を味わいます。

愛し合う若者同士が創造の力を通して経験する喜びこそ最も崇高な愛の表れであると考えている人は、長い結婚生活における献身や慰めをまだ経験したことのない人です。結婚した二人は、誘惑や誤解、金銭問題、家族の危機、病気などを乗り越えながら愛を深めていきます。そのようにして育てた成熟した愛は、新婚の夫婦には想像もできないような無上の喜びをもたらします。

真の愛を育てるには、命の源である神聖な力を解き放って二人の愛を分かち合う



ことを、結婚するまで待たなければなりません。これは、結婚前の二人の関係が肉体的な欲求に支配されないようにするためです。純粋な愛が前提としているのは、永遠の貞節の聖約を交わし、合法的で律法にかなった儀式、理想的には神殿での結び固めの儀式を受けるまで、愛を完全に表現するために創造の力を使わないということです。この力は、結婚した永遠の伴侶とだけ分かち合うべきものです。

ふさわしさを保つならば、この過程において愛という言葉に関連する最上で最高の肉体的、情緒的、霊的な感覚や感情が一つに結ばれます。人が経験することの中に、こうした生活に匹敵するものや、同等のものはありません。聖約を結び、それを守るならば、その生活は永遠に続きます。「あなたがたは誉れと栄光を受けるために、そこで聖なる神権の鍵を授けられるのである。」(教義と聖約 124:34)「その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。」(教義と聖約 132:19)

しかし、ロマンチックな愛は不完全であり、前奏曲にすぎません。愛は、結婚した夫婦に託された創造の力を用いて、子供をこの世に迎えることによって育まれます。受精は、夫婦間の結婚の営みの中で起こるのです。崇高で複雑な過程を経て、小さな胎児が形成されます。子供は出産という奇

跡によって世に生まれ、地上の両親の形に形造られます。その肉体の中に宿る霊は、霊的な事柄を感じ、認識することができます。そして子供の肉体には、自分自身の形に子孫をもうける力が眠っているのです。

「霊と体が人を成す。」(教義と聖約 88:15) このゆえに、わたしたちが幸福になるには、霊の律法と肉体の律法に従わなければなりません。わたしたちには命を与えるこの力に関する律法を含め、不変の律法が与えられています。それは「創世の前に天において定められ……、すべての祝福はこれに基づいてい」ます(教義と聖約 130:20)。また、人類のために道徳的な標準を定めた霊に関わる律法(ジョセフ・スミス訳ローマ 7:14-15; 2 ニューファイ 2:5; 教義と聖約 29:34; 134:6 参照)と、人々をつなぎ、結び固め、守り、永遠の祝福の約束を与える聖約があります。

アルマは息子のシブロンにこう勧告しました。「激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。」(アルマ 38:12) 手綱は導き、指示し、制するために用いられます。わたしたちの激情は制御されなければなりません。創造の力を律法にかなって行使するとき、祝福が与えられ、聖められることでしょう(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』, 158 参照)。

この世では、常に誘惑があります。悪魔

には生命を生み出す力がないため、その天与の力を備えている全ての人々に嫉妬しています。悪魔と彼に従った者たちは追い出され、肉体を得る権利を失いました。「悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めている……。」(2 ニューファイ 2:27) 悪魔は皆さんを誘惑し、できるならば墮落させて、汚そうとし、ふさわしさ次第で永遠に増え続けることができるというわたしたちのこの賜物(教義と聖約 132:28-31 参照)を、可能であれば滅ぼそうとします。

もしわたしたちが創造の力を汚したり、他の人々を背かせたりすれば、いかなる肉体的な喜びをも上回る「激しい」、「堪え難い」(教義と聖約 19:15 参照) 罰を受けることとなります。

アルマは息子のコリアントンにこのように述べています。「わが子よ、あなたはこれが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為であることを知らないのか。」(アルマ 39:5) 人は罪を犯すとき、その結果から逃れることはできません。

創造の力を正当に用いることができるのは、ただ夫婦のみ、すなわち合法的かつ律法にかなって結婚をしている男女間に



おいてのみです。それ以外の関係は全て神の戒めを破ることになります。悪魔のさまざまな誘惑に負けてはなりません。なぜなら、「最後の一コドラントを支払ってしまうまで」(マタイ5:26)、罪という負債は全て弁済しなければならぬからです。

神の寛大さや憐れみは、悔い改めにおいて最も明白に表れます。

肉体の傷は、時には医師の助けを借りながら、治癒します。しかし、損傷が大きい場合は傷跡が残る、負傷の記憶がよみがえります。

霊の体はそれとは異なります。わたしたちが間違いや罪を犯すと霊は傷つきます。しかし肉体の場合とは異なり、悔い改めの過程が終わると、イエス・キリストの贖いのおかげで傷跡はまったく残りません。主はこのように約束されています。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約58:42)

結婚や家族生活について話すとき、必ず次のような思いが湧いてきます。「例外についてはどうだろう。」生まれつき制限があって、子供をもうけることができない人もいます。また、自分には罪がないのに、伴侶の不貞によって結婚生活が破綻する人もいます。結婚する機会のない人が独りでふさわしい生活を送っている場合もあります。

現時点で、わたしが与えることのできる慰めの言葉はこれです。神はわたしたちの御父であります！ 父なる神は、この

地上で最も理想的な父親をしのぐ愛と思いやりを持っておられます。それらは、死すべき人間にはとうてい理解できないほど深いものです。神の裁きは公正で、憐れみは限りなく、その力によってこの世のいかなるものとも比較できないものを補ってください。「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあつて単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。」(1コリント15:19)

わたしは今、敬虔な思いで**神殿**という言葉を使います。わたしが心に描くのは、結び固めの部屋と聖壇、そしてそこにひざまずく若い男女の姿です。この神聖な神殿の儀式は、結婚式よりはるかにすばらしいものです。なぜなら、この結婚は約束の聖なる御霊によって結び固められるからです。そして、聖文が約束しているように、わたしたちは「王位、王国、公国、および力、主権……を受け継ぐ」(教義と聖約132:19)からです。この崇高な賜物を受け入れてふさわしく行使する人々を待ち受ける喜びがわたしには分かります。

ドナ・スミス・バックナー姉妹と結婚し連れ添って70年近くがたちました。妻であり子供たちの母親である彼女のことになると、言葉が見つかりません。妻への愛情と感謝があまりにも深く強いため、何も言えなくなってしまうのです。この世と次の世でわたしたちが受ける最大の報いは、子供たちと孫たちです。ともに過ごす現世の

生涯の終わりに近づくにつれ、わたしは妻とともにいられる一瞬一瞬に感謝しています。また、終わりはないという主の約束に感謝します。

イエスはキリストであり、生ける神の御子であり、この教会の頭であられることを証します。主の贖罪と神権の力により、この世で始まった家族は永遠にわたつともにいることができるのです。わたしたち一人一人を取り戻すことのできる贖罪には欠けるところがありません。つまり、わたしたちがこれまでどこで何をしてきたか、あるいは何が起こったかにかかわらず、わたしたちが心から悔い改めるならば、主は贖うと約束してくださったのです。そして、主が贖ってくださったとき、その約束が現実のものとなりました。大勢の人が罪悪感から逃れる方法が分からずに、いわばもがき苦しんでいます。キリストの贖罪を受け入れることにより逃れることができます。そして、あらゆる心痛は美しさと愛と永遠へと姿を変えるのです。

わたしは主イエス・キリストの祝福と創造の力と贖いの力が人に与えられていること、そして贖罪がなされたことに感謝しています。どんなに難しくとも、またどれほど長い間、何度罪が繰り返されてきたとしても、贖罪はあらゆる汚れを洗い清めることができます。また、あなたを再び解放して、あなたが前進し、人生において選んだ道を清くふさわしく歩むことができるようにしてくれます。

神が生きておられ、イエスがキリストであられることを証します。贖罪は教会全体のために行われた全般的な事柄ではなく、個人的なものです。もし何かに悩んでいる人がいれば一遠い昔のことで記憶も定かではないかもしれませんが一贖罪の効力を身に受けてください。贖罪はその悩みを拭い去り、主と同様にあなたもその罪をもう思い起こさなくなるでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



中央扶助協会会長
リンダ・K・バートン

ともに高め合いましょう

聖約を守る男女として、わたしたちは主が望んでおられる民となるために高め合い、助け合わなければなりません。

さまざまな姉妹から、次のようなことを聞きました。総大会で、いつも心に響く靈感あふれる話や音楽、祈りを聞けること以外に大好きなのは、大管長会や十二使徒定員会が永遠の伴侶を傍らに壇上から退出する姿を見ることだそうです。また、幹部が妻への愛情について優しく語るのを聞くことも皆の楽しみではないでしょうか。

ボイド・K・パッカー会長はドナ夫人についてこう語っています。「わたしが受けている神権の職には真実を語る厳粛な責任が伴うので、次のように宣言します。妻は完璧です。」¹

ディーター・F・ウークトドルフ管長はハリエット夫人について「ハリエットは人生を照らす太陽です」と話しています。²

ヘンリー・B・アイリング管長はキャスリーン夫人についてこう述べています。「わたしがいつも最良の自分でありたいと願い続けてこられたのは、彼女のおかげです。」³

そして、トーマス・S・モンソン大管長は最愛のフランシス夫人についてこう話しています。「わたしは妻を生涯こよなく愛してきました。妻は信頼するパートナーであり、親友でした。妻がいなくて寂しいという言葉では、わたしの深い思いをお伝えすることはとうていできません。」⁴

わたしも愛する夫クレグへの思いを述

べたいと思います。彼はわたしに与えられた、^{なまもの} 貴い賜物です。わたしの祝福師の祝福には、彼について、わたしや子供たちの生活が「夫によってしっかり守られるであろう」という大切に神聖な約束があります。マーク・トウエインの言葉を借りて言えば、「[クレグの] いない人生は人生ではない。」⁵ わたしは心の底から夫を愛しています。

神聖な役割と責任

今日は、夫、父親、兄弟、息子、おじである皆さんに敬意を表します。皆さんは自分が何者であるかを知っています。家族を正しく管理し、彼らの必要を満たして守ることを含め、『家族—世界への宣言』に述



べられているように、神から受けた役割を果たしています。父親や母親、結婚は多くの人に悩みをもたらすテーマであることは重々承知しています。責任の放棄、虐待、依存症、または正しくない伝統や文化によって傷ついている人はたくさんいます。男女を問わず、故意に、あるいは無意識にも、家庭に悲痛や苦悩、絶望をもたらした人々の言動を見過ごすつもりはありません。しかし、今日は別の角度から話そうと思います。

夫である男性は、ふさわしい神権者として神からの務めを果たしているとき、それも何よりも家庭で果たしているときが、一番妻の目に輝いて見えると確信しています。わたしはパッカー会長がふさわしい夫や父親に向けて語った次の言葉が大好きで、真実であると確信しています。「あなたには、家庭を守るために主から直接与えられた神権の力があります。サタンが加える攻撃から盾となって家族を守るものが神権の力以外になくなる時がやって来ることでしょう。」⁶

家庭の霊的な指導者および教師

今年の初め、わたしは夫のおじ、ドンドンの葬儀に参列しました。彼は非凡な特質を備えた普通の人でした。ドンおじさんの息子は、幼い頃、両親が初めて家を買った直後の経験を話してくれました。両親は、5人の幼い子供たちの衣食の必要を満たさなければならず、庭の囲いを作るお金がありませんでした。家族の守り手としての役割を真剣に受け止めていたドンおじさんは、木の杭くわいを幾つか地面に打ち込み、ひもで杭と杭をつなぎ、庭全体を囲みました。そして、子供たちを呼び集めて、杭とひもを見せながら、そのあり合わせの囲いの内側にいれば安全であると説明しました。

ある日、家庭訪問教師が家に近づくと、驚くべき光景を見ました。父親の言葉に従順な5人の小さな子供たちが、ひもで区切られた境界線に立ち、その外の通りに



出てしまったボールを取りたそうに眺めていたのです。一人の幼い子供が父親を呼びに行き、それに応えて父親である彼が走ってボールを取りに行ったのでした。

葬儀の後半で、長男は涙を流しながら、人生で望むことは、ただ父親のようになることだと語りました。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう語りました。

「イスラエルの夫、また父親の皆さんに申し上げます。皆さんが家族の昇栄と救いのためにできることは、数多くあります。……

イスラエルの父親という神聖な召しを心に留めてください。それはこの世においても来世においても、最も大切な召しです。皆さんは決してその召しから解任されることはありません。

……皆さんは主の御霊の^{みなま}とどまる家庭を築く助けをしなければなりません。」⁷

預言者のこの言葉は、今の時代にもぴったり当てはまる言葉です。

当然ながら、男性の神聖な役割や責任を軽視するだけでなく、「真の男性像」について偽りのメッセージを広める世に住むことは、聖約の男性にとって困難なことです。偽りのメッセージには、「自分が一番大事」という考えの他に、夫や父親はもう必要ないという、男性の価値を低くしたり軽視したりするメッセージがあります。皆さんをお願いします。サタンの偽りに決し

て耳を傾けないでください。サタンは夫や父親になる神聖な特権を捨てており、自分が絶対に手にできない神聖な役割を持つ人々をねたんでいるので、「すべての人〔を〕自分のように惨めに」することに余念がありません。⁸

補い合う役割において高め、助ける

兄弟姉妹、わたしたちは互いが必要で、聖約を守る男女として、わたしたちは主が望んでおられる民となるために高め合い、助け合わなければなりません。そして、若い世代を高め、彼らが永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な可能性を実現するのを助けるために協力しなければなりません。わたしたちはロバート・D・ヘイルズ長老とメアリー夫人がしたように、「あなたがわたしを、わたしがあなたを助けて、ともに高め合しましょう」という格言に従うことができます。⁹

わたしたちは聖典を通して、「人がひとりであるのは良くない」ことを知っています。ですから、天の御父は「彼のために……助け手」を造られました。¹⁰「助け手」という言葉は「彼に見合った、ふさわしい、あるいは一致する助け手」という意味です。¹¹例えば、わたしたちの両手は似ていますが、まったく同じではありません。実際のところ、ちょうど正反対の形をしています。補い合い、ぴったりと合わります。一緒に使うと、より大きな力を生みます。¹²

教会手引きの家族に関する章に次の言葉があります。「男女の霊は互いを補完する性質を持っている。」¹³ここで注目していただきたいのは、「互いに競合する（compete with each other）」ではなく、「互いを補完する（complete each other）」と書かれていることです。男女は助け合い、高め合い、喜び合いながら最良の自分となるために存在します。バーバラ・B・スミス姉妹は次の賢明な教えを述べました。「人の持つ違いだけでなく、成功までも尊重できるようになるとき、わたしたちは主が意図された喜びを味わい始めます。自分の成功だけでなく、人の成功をも喜べるようになれば、さらに多くの幸福がもたらされるでしょう。」¹⁴わたしたちが「競合する」のではなく、「補完する」と、互いにエールを送ることが一層簡単になります。

若い母親として何人も幼い子供を育てている時期、ひたすらおむつを替え、皿を洗い、子供をしつける日々の夕方ほど、「パパのお帰りはうれしいな」という初等協会の歌を一生懸命歌ったことはありません。¹⁵しかし残念なことに、一生懸命仕事してきたクレグが軽やかな足取りで玄関を入ったとき、わたしはいつも機嫌良く迎えたわけではありませんでした。クレグは必ず一人一人を抱きしめてキスをし、多くのつらい日、あるいは悲惨だった一日をパパとの楽しい時間で修正してくれました。わたしは、やることリストからもう少し離れ

て、夫のように一番大事なことに目を向ける賢明さを持っていたらよかったと思います。そうすれば、もっとよく立ち止まって神聖な家族の時間を楽しみ、家族の生活に祝福をもたらした夫にもっと頻繁に感謝できたかもしれません。

親しく語り合わん

それほど遠くない昔、教会のある姉妹が、ある大きな悩みについて話してくれました。しばらくの間祈っていたのですが、彼女は同じワードの一部の姉妹を心配していました。彼女たちがときどき夫に対して、そして夫について、子供たちの前であっても、敬意に欠けることを語るのを見ており、そのことで胸を痛めていると言っていました。そして、自分が若い女性のように、ふさわしい神権者を見つけてその人と結婚し、ともに幸福な家庭を築けるよう、熱心に望み、祈っていたことも話してくれました。彼女が育った家庭では、母親が「実権を握り」、家庭内の平和を保つために父親が母親の要求に従うしかなかったそうです。彼女はもっと良い方法があると

感じ、自分の育った家庭では手本がなかったものの、導きを求めて熱意を込めて祈り、主の祝福により、夫とともに御霊が歓迎される家庭を築く方法を知ることができました。わたしは彼女の家に行ったことがあり、そこが神聖な場所であることを証できます。

兄弟姉妹、わたしたちはどれくらい頻繁に「親しく語り合」¹⁶ っているのでしょうか。

幾つかのことについて自問することで、自分を評価できます。少し言葉を変えれば、結婚しているかいないか、あるいは家庭状況に関係なく、これらの質問はほとんど全員に当てはめられます。

1. 二人きりのとき、あるいは子供たちの前で、伴侶を褒めたのは、いつが最後だろうか。
2. 伴侶に感謝し、愛を示し、彼または彼女のために信仰をもって熱心に祈ったのは、いつが最後だろうか。
3. 相手を傷つける言葉を口にする前に自分を止めたのは、いつが最後だろうか。
4. 「あなたがこうしていれば」とか「あな

たがこうしなければ」と付け加えずに謝罪し、謙遜な心で赦しを求めたのは、いつが最後だろうか。

5. 単に「正しい」ことを求めず、幸福であることを選んだのは、いつが最後だろうか。

もしどれか一つでも心に刺さるもの、罪悪感が生じるものがあれば、デビッド・A・ベドナー長老の次の教えを思い出してください。「罪悪感は危険から身を守る警告となり、それ以上傷口を広げないようにする守りとなります。」¹⁷

皆さん一人一人にお勧めします。ジェフリー・R・ホランド長老の次の心からの勧めに従いましょう。「兄弟姉妹の皆さん、救い主にさらに似た者となるというこの永遠の追求を続けるに当たって、現時点では、少なくともこの一つの方法で『完全な男性および女性』となれるように努力しようではありませんか。言葉で人を傷つけないようにしましょう。もっと前向きな言い方をすれば、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語りましょう。」¹⁸

今日の話のために準備している間、わたしは御霊の教えを受けました。そして、大事な伴侶に対し、また彼について、親切な言葉をもっと多く語り、我が家の男性たちを高め、彼らが神聖な、補い合う役割を果たしてくれていることに感謝を示す決意をしました。また、「あなたがわたしを、わたしがあなたを助けて、ともに高め合いましょう」という格言に従う決意もしました。

聖霊の助けを求め、愛ある天の父母の聖約の息子娘として補い合う役割において高め合おうではありませんか。

人に力を授けるイエス・キリストの贖罪とイエス・キリストを信じる信仰によってそれができていることを知っています。わたしたちが幸福に、そして永遠に生きるのを助け合い、互いに高め合うことにおいて、主が助けてくださるという信頼を持てますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。 ■





十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

注

1. ボイド・K・パッカーの言葉。“Donna Smith Packer Receives Family History Certificate from BYU”, news.byu.edu/archive/12-jun-packer.aspx で引用
2. デイター・F・ワークトドルフの言葉。「デイター・F・ワークトドルフ長老—新たな地平線へ」『リアホナ』2005年3月号, 10で引用
3. ヘンリー・B・アイリングの言葉。ジェラルド・N・ランド「ヘンリー・B・アイリング長老—『決定的影響』を受けながら歩んだ道」『聖徒の道』1996年4月号, 31で引用
4. トーマス・S・モンソン「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。」『リアホナ』2013年11月号, 85
5. マーク・トウェイン, *Eve's Diary* (1905年), 107
6. ボイド・K・パッカー「神権の力」『リアホナ』2010年5月号, 9
7. エズラ・タフト・ベンソン「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 55
8. 2ニーファイ2:27
9. ロバート・D・ヘイルズ「家族を強めること—わたしたちに託された神聖な義務」『聖徒の道』1996年7月号, 40参照。ラリー・ガート「ロバート・D・ヘイルズ長老—『名誉の帰還』」『聖徒の道』1995年4月号も参照
10. 創世2:18
11. 創世2:18, 欽定訳聖書(英語)の脚注b
12. ブルース・K・サッターフィールド, “The Family under Siege: The Role of Man and Woman” (リックスカレッジ教育週間における講演, 2001年6月7日), 4; emp.byu.edu/SATTERFIELD/PDF/Role-ManWoman2.pdf
13. 『手引き 第2部—教会の管理運営』1.3.1
14. バーバラ・B・スミス「同じ心を持つ人々」『聖徒の道』1982年7月号, 170
15. 「パパのお帰り」『子供の歌集』110
16. 「親しく語り合わん」『賛美歌』140番
17. デビッド・A・ベドナー「わたしたちは純潔を信じる」『リアホナ』2013年5月号, 44
18. ジェフリー・R・ホランド「天使の言葉」『リアホナ』2007年5月号, 18

種まきのたとえ

優先順位を定めてわたしたちの土を良い土とし、収穫を豊かにするために必要なことを行うかどうかは、一人一人に懸かっています。

総 大会の話のテーマには割り当てがあります。しかし、それは中^み央幹部から来るのではなく、御^{たま}霊の導きによります。数多くのテーマは、死すべき人が持つ共通の関心事に基づいて語られます。しかし、ちょうどイエスが当時の死すべき世の問題や政治的抑圧を克服する方法について説かれなかったように、主は通常、わたしたちが自分の生活を変え、天の家に帰る備えをするためにできることについて話すよう、主の現代の僕^{しもべ}に靈感をお与えになります。この復活祭の週末、わたしはイエスのたとえの一つであり、貴重で時を超越した教えについて話すように強く心を動かされました。

種まきのたとえは、3つの共観福音書全てに採り上げられている数少ないたとえの一つです。また、イエスが弟子たちに説き明かされた、さらに数少ないたとえの一つでもあります。まかれた種^{みこぼ}というのは、「御国の言」(マタイ13:19)、「御言」(マルコ4:14)、または「神の言」(ルカ8:11)であって、主とその僕たちの教えを指しています。

種が落ちた異なった種類の土というのは、人がその教えを受け入れて従うさまざまな心の状態を表しています。まず、「道ばたに落ちた」(マルコ4:4)種というの

は、土まで届かなかったために生長できなかった種のことです。それはちょうど、かたくなな心や備えのできていない心にまかれた教えのようなものです。この種についてはこれ以上述べません。わたしのメッセージは、キリストに従うことを決意してきた人に関係しているからです。わたしたちは自らの生活で救い主の教えをどのように取り入れたらよいのでしょうか。

種まきのたとえは、福音のメッセージという種を受け入れながら、豊かな収穫を得ることを阻みかねない心の状態や態度について、わたしたちに警告しています。

1. 石地——根がない

ある種は「土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。」(マルコ4:5-6)

イエスはこのたとえでは、「御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、自分の中に根がないので……御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう」人々のことを指していると、説き明かされました(マルコ4:16-17)。

御言葉を聞く人が「自分の中に根がない」状態になる原因は何でしょうか。こ



の状態は、ただ単に、宣教師のために、あるいは教会に数多くある魅力的な特徴のために、あるいはまた、教会員になることで得られるたくさんの大きな祝福のために改宗した新会員に見られる状態です。御言葉に深く根を下ろしていないため、試練に遭ったりすると、気力を失って枯れてしまうのです。しかし、教会で育った会員歴の長い人であっても、自分の中に根がない状態に陥ることがあります。わたしはイエス・キリストの福音に対して堅固で永続性のある改心をしていない会員を知っています。もし福音の教えに根を下

ろさず、きちんと実践していなければ、わたしたちの誰もが石のような心を育てることになります。それは霊の種にとって石地となります。

霊性を維持するためには、霊の糧が必要です。特に、神を信じる信仰や善悪の絶対的な基準から離れつつある世界にあってはそれが必要です。信仰を脅かすようなメッセージを拡散しているインターネットが蔓延する時代にあっては、信仰を強め、福音に根を下ろし続けるために、霊的な真理との接点を増やさなければなりません。

若人の皆さん、もしこの教えが漠然としていると思うようでしたら、具体的な例を挙げましょう。もし聖餐が配られている最中に、メールを打っていたり、小声で話していたり、携帯端末のゲームで遊んでいた、または何であろうと自分に必要な霊的な糧を取らないようなことをしているとしたら、皆さんは自分の霊的な根を弱め、自ら石地に近づいていることになります。仲間外れ、脅し、あるいは嘲笑といった試練に遭ったとき、霊的に枯れてしまう弱さを自分で作っているのです。それは大人の皆さんにも当てはまります。

他にも霊的な根を絶やしてしまうおそれのあることがあります。昨今のテクノロジーにより加速していますが、それだけによるものではありません。それは福音や教会を小さな鍵穴からのぞくという傾向です。そのように視野が限定されると、ある特定の教義や習慣、あるいは指導者の欠点に気を取られ、福音の計画が持つ壮大な展望や、福音に従うことによって得られる個人や全体としての報いを見逃してしまいます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、この鍵穴から見る光景の一面について真に迫った表現をしました。ヒンクレー大管長はプリガム・ヤング大学の聴衆に向かい、当時報道されたある出来事に怒りを燃やした政治評論家についてこのように話をしたのです。「彼らは巧みに怒りと罵りの言葉をばらまきました。」そして大管長はこう締めくくりました。「確かに今の時代は、このように物事を辛辣に言うことがもてはやされているのです。」¹ 福音にしっかりと根を下ろすためには、それとは対照的に、節度を保ち、過度の批判を控え、神の壮大な業を理解するために常により広い視野を求めなければなりません。

2. いばら ― 世の心づかいと富の惑わし

イエスは、「ほかの種はいばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいで



しまったので、実を結ばなかった」とお教えになりました(マルコ4:7)。これは「御言を聞くが、世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいつてきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる」人たちであると説き明かされました(マルコ4:18-19)。これは確かに、わたしたち全てが耳を傾けなければならない警告です。

最初に富の惑わしについて話しましょう。霊の旅路のどの段階にしようとも、すなわち、改心の度合いがどの程度であっても、皆この誘惑を受けます。心の思いや優先順位が、財産の獲得、利用、所有に向いているとき、人はそれを物質主義と呼びます。物質主義について多くが語られ、書かれてきたので、ここで付け加える必要はほとんどないでしょう。² 拝金思想と呼ばれるものを信じている人々は、「富の惑わし」という病にかかっています。富の所有や多額の収入は、天の恵みを受けていることのしるしではありません。また、そういうものがないということが、天から恵みを受けていない証拠でもないのです。イエスが一人の忠実な信者に対して、持っている物を皆、貧しい人々に施ささえすれば、永遠の命を受け継ぐであろうと言われたとき(マルコ10:

17-24 参照)、富の所有が悪であるとは言われませんでした。富に対するその信者の思いが悪だと言われたのです。わたしたちが皆知っているように、イエスは「良いサマリヤ人」をお褒めになりました。このサマリヤ人は、同胞に仕えるために、ユダが自分の救い主を裏切ったときに使ったお金と同じお金を使いました。あらゆる悪の根は、金銭ではなく金銭を愛することなのです(1テモテ6:10 参照)。

モルモン書には、神の教会の「発展が鈍り始めた」(アルマ4:10)時代のことが書かれています。これは「教会の人々は……富や俗世のむなしものに執着するように……なってきた」からでした(アルマ4:8)。物を豊富に持つ人は誰であっても、富とこの世の物によって霊的な「成長が止まる」という危険にさらされます。³ それは救い主が次に語られた教えにちょうどよい前置きです。

わたしたちの生活の中で、福音の影響力を弱める最も巧妙な伎倆とは、イエスが「生活の心づかいや富や快樂」と呼ばれたように(ルカ8:14)、この世のことに心を向けることです。これは例を挙げれば切りがありません。少し紹介するだけで十分でしょう。

あるとき、イエスは使徒の頭であったペテロを叱り、こう言われました。「[あなたは]わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」(マタイ16:23。教義と聖約3:6-7;58:39も参照) 人のことを思うとは、行動、優先順位、考えにおいて、神に関わる事柄よりもこの世のことに関心を払うという意味です。

(1) 何かに依存するようになると、「生活の……快樂」に身を委ねることになります。(2) そうすると、神からの貴重な賜物である選択の自由を損ねることになります。また、(3) つまらない気晴らしに身を委ねるなら、永遠にわたって大切な事柄から離れてしまいます。そして、救いは保障されているという意識があると、永遠の行く末に必要なふさわしさを身につけるために欠くことのできない人格的な成長を損なってしまいます。

将来に対する不安に縛られてしまうと、信仰をもって前進し、神と神の約束に信頼を置くことが妨げられるので、「この世の……思い煩い」に打ち負かされてしまいます。25年前、わたしが尊敬するブリガム・ヤング大学の教師であったヒュー・W・ニブレーは、世の思い煩いに負けることの危険性について語っています。彼はあるインタビューで、この世の状態と福音を広めるわたしたちの義務を鑑みると、何らかの形で「教会が行っていることをこの世に合わせる」⁴ 努力をする方が望ましいのではないかと、という質問を受けたことがあります。

彼はこう答えました。「そのような問いかけを教会は絶えず受けてきたのではないのでしょうか。あるときには、やむなく一部の人々を嫌な気持ちにさせてしまわなければならないこともありますし、また別のときには、あえて危険を冒さなければならないこともあります。そういうところに信仰が必要なのです。……わたしたちの決意は試されるはずですし、決意を守



ることは困難なはずです。この世の見地からすれば、決意を維持することは非現実的に見えることでしょう。」⁵

福音を優先するというこの考え方は、数か月前にブリガム・ヤング大学を訪問された著名なカトリックの指導者であるフィラデルフィアのチャールズ・J・チャバット大司教によって支持されました。大司教は、「結婚と家族、性の本質、人の命の尊厳、信教の自由が差し迫って必要であること」などの、末日聖徒とカトリックの社会が共通して持つ関心事に触れ、次のように言いました。

「わたしたちが主張している信仰に実際に従って生きることの大切さを改めて強調したいと思います。わたしたち個人や家族の生活だけでなく、教会でも、政治に関する選択でも、仕事上の取り引きでも、貧しい人を助けることにおいても、すなわち、行う全てのことに於いて、わたしたちの信じることを優先する必要があるのです。……

ここにはなぜそれが大切なのか、その答えがあります。」さらに大司教はこう続けました。「カトリックの経験から教訓を得てください。わたしたちカトリックは、自分たちの使命が、社会にあってパン種になることであると信じています。しかし、社会にあってパン種になることと、社会によって消化されることの間には、はっきりとした境界線があるのです。」⁶

この世のことで思い煩うなら、生活から神の御言葉を締め出すことになると救い主は警告しておられます。神の戒めと神の教会の指導者に優先順位を置き、わたしたちの思いをそこに定めることは確かにチャレンジです。

救い主が挙げられた例は、このたとえが土のたとえだということを考えさせてくれます。土が適切かどうかは、福音の種がまかれた人の心で決まります。霊的な教えに対する感受性の程度によって、かたくなになって備えのできていない心もあ

れば、長く使わないために石ころだらけになっている心もあり、この世のものに執着している心もあります。

3. 良い地に落ち、実を結ぶ

種まきのたとえは、救い主が「良い地に落ちて実を結び」何倍にも増えたという説き明かしをされたところで終わっています(マタイ 13:8)。そのような良い地になり、そのように豊かな収穫を得るために、どうしたら備えることができるでしょうか。

イエスは、「良い地に落ちたのは、御言を聞いたのち、これを正しい良い心でしっかりと守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのことである」と説き明かされました(ルカ 8:15)。わたしたちには福音の言葉という種があります。優先順位を定めてわたしたちの土を良い土とし、収穫を豊かにするために必要なことを行うかどうかは、一人一人に懸かっています。わたしたちはしっかりと根を下ろし、イエス・キリストの福音に改心することを求めなければなりません(コロサイ 2:6-7 参照)。祈ること、聖文を読むこと、奉仕すること、そして、いつも主の御霊がともにいてくださるよう聖餐を定期的に受けることによって改心を遂げることができます。わたしたちはまた、心の大きな変化を求める必要があります(アルマ 5:12-14 参照)。心に大きな変化が生じることによって、邪悪な望みや利己的な関心が、神を愛する心や神とその子供たちに仕えたいと願う心に置き換えられるからです。

わたしたちは以上のことが真実であることを証します。また救い主イエス・キリストの教えが道を指し示すこと、主の贖罪に

よってあらゆることが可能になったことを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレイ, "Let Not Your Heart Be Troubled" (ブリガム・ヤング大学デイポーショナル, 1974年10月29日); speeches.byu.edu
2. 例として, ダリン・H・オークス, "Materialism," *Pure in Heart* (1988年) 第5章, 73-87 参照
3. わたしがこのような忘れがたいイメージを描けるようになったのはニール・A・マックスウェル長老のおかげである。ニール・A・マックスウェル「それは皆さんの時代です」『聖徒の道』1985年11月号, 4-6 参照
4. ジェームズ・P・ベル, "Hugh Nibley, in Black and White," *BYU Today*, 1990年5月号, 37
5. ヒュー・ニブリーの言葉。"Hugh Nibley in Black and White", 37-38
6. チャールズ・A・チャバット, "The Great Charter at 800: Why It Still Matters," *First Things*, 2015年1月23日付け。 firstthings.com/web-exclusives/2015/01/the-great-charter-at-800 参照。タッド・ウォルチ, "At BYU, Catholic Archbishop Seeks Friends, Says U.S. Liberty Depends on Moral People," *Deseret News*, 2015年1月23日付, deseretnews.com/article/865620233/At-BYU-Catholic-archbishop-seeks-friends-says-US-liberty-depends-on-moral-people.html。チャバット大司教はまた次のようにも言われた。「わたしたちの最も優れたカトリックの学校の中にも、宗教的な独自性を失ったり、あるいは大いに妥協したりしてしまったものもあります。……ブリガム・ヤング大学はまれに見る大学です。それはこの大学が宗教的な独自性によって価値が高められている学習施設だからです。この独自性を決して失わないでください。」「The Great Charter at 800」)



七十人委員会
L・ホイットニー・クレートン長老

信じることを選ぶ

救い主は、御自身を信じて従うことを選ぶ人々を導く光として主の福音を与えてくださっています。

去る1月、7歳のセイラー・グツラーとその家族は自家用機でフロリダからイリノイに向かっていました。セイラーの父親が操縦をしていました。日暮れ直後に、飛行機は故障に見舞われ、ケンタッキーの非常に起伏の多い地形の真っ暗な丘に逆さまに墜落しました。その事故で、セイラーを除いて全員が死亡しました。彼女はその衝突で手首を骨折しました。切り傷と擦り傷も受け、靴も失くしました。気温は華氏38度（摂氏3度）で、冷たい雨の降るケンタッキーの冬の夜でした。セイラーはショートパンツにTシャツ、それに片方の靴下しか身に付けていませんでした。

母親と父親を探して叫びましたが、応える人は誰もいませんでした。勇気を振り絞って、セイラーは助けを求めて裸足でその険しい地帯を歩き始めました。川を渡り、溝を越え、頑張ってブラックベリーのいばらの中を通り抜けました。ある小高い丘の上から、セイラーは2キロほど離れた遠くに光を見つけました。その光に向かって、暗闇の中、茂みの中をつまずきながら進み、セイラーはついに見ず知らずの親切な男性の家にたどり着きました。その男性は、すぐにセイラーの面倒を見てくれました。セイラーは無事でした。すぐに病院に搬送され、回復できるよう助けを受

けました。¹

セイラーは、遠くに光を見つけ、野生地帯や遭遇した悲劇の大きさ、負ったけがにもめげずに、その光に向かって頑張って進んで行ったので、生き延びたのです。セイ

ラーがその夜、どのようにしてその場を切り抜けたのか想像することはできません。しかし、わたしたちが分かるのは、セイラーがその遠くにあった家の光に助けられる可能性があることに気づいたということです。希望があったのです。セイラーは、状況がどんなにひどくても、その光の中に助けを見いだせると確信したからこそ勇気を得たのです。

セイラーが経験したような恐ろしい経験をする人はほとんどいないでしょう。しかし、わたしたちは皆、どこかの時点で、それぞれ自分の霊的な険しい荒れ野を乗り越え、精神的に困難な旅を経験しなければなりません。そうした状況の中にあっても、どんなに暗く希望がないように見えても、探し求めるならば、そこにはいつでも、わたしたちを呼び寄せ、助けと救済への希望を与えてくれる霊的な光があるのです。



その光は、世の光である、全人類の救い主から照らされる光です。

霊的な光に気づくことは物理的な光を見ることとは異なります。救い主の霊的な光を認識することは、進んで信じることから始まります。神は、まず初めにわたしたちが少なくとも信じようとする望みを持つことを求めておられます。預言者アルマは次のように教えています。「もしあなたが目を覚まし、能力を尽くして……ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。〔救い主の〕言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」²

信じようとする望みを持ち、救い主の言葉をわたしたちの心の中に「受け入れる」ようにというアルマのわたしたちへの呼びかけは、信じることと信仰には、わたしたちの個人的な選択と行動が求められるということを思い起こさせてくれます。わたしたちは、「目を覚まし、能力を尽く〔さ〕」なければなりません。わたしたちは与えられる前に求めなければなりません。見いだす前に捜さなければなりません。開かれる前にたたかなければなりません。わたしたちはそこで次の約束が与えられるのです。「すべて求める者は与えられ、捜す者は見だし、たたく者には開かれるからである。」³

救い主が地上で教え導いておられたとき、御自身のことを信じようとする者たちに向けて発せられた言葉ほど、わたしたちに信じるように勧める熱烈な言葉はありません。

「もしわたしが父のわざを行わないとすれば、わたしを信じなくてもよい。

しかし、もし行っているなら、たとえわたしを信じなくても、わたしのわざを信じるがよい。そうすれば、父がわたしにおり、また、わたしが父におることを知って悟るであろう。」⁴

わたしたちは皆、日々試しに遭います。



それは、わたしたちが主を信じて主の福音の光がわたしたちの内できちんと育むことを選ぶか、あるいは、信じないで暗闇の中を独りで歩み続けるのかという、生涯続く試しなのです。救い主は、御自身を信じて従うことを選ぶ人々を導く光として主の福音を与えてくださっています。

墜落の後、セイラーには選択肢がありました。暗闇の中、飛行機のそばで独り恐怖におびえながらじっととどまることもできました。しかし、長い夜が待っていました。そしてただ寒くなる一方でした。セイラーは別の道を選びました。丘を登り、そこで地平線に光を見たのです。

セイラーが夜通しその光に向かって進むにつれて、その光は輝きを増しました。それでも、セイラーにとってその光が見えないときがあったことでしょう。おそらく、峡谷や木の陰、茂みの中を通っているときに、光が視界から消えたこともあったでしょうが、セイラーは進み続けました。光が見えているときは常に、それがセイラーには自分が正しい方向に進んでいるという証拠となりました。セイラーにはまだそ

の光が何かははっきりとは分かりませんでした。しかし、分かっていることに基づいて、すなわち、正しい方向に向かって進んでいる限りまたその光が見えることを信じ、そう願いながら、歩き続けました。そうしたことで、セイラーは自分の命を救ったのかもしれない。

わたしたちの人生もまた、そのようなものとなり得ます。傷ついたり、疲れたり、そして、人生が真っ暗で寒々しく思えたりするときがあるかもしれません。地平線に光がまったく見えなかったり、諦める気持ちになったりするときがあるかもしれません。もしわたしたちが進んで信じるならば、信じたいと望むならば、信じることを選ぶならば、救い主の教えと模範が進む道を示してくれるでしょう。

信じることを選ぶ

ちょうどセイラーがその遠くの光に安全を見いだすことができると信じなければならなかったように、わたしたちも救い主、すなわち、救い主の永遠の光であり癒やしあわれの憐れみが実際に神からのものであるこ



とを信じるよう心を開くことを選ばなければなりません。各時代の預言者たちは、わたしたちにキリストを信じるように励まし、さらに懇願してきました。預言者の勧めは次の根本的な事実を反映しています。すなわち、神はわたしたちに信じるよう強制されることはなさいません。その代わりに、わたしたちを教えるために生ける預言者や使徒を遣わし、聖文を与え、主の御霊を通して呼び寄せ、わたしたちを信じるように招いてくださるのです。わたしたちは、そうした霊的な招きを受け入れ、主がわたしたちを呼ぶのに掲げておられる霊的な光を内なる目で見ることを選ばなければならぬ民です。信じることを決断することは、わたしたちが行う決断で最も重要な決断です。その決断はわたしたちのその他の決断を形作ります。

神は、わたしたちを祝福したいという完全な願いをお持ちですが、わたしたちに戒めを守るよう強制されることがないと同様、わたしたちに信じるように強制されることもありません。それでも、主を信じるようにという主のわたしたちへの呼びかけ、すなわち小さな信仰を働かせ、主の御言葉を受け入れるようにという呼びかけは、今日も有効です。救い主は次におっしゃいました。「父は、どこにいる人でもすべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命じておられることを、わたしは証する。」⁵

信じること、証、および信仰は受動的な原則ではありません。これらは何の努力もなしにわたしたちに生じることはありません。信じることはわたしたちが選ぶものなのです。つまり、それを望み、そのために努力し、犠牲を払うのです。わたしたちが偶然祈ったり什分の一を支払ったりしないと同様、わたしたちは偶然救い主や主の福音を信じるようになることはありません。ちょうど戒めを守ることを選ぶように、わたしたちは積極的に信じることを選ぶのです。

信じることを行動に移す

セイラーは、初めは茂みの中を進みながら自分がしていることがうまくいくかどうかは分かりませんでした。セイラーは自分がどこにいるかも分からない状態で、けがをしていました。周りは寒く暗くなっていました。しかし、セイラーは墜落した現場を離れ、救助が受けられるという希望をもって、遠くに光が見えるまで這いつくばって擦りむきながら危険を承知で道を進んで行きました。一旦、その光を見つけたら、見えたものを忘れずに、それに向かって最善を尽くして進んで行ったのです。

わたしたちも同じように、疑うことを選ぶのではなく、むしろ信じる心をもって霊的な光を見いだせるという希望を抱かなければなりません。わたしたちの行動は、わ

たしたちが信じていることの証拠であり、わたしたちに信仰があることの実事となるのです。祈るとき、聖文を読むとき、わたしたちは信じることを選んでいるのです。断食するとき、安息日を聖く保つとき、神殿で礼拝するとき、わたしたちは信じることを選んでいるのです。バプテスマを受けるとき、そして、聖餐を受けるとき、わたしたちは信じることを選んでいるのです。悔い改め、神からの赦しと癒やしの愛を探し求めるとき、わたしたちは信じることを選んでいるのです。

決して諦めない

ときどき、霊に関わる成長が鈍く見えたり、一時的に止まっているように見えたりすることがあります。ときどき、足場を失ってしまったように、間違いを犯してしまったように、また、救い主を見いだすための最善の努力がうまくいっていないように思えることがあります。もし皆さんがこのように感じているならば、決して諦めなでください。主と主の福音と主の教会を信じ続けてください。その信じていることに自分の行動を一致させてください。自分の信仰の光が弱くなったときは、主の福音と主の教会に見いだせる救い主の愛と恵みに対する希望により、自分の内にある疑念を払拭してください。主は皆さんを受け入れるためにいつも立って待っていてくださることを約束します。皆さんはやがて、



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

自分ができる最善の選びをしてきたことが分かるようになります。主を信じるという皆さんの勇気ある決意は、皆さんにとって永遠の計り知れない祝福となるでしょう。

信じることの祝福

わたしは自分の人生で救い主の憐れみ深い愛を感じてきました。わたしは自分自身が暗黒にいるときに救い主を探し求めてきました。そして救い主はその癒やしの光をもってわたしに手を差し伸べてくださいました。自分の人生で大きな楽しみの一つは、妻のキャシーとともに旅行をして、世界の隅々にいる教会員と会うことです。こうしたすばらしい出会いを通して、わたしと妻は神の子供たちへの神の愛を学びました。この出会いを通して、わたしは限りない幸福の可能性が、主イエス・キリストの教えに従うことを選ぶ人々にとって祝福となることを知りました。わたしは、主と主の贖いの力を信じるのが、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」⁶ 真の道であることを学びました。

イエス・キリストは、わたしたち全てにとって光と希望の源であられることを証します。わたしたちが皆、主を信じることを選ぶことができるようお祈りします。イエス・キリストの御名により、アーメン。 ■

注

1. リンゼー・ビーバー, "How 7-Year-Old Sailor Gutzler Survived a Plane Crash," *Washington Post*, 2015年1月5日付, washingtonpost.com; "Girl Who Survived Plane Crash," 2015年1月4日付, myfox8.com; "Kentucky Plane Crash: Four Killed," 2015年1月4日付, news.com.au; AP通信社, "Young Girl, Sole Survivor of Kentucky Plane Crash," 2015年1月3日付, jems.com 参照。
2. アルマ 32:27, 強調付加
3. 3 ニーファイ 14:8。7 節も参照
4. ヨハネ 10:37-38
5. 3 ニーファイ 11:32
6. 教義と聖約 59:23

世界中どこでも —— なぜ結婚と家族が 大切なのか

家族は生活の中心であり、永遠の幸福の鍵です。

昨年11月、わたしはヘンリー・B・アイリング管長とジェラルド・コセービショップとともに、招待されて、イタリア、ローマのバチカン宮



殿で開かれた結婚と家族に関する会議に出席しました。7大陸のうちの6つの大陸から、14の異なる宗教の代表者が出席し、現在の世界で家族に起こっている事柄について各自の考えを述べる機会が、出席者全員に与えられました。

フランシスコ教皇は最初の部会の冒頭でこう語りました。「わたしたちは現在、利他的な文化の中で生きています。その中で人々はますます、公の場で誓いを立てる結婚を簡単に放棄しています。この慣習と道徳の変革はしばしば自由という旗のもとでも受け入れられてきましたが、実際には数え切れないほど多くの人を物心両面で苦しめてきました。特に最も貧しく立場の弱い人々です。……この危機的状況の中で一番苦しむのはいつもそのような人々なのです。」¹

若い世代に関して、教皇は、「利他的なものがもたらす有害な〔精神〕に身を委ねることなく、むしろ真の永続する愛を求め



バチカン市国で開かれた、結婚と家族に関する会議

る、勇気ある改革者となって、一般的になってしまったこの傾向に立ち向かう」ことが重要であり、そうしなければならないと語りました。²

その後3日間、男女の間の結婚をテーマにして、宗教指導者たちによるプレゼンテーションと話し合いが行われました。わたしは考えられる限り最も広範囲にわたる世界中の宗教指導者の話に耳を傾け、結婚が神聖な制度であることと家族が社会の基本単位として重要であることについて彼らが互いに完全に合意し、お互いに相手の信条を全面的に受け入れていることを表明する言葉を聞きました。そして、強い親近感と連帯感を抱きました。

このような連帯感を抱き、それを口にした人は多く、彼らはさまざまな方法でそれを表現しました。わたしが気に入った言葉の一つは、イランから来たイスラム教の学者が、家族に関するわたしたちの教会の宣言から二つの段落をそっくりそのまま引用して語った言葉です。

その会議の間、さまざまな教派、宗派、宗教が結婚と家族に関して結束し、家族に当然関係する価値観や誠実さや献身についても結束していました。結婚と家族を中心とした事柄がいかなる政治や経済、宗教の違いよりも大切なものとみなされていることを確認できたのは、素晴らしいことでした。伴侶に対する愛や、子供たちへの希望と心配、夢について言えば、わたしたちは皆同じなのです。

全世界から来た講演者たちが一様に男女の間の結婚が大切だと感じていると語る場に、彼らとともに集えたことは素晴らしいことでした。それぞれの話の後、別の宗教の指導者たちが証を述べました。ヘンリー・B・アイリング管長が会議の最後の証を述べました。互いに信頼し合う結婚のすばらしさと、永遠の家族に約束さ



れる祝福に関する教会の信条について、力強く証を述べたのです。

アイリング管長の証は、その特別な3日間を祝福で締めくくるのにふさわしい言葉でした。

ところで、皆さんはこんな疑問を抱いているかもしれません。「大多数が、家族の優先順位と考え方が似ていると感じているのなら、その全ての教派と宗派が結婚のあるべき姿に関して合意しているのなら、また家庭と家族関係が大切だという点で合意しているのなら、わたしたちと何が違うのだろうか。末日聖徒イエス・キリスト教会は世界の他の教派とどのように違うのだろうか。」

答えはこうです。家族に関して世界の他の教派と共通点が多いと理解し、感じるのは素晴らしいことですが、わたしたちはただ回復された福音の永遠の見地から物事を見ているのです。

回復された福音が結婚と家族に関する

議論にもたらず事柄は非常に重要であり、当を得ていますから、いくら強調しても強調し過ぎることはありません。わたしたちにとって、このテーマは永遠です。結婚生活の献身と神聖さは、さらに高いレベルにあります。なぜなら、家族はこの地球が存在する前から存在し、永遠に続くものになることができると、わたしたちは信じ、理解しているからです。

この教義については、初等協会の歌「家族は永遠に」にある、ルース・ガードナーが書いた歌詞が非常に簡潔に、力強く、見事に教えています。全世界の初等協会の子供たちがこの歌詞を母国語で精一杯大きな声で歌っている様子を、少しの間、思い浮かべてみてください。子供たちが一生懸命歌うのは、家族を愛しているというたった一つの理由からです。

「主はその願いかなえ
導きたもう

家族をみな結ぶ道を
主は教えたもう」³

回復された福音という神学全体が、家族と、結婚の新しくかつ永遠の聖約を中心としているのです。末日聖徒イエス・キリスト教会では、全ての人が天の父なる神の文字どおりの霊の子供として前世に住んでいたと信じています。わたしたちはかつて御父の家族の一員であり、今も一員であると信じています。

わたしたちは、結婚と家族のきずなは墓を超えて続くものとなり得る、と信じています。つまり、適切な権能を持つ人によって主の神殿で執行される結婚は来世でも有効だと信じているのです。この教会の結婚式では「死が二人を分かつまで」とは言わず、「この世においても永遠にわたつても」と言います。

わたしたちはまた、昔ながらの堅固な家族は、安定した社会、安定した経済、安定した価値観の文化の基本単位であるだけでなく、永遠の、そして神の王国と統治体制の基本単位でもあると信じています。

わたしたちは、天の組織と統治体制は、家族と親族を中心に築かれるとも信じています。

わたしたちは結婚生活と家族が永遠に続くと思っているので、家族を堅固なものにするという全世界的な動きを教会として導き、これに参加したいと思っています。永続する結婚と強い家族の結びつきを大切に、優先するのは、宗教に熱心な人々だけではないことを、わたしたちは知っています。互いに信頼し合う夫婦と家族というライフスタイルが最も理にかなっており、最も経済的で、最も幸せな生き方であると、宗教に関係のない多くの人が結論づけています。

次の世代を育てる方法として、結婚した親と子供たちのいる世帯ほど効果的な方法を思いついた人は、いまだかつていません。

あらゆる場所で結婚と家族が大切だと



されるのはなぜでしょうか。世論調査によれば、結婚は今もなお、すべての年齢層の大多数、すなわちミレニアル世代（訳注—1980年代から1990年代に生まれた世代）の人々の間でも理想であり、希望です。ミレニアル世代の人々は、結婚ではなく、独身生活や個人の自由、^{どうせい}同棲生活を選ぶ者だということをよく耳にします。しかし、全世界の大多数の人が今もなお、子供を持ち、強い家族を築きたいと思っているというのが事実なのです。

結婚して子供を持つと、全人類は実は同じだということが一層よく分かるようになります。わたしたちはどこに住もうと、どの宗教を信じていようと、「家族を中心とする人」として、同じように苦労し、同じようにやりくりし、子供に対しては同じような希望を持ち、同じように心配し、同じような夢を見るのです。

『ニューヨーク・タイムズ』（New York Times）のコラムニスト、デビッド・ブルックスはこう述べています。「人々は望みどおりに行う自由を最大限に与えられる方が幸せだというわけではない。個人の選択の自由を超越して家族や神、仕事、国家に献身する方が幸せなのだ。」⁴

一つの問題は、全世界のメディアやテレビ番組の多くが大多数の人々の優先事項や価値観を反映していないということです。理由はさておき、テレビや映画、音楽、インターネットでは多くの人がやっているかのように見える事柄が、非常に多くの場合、少数の人しかやっていないというのが、その典型的な例です。露骨な暴力から無分別な性行為に至るまで、さまざまな不道德と道徳観の欠如が当たり前のことに描かれており、まともな価値観を持っている人々に、自分が時代遅れか過去の産物であるかのような錯覚を覚えさせます。このようなメディアとインターネットに牛耳られる世の中では、責任感のある子供を育て、夫婦と家族をまとめていくことが、かつてないほど難しくなっています。

しかし、多くのメディアや娯楽番組が報道している事柄や、一部の人々が結婚生活と家族をないがしろにしているという事実があるにもかかわらず、人類の大多数は今もなお、結婚生活は男女が一對一で営むものでなければならないと信じています。結婚生活における貞節の大切さを信じており、「病める時も健やかな時も」「死が二人を分かつまで」という結婚の誓いを



信じているのです。

わたしがローマで再確認したように、結婚と家族は今もなお、ほとんどの人々の強い願いであり、理想です。このように考えているのはわたしたちだけではないというすばらしい、心強い、心の安らぐ事実をときどき思い起こす必要があります。現代ほど、仕事と家族と個人に必要な事柄について現実にバランスを取るのが困難な時代はありません。しっかりと結婚生活と家族を築き、支援するために、わたしたちは教会としてできる限り助けたいと思っています。

教会が家族を強めるために、いろいろ

な団体との協賛による活動や教派を超えた活動に積極的に参加し、リーダーシップを発揮しているのは、そのためです。メディアとソーシャルメディアに家族中心の価値観を伝えているのはそのためです。全ての国民と系図記録と親族の記録を提供しているのはそのためなのです。

わたしたちは、神御自身が設けられた家族の組織に取って代わろうとする偽りの新しいライフスタイルにことごとく反対する主張を発信していこうと思っています。また、伝統的な家族関係から喜びと達成感が得られるという主張を発信していこうと思っています。わたしたちは全世界の人々

に向かって声を上げ続け、なぜ結婚と家族がこんなにも大切なのか、なぜ現在もこれから先も大切なのか、主張していかなければなりません。

兄弟姉妹の皆さん、回復された福音は結婚と家族を中心としています。また、結婚と家族に関して、わたしたちは他の宗教と最も強く結束することができます。結婚と家族に関して、世界中の人と最も大きな共通点を見いだすことができます。結婚と家族に関して、末日聖徒イエス・キリスト教会には丘の上の光となる最大の機会が与えられます。

最後に証を述べます。(90歳にもなりますから、次のように述べる資格は十分でしょう。) 年を重ねるほど、家族が生活の中心であり、永遠の幸福の鍵であることがよく分かるようになります。

わたしは妻と子供たち、孫たち、ひ孫たち、また全てのいとこたちと血族と親族に感謝しています。彼らはわたしの生涯を非常に豊かなものに、実に永遠に豊かなものにしてきています。これが永遠の真理であることを、わたしの力の限りの証、そして最も神聖な証として、イエス・キリストの御名により申し上げます、アーメン。■

注

1. フランシスコ教皇, *Humanum: An International Interreligious Colloquium on the Complementarity of Man and Woman*, 2014年11月17日, humanum.it/en/videos. zenit.org/en/articles/pope-francis-address-at-opening-of-colloquium-on-complementarity-of-man-and-womanも参照
2. フランシスコ教皇, *Colloquium on the Complementarity of Man and Woman*
3. 「家族は永遠に」『賛美歌』187番
4. デビッド・ブルックス, "The Age of Possibility," *New York Times*, 2012年11月16日付, A35; nytimes.com/2012/11/16/opinion/brooks-the-age-of-possibility.html



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

教会役員の支持

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

ただいまの表明が記録されました。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・バックナーを、また同定員会会員として、ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オー

クス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

ありがとうございます。ただいまの表明が記録されました。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

ただいまの表明が記録されました。

わたしたちは、2015年5月1日をもって以下の方々を地域七十人から解任することを提議します。ファン・C・アビラ、フィリップ・K・ブッシー、ルネ・J・カブレラ、レナト・カベレッティー、ポール・D・M・クリステンセン、サミュエル・W・クラーク、ホジェリオ・G・R・クルス、ジョージ・R・ドナルドソン、イニ・B・アイコン、クリスチャン・H・フィンジャール、クレグ・G・フィシャー、ジェリル・L・ガーンズ、M・キース・ギデンズ、アレン・D・ヘイニー、ファイ・チャン・ファン、ジョージ・M・キール、ボン・G・キーチ、楠目克美、ジャーマン・ラボリエル、J・クリストファー・ランシング、グスタボ・ロベス、ドミトリー・V・マルチェンコ、ピーター・F・メウルス、T・ジャクソン・マハベラ、ウーゴ・モントヤ、バレンティン・F・ヌネス、呉義根、ジェフリー・E・オルソン、R・イングバル・オルソン、ノーベルト・K・アルー、ロバート・N・バックナー、ナサニエル・R・ペイン、セザール・A・ペレス・ジュニア、マイケル・J・リアル、エドソン・D・G・リベイロ、ブラッド・K・リゼンメイ、ウォルター・C・セ





M・レサノ, ジョエル・マルティネス, J・ボーン・マッカーサー, カイル・S・マッケイ, ヘラマン・モンテホ, A・ファビオ・モスコゾ, マイケル・R・マレー, ノーマン・R・ネムロー, S・マーク・パーマー, フェルディナンド・P・パンガン, ジャイルス・C・ペレス, スティーブン・M・ピーターソン, ウォルフガング・ピルズ, ジェイ・D・ピメンテル, ジョン・C・ピングリー・ジュニア, エドバルド・B・ピント・ジュニア, エバン・A・シュムツ, K・デビッド・スコット, ポール・H・シンクレア, ベンジャミン・T・ジンジュウス, ルロン・F・ステーシー, デビッド・L・ステーブルトン, カール・M・テイルマン, ウィリアム・R・ティテラ, 徳沢清児, カルロス・R・トレド, セザール・E・ビラル, フアン・パブロ・ビラル, デビッド・T・ワーナー, ギャリー・K・ワイルド, ロバート・K・ウィリアム。

ルデン, モーツァルト・B・ソアレス, カロス・ソリス, ノーランド・ソーサ, バーン・P・スタンフィル, T・マラマ・タラティ, 田代浩三, ルーベン・D・トレス, オマー・ビラロボス, ジャック・D・ワード, アラン・J・ウェブ, ジェラルド・J・ウィルヘルム, ジム・L・ライト。

彼らの卓越した奉仕に対して、わたしたちとともに感謝を示して下さる方は、その意を表してください。

わたしたちは、中央若い男性会長会として奉仕して下さったデビッド・L・ベック兄弟, ラリー・M・ギブソン兄弟, ランドール・L・リッド兄弟を心からの感謝とともに解任するよう提議します。同様に、若い男性中央管理会の全ての会員を解任します。

また、中央初等協会会長会第一顧問のジーン・A・ステーブズ姉妹と中央初等協会会長会第二顧問のチェリルA・エスプリン姉妹を解任します。

これらの兄弟姉妹のすばらしい働きに対して、わたしたちとともに感謝を示して

くださる方は、その意を表してください。

わたしたちは七十人第一委員会の新しい会員として、キム・B・クラーク, ボン・G・キーチ, アレン・D・ヘイニー, ウーゴ・モントヤ, バーン・P・スタンフィルを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は、その意を表してください。

わたしたちは、以下の方々を新しい地域七十人として支持することを提議します。ネルソン・アルディラ, ホセ・M・バターシャ, ローレンス・P・ブランク, ブラッドフォード・C・ボーウェン, マーク・A・ブラッグ, ゼルジオ・ルイス・カルボニ, アルマンド・カレオン, S・マーク・クレア・ジュニア, Z・ドミニク・デカイエ, オスバルド・R・ディアス, マイケル・M・ダドレー, マーク・P・ダラム, ジェームズ・E・エバンソン, パスコアル・F・フォルトウナート, パトリシオ・M・ジュフラ, ダニエル・P・ホール, 林 徹, ポール・F・ヒンツェ, J・K・チュクエメカ・イグベル, 具承勳, 關名順, ジョニー・L・レオタ, カルロ・

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

中央初等協会会長会第一顧問としてチェリルA・エスプリン姉妹を、第二顧問としてメアリー・R・ダラム姉妹を支持するよう提議します。

また、中央若い男性会長としてステイーブン・W・オーウェン兄弟を、第一顧問としてダグラス・ディー・ホームズ兄弟を、第二顧問としてモンティ・ジョセフ・ブラフ兄弟を支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

モンソン大管長、表明が記録されました。これまでの提議のいずれかに反対の方は自分が所属するステークの会長に連絡してください。兄弟姉妹の皆さん、教会の指導者に対する皆さんの信仰と祈りに感謝します。

新しい中央幹部と新しい中央役員の会長会の方々は、壇上にご着席ください。■

2014年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ケビン・R・ジャーゲンセン提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対する報告

愛 する大管長会の皆さん、教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、大管長会、十二使徒定員会、および管理ビショッププリックで構成される什分の一配分評議会が行います。教会の各部門は承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、資格のある専門家によって構成され、教会の他のあらゆる部門から独立しており、基金の収支と教会資産の保全に関する合理的保証を提供するという目的のために監査を行う責任があります。

監査の結果、教会監査部では、2014年度において、教会の全ての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。教会は、予算内で賄い、負債を避け、必要時に備えて貯蓄するという、教会員に対して教えられている慣行に従っています。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
ケビン・R・ジャーゲンセン
実務運営ディレクター ■



2014年度 統計報告

大管長会秘書
ブルック・P・ヘイルズ提出

教 会員に情報を提供するために、大管長会は2014年12月31日における、教会の発展に関する統計報告を次のように発表しました。

教会のユニット数

ステーク.....3,114
伝道部.....406
地方部.....561
ワードおよび支部.....29,621

教会員数

会員総数.....15,372,337
新たな記録上の子供.....116,409
バプテスマを受けた改宗者...296,803

専任宣教師数

専任宣教師.....85,147
教会奉仕宣教師.....30,404

神殿

2014年に奉献された神殿（フロリダ州
フォートローダーデール神殿、アリゾナ州
ギルバート神殿、アリゾナ州フェニックス
神殿）.....3
再奉献された神殿
（ユタ州オグデン神殿）.....1
儀式が執行されている神殿.....144



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

そこで彼らは恐れを静め

恐怖や不安を生じるこの世の恐れとは異なり、主を畏れることは平安と確信と自信の源です。

幼い頃のある経験を鮮明に覚えています。ある日、友達と遊んでいたとき、誤って近所の店の窓を割ってしまいました。ガラスが粉々に砕け、警報機が鳴り響いたときには、頭も心も恐怖で凍りつきました。自分は残りの人生を牢屋で過ごすのだ、と即座に悟りました。結局、両親の説得により隠れていたベッドの下から出て、親に助けをもらって店の主人に償いをしました。幸いにも、懲役刑は免れました。

あの日、わたしは押しつぶされそうなほどの恐れを実際に感じました。皆さんも自分の健康上の問題を知ったときや、家族が困難や危機に直面していることを知ったとき、あるいは心をかき乱すような世の中の出来事を目にしたときに、大きな恐れを覚えたことがあるのではないのでしょうか。そのような場合、苦悩に満ちた恐れが感情が生じます。なぜなら、危機が迫り、先が見えず、つらい思いをし、また予期せぬことが（ときには突然）起こって悪い結果になりそうだと感じるからです。

日々の生活において、犯罪的暴力や飢饉、戦争、不正行為、テロリズム、道徳観の低下、病気、自然の破壊的な力が絶えず報じられるのを見聞きするとき、恐れや不安を覚えます。確かにわたしたちは主が次のように予告された時代に生きています。「その日、……全地が混乱し、人々

は気落ちするであろう。」(教義と聖約 45:26)

わたしの目的は、主イエス・キリストを知る正しい知識と主を信じる信仰によってどのようにして恐れが消え去るかをお話しすることです。この重要なテーマについてともに考える間、聖霊がわたしたち一人一人を祝福してくださるように心より祈ります。

現世の恐れ

禁断の実を食べた後、神の声を聞いたアダムとエバはエデンの園で身を隠しました。神はアダムに呼びかけてお尋ねになりました。「『あなたはどこにいるのか。』

[アダムは答えました。]『あなたの〔声〕を聞き、……恐れ……たのです。』(創世 3:9-10) 注目すべきことに、墮落の影響として最初に起こったことの一つは、アダムとエバが恐れを経験したことです。この強力な感情は、わたしたちの現世での経験の重要な要素なのです。

モルモン書には、主を知る知識がもたらす力によって(2ペテロ 1:2-8; アルマ 23:5-6 参照)、ひどい逆境に直面したときでさえも恐れが消え去り、平安が与えられることを明らかにしている例があります。

ヘラムの地で、アルマの民はレーマン人の軍隊がやって来たためにおびえました。

「しかし、アルマは出て行って民の中に立ち、怖がらないように、また主なる自分たちの神を覚えていれば主は助けてくださると彼らに説いた。

そこで彼らは恐れを静め……た。」(モーサヤ 23:27-28)

アルマが民の恐れを静めたのではないことに注目してください。そうではなく、アルマは信者たちに、主を覚え、主だけが与えることのおおきになる助けを思い起こすように勧めたのです(2ニーファイ 2:8 参照)。そして救い主の見守りを知ること、民は自分自身の恐れを静めるこ





とができました。

主を知る正しい知識と主を信じる信仰は、恐れを静める力を与えてくれます。イエス・キリストこそ永続する平安の唯一の源であられるからです。主は次のように言っておられます。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約 19:23)

主はまた、「義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」と説明しておられます(教義と聖約 59:23)。

キリストに頼り、信頼し、キリストの功德と憐れみと恵みに進んで頼ると、主の贖いによって復活と永遠の命を望むようになります(モロナイ 7:41 参照)。そのような信仰と希望は、誰もが得たいと切望する良心の安らぎをもたらします。贖いの力は悔い改めを可能にし、罪によって生じる絶望を退けます。また、死すべき人間の限られた能力では決して認めることも成し遂げることもできない方法で、良いものに気づき、善い行いをし、善い人に

なれるようにわたしたちを強めてくれます。実に、主の弟子として献身することによって授かる大きな祝福の一つは、「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」なのです(ピリピ 4:7)。

キリストから授かる平安のおかげで、わたしたちは現世の生涯を貴い永遠の観点から見ることができ、霊的に揺らぐことなく(コロサイ 1:23 参照)、天の目的地に絶えず目を向けていられます。つまり、主の教義がわたしたちの生活のあらゆる面において目的と方向性を与えてくれるので、わたしたちは祝福を受けて恐れを静めることができます。主の儀式と聖約が、順境にあっても逆境にあっても強さと慰めをもたらしてくれます。そして主の神権の権能が、最も重要なことはこの世においても永遠にわたっても続き得るという確信を与えてくれます。

しかし、現代の世の中で非常にたやすく頻繁にまとわりついてくる恐れを静めることができるのでしょうか。「できます」というのが、この問いへの明確な答えです。人生においてこの祝福を受けるために中心となる3つの基本原則があります。(1) キリストに頼り、(2) キリストの基の

上に築き、(3) キリストを信じて力強く進むことです。

キリストに頼る

アルマが息子のヒラマンに与えた助言はまさに今日のわたしたち一人一人に当てはまります。「神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ 37:47) いつでも、どのような所においても、救い主に頼り、しっかりと救い主に目を向けていなければなりません。

主の使徒たちが船に乗って海のただ中を漂っていたときのことを思い出してください。イエスが水の上を歩いて彼らの方へ行かれましたが、彼らはイエスだと分からず、恐れて叫びました。

「イエスは……彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。

するとペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。』

イエスは、『おいでなさい』と言われた……。」(マタイ 14:27-29)

そこでペテロは水の上を歩いてイエスの方へ行きました。



「しかし、風を見て恐ろしくなり、そしておぼれかけたので、ペテロは叫んで、『主よ、お助けください』と言った。

イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。』(マタイ 14:30-31)

ペテロが救い主の招きに熱い思いで直ちに応じた様子が思い浮かびます。しっかりとイエスに目を向けて、ペテロは船の外に足を踏み出し、奇跡的に水の上を歩きました。ただ、風と波のために目をそらしたときに、ペテロは恐れを抱き、おぼれかけたのです。

主の次の教えに従うとき、わたしたちは祝福を受けて恐れに打ち勝ち、信仰を強めることができます。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約 6:36)

キリストの基の上に築く

ヒラマンは息子のニーファイとリーハイに次のように勧告しています。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵

にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン 5:12)

儀式と聖約は、わたしたちがキリストとその贖いの基の上に人生を築くために用いるブロックです。ふさわしい状態で儀式を受けて聖約を交わし、それらの神聖な決意を忠実に覚えて尊び、自分が受け入れた義務に従って生活しようと最善を尽くすとき、わたしたちはしっかりと救い主と結ばれます。そしてそのきずなは人生のあらゆる時期にあって霊的な強さと安定の源となるのです。

儀式と聖約によって自分の望みと行いを救い主の堅固な基の上に固く築くとき、わたしたちは祝福を受けて恐れを静めることができます。

キリストを信じて力強く進む

ニーファイは次のように宣言しています。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2 ニーファイ 31:20)

この節で述べられている自らを律して堪え忍ぶ力は、霊的な理解と視野、粘り強さ、忍耐、そして神の恵みによってもたらされます。イエス・キリストの聖なる御名を信じる信仰を働かせ、人生において主の御心と時に素直に従い、へりくだって全てのことに主の御手を認めることによって、神の王国に関わる平和をもたらす事柄であり、喜びと永遠の命をもたらすものを得ることになります(教義と聖約 42:61 参照)。困難に遭遇し、将来への不安に直面するときでさえ、心楽しく辛抱し、「真に信心深くまた謹厳に過ごす」ことができるのです(1 テモテ 2:2)。

福音の原則を学び、実践し、固い決意をもって聖約の道を力強く進むことでもたらされる不屈の精神を得るとき、わたしたちは祝福を受けて恐れを静めることができます。

主への畏れ

わたしたちがよく経験する恐れとは異なるものの、関連があるのが、聖文の中で「恐れかしこ[む]」こと(ヘブル 12:28)、つまり「主を恐れること」(ヨブ 28:28; 箴言 16:6; イザヤ 11:2-3)と表現されているものです。恐怖や不安を生じるこの世の恐れとは異なり、主を畏れることは平安と確信と自信の源です。

しかし、恐れと関連しているものがどうして人を教化し、霊的な助けとなり得るのでしょうか。

ここで説明しようとしている義にかなった畏れには、主イエス・キリストに対して深い崇敬と尊敬と畏れの念を抱き(詩篇 33:8; 96:4 参照)、主の戒めに従い(申命 5:29; 8:6; 10:12; 13:4; 詩篇 112:1 参照)、最後の裁きと主の御手に正義を待ち望むことが含まれます。このように、主への畏れは主イエス・キリストの神性と使命についての正しい理解と、自分の思いを主の御心に喜んで従わせる意志と、全ての男女は裁きの日に自分自

身の罪に対する責任を負うことになるという知識から生じます(教義と聖約101:78;信仰箇条1:2参照)。

聖文が明らかにしているように、主を畏れることは「知識のはじめ」であり(箴言1:7)、「知恵の教訓」(箴言15:33)、「安心を得」させるもの(箴言14:26)、「命の泉」です(箴言14:27)。

主への畏れは、最後の裁きとわたしたち個人が自分の望み、思い、言葉、行いに対して責任を負うことについての理解に密接に関連していることに注目してください(モーサヤ4:30参照)。主を畏れるとは、裁きを受けるために主の御前に行くことにためらいと不安を覚えることではありません。わたしたちは主を怖いなどとは思わないと思います。むしろ、主の御前で自分自身のことをありのままに認め、自分が正当化してきた全てのことや見せかけの行為や自己欺瞞について「完全な知識」を得ることが怖いのです(2ニーファイ9:14。アルマ11:43も参照)。最終的に、わたしたちは弁解の余地がなくなります。

これまでに地上に生を受けた人とこれから生を受ける人は皆、「神の法廷に立つ

ように連れ出され、自分の行いが善いか悪いか、その行いに応じて神に裁かれます(モーサヤ16:10)。もし義にかなったことを望み、善い行いをしたならば、裁きの法廷は楽しいものとなるでしょう(モルモン書ヤコブ6:13;エノス1:27;モロナイ10:34参照)。そして終わりの日に「義にかなう報いを与えられる」でしょう(アルマ41:6)。

反対に、もし悪いことを望み、悪事を行ったならば、裁きの法廷でおののくことになるでしょう。「わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう。そして、神の御前から隠れるために、岩や山に自分の上に落ちてくるように命じることができれば、喜んでそうするであろう。」(アルマ12:14)そして終わりの日に「報いとして災いを受ける」のです(アルマ41:5)。

伝道の書には次のように要約されています。

「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。

神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道12:13-14)

愛する兄弟姉妹の皆さん、主への畏れ

は現世の恐れを消し去ります。絶えず心に湧いてくる、自分は霊的に十分な状態には決してなれない、主の要求と期待には決して応えられないという不安さえも静めます。実際、自分自身の能力や行動だけに頼ったのでは、十分な状態になることも要求に応えることもできません。わたしたちの行いや望みだけでわたしたちが救われることはありません。それは不可能なのです。「自分の行えることをすべて行った後」(2ニーファイ25:23)、救い主の無限にして永遠の贖いの犠牲のおかげで受けることができる憐れみと恵みによってのみ、罪のない者とされるのです(アルマ34:10,14参照)。確かに、「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じ」ています(信仰箇条1:3)。

主を畏れるとは、主を愛し、信頼することです。わたしたちはより一層心から神を畏れるとき、神をさらに完全に愛するようになります。そして「完全な愛はあらゆる恐れを取り除く」のです(モロナイ8:16)。救い主に頼り、主を基として築き、自らをささげる決意をもって主の聖約の道を力強く進むとき、主への畏れの放つ光が現世の恐れ of 暗い影を追い払うことを約束します(教義と聖約50:25参照)。

あかし 証と約束

わたしは主を愛し、崇敬しています。主の力と平安は現実のもので、主はわたしたちの贖い主であられ、わたしは主が生きておられることを証します。主のおかげで、わたしたちは心を騒がせることも、おじけることもなく(ヨハネ14:27参照)、祝福を受けて恐れを静めることでしょう。主イエス・キリストの聖なる神聖な御名によって証します、アーメン。■





十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

なぜ結婚, なぜ家族か

男女間の結婚の上に築かれた家族は、神の計画が成功するための最良の環境を提供してくれます。

□ ロンドンにある有名なウェストミンスター寺院の大西扉の上に、20世紀に殉教した10人のキリスト教信者の像が飾られています。そのうちの一人は、1906年生まれの聡明なドイツ人神学者、ディートリッヒ・ボンヘッファーです。¹ ボンヘッファーはナチスの独裁とユダヤ人などへの仕打ちに対して批判の声を上げました。彼は表立った反政府活動を理由に投獄され、最後は強制収容所で死刑に処せられました。ボンヘッファーは数多くの著作を残しました。最もよく知られた作品の幾つかは、彼に憐れみを示した看守たちの助けにより獄中からこっそり持ち出すことのできた手紙です。それらは後に *Letters and Papers*

from Prison (『獄中書簡集』)というタイトルで出版されました。

手紙の1通は、結婚を控えたため宛てに出されたものでした。その手紙には次のような深い洞察が記されています。「結婚とは、互いに対する愛以上のものです。……愛にあるとき、世界で見えるのは、自分たち二人だけです。しかし、結婚において、あなたがたは世代間をつなぐ鎖の輪となります。神は御自身の栄光のために、それぞれの世代を来たらしめ、過ぎ去らせ、御自身の王国に呼び寄せられます。愛において、あなたがたに見えるのは、自分たちにとっての幸せな天国だけです。しかし、結婚において、あなたがたは世界と人類に対する責任ある立場に置かれます。愛はあなたがたの私的所有物ですが、結婚は個人的なものを超えています。それは身分であり、職です。王を王たらしめるものが、統治する意志だけでなく王冠であるように、神と人の前であなたがた二人をつなぎ合わせるの互いに対する愛だけでなく結婚なのです。……したがって、愛は人から、結婚は天、すなわち神から来るものなのです。」²

どのようにして、男女間の結婚は互いに対する愛と自分たちの幸せを超え、「世界と人類に対して責任を負う立場」となるのでしょうか。どのような意味で、それは「天、すなわち神から」来るものなので

しょうか。この洞察を理解するには、創世の初めまで遡る必要があります。

預言者たちは、わたしたちが初めは英知として存在していたこと、また、神から形、すなわち霊の体を与えられ、神の霊の子供、つまり天の両親の息子、娘となったことを明らかにしています。³ わたしたちがこの前世で霊の存在だったときに、時が来ました。天の御父は、わたしたちも「御自分のように進歩する特権にあずかる」⁴ という望みを推し進め、わたしたちに能力を与えるための計画をお立てになりました。この計画には「救いの計画」⁵、⁶「偉大な幸福の計画」⁶、「贖いの計画」⁷ など、さまざまな名称がつけられています。この計画が持つ二つの大切な目的について、アブラハム書で次のように説明されています。

「そして、彼らの中に神のような者が一人立ち、ともにいた者たちに言った。『あそこに空間があるので、わたしたちは降って行こう。そして、これらの材料を取って、これらの〔霊〕が住む地を造ろう。

そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

第一の位を守る者は付け加えられるであろう。……さらに、第二の位を守る者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。』⁸

天の御父のおかげで、わたしたちは既に霊体として存在していました。次に、御父はその存在を補い、完全にする道を示されました。肉体としての要素が付け加えられなければ、神御自身がまもっておられる全き存在と栄光に到達することはできないのです。前世で神とともに霊として過ごしていたとき、御父の計画に賛成し参加するならば、言い換えれば、「第一の位を守る」ならば、わたしたちは、御父がわたしたちのために創造してくださった地球に来て住むときに、肉体を得て「付け



加えられる」ということになったのです。

そして、現世の経験をする間に、「何であろうと、主なる〔わたしたち〕の神が命じられるすべてのことを〔わたしたち〕がなす」ことを選択すれば、わたしたちは「第二の位」を守ることになります。つまり自らの選びによって、神のもとから離れ、力、欲求、情熱を伴う肉体をまといながらも日の栄えの律法を实践する決意と能力を神に（そして自分自身に）証明することになったのです。わたしたちは、肉体を制御し、肉体を霊の主人とせず、霊に使われる道具とできるでしょうか。永遠にわたって生命の創造を含む神の力にあずかることができるでしょうか。個人として悪に打ち勝つことができるでしょうか。それを成し遂げた人は「とこしえに栄光をその頭に付け加えられる」のです。その栄光の非常に重要な側面とは、復活した、不滅の、栄光に満ちた肉体です。⁹ わたしたちがこうしたすばらしい可能性と約束を知って「喜び呼ばわった」のも当然です。¹⁰

この神聖な計画を成し遂げるには、少なくとも、4つの事柄が必要となります。

第1は、わたしたちが住む場所となる地球の創造です。わたしたちは創造が偶然の産物ではなく、父なる神が指示され、イエス・キリストが実行されたことを知っています。「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。」¹¹

第2は、死すべき状態です。アダムとエバは、御父の偉大な幸福の計画に参加することを選択した全ての人に代わって行動しました。¹² 彼らの墮落により、肉体の誕生や神のもとを離れた現世での経験と学びに必要な状況が整いました。墮落とともに、善悪の知識と神から与えられた選択の力が与えられました。¹³ 最終的には、墮落によって、わたしたちの現世の生涯を一時的なものとするために必要な肉体の死がもたらされました。わたしたち



が罪のあるまま永遠に生きることがないようにするためです。¹⁴

第3は、墮落からの贖いです。わたしたちは天の御父の計画における死の意味を理解しています。しかし、その計画は最終的に肉体の死と霊の死を克服する何らかの方法がなければ無効となってしまいます。そのため、贖い主、神の独り子であられるイエス・キリストは、アダムとエバの背きを贖い、全ての人に復活と不死不滅をもたらすために、苦しみ、亡くなされました。また、わたしたちのうち誰一人として、福音の律法に、完全に、また一貫して従える人はいません。主の贖罪は、悔い改めを条件にわたしたちのことも罪からも贖うのです。罪の赦しと霊の清めをもたらす救い主の贖いの恵みにより、わたしたちは霊的に再生し、神と和解することができます。わたしたちの霊の死、すなわち神からの離反は終わりを告げるのです。¹⁵

そして最後に第4は、神の王国に入るための肉体の誕生とそれに続く霊的再生のための環境です。「〔わたしたち〕が御自分のように〔昇栄〕し、神の業を成功させるために、神は男性と女性に対して、結婚し、子供をもうけるようにお命じになりました。¹⁶ つまり現世の試しにおいて鍵となる、「神とともに永遠の栄光を受ける

ために不可欠な肉体」を、神と協力して創造するようお定めになったのです。また、両親は家族を築き、その子供たちを光と真理の中で育て、¹⁷ キリストに対する望みへと導くよう神は定められました。御父はこう命じておられます。

「あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい。

すなわち、背きによって墮落が生じ、その墮落が死をもたらす。あなたがたは水と血と、わたしが造った霊とによってこの世に生まれ、ちりから生けるものとなったので、まことにあなたがたは、水と〔聖なる〕御霊によって再び天の王国に生まれ、血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされなければならない。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ、この世において永遠の命の言葉を楽しむ、来るべき世において永遠の命、すなわち不死不滅の栄光を楽しむためである。」¹⁸

わたしたちが天の御父のもとを離れた理由と、御父のもとに戻り、ともに昇栄するために必要な事柄を理解すると、この地上におけるわたしたちの生涯に関連して、肉体の誕生と霊的に再び生まれるというこの二つの前提条件ほど大切なものはないということが非常に明確になりま

す。これは、ディートリッヒ・ボンヘッファーの言葉を借りれば、まさしく「天、すなわち神から」与えられたこの神聖な制度が占める結婚の「職」であり、「人類に対する責任ある地位」です。現世と来世において「世代間をつなぐ鎖の輪」、すなわち天の秩序なのです。

男女間の結婚の上に築かれた家族は、神の計画が成功するための最良の環境を提供してくれます。純粋無垢な状態で子供が生まれる環境、実り多い現世の生活と来世における永遠の命に必要な学びと備えの環境です。社会が生き残り、栄えるためには、そのような結婚の上に築かれる家族が、ある一定数は不可欠です。だからこそ、社会や国家は、一般的に、結婚と家族を特権的な制度として、奨励し、擁護してきたのです。結婚と家族は、単に大人の愛と幸福に関連したことではありません。

男女間の結婚、ならびに結婚している男女が築く家族に関する社会科学的事例には、説得力があります。¹⁹ ですから、わたしたちはこう宣言するのです。「わたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」²⁰ しかし、結婚と家族の役割に関するわたしたちの主張は、社会科学ではなく、結婚と家族を創造されたのは神であるという真理に基づいています。その神とは、初めに御自分の形にアダムとエバ、すなわち男と女を創造し、二人を一つに合わせて夫婦とし、彼らが「一体」となり、増え、地に満ちるようにされた御方です。²¹ 一人一人が神の形をしています。おそらく、わたしたちが神の形に創られた男と女であるという言葉の最も完全な意味は男女が一つとなる結婚のきずなの中に見いだすことができるでしょう。わたしたちの誰であっても、この神聖な婚姻関係という秩序に変更を加えることはできません。人が発明したものではないのです。そのよ

うな結婚は、まさに「天、すなわち神から」与えられたものであり、人類の墮落、そして贖罪と全く同様に幸福の計画の重要な一部なのです。

前世で、サタンは神とその計画に反抗しましたが、今もサタンの反抗は、激しさを増すばかりです。サタンは結婚と家族の形成を阻止しようと戦っています。結婚と家族が形成される場面において、それを邪魔することに必死です。人間の性が持つ神聖な部分を全て攻撃し、際限がないように思えるほどの不道徳な思いや行いによって、その神聖な側面を結婚の枠組みから引き離しています。結婚と家族を優先する考えは無視したり、取り下げたりしてもよいものとし、あらゆる男女に、少なくとも仕事やその他の達成や「自己実現」、個人の自由の追求に比べて優先度を低めに位置づけてもよいと納得させようとしています。両親がキリストに対する信仰を持ち、改心し、霊的に生まれ変わるよう子供を教えたり訓練したりしないのを見て、サタンが喜んでいるのは確かです。兄弟姉妹の皆さん、良いもの、大切なものはたくさんありますが、なくてはならないものはわずかなのです。

結婚と家族に関連する基本的な真理を宣言したからといって、理想とは異なる現状に置かれた皆さんの犠牲や成功を見ごしにしたり、軽視したりしてはいけません。皆さんの中には、ふさわしい相手がいないこと、同性に引かれる性質、身体的や精神的な障がい、単に失敗に対する恐れ（恐れは一時的であっても信仰を曇らせる）などの理由で、結婚の祝福にあずかることのできていない人もいます。あるいは結婚したけれども、結婚生活が終わりを迎え、二人一緒でも大変なことを一人でこなさなければならない状況に置かれている人もいます。また、結婚した皆さんの中でも、心の底から望み、神にすがり、祈り求めたにもかかわらず、子供に恵まれない人もいます。

たとえそうであっても、全ての人には賜物があります。全ての人には才能があり、それぞれの世代にあって、誰もが神の計画を進めるうえで貢献することができるのです。多くの良いもの、なくてはならないもの——ときには、現在必要な全てさえ——理想的とはいえない境遇において達成できるのです。ですから皆さんの多くは自分でできる最善を尽くしていると思います。現世で最も重い荷を背負っていても、子供たちを昇栄に導くという神の計画を擁護してください。わたしたちはそのような人をいつでも支える覚悟でいます。イエス・キリストの贖罪は、イエス・キリストを頼る全ての人々の喪失や損失を予測し、最終的に、それら全てを補うために成し遂げられたことを、確信をもって証します。御父が子供たちのために準備しておられる全てのうちの一部にしかあずかれない運命にある人は誰一人としていないのです。

最近、ある若い女性から、自分は、あらゆる召しの中で最も重要な母親の召しにふさわしくないと打ち明けられました。わたしは彼女が気にしている問題は小さく、心配する必要はないと思いました。その務めを立派に果たしていたからです。彼女はただ神を喜ばせ、神から受けた信頼を大切にしたいと願っているだけだと分



かったわたしは、彼女を勇気づけるような言葉をかけ、天の御父であられる神が、御父の業に働く彼女にその愛と承認の証を与え、鼓舞してくださるよう心から祈りました。

これが全ての人に対する今日のわたしの祈りです。わたしたち一人一人が神の目になつていくという承認を得られますように。結婚と家族が栄えますように。現世におけるわたしたちの行く末に、これら全ての祝福が待ち受けているかどうかにかかわらず、主の恵みによって現在に幸福を、また来るべき確かな約束に対する信仰をもたらしめますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。■



注

1. ケビン・ラッド, "Faith in Politics," *The Monthly*, 2006年10月号, themonthly.com.au/monthly-essays-kevin-rudd-faith-politics--300 参照
2. デイトリッヒ・ボンヘッファー, *Letters and Papers from Prison*, エーバハルト・ベートゲ編 (1953年), 42 - 43 参照
3. 例えば、詩篇 82:6; 使徒 17:29; ヘブル 12:9; 教義と聖約 93:29, 33; モーセ 6:51; アブラハム 3:22 参照。預言者ジョセフ・スミスは次のように詳しく説明している。「人にとって第一の原則は、神と同様、独自に存在していることです。神は御自身がもろもろの霊〔あるいは英知〕たちと栄光の中にいることを御覧になり、英知においてはるかに優れておられたので、他の者たちも御自分のように進歩する特権にあずかるように律法を定めることがふさわしいとお考えになりました。神とわたしたちとの関係において、わたしたちは知識を増さなければならぬ立場にあります。神は弱い英知たちに教えを授けるための律法を定める力をお持ちです。彼らが御自分のように昇栄し、栄光に栄光を加えられ、霊の世界で救いを得るために必要なあらゆる知識と力と栄光と英知を得られるようにするためです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 210)
4. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 210
5. アルマ 24:14
6. アルマ 42:8
7. アルマ 12:25。26 - 33 節も参照
8. アブラハム 3:24 - 26
9. 預言者ジョセフ・スミスは短くこう語っている。「創世の前に神が計画されたのは、わたしたちが幕屋〔肉体〕を受け、忠実であることによって勝利を得、死者の中からの復活を得、栄光と誉れと力と主権を得ることでした。」預言者はさらにこう語っている。「わたしたちがこの地上に来たのは、肉体を得て、日の栄えの

- 王国において神の前にその肉体を清い状態で差し出すためです。偉大な幸福の原則は、肉体を得ることの中にあります。悪魔は肉体を持っておらず、これが悪魔にとつての罰となっています。悪魔は人の幕屋を得ることができれば喜びます。救い主によって追い出されたときには、豚の群れの中に行くことを願いました。これは、悪魔は何も持たないよりはむしろ豚の体でも持つことを願うことを示しています。肉体を持つ全ての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 211)
10. ヨブ 38:7
 11. ヨハネ 1:3。教義と聖約 76:23 - 24 も参照
 12. 1コリント 15:21 - 22; 2ニコライ 2:25 参照
 13. 2ニコライ 2:15; アルマ 12:24; 教義と聖約 29:39; モーセ 4:3 参照。ジョセフ・スミスはこう語っている。「全ての人は選択の自由を認められています。神がそのように定めておられるからです。神は人類を道徳的な判断のできる存在として、善悪を選ぶ力を授けられました。この世にある間、聖い道を歩んで善を追求するならば、この世においては心の安らぎと聖霊による喜びを、後の世においては神の右において満ちみちる喜びと幸福を得ることができまます。これに対して、罪を犯し神に背く邪悪な道を歩むならば、この世においては自身に罪の宣告を招き、来るべき世においては永遠に失われた有様に置かれます。わたしたちが心の中で同意し、屈しない限り、サタンはわたしたちをそそのかして恐ろしくさせることができません。わたしたちは悪魔に抵抗できる性質を持っているのです。もしそのように造られていなかったとしたら、わたしたちは自由に選択し行動する者とは言えないでしょう。」(『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 213)
 14. 創世 3:22 - 24; アルマ 42:2 - 6; モーセ 4:28 - 31 参照
 15. 悔い改めない者ですら、最後の裁きの時に再び神のもとに戻るといふ意味で、贖罪により靈

- の死から贖われる(ヒラマン 14:17; 3ニコライ 27:14 - 15 参照)
16. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』 210
 17. 教義と聖約 93:36 - 40 参照
 18. モーセ 6:58 - 59
 19. 結婚関係なくとも、人は互いに誠実であることができる。また、時として、結婚している二人の親がいない家庭環境であっても、実に立派に子供が生まれ育つこともある。しかし、平均的に、またほとんどの場合、結婚には社会的利点があり、結婚している男女が親である家庭の子供は成績が比較的優秀である。その証拠は、広範囲に及ぶ。一方、評論家が「家族観の全世界的変化」と呼ぶ現象の社会的・経済的代償は、社会にますます深刻な影響を及ぼしつつある。ニコラス・エバースタットは全世界的に減少する結婚と出産、そして父親のいない家庭と離婚に関する傾向を分類し、次のように述べている。「家族観の変化から不利益を被っている大勢の子供たちが受けている有害な影響は既に明白です。悪化する収入の不均衡と富の格差の中で、離婚と婚外婚の母による出産が社会全体、特に、子供たちに及ぼす有害な影響も明白です。確かに、子供たちは立ち直りが早いかもしれせん。しかし、この上なく確かに、弱い立場にある若者は家族観の変化の犠牲になります。また、同じ家族観の変化は、弱い立場にある老人にも過酷な影響をもたらします。」(ニコラス・エバースタット, "The Global Flight from the Family," *Wall Street Journal*, 2015年2月21日; wsj.com/articles/nicholas-eberstadt-the-global-flight-from-the-family-1424476179 参照)
 20. 「家族—世界への宣言」『リアホナ』 2010年11月号, 129 参照
 21. 創世 1:26 - 28; 2:7, 18, 21 - 24; 3:20; モーセ 2:26 - 28; 3:7 - 8, 18, 20 - 24; 4:26 参照



七十人
ウィルフォード・W・アンダーセン長老

福音の音楽

福音の音楽とは聖霊がもたらす霊的な喜びであり、人の心に変化をもたらします。

何年も前のことです。ラジオである若い医師のインタビューを聞きました。アリゾナ州にあるナバホ・ネイション（訳注——ナバホインディアン指定居留地）の病院に勤務している医師です。ある夜、長い髪を三つ編みにしたアメリカ先住民の男性が、緊急治療室に入って来たそうで、そのときのことを話していました。クリップボードを持ってその老人に近づき、「どうしましたか」と尋ねたのですが、老人は無言のまま、まっすぐ前を見詰めています。医師は、少しいらだちを感じながら、こう言いました。「症状を言ってくださらないと治療できません。なぜ病院に来たのか教えてください。」

老人は若い医師を見て、言いました。「あなたは踊りますか。」医師はこの奇妙な質問について考え、はたと思いつきました。ひょっとしたら、この患者は部族の祈とう師ではないだろうか。祈とう師とは、古代からの部族のしきたりに従って、薬を処方するのではなく、歌や踊りを通じて病人を癒やそうとする人です。

「いいえ」と医師は答えました。「踊りません。あなたは踊りますか」老人はうなずきました。そこで、医師はこんなお願いをしました。「踊り方を教えてください。」

そのとき老人から返ってきた答えに、わたしはその後何年も考えさせられることになります。「踊り方を教えることはでき

ますが、あなたは音楽を聴かなければなりません。」

わたしたちは家庭でダンスのステップをうまく教えてはいても、音楽を聴くように家族を教えるのはそれほどじょうずではないことがあります。年老いた祈とう師がよく知っていたように、音楽なしで踊るのは大変です。音楽なしで踊ると格好が悪くて踊りには見え、恥ずかしくさえあります。音楽なしで踊ってみたことがありますか。

教義と聖約の第8章で、主はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにこう教えておられます。「まことに見よ、あなたに降^{くだ}ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」（2節）ダンスのステップ

は思いで学びますが、音楽は心で学びます。福音に当てはめれば、ダンスのステップはわたしたちの行いであり、音楽は聖霊によってもたらされる霊的な喜びです。この喜びは心の変化をもたらし、あらゆる正しい望みを生み出します。ダンスのステップは訓練すれば習得できますが、ダンスの喜びは、音楽が聴けるようになって初めて体験できるものです。

教会員の行動を見てばかりにする人もいます。もっともなことですが、音楽が聞こえない人にとっては、踊っている人が奇妙に見えたり格好悪く見えたり、聖文の言葉を借りれば、「特異」（訳注——この部分は、口語訳聖書では「神につける民」と訳されているが、欽定訳聖書〔英文〕の“peculiar”の本来の意味で訳出している。）に見えたりすることが、よくあるからです（1ペテロ2：9）。例えば、赤信号で車を止めてふと見ると、隣の車の運転手が踊りながら声を張り上げて歌っていたということはありますか。車の窓は閉まっていますから、音は聞こえません。実に奇妙な光景でしょう。わたしたちの子供がダンスのステップを学ぶだけで、福音の美しい音楽を聴いたり、感じたりすることを学ばないとしたら、その子供は、やがて踊るのが嫌になったり、踊るのをやめてしまったりするでしょう。または、これも悲



しいことですが、周囲で人が踊っているために、仕方なく踊るようになるかもしれません。

福音を教えようとするとき、わたしたちが皆直面する問題は、ダンスのステップを教えるだけで終わらせないためにはどうするかということです。子供の幸福は、福音の奏でる美しい音楽を聴き、大切にできる能力に左右されるからです。この問題には、どう対処すればよいのでしょうか。

第1に、わたしたちは自分の生活をいつも正しい霊的周波数に合わせなければなりません。デジタル時代が到来する前のことですが、好きな局の放送を聴くために、わたしたちはその局に周波数がぴったりと合うまで、つまみを慎重に回したものです。その周波数に数字が近づくまでは、雑音しか聞こえません。しかし、ついに周波数が合うと、好きな音楽がきれいな音で聞こえました。わたしたちは生活の中でも、御霊の音楽を聴くためには、正しい周波数に合わせる必要があります。

バプテスマの後で聖霊の賜物を受けると、わたしたちは改宗に伴う天の音楽に満たされます。わたしたちの心は変化し、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように」(モーサヤ5:2) なります。しかし、御霊は不親切や高慢、嫉妬のあるところにはとどまることができません。生活の中から御霊のかすかな影響力が遠のくと、あつという間に福音の豊かな響きが不協和音に代わり、ついには何も聞こえなくなってしまうことになりかねません。アルマは次のような的を射た質問をしています。「贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。」(アルマ5:26)

両親の皆さん、福音の音楽と調和していないのであれば、調和させる必要があります。昨年10月にトーマス・S・モンソン大管長が言ったように、わたしたちの足の道に気をつけなければなりません。



(「あなたの足の道に気をつけよ」『リアホナ』2014年11月号、86-88参照)。どうしたらよいかをわたしたちは知っています。天が奏でる福音の音楽を初めて聴いたときに歩いたのと同じ道を歩くのです。キリストに対する信仰を働かせ、悔い改め、聖餐を取ります。すると、聖霊の影響力が強く感じられるようになり、福音の音楽が、また生活の中で奏でられるようになるのです。

第2に、自分で音楽が聴ける人は最善を尽くしてその音楽を家庭で奏でなければなりません。それは強制することのできるものではありません。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない」のです。つまり、父親や母親という立場を盾に取ることなく、声を張り上げてまくしたてることもなく、「ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により……偽りのない愛により、[また]優しさ……によ[って]」、福音の音楽を奏でるのです(教義と聖約121:41-42)。

こうした特質が家庭で力となり、影響力を持つのはなぜでしょうか。それは、このような特質が聖霊を招くからです。このような特質があるからこそ、わたしたちは心の波長を福音の音楽に合わせることができます。このような特質があると、家族全員が、自然に楽しくダンスのステップを踏むようになります。脅したり威嚇したり、強制したりする必要はありません。

子供が小さいときには、「偽りのない愛」という子守歌を歌うとよいでしょう。言うことを聞かないときや、夜、なかなか寝ようとしないときには、「寛容」という子守歌を歌う必要があるかもしれません。10代のときには、口論や脅迫という耳障りな音は排除し、代わりに、「説得」という美しい音楽を奏でるとよいでしょう。また、子守歌の2番、「長く耐え忍ぶ」を歌ってもよいかもしれません。「温厚と柔和」という一そろいの特徴を完全なハーモニーで奏でるという方法もあります。助けを必要としている隣人に親切な行いをするという音楽を奏でるときには、子供たちにも一緒に歌うよう勧めるとよいでしょう。

全てを一度にはできません。ベテランの音楽家は皆知っていますが、美しい音楽を奏でるには根気よく練習しなければならないのです。音楽を奏でようと努めても最初は不協和音しか出ないかもしれません。しかし、批判的なことを言っても修正できないことを忘れてはなりません。家庭における不協和音は部屋の中の暗闇のようなものです。暗闇をしっかりとつけても何も変わりません。暗闇を追い出すには光を当てなければならないのです。

ですからあなたの家族合唱団のベースの音がうるさすぎて威圧的だったり、家族オーケストラの弦楽器の音が少々かん高く、鋭すぎたり、またはせっかちなピッコロが調子外れだったり音楽についてこれなかったとしても、忍耐することです。



七十人
デール・G・レンランド長老

家庭で福音の音楽が聞こえないときには、次の言葉を思い出してください。練習し続けてください。神の助けがあれば、いつの日か福音の音楽が家庭に満ちて、言葉に言い尽くせない喜びを味わうときが来るはずですよ。

たとえ演奏がうまくいっても、音楽で全ての問題が解決できるわけではありません。わたしたちの生活には依然として、クレッシェンドやデクレッシェンド、スタッカートやレガートがあるでしょう。それがこの地上で生きるということなのです。

しかし、ダンスのステップに音楽をつけると、時として複雑な夫婦や家族のリズムも、バランスよく調和の取れた状態に近づくことがよくあります。最もつらい試練ですら、音楽に豊かな悲しい調べを加え、心を震わすモチーフとなります。神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴り、聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの筋、すなわち明らかに力と影響力を指す筋は、義と真理の不変の筋となります。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことでしよう(教義と聖約 121:45 - 46 参照)。

わたしたちの生活、わたしたちの家族がそのような状態となるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

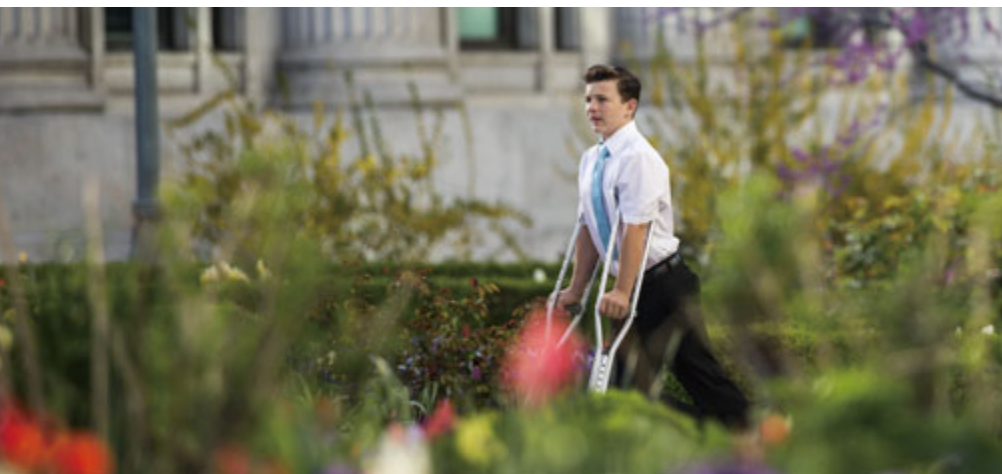
末日聖徒は 努力し続ける民です

努力して、粘り強くあって、他の人もそうできるように助けるときに、わたしたちは真の「末日の聖徒」なのです。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、2013年12月、世界はネルソン・マンデラ氏の死を悼みました。反アパルトヘイト運動で果たした役割のゆえに27年間の獄中生活を送った後、マンデラ氏は南アフリカで初めて行われた民主的な選挙で大統領に選出されました。彼が自分を投獄した人々を赦したことは注目に値します。マンデラ氏は広く称賛と喝采を受けましたが、¹ 何度もそれを打ち消してこう言いました。「わたしは聖人ではありません。聖人とは努力を続ける罪人のことだと皆さんが考えているのであれば別

ですが。」²
この「聖人とは努力を続ける罪人である」という言葉は、この教会の会員に自信と勇気を与えるものです。わたしたちは「末日の聖人」すなわち「末日聖徒」と呼ばれていますが、こう呼ばれると時として尻込みすることがあります。聖徒という言葉は、一般的に聖さの高みや、さらには完全の域に到達した人に対して使われます。わたしたちは自分が完全でないことを完全によく理解しています。

しかしそうであっても、たびたび、そして繰り返しキリストの教義に「ひたすら頼る」ことで完全になることができるというのが、わたしたちの教えです。その教義とは、キリストを信じる信仰を働かせ、悔い改め、バプテスマの聖約と祝福を新たにするための聖餐を受け、聖霊を常に伴侶として受けられるようにさらに努力することです。そうするならば、それらを全て行いながら、わたしたちはさらにキリストに似た者となり、最後まで堪え忍ぶことができるのです。³ 別の言い方をすれば、神はわたしたちがかつてどのような人物であったかということよりも、現在どのような人物で、どのような人物になろうとしているかに大きな関心を持っておられると





いうことです。⁴ 神はわたしたちが努力し続けるかどうかに関心を持っておられるのです。

イギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピア作の喜劇『お気に召すまま』では、登場人物の人生が劇的に変わる様子が描かれています。兄が弟を殺そうと企てます。しかしそのことを知っただけで、弟はこの邪悪な兄を絶体絶命の危機から救い出します。自分が受けるに値しないこの深い温情を知ったとき、兄は未来永劫に変わり、彼自身「生まれ変わった」と呼ぶ経験をするのでした。その後、数人の女性がこの兄に近づいて尋ねます。「あなたただの弟の命を覗って色々罫を仕掛けたのは？」

兄は次のように答えます。「そうなのです。しかし、今は違う。以前の私がどんな人間だったか、それをお話してももう恥ずかしくない。生まれ変わった事がそれほど快く感じられます。今の私はご覧のとおり人間になったのですから。」⁵

わたしたちには、神の憐れみとイエス・キリストの贖いがあるので、そのような変化は単なる文学上の架空の話ではありません。エゼキエルを通じて、主は次のように宣言されました。

「悪人の悪は、彼がその悪を離れる時、その悪のために倒れることはない。……

……もし彼がその罪を離れ、公道と正義とを行うならば、

すなわち……質物を返し、奪った物をもどし、命の定めに進み、悪を行わない

らば、彼は必ず生きる。……

彼の犯したすべての罪は彼に対して覚えられない。彼は公道と正義とを行ったのであるから……。」⁶

神はその憐れみのゆえに、わたしたちが悔い改めて悪から離れるときに赦すと約束してくださっています。神の憐れみは、わたしたちの罪が全く覚えられないほど深いのです。わたしたちは、キリストの贖いと自分自身の悔い改めによって、過去の行いを振り返ってこう言うことができるのです。「そうなのです、しかし、今は違います。」どんなに悪に染まっていたとしても、こう言うことができます。「それがわたしでした。でも、もはや今のわたしは、かつての悪かったわたしではありません。」⁷

トーマス・S・モンソン大管長は次のように教えています。「神の最大の賜物の一つは、もう一度やってみる事の喜びです。失敗をしたらもうそれで終わりということではないのです。」⁸ 正しくないという自覚がありながら故意に罪を犯したり、失敗や失望に繰り返し直面したりしていたとしても、もう一度やってみようと思えば、その瞬間に、キリストの贖いの力が助けてくれるのです。こんなところまで来てしまったのだからもう諦めたほうがいいと告げるのは聖霊ではないことを覚えておく必要があります。

神が末日聖徒に努力し続けることを望んでおられるのは、罪を克服することだけにとどまりません。こじれた人間関係、経済的な問題、病気、あるいは他の誰かが

犯した罪の結果に苦しんでいるとしても、救い主の無限の贖罪は、罪がないのに苦しんでいる人さえも、そしておそらく特にそのような人を、癒やすことができるのです。主は、他人の背きの結果として罪がないのに苦しむことがどのようなものかを完全に理解しておられます。預言されているように、救い主は「心のいためる者をいやし、……すべての悲しむ者を慰め、……灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与え〔て〕」くださいます。⁹ 何があっても、主の助けを受けて、末日聖徒が努力し続けることを神は期待しておられます。

わたしたちが粘り強く努力するとき神が喜ばれるように、他の人々も努力しているのだということをわたしたちが認めないならば、神は落胆されます。わたしたちの大切な友であるトーバは、母親のジュリアからこの教訓を学んだことを教えてくれました。ジュリアとトーバは、南アフリカにおける初期の黒人の改宗者でした。アパルトヘイト政策が終わった後、教会の黒人と白人の会員が一緒に教会に集うことが許可されました。多くの人にとって、異なる人種の人と平等に交わることは、新しく、かつ難しい課題でした。あるとき、教会に出席したジュリアとトーバは、数名の白人の会員から親切とは言えない扱いを受けたと感じました。教会を出ると、トーバは母親にひどく愚痴をこぼしました。ジュリアは、トーバが不満をすっかり吐き出すまで静かに聞いていました。そして、



こう言ったのです。「ねえ、トーバ、教会は大きな病院のようなものよ。わたしたちはみんなそれぞれ病気を抱えていて、助けを得るために教会に行っているの。」

ジュリアの言葉には聡明な見識がうかがえます。他の人々がそれぞれの霊的な病に取り組んでいるときに、わたしたちは寛容でなければならぬだけでなく、親切で、忍耐強く、支えとなり、理解を示さなければなりません。神はわたしたちが努力し続けるように励ましてくださっているのと同時に、隣人が自身のペースで同じように行うのを許すようにわたしたちに期待しておられます。そうするときに、贖いがわたしたちの生活に一層大きな影響を及ぼすようになります。そしてわたしたちは、一見違いがあるように思われても、皆、同じ無限の贖罪を必要としていることを理解するでしょう。

数年前、カーティスという名前のすばらしい若い男性が伝道に召されました。彼は、伝道部長なら誰もが祈り求めるような宣教師でした。伝道に集中し、一生懸命に働きました。あるとき、未熟で、社会性に欠け、務めを果たすことにあまり熱心でない宣教師が同僚として割り当てられました。

ある日、彼らが自転車に乗っていたとき、カーティスが後ろを振り返ると、同僚がどういふわけか自転車から降りて歩いていました。カーティスは心の中で神に不満を述べました。何をすることも引きずり回さなければならぬ同僚を背負わされるのは、何と厄介なことでしょう。その直後に、カーティスは心に深い印象を受け、神

がこう言っておられるように感じました。「いいかい、カーティス。わたしと比べたら、あなたたち二人はそれほど違わないのだよ。」カーティスは、不完全ではあっても自分なりに努力している同僚に対して忍耐する必要があることを学んだのです。

わたしは皆さんに、自らの生活を振り返り、悔い改め、努力し続けるようにお勧めします。努力をしなければ、わたしたちは単なる末日の罪人です。粘り強くなければ、末日の落伍者です。他の人が努力するのを許さなければ、ただの末日の偽善者です。¹⁰ 努力して、粘り強くあって、他の人もそうできるように助けるときに、わたしたちは真の「末日の聖徒」なのです。わたしたちは変わるとき、わたしたちがかつてどのような人物であったかということよりも、現在どのような人物で、どのような人物になろうとしているかに、神がはるかに強い関心を持っておられることに気づくでしょう。¹¹

わたしは救い主とその無限の贖罪に、また、末日の聖徒となるように、努力し続けるように励ましてくれる末日の預言者たちに深く感謝しています。¹² 救い主が確かに生きておられることを、イエス・キリストの御名により証します、アーメン。 ■

注

1. ネルソン・ホリシャシャ・マンデラ, "Long Walk to Freedom: The Biography of Nelson Mandela," (1994年) nelsonmandela.org/content/page/biography; 2013年12月10日, バラク・オバマ大統領によるネルソン・マンデラへの賛辞, whitehouse.gov/the-press-office/2013/12/10/remarks-president-obama-memorial-service-former-south-african-president 参照。ノーベル平和賞, 合衆国大

統領自由勲章, ソビエト・レーニン勲章の受賞は、マンデラの多彩な賞歴を示している。

2. 例として、1999年10月26日にネルソン・マンデラがライス大学ベーカー研究所で行った演説 bakerinstitute.org/events/1221 を参照。マンデラは、ロバート・ルイス・ステイブソンが述べたとされる次の有名な言葉を引用していたものと思われる。「聖人とは努力を続ける罪人である。」長年にわたり、多くの人が同じような気持ちを表現してきた。例えば、孔子は次のように言ったとされている。「我々の最も偉大な栄光は決して倒れないことにあるのではなく、倒れるごとに起き上がることにあるのだ。」
3. 例として、2ニーフイ13:2-21; 3ニーフイ11:23-31; 27:13-21; モロナイ6:6; 教義と聖約20:77, 79; 59:8-9; 「手引き 第2部一教会の管理運営」, 2.1.2 参照
4. 「神は、わたしたちが過去にどのような人物であったかということよりも、現在どのような人物で、どのような人物になろうとしているかに大きな関心を持っておられる」というのは、救い主はある人の罪が他の人に及ぼす結果を気にかげられないという意味ではない。事実、救い主は、他人の背きのために苦痛、痛み、悩みを抱える人を限りなく気遣っておられる。救い主は「御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:12)
5. ウィリアム・シェイクスピア『お気に召すまま』第四幕、第三場、137。新潮社版 福田恆存訳、39刷参照
6. エゼキエル33:12, 14-16
7. 動詞の現在形の使用は、最後の裁きに関する多くの聖句で注目に値する。例として、2ニーフイ9:16; モルモン9:14; 教義と聖約58:42-43 参照
8. トーマス・S・モンソン「秘められた思い」『聖徒の道』1987年7月号, 74
9. イザヤ61:1-3。ルカ4:16-21も参照
10. 新約聖書で使われている偽善者という言葉は、ギリシャ語から「ふりをする人」と訳すこともできるであろう。「このギリシャ語は、『役者』または『装ったり、劇的な表現をしたり、ある部分を誇張したりする人』を意味する。」(末日聖徒版の欽定訳聖書〔英語〕マタイ6:2, 脚注a) もし他の人にその人自身のペースで変わる機会を与えないならば、わたしたちは単に末日聖徒のふりをしてにすぎない。
11. 上記注4 参照
12. このメッセージが大管長会や十二使徒定員会の説教に出てくる回数は驚くほど多い。ディーター・F・ウークトドルフ管長は、このことを強調して次のように述べている。「何世紀にもわたって預言者たちが教えてきた全ての原則の中で、何度も繰り返し強調されてきたことがあります。それは、人は悔い改め、進路を変え、弟子として正しい道に立ち戻ることができるという、希望に満ちた、心を鼓舞するメッセージです。」「あなたなら、今できます」『リアホナ』2013年11月号, 56)



七十人
マイケル・T・リングウッド長老

真に善良で偽りのない人

イエス・キリストの福音のよきおとずれにより、わたしたちの心の望みが変わり、動機が磨かれ高められます。

残念なことですが、わたしの人生で、肩書や権威を得ることが動機となった時期がありました。始まりはほんの単純な思いでした。専任宣教師になる準備をしていたときに、伝道中の兄がゾーンリーダーになりました。兄について多くの良いことを聞いていたわたしは、自分についても同じように言ってもらいたいと思ってしまいました。兄と同じような地位が欲しいと願い、祈りさえしたかもしれません。

幸いなことに、わたしは伝道中に大きな教訓を学びました。前回の総大会で、その教訓を思い出しました。

去年の10月、ディーター・F・ワークトドルフ管長はこう語りました。「これまでの生涯で、わたしは、この世において非常に有能で知的な何人もの男女と知り合う機会がありました。若いときにわたしは、教養があり、洗練され、成功を収め、世の称賛を得た人々に感動したものです。しかし年を重ねるにつれて、**真に善良で偽りのない**、すばらしい、祝福された人々にもっと大きな感銘を覚えている自分に気づくようになりました。」¹

モルモン書に登場するわたしの英雄は、まさしく、真に善良で偽りのない、すばらしい、祝福された人を表している例です。シ

ブロンは息子アルマの息子の一人でした。父親の後に記録保管者および神の預言者となったヒラマンや、父親から勧告を受ける必要があった宣教師として知られるコリアントンという兄弟の方がわたしたちにはなじみ深いでしょう。アルマはヒラマンのために77節記し(アルマ36-37章参照)、コリアントンのために91節書き記しましたが(アルマ39-42章参照)、真ん中の息子であるシブロンには、15節しか記していません(アルマ38章参照)。それでも、この15節につづられた言葉は力強く、教訓となるものです。

「わが子よ、あなたが確固としており、神に忠実であるので、わたしはあなたによって大きな喜びを得られると確信している。あなたは若いときから主なる神に頼り始めたので、これからも神の戒めを守り続けるようにしてもらいたい。最後まで堪え忍ぶ者は幸いだからである。

わが子よ、わたしはあなたに言う。あなたは……民の中であって忠実で、勤勉で、忍耐強く、寛容であったので、わたしはあなたによってすでに大きな喜びを得た。」(アルマ38:2-3)

アルマはシブロンに語りかけただけでなく、シブロンについてコリアントンにこう語っています。「あなたは自分の兄弟が神の戒めを守るのに確固としており、忠実であり、勤勉であったのを見なかったか。見よ、彼はあなたのために良い模範を示さなかったか。」(アルマ39:1)²

シブロンは父親を喜ばせたいと願い、称賛や地位、権力、誉れ、権威のためではなく、それが正しいからという理由で正しいことを行った息子だったようです。ヒラマンは弟のこの性質を知っていて、尊敬していたに違いありません。父親から受け取った神聖な記録をシブロンに託したからです。確かにヒラマンはシブロンを信頼していました。それは、シブロンが「正しい人であって、神の前をまっすぐに歩んでいた。そして、絶えず善を行い、主なる





アメリカ合衆国、ミネソタ州ウッドベリー

神の戒めを守るように努めた」からでした（アルマ 63：2）。いかにもシブロンらしいと思うのですが、シブロンについては、彼が神聖な記録を受け取ってからそれをヒラマンの息子であるヒラマンに渡すときまでの記録にあまり刻まれていません（アルマ 63：11 参照）。

シブロンは真に善良で偽りのない人でした。神と同胞を愛し、そのために自分の時間と才能と労力を犠牲にして、人を助け、高めました（アルマ 48：17 - 19；49：30 参照）。スペンサー・W・キンボール大管長の次の言葉は、シブロンの人柄をよく表しています。「優れた女性、また男性というものは、権力を手にすることではなく、人々に仕えたいという望みをいつも持っているものです。」³

あらゆる方法で称賛、地位、権力、誉れ、権威を追い求める世の中であって、真に善良で偽りのない、すばらしい、祝福された人々をわたしはたたえます。彼らは神と隣人への愛を動機に行動する人たちであり、「権力を手にすることではなく、人々に仕えたいという望みをいつも持っている」すばらしい女性、男性です。

今日、地位と権力を得ることでしか、人生に満足な意味を見いだせないと信じさせようとする人たちがいます。しかし幸いなことに、この考えに左右されない人が大勢



います。真に善良で偽りのない人になることに人生の意味を見いだす人たちはです。わたしはこのような人たちがあらゆる職業やさまざまな宗教の中にいるのを見してきました。また、真に改心したキリストの弟子の中に、非常に多くいることを知りました。⁴

毎週、世界中のワードや支部で、求められる以上の働きで召しを果たしてくださっている人たちに敬意を表します。しかし、召しは一時的なものです。もっと感銘を受けるのは、正式な召しがなくても、絶えず人に仕え、人を高める方法を見つける多くの人たちです。ある兄弟は教会に早く来て椅子を並べ、集会后も残って礼拝堂を整えます。ある姉妹は、ワードにいる目の不自由な姉妹のそばに座りますが、それは歓迎するためだけでなく、大きな声で賛美歌を歌うためでもあります。そう

すればその姉妹に歌詞が聞こえて、一緒に歌えるからです。ワードや支部の中をよく見れば、皆さんもそのような模範を見つけることができます。誰がいつ、どのような助けを必要としているのかが分かる会員は必ずいます。

真に善良で偽りのない聖徒について、わたしが最初に学んだのは、おそらくわたしが若い宣教師だったときだと思います。あるエリアで面識のない長老と組むことになりました。彼が一度も指導的責任を受けたことがなく、韓国に来てからかなりたっているにもかかわらず韓国語の習得に苦勞していることを他の宣教師から聞いていました。しかし、この長老について知るうちに、わたしの知る中で最も従順で、忠実な宣教師の一人であることを発見しました。勉強の時間になると勉強し、伝道する時間には伝道していました。時間どおりにアパートを出、時間どおりに帰って来ました。韓国語の習得は彼にとって特に難しかったにもかかわらず、熱心に勉強しました。

この宣教師について聞いた話が真実ではないと知ったわたしは、彼が成功していないと思われていることを不当に感じました。この長老について知ったことを伝道部中に伝えたいと思いました。そこで、誤解を正したいという気持ちを伝道部会長に伝えると、会長は、「天の御父はこの若者が成功している宣教師であることを御存じですし、わたしも知っています」と答えました。さらにこう付け加えました。「そして今、あなたも知っています。それ以外に知る必要がある人がいるでしょうか。」この賢明な伝道部会長は、奉仕で大切なことが何か、しかもそれは称賛や地位、権力、誉れ、権威ではないことを教えてくれたのです。肩書きにこだわりすぎていた若い宣教師にとって、これは偉大な教訓でした。

この教訓を胸に、わたしは自分の人生を振り返りました。すると、そのときは立



派な肩書きや地位のない男女によって影響を受けたことが幾度もあったことに気づきました。シブロンのような人が、高校2年生のときのセミナー教師でした。この善良な男性がセミナーを教えたのはわずか2、3年でしたが、彼はわたしの心を開いてくれて、わたしにとってそれが証を得るきっかけとなりました。学校〔訳注—アメリカのある地域ではセミナーを学校の敷地内で受講できる〕で格別に人気のある教師というわけではありませんでしたが、いつもよく準備していて、力強い、永続する影響を残しました。教えを受けてから40年の間に彼に会ったのは数えるほどですが、そのうちの1回は、わたしの父の葬儀に来てくれたときでした。その行動は確かに、肩書きや権力に促されたものではありませんでした。

この献身的な教師や、彼のように真に善良で偽りのない多くの人たちをたたえます。日曜日にクラスを教えるだけでなく、家族との朝食に生徒を招待して教え、影響を与える日曜学校の教師を称賛します。ワードの若い男性と若い女性のスポーツ活動、文化活動に参加する青少年の指導者をたたえます。近所の人たちに励ましの言葉を書く男性や、クリスマスカードをただ送るだけでなく、訪問が必要な家族や友人に直接手渡しする女性をたたえます。アルツハイマーでつらい思いをしている近所の人とその奥さんが必要としている気分転換ができるよう、定期的にドライ

ブに連れて行く兄弟をたたえます。

こうした行為は、称賛や誉れのためではありません。これらの男性、女性は、肩書きや権威を得られるかもしれないという動機で行動していません。彼らはキリストの弟子であり、絶えず善を行い、シブロンのように、天の御父に喜んでもらおうとしているのです。

召しを解任されたり、地位や肩書きに就かせてもらえなかったと感じたりして、奉仕することや、教会に来ることさえやめてしまう人の話を聞くと悲しくなります。いつかそのような人たちが、若い宣教師だったわたしが学んだ教訓を学べるようにと願っています。すなわち、たいいていの場合、一番大切な奉仕は神しか御存じではない、という教訓です。「自分」や「自分のため」を求めるあまり、「神」や「神のため」に努めることを忘れていないでしょうか。

「あなたが言うような人になるには、随分と時間がかかります」という人もいます。しかし、イエス・キリストの福音のよきおとずれにより、わたしたちの心の望みに変化し、動機が磨かれ高められます。バプテスマを受けて神の真の羊の群れに入ると、わたしたちは新たな者になる道を歩み始めます(2コリント5:17; モーサヤ27:26参照)。聖餐を受けてバプテスマの聖約を新たにするたびに、この最終目標に一步近づくのです。⁵ この聖約を守って堪え忍ぶなら、悲しむ者とともに

に悲しみ、慰めの要る者を慰めるための力を得ます(モーサヤ18:9参照)。この聖約によってわたしたちは恵みを頂いて、神に仕えることができるようになります。心を尽くして神を愛し、自分のように隣人を愛せよという戒めを守ることができるようになるのです。⁶ この聖約によって、わたしたちの助けを必要としている人々を助けられるよう、神とキリストはわたしたちを助けてくださいます(モーサヤ4:16参照。11-15節も参照)。

わたしが人生で心から望むことはただ、地上と天の父を喜ばせ、もっとシブロンのようなことになることです。⁷

わたしはシブロンのような人々がいることを天の御父に感謝します。彼らの模範はわたしに、そしてわたしたち全てに希望を与えてくれます。そのような人々の生活は、愛にあふれる天の御父と、思いやりのある心優しい救い主がおられる証となります。彼らのような人々になるために努力をすることを固く約束するとともに、彼らの証にわたしの証を付け加えます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ディーター・F・ウークトドルフ「主よ、それはわたしですか」「リアホナ」2014年11月号、58、強調付加
2. ヒラマンはゾーラム人を教えに行かなかったため、アルマが「あなたの兄弟」と言った兄弟とは、シブロンのことであることが分かる(アルマ31:7; 39:2参照)
3. スペンサー・W・キンボール「義なる女性の役割」『聖徒の道』1980年3月号、143



十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

4. 「真に主の福音に改心するとき、わたしたちの心は利己的な関心事から離れて、他の人々が永遠の命を目指して進むように彼らを高める奉仕へ向かうと、主は教えてくださいました。そのような改心をするために、わたしたちは、新たな者になれるという信仰をもって祈り、行動を起こすことができます。イエス・キリストの贖罪によって新たな者になることができるのです。わたしたちはまず祈ることによって、自己本位を悔い改めることができるという信仰と、自分よりも他の人々に気を配る賜物を求めることができます。高慢と妬みを捨てるために力を求めて祈ることができます。」(ヘンリー・B・アイリング「証と改心」『リアホナ』2015年2月号, 4-5)
5. 「〔神〕は不死不滅で完全であられます。わたしたちはいつか死を迎える、不完全な者です。しかし、わたしたちは死すべき状態であっても、神と霊的に結ばれる方法を求めています。そうすることで、わたしたちは神の力の恵みと尊厳をいくらか得ることができます。そのため特別な時が、……バプテスマと確認……〔そして〕主の晩餐の象徴を頂くときです。」(ジェフリー・R・ホランド, *To My Friends* [2014年], 80)
6. 「何をするにも自分を神の子供と考える末日聖徒は、当然のこととして忠誠を誓うと決意し、それを守ります。救いの計画の特徴は聖約にあります。わたしたちは戒めに従うことを約束します。それに対し神は、この世と、そして永遠にわたる祝福を約束しておられます。神は御自分が要求されることに厳格で、また、約束を完全に守る御方です。神はわたしたちを愛しておられ、計画の目的は神のようになることであるので、わたしたちに対しても厳密に守るよう求めておられます。神がわたしたちに下さる約束には常に、聖約を守るわたしたちの能力を高める力があります。神は、わたしたちが神の規範を知ることができるようにしてくださっています。心を尽くして神の標準に従うよう努力するとき、神は、聖霊をわたしたちの伴侶としてくださいます。それによって、わたしたちは決意を守り、善と真理を見分ける力をつけていくのです。それこそが、この世での学習と永遠に必要な事柄の両方を学習するための力です(ヘンリー・B・アイリング, "A Child of God" [ブリガム・ヤング大学でのディボーションル, 1997年10月21日], 4-5, speeches.byu.edu)。デビッド・A・ベドナー「容易に重荷に耐えられるように」『リアホナ』2014年5月号, 87-90も参照。
7. わたしは、思い出せる限り、幼い頃から父を喜ばせたいと思っていました。成長し、証を得ると、天の御父を喜ばせたいという願いも持つようになりました。その後、シブロンについて知り、もっとシブロンのようになることが人生の目標の一つになりました。

主は光

人生の浮き沈みがあっても、救い主に確固として忠実に従うわたしたちの能力は、家族が義に従い、またワードや支部がキリストを中心として一致するとき、大いに強化されます。

この復活祭の季節に、わたしたちは救い主イエス・キリストから与えられる贖いについて考え、それを喜びます。¹

世の悪事のために世界中に広がっている騒がしい声により、人々は気落ちし、平安は損なわれています。現代のコミュニケーション手段によって、悪事、不平等、不正が伝えられ、その衝撃が多くの人に「人生とは不公平なものである」という感情を抱かせています。それがどれほど大きな影響を与える試練であっても、わたしたちはキリストがわたしたちのためにくださった比類なき執り成しの業を祝い、感謝することができます。救い主は文字どおり「死に対して勝利を得」られました。救い主は憐れみと思いやりをもって、悔い改めて主の御名を信じる全ての人のために、罪悪と背きをその身に負われました。そして、わたしたちを贖い、正義の要求を満たされるのです。²

救い主の尊い贖いの犠牲には、死すべき人の理解をはるかに超えた大きな意味があります。この恵みの行為により理解を超える平安が与えられるのです。³

では、わたしたちは取り巻く厳しい現実にとどのように対処しているのでしょうか。

わたしの妻メアリーはヒマワリが大好きです。道端の予期せぬ場所に咲いている



のを目にするときに喜びます。わたしの祖父母が住んでいた家に向かう道は舗装されていません。その道に差しかかると、メアリーはよく大声でこう言ったものです。「今日はあのすてきなヒマワリを見られるかしら。」驚いたことに、ヒマワリは農機具や除雪機によって硬くなった土壌、野生の花が育つにはとても理想的とは言えない物質が堆積した土壌に花を咲かせるのです。

若い野生のヒマワリのすばらしい特質の一つは、良い土壌でなくても育つことの



若い野生のヒマワリのすばらしい特質の一つは、若い花のつぼみが大空の太陽の動きに沿って動くということです。

他に、若い花のつぼみが大空の太陽の動きに沿って動くということです。そうすることで、見事な黄色い花が開く前の命を支えるエネルギーを取り入れます。

この若いヒマワリのように、わたしたちは、神の御子である世の救い主に従うときに、多くの悲惨な状況に取り巻かれているにもかかわらず、花開き、輝かしい者となります。救い主は実にわたしたちの光であり、命であられます。

麦と毒麦のたとえの中で、救い主は弟子たちに、つまずきとなる者と不法を行う者は神の王国から取り去られると述べておられます。⁴ しかし、忠実な者について

はこう言っておられます。「そのとき、義人たちは彼らの父の御国^{みくに}で、太陽のように輝きわたるであろう。」⁵ 文字どおり混乱した厳しい世の中で生活しているキリストの弟子として、わたしたちは、救い主の愛に根ざし、謙遜に救い主の教えに従うならば、成長して花を咲かせることができます。

人生の浮き沈みがあっても、救い主に確固として忠実に従うわたしたちの能力は、家族が義に従い、またワードや支部がキリストを中心として一致するとき、大いに強化されます。⁶

我が家の今の時間

神の計画における家族の役割は、「わたしたちに幸福をもたらし、愛にあふれる環境の中で正しい原則を学ぶのを助け、永遠の命に備えさせる」ことです。⁷ 家庭で宗教を实践するすばらしい伝統を子供たちの心の中に植え付ける必要があります。

わたしのおじのボーン・ロバーツ・キンボールは、優秀な学生であり、作家志望者であり、BYUのフットボールチームのクォーターバックでした。真珠湾攻撃があった翌日の1941年12月8日に、アメリカ海軍に入隊しました。ニューヨーク州オールバニで新兵採用の任務を果たしていたとき、『リーダーズ・ダイジェスト』誌に短い記事を投稿しました。出版社はおじに200ドルを支払い、1944年5月号に「我が家の今の時間」と題する彼の記事を掲載しました。

彼が自分自身を水兵と見立てて書いた『リーダーズ・ダイジェスト』への投稿記事の一部は次のとおりです。

「我が家の今の時間——

ある夜、わたしはニューヨーク州オールバニで一人の水兵に時間を尋ねた。彼は大きな懐中時計を取り出して、『7時20分です』と答えた。それが遅れていることが分かったので、わたしは尋ねた。『時計が止まっていますか。』

『いいえ、これは山間標準時間のままです。わたしはユタ州南部から来ました。海軍に入隊したとき、父がこの時計をくれました。家のことを思い出すのに役立つだろうと言ったのです。』

時計が朝5時を指すと、父は乳搾りに出かけます。夜の7時半には、いつも家族全員がたくさんの料理が並んだ食卓を囲み、父が食卓にある食物について神に感謝し、わたしを見守ってくださるように神にお願いしているのです。……彼は最後にこう言った。『どこにいても、何時かすぐに分かります。自分が知りたいのは、ユタは今何時かということです。』⁸



その記事を送って間もなく、ボーンは太平洋での海上勤務を命じられました。1945年5月11日、彼が沖縄の近くでアメリカ海軍空母「バンカー・ヒル」の任務に就いていたとき、その空母は2機の特攻機による爆撃を受けました。⁹そして、おじのボーンを含むおよそ400人の乗組員が戦死しました。

スペンサー・W・キンボール長老はボーンの父に哀悼の意を表し、彼のふさわしさと、主の約束である「わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう。死は彼らにとって甘いからである」¹⁰という言葉について触れました。ボーンの父は、ボーンは海に葬られたが神の御手が彼を天の家に連れて行かれたのであろうと優しく述べました。¹¹

28年後、スペンサー・W・キンボール会長は総大会でボーンについて話し、こう述べました。「わたしはこの家族をよく知っていました。……わたしも〔彼らと〕一緒にひざまずいて熱烈な祈りをささげました。……家庭での訓練がこの大きな家族に永遠の祝福をもたらしたのです。」キンボール会長は、全ての家族に「ひざまずいて……日に2度、息子と娘たちのために

祈りをささげる」ように強く勧めました。¹²

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが忠実に家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べ、神権の祝福、安息日を守ることを実践すれば、子供たちは、今家では何をしている時間なのかを知るでしょう。この困難な世界で自分に何が起ころうと、天における永遠の家庭に備えられるでしょう。自分は愛されており、家庭では安全であると子供たちが知ることは、きわめて重要なのです。

夫と妻は対等のパートナーです。¹³責任は異なりますが、互いに補い合います。妻は子供をもうけ、それにより家族全体が祝福されます。夫は神権を受け、それにより家族全体が祝福されます。しかし家族会議で、妻と夫は対等のパートナーとして、最も重要な決定を下します。子供たちをどのように教え、しつけるか、お金をどのように使うか、どこに住むか、その他家族に関わる多くのことを決めます。主の導きを求めた後、これらのことを一緒に決めます。目標は永遠の家族になることです。

キリストの光は、家族は永遠であるという思いを神の全ての子供の心に植え付けます。わたしの好きな作家の一人は、教会員ではありませんが、こう言っています。

「人生における多くのものは重要ではない。……〔しかし〕家族は現実のものであり、重要なものであり、永遠のものであり、見守り、気を配り、誠実であるべきものである。」¹⁴

教会はわたしたちが一つに結ばれた家族として救い主に心を向けるのを助ける

家族に加えて、教会の役割は次の点でも重要です。「教会は神のすべての子供たちにイエス・キリストの福音を教える組織と手段を用意している。教会は、ふさわしく、進んで受け入れるすべての人に、救いと昇栄の儀式を執行する神権の権能を備えている。」¹⁵

世界には、広範囲に及ぶ争い、罪悪、多様な文化と不平等を強調する意見があります。教会では、言語ユニットを除きワードと支部は厳密に地理的に分けられています。階級や階層では分けられていません。¹⁶ 義になかった会衆の中に全ての人種と文化が混在しているという事実を、わたしたちは喜んでいますが、ワードの家族は、わたしたちの進歩、幸福、そしてもっとキリストのようになる個人の努力にとって重要です。

文化はしばしば人々を分け隔て、また時として暴力と差別の原因となることがあります。¹⁷ モルモン書の中では、暴力や戦争、悪事、罪悪、また民や国家の滅亡さえ引き起こす邪悪な先祖の言い伝えを表現するのに、幾つか強く頭に残るような言葉が使われています。¹⁸

わたしたち皆にとってきわめて重要な教会の文化を、聖文を用いて述べる際に、第四ニーファイ以上に良いものはありません。第2節にこうあります。「民はニーファイ人もレーマン人もともに皆、地の全面で主に帰依した。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。」また第16節にはこうあります。「神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。」まったく争いがなかったという事実の根底にあったのが、「民の心の中に宿っていた神の愛」でした。¹⁹ これがわたしたちの目指している文化なのです。

深い文化の価値観と信条は、わたしたちがどのような者であるのかを表す基本的な部分になります。犠牲と感謝、信仰、義の伝統を大切に保たなければなりません。家族は信仰を築く伝統を味わい、それを守らなければなりません。²⁰

どの文化においても最も重要な特徴の一つとなるのは、言語です。わたしが住んでいたカリフォルニア州サンフランシスコには7つの非母語ユニットがありました。言語を重んじるわたしたちの教義は、教義と聖約第90章11節に述べられています。「その日には、……すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう。」

神の子供たちが自分の母語で神に祈るとき、それは彼らの心の言語です。心の言語が全ての民にとって大切であることは明らかです。

わたしの兄ジョセフは、医者として長年サンフランシスコ湾岸地区で開業していました。新しい患者であった年配のサモア人の会員が、兄の診療所にやって来ました。このサモア人は激しい痛みを感じ、衰弱していました。診断の結果、腎臓結石が見つかり、適切な治療が必要でした。ところが、この忠実な会員が言うには、当初の目的はどかが悪いのかを知ることだけでした。自分の健康上の問題を知って、それについてサモア語で天の御父に祈ることができるようにするためです。

会員にとって、心の言語で福音を理解することは重要です。祈って福音の原則に従って行動することができるからです。²¹

言語も、美しい心を高める文化の伝統もさまざまですが、わたしたちは一致と愛によって結ばれた心を持たなければなりません。²² 主は力強くこう述べておられます。「各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊びなさい。……一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」²³ わたしたちの目標は、適切な文化の多様性を大切にしながら、文化や習慣、イエス・キリストの福音の伝統などのあらゆる点で一つとなることです。

末日聖徒イエス・キリスト教会はかつてないほど強くなっている

わたしたちは、自分の信仰と証^{あかし}を強めようとするときに疑問と懸念を抱く会員がいるということを認識しています。わたしたちは、大小を問わず、懸念を抱く人を批判したり裁いたりしないように気をつけなければなりません。同時に、懸念を抱く人は、自分の信仰と証を築くためにできることは全て行わなければなりません。根気よくへりくだって学び、深く考え、祈り、福音の原則に従って生活し、適切な指導者に相談することが、疑問や懸念を解消する最善の方法です。

今日、より多くの会員が教会を去っており、過去にないほど多くの方が疑問を抱き、不信仰になっていると主張する人々があります。これは事実ではありません。末日聖徒イエス・キリスト教会はかつてないほど強くなっています。教会の記録から名前を削除する会員の数は常に僅かです。近年はその数がこれまでに少なくなくなっています。²⁴ エンゲウメントを受けて有効な神殿推薦状を持っている会員や成人の什分の一完納者、伝道の奉仕をしている人など、はっきりと人数を数えられる分野での増加は劇的です。もう一度お伝えしますが、教会はかつてないほど強くなっています。しかしそうであっても、「人の価値が神の目に大いなるものである



ことを覚えて[ください。]」²⁵ わたしたちは全ての人に手を差し伸べています。

現在皆さんが直面している厳しい現実が、暗く、重苦しく、とても堪え難く思えても、ゲツセマネでの激烈な苦しみの暗闇とカルバリでの人知を超えた苦悶と苦痛の中で、救い主が贖罪を成し遂げられたことを思い出してください。その贖罪がこの世の人生で経験する最もつらい重荷を解消するのです。救い主は、あなたのために、またわたしのためにそれを行ってくださいました。わたしたちを愛し、御父に従い、愛しておられるからこそ行ってくださったのです。わたしたちは死から、実に海の深みからさえも救い出されるのです。

現世と永遠における守りは、義にかなった個人と家族、教会の儀式、救い主への従順の中にあります。ここは嵐からの避け所です。孤独だと感じている人々のた

めに申し上げますが、皆さんは、贖罪が自分の理解を完全に超えた守りと祝福をもたらすことを知ることで、確固として義を守って立つことができるのです。

わたしたちは救い主を覚え、聖約を守り、あの若いヒマワリが太陽の光に向かうように神の御子に従わなければなりません。主の光と模範に従えば、喜びと幸福、平安が与えられます。詩篇第27篇とわたしの好きな賛美歌で宣言されているように、「主はわたしの光、わたしの救[です。]」²⁶

この復活祭の週末に、救い主の使徒の一人として、わたしはイエス・キリストの復活について厳粛に証します。主が生きておられることを知っています。主の御声を知っています。主が神の御子であられ、贖罪が現実であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



注

1. 2 ニーファイ 9:20 - 22 参照
2. モーサヤ 15:8 - 9 参照
3. ビリビ 4:7 参照
4. マタイ 13:41 参照
5. マタイ 13:43
6. 教義と聖約 115:5 - 6 参照
7. 『手引き 第2部-教会の管理運営』(2010年) 1.1.4
8. ボーン・ロバート・キンボール, "The Right Time at Home," *Reader's Digest*, 1944年5月号, 43
9. アメリカ海軍空母「バンカー・ヒル」のG・A・ザイツ大佐から、ユタ州ドレーパーに住むボーン・キンボールの父、クローザー・キンボール氏にあてた手紙を参照, 1945年5月25日付
10. スペンサー・W・キンボールからクロージャー・キンボール宛てた手紙を参照, 1945年6月2日付; 教義と聖約 42:46も参照
11. マーバ・ジェーン・キンボール, *Vaughn Roberts Kimball: A Memorial* (1995年), 53のクロージャー・キンボールを参照
12. スペンサー・W・キンボール, "The Family Influence," *Ensign*, 1973年7月号。スペンサー・W・キンボールは当時十二使徒定員会会長であった。
13. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129 参照
14. カーラ・カーライル, "Pray, Love, Remember," *Country Life*, 2010年9月29日付, 120
15. 『手引き 第2部』1.1.5
16. 4 ニーファイ 1:26 参照
17. 今日の世界でしばしば論じられるのが「文化」である。Merriam-Webster.comが2014年の言葉として選んだのが、*culture* (文化)であった。
18. アルマ9章; ヒラマン5章参照
19. 4 ニーファイ 1:15
20. ドイツの哲学者ゲーテは次のような有名な言葉を書き残している。「先祖から受け継ぎ、ただ借り受けているだけのものを、改めて自分の力で手に入れなさい、真の所有者となるために。」(ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ, *Faust*, ベイアード・テイラー訳 [1912年], 1:28)
21. 教会が50の言語で福音を教え、110の言語でモルモン書を翻訳している理由の一つがこれである。しかしながら、世界における課題の一つは、自国の言語を学ぶことである。若い人々が自分の住んでいる国の言語を学ぶのを助けるために、親は犠牲を払う必要がある。その言語が彼らの心の言語になるように助けることである。
22. モーサヤ 18:21 参照
23. 教義と聖約 38:25, 27
24. 過去25年間、教会を去る会員の実数は減少しており、教会員数はほぼ倍増している。教会を去る会員の割合は大幅に減っている。
25. 教義と聖約 18:10
26. 詩篇 27:1。「主は光」『賛美歌』47番も参照



十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

ヤングアダルト—— 最も偉大な世代の人々

今必要なのは、教会の歴史上最高のヤングアダルトとなる人々です。
皆さんの全身全霊を必要としています。

わたしが世界中を旅して感じる最も大きな喜びの一つは、わたしたちの宣教師と会い、彼らと挨拶を交わす機会があることです。偉大な長老や姉妹たちはキリストの光を放ち、わたしは、主イエス・キリストに対する彼らの愛と主に対する献身的な奉仕から、いつも霊的な励ましを受けます。宣教師たちと握手をするときに、わたしはいつも彼らの驚くべき霊と信仰を感じ、こう思うのです。「これらのすばらしい息子と娘たちは本当に奇跡です！」

2002年10月の総大会の神権部会で、わたしは、ビショップ、両親、そして宣教師になる見込みの会員に、専任宣教師として奉仕するための「標準を引き上げる」ようにチャレンジしました。

わたしはこう申し上げました。「今必要なのは、教会史上最高の宣教師となる人々です。必要なのは、ふさわしい、資格を満たした、霊的な力にあふれる宣教師です。……

……皆さんの全身全霊を必要としているのです。生き生きとして、思考力があり、情熱のある宣教師、聖なる御霊のささやきに耳を傾け、それに応える方法を知っている人が必要です。」¹

さまざまな点で今日の世界は、13年前

より多くの困難な問題を抱えています。教会の若い男性と若い女性が、伝道と将来の幸福な人生の両方の備えを進めようとするとき、そこから注意をそらせるものがさらに多くなりました。技術が進歩し、ほとんど全ての人が電子機器を手にしていますが、それは大いなる善にも大いなる悪にも、その両方に神の人類家族の注意を引きつけています。

今晚、わたしは現在奉仕している宣教師、将来の宣教師、帰還宣教師、そして教会の全てのヤングアダルトの男性に向けて

話をします。皆さんがこのわくわくしながらも困難な人生の時期を過ごすに当たり、わたしが皆さんに話すべきであると思っていることを理解し深く考えてくださるよう祈っています。

教会の初期の時代には、宣教師は伝道に赴く前に中央幹部から面接を受けました。今日皆さんは、宣教師として奉仕するために、ビショップとステーク会長から面接を受けますが、中央幹部から面接を受けることなく全生涯を過ごす人がほとんどでしょう。このことは、1,500万人以上の会員を擁する世界的な教会の現実を反映しています。わたしを含め、中央幹部の兄弟たちも、皆さん全員と個人的に知り合い、皆さんを愛して支持していることを伝えられればどんなにすばらしいことかと思っています。

幸運なことに、主はわたしたちが皆さんと交わる方法を備えてくださいました。例えば、十二使徒定員会の一人が全ての宣教師に対する伝道地の割り当てを行います。従来の顔と顔を合わせた面接ではありませんが、最新のテクノロジーと啓示を組み合わせるにより、驚くほど密接で個人的な経験を得ることができます。どのように行っているかを話しましょう。



皆さんの写真が、ビショップやステーク会長から提出された大切な情報とともにコンピューターの画面に映し出されます。その写真が表示されると、わたしたちは皆さんの目を見て、宣教師推薦状の質問に対する皆さんの答えに目を通します。その短い時間は、皆さんが目の前にいて、直接答えているかのようです。

皆さんの写真を見ているとき、皆さんが忠実で成功を取める宣教師になるために今日求められている「高い標準」をあらゆる面で満たしていることを確信します。その後、主の御霊の力とトーマス・S・モンソン大管長の指示により、世界に広がる教会の406の伝道部の一つに皆さんを割り当てます。

確かに、これは直接会って行う面接と同じではありません。でも、それに近いのです。

ビデオ会議は、教会本部から遠く離れて住んでいる教会の指導者や会員と交わる助けとなるもう一つの方法です。

このことを心に留め、伝道に出て奉仕しようとして準備をしている皆さん、帰還宣教師

の皆さん、そして全てのヤングアダルトの皆さんが今、ビデオ会議で個人的に会話をしているかのように数分間わたしと過ごしてほしいと思います。あなたが今晚どこにしようとも、あなたとわたしだけが部屋にいるかのように、数分の間わたしを見ていてください。

わたし自身も、あなたの目を見て、質問に答えるあなたの言葉に注意深く耳を傾けていると想像しましょう。そうすると、あなたの証の深さと神への献身について多くのことが分かるはずで、13年前にわたしが宣教師たちに伝えたことを言い換えるなら、今必要なのは、教会の歴史上最高のヤングアダルトとなる人々です。皆さんの全身全霊を必要としています。生き生きとして、思考力があり、熱意のあるヤングアダルトが必要です。日々の試練と誘惑の中を歩む現代の若い末日聖徒として、聖なる御霊のささやきに耳を傾け、それに応える方法を知っている人が必要です。

言葉を換えて言うなら、今の時代は宣教師だけではなく、帰還宣教師や全ての世代にとって、標準を上げるべきときです。



そのために、どうか次の質問の答えを心の中で深く考えてください。

1. いつも聖文を研究していますか。
2. 毎朝毎晩ひざまずいて祈り、天の御父と話をしていますか。
3. 多額の献金をする余裕がない貧しい苦学生であっても、毎月断食して断食献金を納めていますか。
4. 聖餐を準備し、祝福し、パスをし、聖餐を受けるときに、救い主と皆さんのためにささげられた主の贖いの犠牲について深く考えていますか。
5. 集会に出席し、安息日を聖く保つよう努力していますか。
6. 家庭、学校、教会、職場にあって正直ですか。
7. あなたの心の中は清いですか。また、あなたは霊的に清いですか。もし両親や教会の指導者に見られたり、あるいは救い主御自身に見られたりしたら恥ずかしい思いをするような、ポルノグラフィや、Tinder（訳注：欧米の出会い系アプリ）や Snapchat（訳注：写真共有アプリ）などのウェブサイト、雑誌、映画、アプリを見ないようにしていますか。
8. 時間の使い方に注意していますか。霊的な感受性を鈍らせるビデオゲームなど、不適切なテクノロジーやソーシャルメディアを避けていますか。
9. あなたの生活の中で、今晚から変え、直す必要のあることは何かありますか。

この短い個人面接を受けていただいて、ありがとうございます。皆さんがそれぞれの質問に正直に、よく考えて答えてくれたことを望みます。これらの簡単な原則のどれか一つでも欠けていることが分かったら、勇気を出して悔い改め、義にかなった弟子にふさわしい福音の標準と一致した生活に戻るよう強く勧めます。

さて兄弟の皆さん、福音に対する証が心の奥底からのものになるように、さらに幾つか助言をさせてください。

帰還宣教師の皆さん、忘れないでください。人生と家族のための備えを継続すべきです。帰還宣教師とは引退したモルモンという意味ではありません。皆さんは、帰還宣教師として「熱心に善いことに携わり、多くのことを〔自らの〕自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない」²のです。

伝道中に習得したスキルを使って、あなたの周りにいる人々の生活に毎日祝福をもたらしてください。他の人々に仕えることから、勉学、仕事、社交活動に専念することに焦点を移さないでください。その代わりに、日々続けて人々に仕えることを思い出し、それに備えることができるように、霊的な経験によって人生のバランスを取ってください。

皆さんは伝道中に、人々の家庭を訪問することの大切さを学びました。専任宣教師として奉仕したかどうかにかかわらず、全てのヤングアダルトの皆さんが、孤独な人や、病気の人、落胆している人を訪問する大切さを理解するように願っています。割り当てを受けたからというだけでなく、天の御父とその子供たちを純粋に愛しているという理由で訪問してほしいのです。

伝道の準備をしている高校生の皆さんに、セミナーに参加して卒業するようお勧めします。ヤングアダルトの皆さんは、インスティテュートに登録すべきです。³ 教会の学校に通っているなら、各学期に必ず宗教教育のクラスを取るようにしてください。伝道、永遠の結婚、そして成人としての人生に備えるこの大切な時期に、学んで成長し、聖霊を通して靈感と導きを受ける方法を、これからも続けて見つけなければなりません。セミナーやインスティテュート、宗教教育のクラスを通じ、丹念に、そして、祈りながら福音を研究することが、その目標を達成する助けとなります。



皆さんが教会の学校に通っているかどうか、あるいは大学に通っているかどうかにかかわらず、忙しすぎて福音が研究できないとは考えないでください。セミナーとインスティテュート、それに宗教教育のクラスは生活をバランスの取れたものにし、非宗教的な教育に加えて、聖文と預言者や使徒の教えを研究する時間を過ごす機会を提供します。4つの優れた新しいコースがあるので、全てのヤングアダルトの皆さんがそれらを検討し、受講するように勧めます。⁴

皆さんの地元のインスティテュートでもさまざまなクラスや活動があることを忘れないでください。また、ヤングシングルアダルトワード、ステーキのクラスや活動も、皆さんが霊的に学び成長し、交流することで、他の若い男女とともに集まり、互いに高め鼓舞し合う場所です。兄弟の皆さん、携帯電話から手を放して、周りに少し目を向けてください。インスティテュートで将来の伴侶を見つけることもあるのです。

そこで、もう一つ勧告があります。皆さんは何の話かよく分かっていますね。シングルアダルトの皆さんは、デートをして結婚する必要があります。どうか引き延ばさ

ないでください。家族を作ることを恐れている人がいるのは知っています。しかし、正しい相手と正しいときに、そして正しい場所で結婚するなら、恐れることはありません。事実、皆さんが遭遇する問題の多くは、義にかなったデート、コートシップ、結婚に「熱心に携わる」なら避けることができるでしょう。女性に携帯メールを送らないでください。周りにいる義にかなった神の娘に自分を紹介するときは、自分の声でしてください。人の声を実際に聞いて女性は驚き、おそらく「はい」と言うでしょう。

さて、兄弟の皆さん、わたしは皆さんに証します。主イエス・キリストはその贖いの犠牲を通して、わたしたちの生活で解決する必要のあることは何でも解決するように助けることができになります。

明日の復活祭の安息日を祝う備えとして、今晚わたしと一緒に手を止めて、キリストの贖罪という賜物たまものを思い出してください。天の御父と救い主イエス・キリストが、皆さんを一番よく御存じで、一番愛しておられることを忘れないでください。

贖罪を通じて、贖い主はわたしたちの悩み、苦痛、罪を御自身に引き受けられました。世の救い主は、わたしたち一人一人を



七十人会長会
ウリセス・ソアレス長老

個人的に理解できるように、ゲツセマネと十字架上の苦しみを通じて、わたしたちのかなえられなかった望み、困難な問題、悲惨な出来事を経験されました。⁵主は、わたしたちに対する最後の愛の行為として命を捨てられ、あの運命の夜に新しい墓に埋葬されたのです。

日曜日の朝、イエスは死から復活され、わたしたち一人一人に新しい命を約束してくださいました。復活された主は、キリストを信じ、罪を悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受け、最後まで堪え忍ぶことを全ての人に教えるように弟子たちに命じられました。兄弟の皆さん、わたしたちは、父なる神とその愛する御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現わされ、ジョセフ・スミスを通してイエス・キリストの完全な永遠の福音を回復されたことをはっきりと知っています。

兄弟の皆さん、強くあってください。神の戒めを守ってください。主イエス・キリストは、わたしたちが義にかなって行おうと望む全てのことはそのとおりになると約束されています。教会の指導者は皆さんを頼りにしています。ヤングアダルトの皆さん全員に、結婚し、奉仕し、将来に向かって歩む備えをしてほしいと思っています。そのことが成就するように、主イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります、アーメン。■

注

1. M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」[リアホナ] 2002年11月号、47
2. 教義と聖約 58:27
3. 大管長会からの手紙、2011年4月21日付
4. "New Religion Classes to Be Offered at Church Universities and Institutes of Religion." lds.org/topics/education/new-religion-classes 参照
5. モーサヤ 3:5 - 13 参照

勝つことのできる、 勝つはずの戦い

わたしたちはイエス・キリストの福音に一層しっかりとつかまらなければなりません。そうすれば、悪に対する日々の戦いに勝つことができます。

愛する兄弟の皆さん、今日、教会の神権者である皆さんに話す特権にあずかり、へりくだる思いです。

トーマス・S・モンソン大管長は以前にこう語りました。

「時々、わたしたちの住んでいるこの世界は恐ろしい場所となることがあります。社会道徳は猛烈な勢いで低下しています。危害を及ぼし破滅をもたらす力を免れる人は、老若を問わず存在しません。

……わたしたちは罪悪に戦いを挑んでいます。諦めないでください。勝つことのできる、また勝つはずの戦いです。天の御父はそのために必要な武器を与えてくださいました。」¹

老若を問わず、全ての人がモンソン大管長の語った戦いに毎日直面しています。サタンとその手下たちは、わたしたちの気をそらせようとしています。彼らの目的はわたしたちが主と交わした聖約から離れ、永遠の受け継ぎを忘れるようにそそのかすことです。彼らは天の御父が子供たちのために用意された計画をよく知っています。彼らも計画が発表された天上の大会議にいたからです。サタンはわたしたちの弱さやもろさに付け込んで「暗黒の霧[で]……人の子らの目をくらまし、心をかたく

にし、広い道に踏み込ませて、彼らが滅び失われるように仕向ける」のです。²

反対勢力に直面しても、モンソン大管長が教えたように、この戦いは勝つことのできる、勝つはずの戦いです。主はわたしたちの戦う能力と決意に信頼を寄せておられます。

聖典には、敵対する人々に囲まれていても、戦いに勝利を収めた人の話が無数にあります。その一人がモルモン書の司令官モロナイです。このすばらしい青年は、多くの不和や戦争が起き、ニーファイ人の国全体が存続の危機にあったその時代に、勇気をもって真理を擁護しました。モロナイは自らの務めを果たす能力に優れていましたが、謙遜さを失いませんでした。他にも様々な特質を備えていた彼は、その時代に神の御手に使われる者として、非凡な働きをしました。アルマ書には、全ての人がモロナイのようであれば、「地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう」と説かれています。³ モロナイの特質は全て、神と主イエス・キリストを信じる偉大な信仰⁴と、神とその預言者の声に聞き従う確固とした決意⁵の結果として身についたものでした。



末日聖徒イエス・キリスト教会の中央幹部と中央役員

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ティーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファアーンソン



ロナルド・A・ラスバンド



L・ホイットニー・クレイトン



ドナルド・L・ホールストロム



リチャード・J・メインズ



クレーグ・C・クリステンセン



ワリセス・ソアリス

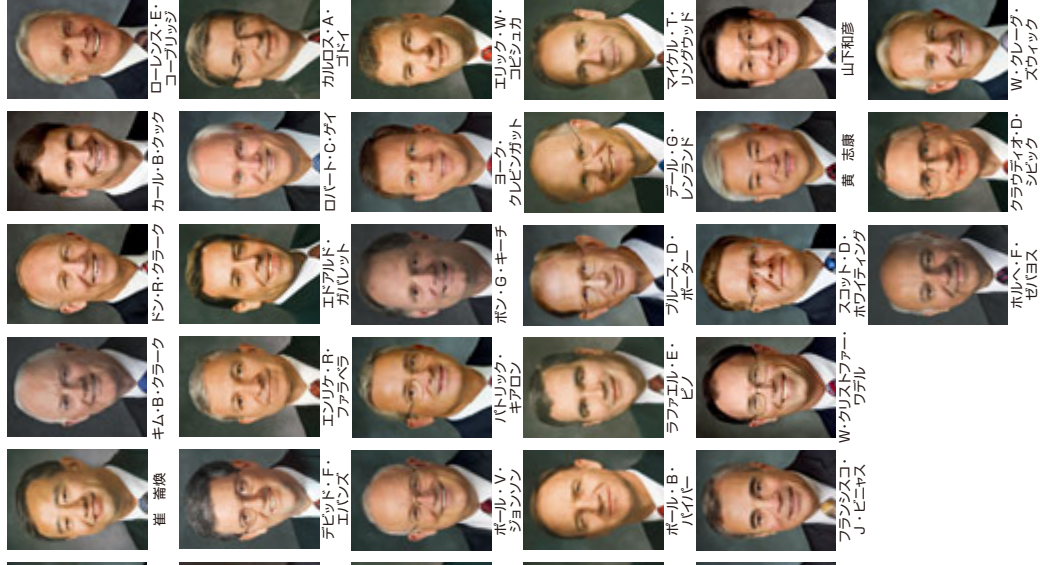
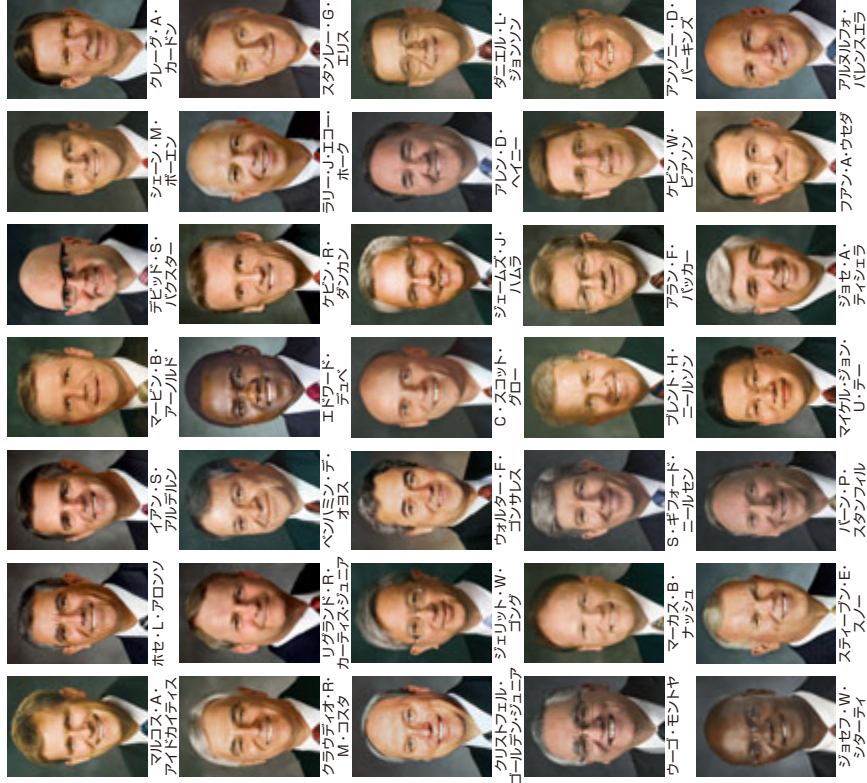


リン・G・ロビンス

七十人会長会

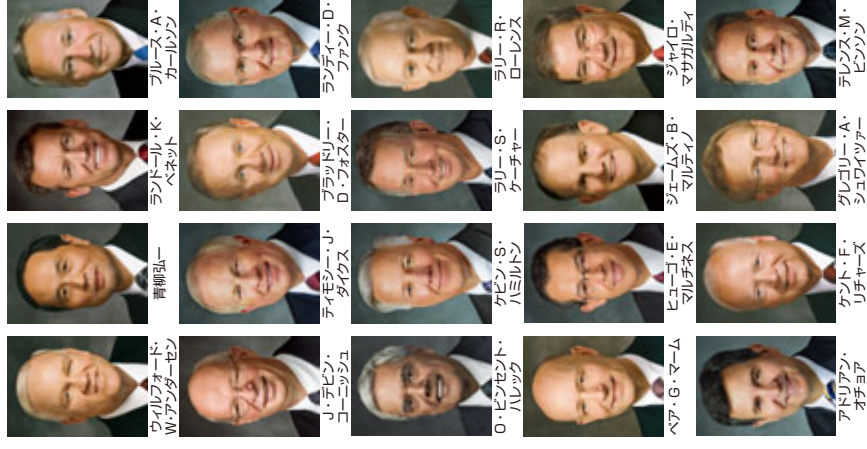
七十人第一定員会

(アルファベット順)



七十人第二定員会

(アルファベット順)



管理ビショップリック



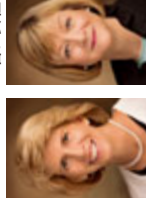
中央役員



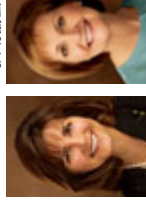
日曜学校



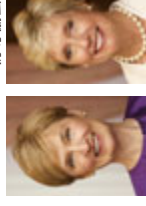
若い女性



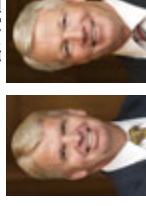
扶助協会

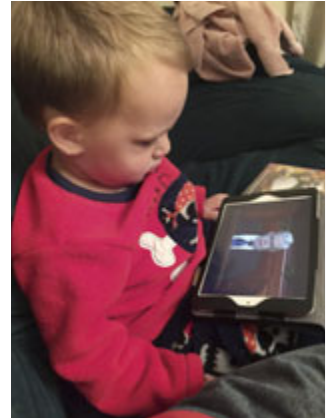


初等協会



若い男性





写真は左上から右回りに、以下の各地の会員と宣教師たち——アメリカ合衆国、オレゴン州マクミンビル；アルゼンチン、ネウケン州サンマルティン・デ・ロス・アンデス；南アフリカ共和国、ヨハネスブルグ；フィンランド、ヘルシンキ；ブラジル、リオ・グランデ・ド・ノルテ州ナタール；メキシコ、カンペチェ州シウダッド・デル・カーメン；フランス、ペルピニャン；カナダ、モントリオール；イングランド、ロンドン。



悪との戦いに勝つために、わたしたちの誰もが比喩的な意味で現代の司令官モロナイになる必要があります。わたしは現代の司令官モロナイになった、とても忠実な若い執事を知っています。両親や教会の指導者の勧めに従おうと努めてきたために、彼は年が若くても信仰と決意を毎日試されてきました。ある日、思いがけず非常に難しい、居心地の悪い状況に陥ったと話してくれました。友達が携帯電話でポルノグラフィーの画像を見ていたのです。この若い男性は瞬時に、仲間からの評判か、義になかった行動か、どちらが最も大切か選ばなければなりません。数秒後、勇氣に満たされ、友達に対し、彼らのしていることは正しくないと言いました。そしてさらに、ポルノグラフィーを見る行為はやめるべきであり、さもないとめり込んでしまうと言いました。ほとんどのクラスメートは彼の言葉をあざ笑い、誰もがすることだから問題ないと言いましたが、この若い男性の勧めを聞いて画像を見るのをやめた子が一人いました。

この執事が示した模範は、少なくとも一人のクラスメートに良い影響を及ぼしました。その選択のおかげで、彼とその友達は嘲笑され、いじめられたことでしょう。しかし一方で、彼らはアルマが民に語った次の勧告に従ったのです。「悪人から去り、離れ、彼らの清くないものに触れてはならない。」⁶

小冊子『若人の強さのために』には、大管長会によって承認された、教会の青少年のための次のような勧告があります。「あなたは自分の選びに対して責任を取らなければなりません。神はあなたのことを心に留め、たとえあなたの家族や友人が誤った方法で選択の自由を使ったとしても、あなたに良い選択ができるように助けてくださいます。たとえ孤立^{みこころ}を余儀なくされても、断固として神の御心に従う真の勇氣を持ってください。そうすれば、人が做すべき模範を示すことができます。」⁷



善と悪の戦いはわたしたちが生きている間ずっと続きます。サタンの目的は、全ての人を自分と同じように惨めにすることだからです。サタンとその手下たちはわたしたちの考えを混乱させ、罪を犯すよう誘惑して意のままに操ろうとします。可能な限り、全ての善を腐敗させようとするでしょう。しかし、理解すべきことは、本人が許さない限り、彼らは人に力を及ぼすことができないのです。

聖典には、ニーホルやコリホル、シーレムのように、サタンに操られることを許したために混乱し、滅んでしまった人々の例が幾つか載っています。わたしたちはこの危険に対して注意しなければなりません。世の多くの人々が容易に受け入れ、支持しているメッセージであっても、イエス・キリストの福音の教義や真の原則と相反することに心を乱されてはなりません。この世間的なメッセージの多くは、罪を正当化しようとする世の中のはかりごとすぎません。わたしたちが覚えておくべきことは、最終的に全ての人^{みまえ}がキリストの御前に立って、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれることです。⁸ こうしたこの世間的なメッセージに直面するとき、正義を選ぶには大きな勇氣と、天の御父の計画についての確固とした知識が必要です。

主を求め主に全幅の信頼と信仰を寄せらるなら、正義を選ぶための強さをわたした

ちの誰もが得られます。しかし、聖文にあるように、「誠心誠意」求めなければなりません。そうすれば、主は無限の憐れみをもって「聖霊の力によって」真理を明らかにしてください。「そして聖霊の力によって、[わたしたち]はすべてのことの真理を知るであろう。」⁹

聖霊を通して受けるこの知識とはまさしくわたしたちの証^{あかし}であり、世間で一般的にうたわれているメッセージに関係なく、末日に回復された福音の教えに従うという、わたしたちの信仰と決意を強めます。敵対する者が攻撃してくるとき、わたしたちの証は、わたしたちをサタンの火の矢から守る盾でなければなりません。¹⁰ また、証は今日の世にある暗闇と混乱の中を安全に通れるように導いてくれます。¹¹

わたしは若い宣教師として奉仕していたときにこの原則を学びました。遠隔地にある、とても小さな支部で伝道していたとき、わたしと同僚は町に住む全ての人と話そうと決めました。人々は温かく迎え入れてくれましたが、聖文について論じることが好きで、わたしたちが教えている事柄が真実であることを示す動かぬ証拠を示すように言いました。

同僚とわたしが人々に何かを証明しようとするたび、神の御霊^{みたま}が離れていき、すっかり当惑し、混乱したことを思い出します。福音の真理を教えるだけでなく、自分たち



の証をさらに強く述べるべきだと感じました。それからは、心の底から証を述べると、聖霊によってもたらされた静かな確認の力が部屋中に満ち、混乱や議論の余地を残さなかったことを覚えています。どのような邪悪な力も、イエス・キリストの真の弟子による誠心誠意の証の力を混乱させ、欺き、覆すことはできないことを知りました。

救い主御自身が教えられたように、サタンはわたしたちを麦のようにふるいに掛け、世の中に善い影響を及ぼす力を失わせたいと思っています。¹²

愛する兄弟の皆さん、世の中に混乱と疑念が広がる今、わたしたちはイエス・キリストの福音に一層しっかりとつかまらなければ

なりません。そうすれば、真理と正義を擁護する力が著しく増し、悪に対する日々の戦いに勝ち、人生という戦地で倒れずに、主の標準を守って生活するよう人々を励ますことができます。

わたしは全ての人に、聖文に書かれた教えを通して安全を見いだすよう勧めます。司令官モロナイは、聖文に書かれている知識と知恵に、神を信じる自身の信仰と真理についての証を加えました。そうすることで、主の祝福を受け多くの戦いで勝利できると信じていました。そして、実際にそのとおりになりました。

わたしは全ての人に、今日の預言者の知恵にあふれる言葉によって安全を見いだすよう勧めます。トーマス・S・モンソン大管

長はこう述べています。「神の神権に聖任されたわたしたちには、違いを生み出す力があります。個人の清さを保ち、神権を尊ぶなら、わたしたちは、人々が従うべき義の模範にな〔り、〕…… 暗さが増しているこの世を照らす力となれるのです。」¹³

皆さんにイエス・キリストの贖罪の恩恵と力を信頼するように勧めます。わたしたちは主の贖いの犠牲を通して、困難や試練や誘惑のただ中であっても、現代の全ての戦いに勝つ勇気を得られます。主の愛と人を救う力を信頼しましょう。キリスト御自身がこのように言われました。

「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」¹⁴

「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」¹⁵

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」¹⁶

これらの真理について、イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「過去を振り返り、前進する」『リアホナ』2008年5月号、90
2. 1ニーファイ12:17
3. アルマ48:17
4. アルマ48:13 参照
5. アルマ43:23-24; 48:16 参照
6. アルマ5:57
7. 『若人の強さのために』(小冊子) 2
8. 3ニーファイ27:14 参照
9. モロナイ10:4-5
10. エペソ6:16; 教義と聖約27:17 参照
11. 黙示12:11 参照
12. ルカ22:31-32 参照
13. トーマス・S・モンソン「故郷へ安全に導かれる」『リアホナ』2014年11月号、68
14. ヨハネ14:6
15. ヨハネ8:12
16. ヨハネ16:33



前 中央若い男性会長会第一顧問
ラリー・M・ギブソン

父親の役割——わたしたちの永遠の行く末

わたしたち一人一人がこの世の生涯で御父の祝福を完全に享受し、永遠にわたって自分の家族の父親となることによって、御父の業と栄光を成就できるよう願っています。

わたしはまだ若い頃、父からある重要な教訓を教わりました。父はわたしが、物質的なものに関心に関心を寄せつつあると感じていたようです。事実、わたしはお金が入ると、ほとんどいつも、自分のために使っていました。

ある日の午後、わたしは父に連れられて新しい靴を買いに出かけました。デパートの2階に行くと、父と一緒に窓から外を見ようと誘いました。

「何が見える」と父は尋ねました。

「建物と空と人」とわたしは答えました。

「どのくらいの人がいる。」

「たくさん。」

すると父はポケットからこのコインを取り出し、わたしに手渡すと、こう尋ねました。「これは何かな。」

わたしはすぐに分かったので、「1ドル銀貨」と答えました。

父は化学の知識を駆使して、こう言いました。「その銀貨を溶かして、適当な材料と混ぜると、硝酸銀が出来上がるんだ。この窓を硝酸銀でコーティングしたら、何が見えるかな?」

わたしには分かりませんでした。すると

父はわたしを等身大の鏡の前まで連れて行って、こう尋ねました。「じゃあ、今度は何が見える。」

「自分が見えるよ。」

すると父はこう答えました。「そうじゃないな。おまえが見ているのは、おまえを反射している銀なんだ。でも銀を見ようとしても、自分の姿しか見えない。幕と同じだ。幕があると、天の御父がおまえのために用意してくださっている永遠の行く末というものが、はっきりと見えなくなってくるんだ。」

父は続けてこう言いました。「ラリー。『この世のものを求めないで、まず、神の王国〔と〕、神の義を打ち立てることを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。』」(ジョセフ・スミス訳マタイ6:38)

父はわたしにその1ドル銀貨を大切に、決して失くさないようにと言いました。わたしはこの銀貨を見るたびに、天の御父がわたしのために用意してくださっている永遠の行く末というものを考えてきました。

わたしは、父とその教えが大好きでした。父のようになりたいと思っていました。父はわたしの心に、良い父親になる望みを植えてくれました。わたしの最大の望みは、父の模範に従って生きることです。

わたしたちの愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長が度々言っていることは、わたしたちの決断がわたしたちの行く末を決め、永遠の結果を招くということです(“Decisions Determine Destiny” [教会教育システムファイヤサイド, 2005年11月6日], 3 ; lds.org/broadcasts 参照)。

そうだとしたら、わたしたちは自分の永遠の行く末をはっきりと見通すようにする

父はこう答えました。「銀を見ようとしても、自分の姿しか見えない。……天の御父がおまえのために用意してくださっている永遠の行く末というものが、はっきりと見えなくなってくるんだ。」



べきなのではないでしょうか。特に天の御父がわたしたちに望んでおられるのは、永遠にわたる父親としての役割をはっきりと認識することです。自分の**永遠の行く末**を考えてあらゆる決断を下せるようになるではありませんか。その決断がどれほど難しくとも、御父はわたしたちを支えてくださるのです。

わたしがそのような見通す力について学んだのは、12歳と13歳になる息子たちに混じって50/20競技会に参加したときのことでした。この50/20競技会というのは、50マイル(80キロ)を20時間以内に歩き通すというものです。わたしたちは夜の9時に出発し、その晩、そしてその翌日の大半をひたすら歩き続けました。疲れ果てた19時間でしたが、何とか歩き通しました。

家に帰ったとき、わたしたちは文字どおり、**這**って家に入りました。そこでは素晴らしい妻であり母親であるギブソン姉妹がおいしそうな夕食を用意してくれました。しかし、わたしたちはそれに指一本触れませんでした。下の息子は完全に疲れ果てて、ソファに倒れ込みました。一方、

上の息子は下の階にある自分の寝室まで這って行きました。

わたし自身も痛みを耐えつつ休息を取ってから、下の息子のところへ行って、まだ生きていのかどうか確かめるほどでした。

わたしは「大丈夫かい」と尋ねました。「パパ、あんなに苦しかったこと、今までやったことがなかったよ。もう二度とやりたいとは思わないよ。」

わたしは、自分だってもう二度とやることはないだろうとは言いませんでした。代わって彼に伝えたのは、そのようなつらいことをやり通した息子を心から誇りに思っているということでした。あの経験は、息子が将来出遭うかもしれない別のつらいことに立ち向かうための備えになるだろうと確信しました。そのことを考えながら、わたしはこう言いました。「一つ、約束をしよう。おまえの伝道中に、1日に50マイルも歩くことは決してないだろう。」

「よかった、パパ。それなら伝道に出るよ。」

その簡潔な言葉によって、わたしの心は感謝と喜びに満たされました。

わたしはそれから下の階にいる上の息子

のところへ行き、彼の隣で横になって、体に手を当てながら、こう言いました。「大丈夫かい。」

「パパ、これまで生きてきた中で、あれほどつらかった経験はないよ。もう絶対に、二度とやらないからね。」それから息子は目を一旦閉じてから開け、こう言いました。「もし自分の息子がしてほしいと言ったら別だけだね。」

わたしは息子に心から感謝していることを伝えながら、涙を流していました。そして彼がわたしよりもはるかに立派な父親になるのが分かるよ、と言いました。息子がまだ若く未熟な年齢にも関わらず、自分にとって最も神聖な神権の義務の一つが父親になることであるとすでに認識していたので、わたしは胸がいっぱいになりました。息子はその役割にも、その称号にも恐れを抱いてはいませんでした。その称号こそ、わたしたちが神に話しかけるときに使うよう、神御自身が望んでおられる称号なのです。わたしは、息子の内に燃える、父親としての役割を果たそうという熱い思いを養っていく責任が自分にあるということを知っていました。

救い主が言われた次の言葉は、父親としてのわたしにさらに深い意味を帯びて迫ってきました。

「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」(ヨハネ5:19)

「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していた……。」(ヨハネ8:28)

わたしは天の父母の素晴らしい娘と結婚し、夫であり父親となれたことに喜びを感じます。わたしは妻を愛しています。それは、わたしの人生で、最も満ち足りた役割の一つだからです。あの晩のわたしの望みは、5人の息子とその妹に、永遠の結婚から、また父親の役割から、そして家族からわたしが得ている喜びをいつも見てい



てほしいということでした。

父親の皆さん、皆さんは「いかなるときも福音を宣べ伝えよ。必要とあらば、言葉を用いよ」(アッシジのフランチェスコ)という言葉聞いたことがあるはず。毎日、皆さんは、子供たちに、父親であるということはどういうことなのかを教えてください。次の世代のために土台を築いているのです。皆さんの息子たちは、どのようにして夫や父親になっていくのか、その方法を、現にその役割を果たす皆さんの姿を観察して学んでいるのです。例を挙げてみましょう。

皆さんの息子たちは、皆さんが自分たちの母親をどれくらい愛し、大切にしているか、また自分たちの父親であることにどれくらい喜びを感じているか、知っていますか。

子供たちは、自分たちの将来の妻や子供たちとの接し方を、ちょうど天の御父がされているような方法で皆さんが彼ら一人一人と接しているのを観察して学ぶことになります。

皆さんの模範を通じて、子供たちは女性の役割をどのように尊重し、敬い、守るのかを学ぶことができます。

皆さんの家庭で、子供たちは愛と義をもって家族を管理する方法を学ぶことができます。生活必需品を提供し、家族を守ることを学ぶようになります。物質的な面でも、霊的な面でも同じです(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129参照)。

兄弟の皆さん、わたしは思いのすべてを込めて、皆さんに次の質問について考えていただきたいと思っています。皆さんの息子たちは、天の御父が彼らにしてほしいと思っておられることを、あなたが行おうと努めている姿を見ているでしょうか。

その答えが「はい」であることを願っています。もし答えが「いいえ」でも、変わるのに遅すぎることはありません。でも、今日から始める必要があります。わたし



は、天の御父が助けてくださることを証します。

さて、心から愛する若い男性の皆さん、皆さんは御存じのとおり、メルキゼデク神権を受け、聖なる神殿の儀式を受け、専任宣教師として仕えるという義務と務めを果たし、次にあまり長い時間を置かず、神殿で神の娘と結婚し、家族を持つという備えをしているところです。さらに皆さんは、霊的な面では聖霊に導かれるがままに自分の家族を導くことになります(教義と聖約 20:44; 46:2; 107:12 参照)。

これまでわたしは世界中の数多くの若い男性に「あなたはなぜここにいるのですか」と尋ねてきました。

今日まで、一人として、こう答えた人はいません。「父親になる方法を学び、天の御父がお持ちのあらゆるものを受け取る備えをし、それにふさわしくなるためです。」

教義と聖約第20章に書かれている、皆さんのアロン神権の義務について調べてみましょう。わたしが、その義務を皆さんの家庭における働きに置き換えてみますから、皆さんがどう感じるかに注意してみてください。

「キリストのもとに来るように[あなたの家族の]すべての人を招く」(59節)

「常に[彼らを]見守り、彼らとともにいて、彼らを強める」(53節)

「説き、教え、説き明し、勧め、[あなたの

家族に]バプテスマを施す」(46節)

「彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧める」(47節)

「[あなたの家族の]中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らう」(54節)

「[あなたの家族が]しばしば会合するように取り計らう」(55節)

皆さんのお父さんが家長としての義務を果たせるよう助けてください。お父さんがいないときには、皆さんのお母さんを神権の力で支えてください(52, 56節参照)。

依頼されたときには、家族の中で「他の祭司や教師、執事を聖任」してください(48節)。

これは父親の働きと役割のように思われませんか。

皆さんがアロン神権の義務を果たすとは、若い男性の皆さんが父親としての役割を果たす備えをしているということなのです。『神への務め』という小冊子を通じて、皆さんは自分の義務について学び、それを果たすための具体的な計画を立てることが出来ます。またこの小冊子は、天の御父の御心を求め、それを果たすための目標を設定するときに、導きとなり、助けとなることでしょう。



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

天の御父は、この特別な時期に、特別な業のために、そして永遠の目的があって、皆さんをここに置かれました。天の御父は、皆さんが、その目的がどういものなのか、はっきりと見通し、理解するよう望んでおられます。天の御父は皆さんの御父ですから、いつでも導きを求めることができますのです。

天の御父が、わたしたち一人一人を個人として気にかけておられ、わたしたちが永遠の行く末に到達できるよう、個別の計画をお持ちであることを証します。天の御父はその独り子イエス・キリストをお送りになり、わたしたちが贖罪しよくざいによって不完全さを克服できるよう助けてくださっています。天の御父はわたしたちを祝福して、聖霊を証人として、伴侶として、そして導き手としてお送りになり、もしわたしたちが主を信頼するならば、**永遠の目的地**へと到達できるようにしてくださいました。わたしたち一人一人がこの世の生涯で御父の祝福を完全に享受し、永遠にわたって自分の家族の父親となることによって、**御父の業と栄光**を成就できるよう願っています（モーセ1:39 参照）。イエス・キリストの御名みなにより、アーメン。■

誠実であることについて

わたしは祈ります。自分に注目を集めようとする誘惑に打ち勝ち、むしろ主であり救い主であるイエス・キリストの謙遜な真の弟子となるというさらに偉大なる誉れを得られるよう努力することができますように。

18 世紀の後半、ロシア大帝エカテリーナ2世は、自分が治める帝国の南部地域を諸外国の大使を連れて視察するという布告を出しました。その地域の知事であったグリゴリー・ポチョムキンは、この視察団に良い印象を与えようと必死になります。そして、この国の偉業を見せつけるために奔走しました。

この旅でエカテリーナはドニエプル川を船で下り、川岸の村々が栄えている様子を

自慢げに大使たちに見せつけます。村の人々は皆勤勉で幸せそうでした。ところが、一つだけ問題がありました。全ては見せかけだったのです。ポチョムキンは張りぼての店や家を組み立てたと言われています。忙しそうに見える農民まで置いて、経済的に栄えている印象を与えようしました。一行が川を曲がって行ってしまうと、ポチョムキンの下で働く男たちは村の張りぼてをばらして下流に運び、急いでエカテリーナの次の視察地の準備をしました。

現代の歴史家たちはこの話の真偽に疑問を投げかけていますが、「ポチョムキン村」という言葉は、全世界で使われるようになりました。実態よりも自分を良く見せようと努力することを指して使います。

わたしたちは正しい動機で物事を行っているでしょうか。

自分を最大限に良く見せたいと思う気持ちは、人間の本性の一部です。この気持ちはあるからこそ、わたしたちは家の外見を良くしようと懸命に努力し、若いアロン神権者の兄弟たちは誰か特別な人にばったり会っても慌てないように髪の毛一本まできちんと整えます。ホームティーチャーが来る前には靴を磨き、家の中に異臭がないよう確認し、汚い皿を隠したりも





します。これは何も悪いことではありません。しかし、度が過ぎると、良い印象を与えようという望みは有益ではなくごまかしになってしまいます。

「口をもって〔主〕に近づき、くちびるをもって〔主〕を敬うけれども、その心は〔主〕から遠く離れ」¹ ている人たちに対して、主の預言者は常に警告の声を上げてきました。

救い主は謙遜で誠実な罪人に対しては思いやりと哀れみに満ちておられました。しかし、律法学者やパリサイ人、サドカイ人のような偽善者に対しては義にかなった怒りに駆られて立ち上げられました。祝福すべき人々を抑圧しながら、世の称賛や影響力、富を勝ち取るために、自分を義人であるかのように見せようとしていたからです。救い主は彼らを「外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱい」な「白く塗った墓」² に例えられました。

現代において主は、「自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり」する神権者に対して、同様に厳しい言葉を使い、もしそのようにするならば「天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである」³ と言っておられます。

なぜそうなるのでしょうか。活発で豊かで献身的に見えるよう努力してしながら、心は、黙示者ヨハネがエペソ人について言っているように「初めの愛から離れて」⁴ しまっていることがあるのはなぜなのでしょう。

場合によっては、単に福音の真髄を見失い、「神を敬うさま」を「神の力」⁵ と取り違えていることがその理由になっていることがあります。利益や影響力を得るために弟子であるかのような行いをして人に良い印象を与えようとしている場合は、特に危険です。パリサイ人の領域に入ってしまうかねません。ですからそのような場合には、自分の心を吟味し、直ちに軌道修正しなければなりません。

ポチョムキンプログラム

自分を実際よりも良く見せたいという誘惑に駆られるのは、私生活でのことだけではありません。教会の召しを果すうえでも同じような誘惑に駆られることがあります。

例えば、これは実際にあった話ですが、あるステーキで意欲的な年間目標を幾つか立てました。やりがいのある目標に見えましたが、崇高で見事な宣言や数字、パーセントが強調されていました。

この目標については既に話し合っただけの意見が一致していたのですが、その後、ステーキ会長はあることに悩むようになりました。ステーキ会長は、小さな子供を抱えて最近夫を亡くした姉妹など、ステーキの会員のことを考えました。猜疑心や孤独に苦しむ会員や、健康状態がかなり悪いにもかわらず医療保険に入っていない会員のことを考えました。破綻した結婚生活や依存症、失業、精神疾患と闘っている会員のことを考えました。このような会員たちのことを考えれば考えるほど、こんな疑問が湧き上がってきたのです。ステー

クのこの新しい目標は、このような会員たちの役に立つのだろうか。

「自分たちの務めは何だろうか」とまず考えていたとしたら、ステーキの目標はどんなものになっていただろうかと考え始めました。

そこでこのステーキ会長は評議会のメンバーに再び問いかけ、話し合っただけ、重点を別のところに置くことにしました。「飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人、苦しんでいる人を見ごしにし、彼らに注意を払わない」⁶ ようなことはしないと決めたのです。

彼らは新しい目標を決め、この新しい目標については、少なくとも人間の力では成果を測れないということを理解しました。というのは、個人の証や神への愛、人に対する思いやりは測ることができないからです。

しかし彼らは、「数えられるものの多くには価値がなく、数えられないものの多くに真の価値がある」⁷ ということも分かっていました。

わたしたちの組織の目標や個人の目標が、現代版ポチョムキン村になっていることがあるのではないかと、わたしは懸念しています。遠目には立派に見えても、愛する同胞の真の要求に応えられないということはないでしょうか。

わたしの愛する友人であり、ともに働く神権者である皆さん、もしもイエス・キリストがわたしたちとともに腰掛け、僕としてどのような働きをしたか報告をお求めになったとしたら、プログラムや統計結果ばかりを気にされるとはわたしには思えない



ブラジル、リオ・グランデ・ド・ノルテ州ナタール

のです。救い主はきっとわたしたちの心の内を知りたいと思われるでしょう。自分の手に任された人々をどのように愛し、彼らにどう仕えたか、伴侶や家族にどのように愛を示し、彼らの日々の重荷をどのように軽くしたか、そしてわたしたちがどれだけ救い主と御父に近づいたかを知りたいと思われるのではないのでしょうか。

なぜわたしたちはここににいるのか

自分の心をよく吟味するとよいかもしれません。例えば、なぜ自分はイエス・キリストの教会で奉仕するのか、と自問してみたらどうでしょうか。

なぜ今日この集会に出席しているのか、と自問することもできます。

この質問に表面的な答えをすれば、わたしはこう言うでしょう。「モンソン大管長から話の割り当てを受けたからです。

選択の余地はありませんでした。

それに、最愛の妻が出席してほしいと思っているので、行かないとは言えません。」

しかし、教会の集会に出席し、イエス・キリストの献身的な弟子として生活するにはもっと良い理由があることを、わたしたちは皆知っています。

わたしがここにいてるのは、主イエス・キリストに心から従いたいと思っているから

です。わたしはこの大義を進めるうえで、主から求められることはすべて行いたいと強く思っています。聖霊から教化していただき、神に聖任された僕を通して語られる神の御言葉を聞きたいと、切に願っています。わたしがここにいてるのはさらに良い人になるためであり、キリストにあって兄弟姉妹である人たちの靈感あふれる模範によって高められるためであり、困っている人をさらによく助けるにはどうしたらよいかを学ぶためです。

つまり、わたしがここにいてるのは、天の御父とその御子イエス・キリストを愛しているからなのです。

皆さんも同じ理由でここにいてると、わたしは確信しています。わたしたちが喜んで犠牲を払い、救い主に従うと口で言うだけでないのは、この理由によるのです。イエスの聖なる神権を保持し、それを尊んでいるのも同じ理由からです。

火花がかかり火になるまで

皆さんの証が輝いていて健全なものであろうと、教会での活動がまるでポチョムキン村のようであらうと、うれしいことに、皆さんは、持てる力の上に築くことができます。このイエス・キリストの教会で福音の原則を日々実践することにより、霊的に成熟して救い主に近づくことができるのです。

忍耐と粘り強い努力によって、弟子としてのほんの小さな行いやほんの一かけらの信仰は、献身的な生き方という赤々と燃えるかがり火にまで成長させることができます。実際のところ、かがり火というものは多くの場合、最初はただの火花から始まります。

ですから、自分は小さくて弱いと感じている人がいたら、ただ、弱さを強さに変えてくださるキリストのみもとに来てください。⁸ 神は「人をかたよりみないかた」⁹ ですから、わたしたちの中で最も弱い人も、神の恵みによって霊的に強くなれるのです。神はわたしたちの「真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施」¹⁰ されます。

もしも神が、教会の本部から遠く離れた、戦争で荒れ果てた国を逃れたわたしのよう貧しいドイツの難民に手を差し伸べ、導くことができるとしたら、神は、皆さんのことも、助けることができになるはずですよ。

キリストにあってわたしの愛する兄弟である皆さん、この宇宙に命の息を吹き込まれた創造の神は、確かに皆さんに命の息を吹き込む力をお持ちです。確かにキリストは、皆さんが望んでいるように、皆さんを正真正銘、光と真理に満ちた霊的な存在にすることがおできになります。

神の約束は確かです。わたしたちは罪を赦され、全ての不義から清められます。¹¹ そして、真実の原則を引き続き完全に受け入れて、置かれた環境で、そして家族の中で実践していくならば、最終的には「もはや飢えることがなく、かわくこともない。……御座の正面にいます小羊は……牧者となって、いのちの泉の水に導いて下さるであろう。また神は、[わたしたち]の目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう。」¹²

教会は癒やしの場であり、隠れる場ではない

しかし、もしも個人的、教義的、組織的な張りぼての影に隠れるならば、このような祝福は受けられません。上辺だけの弟子は、自分の実際の姿を見失ってしまうばかりでなく、救い主の贖いの奇跡によって真に変わることもできないのです。

教会は自動車のショールームではありません。自分をひけらかして靈性や能力、財力を人から称賛してもらえるようにする場所ではないのです。教会はむしろサービスセンターのようなものであって、修理に必要な車がやって来てメンテナンスや整備を受ける所です。

それに、わたしたちは皆、修理やメンテナンス、整備を必要としているのではない

でしょうか。

わたしたちが教会に来るのは抱えている悩みを隠すためではなく、その悩みを癒やすためです。

そして、神権者としてわたしたちにはもう一つ、責任があります。「神の群れを牧[す]」という責任です。それも、「しいられてするのではなく、……自ら進んでなし、[個人的利益]のためではなく、本心から、それをしなさい。また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである」¹³ と主は言われています。

兄弟の皆さん、忘れないでください。「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜」¹⁴ われます。

この地上を歩んだ者の中で最も偉大で最も有能で、最も完成した者である御方は、最も謙遜な御方でもあられました。偉大な奉仕を隠れた所で行い、それを見ていたほんの数人には、見たことを「だれにも話さないように」¹⁵ と言われたのです。「よき者」と言われたときには、即座にこの褒め言葉を神に向け、神御一人の他に真によき者はいないと言われました。¹⁶ イエスが世の称賛を心に留められなかったことは明らかです。イエスの望みはただ一つ、御父に仕え、「いつも神のみこころにかな

うことを」¹⁷ なさることでした。わたしたちは主のこの模範に従うべきです。

主が愛されたようにわたしたちも愛せま すように

兄弟の皆さん、イエス・キリストを代表する者となり、イエスが愛されたように愛し、イエスが奉仕されたように奉仕し、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強め」¹⁸ 「貧しい者と乏しい者の世話をし」¹⁹、やもめと孤児を世話すること、これこそがわたしたちの気高く神聖な召しです。²⁰

兄弟の皆さん、わたしは祈ります。家族や定員会、ワード、ステーク、地域社会、国家でわたしたちが奉仕するとき、自分に注目を集めようとする誘惑に打ち勝ち、むしろ主であり救い主であるイエス・キリストの謙遜な真の弟子となるというさらに偉大な誉れを得られるよう努力することができますように。このようにするならば、わたしたちは最高の自分、最も誠実で高貴な自分になる道を歩んでいることに気づくことでしょう。このことをわたしは、主イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■

注

1. イザヤ 29:13
2. マタイ 23:27
3. 教義と聖約 121:37
4. 黙示 2:4
5. ジョセフ・スミス — 歴史 1:19 参照。教義と聖約 84:20 も参照
6. モルモン 8:39
7. アルバート・アインシュタインの言葉
8. エテル 12:27 参照
9. 使徒 10:34
10. 申命 7:9
11. 1ヨハネ 1:9 参照
12. 黙示 7:16-17
13. 1ペテロ 5:2-3
14. ヤコブの手紙 4:6
15. ルカ 8:56 参照
16. マルコ 10:17-18 参照
17. ヨハネ 8:29
18. 教義と聖約 81:5
19. 教義と聖約 38:35
20. 教義と聖約 83:6 参照





大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

神権と個人の祈り

わたしたちがどんな状況にあっても、神はわたしたちに神権の力をお与えになることができます。ただ必要なのは、謙遜に祈り求めることです。

神の信頼を受けて、世界中の神の神権者に向けてお話しできることに感謝します。主がどれほど皆さんに信頼を抱いておられるかを知っているのです、この責任の重さを痛感しています。皆さんは神権を受けたとき、神の御名によって語り、行動する権利を受けました。

この権利は、神の靈感を受けて初めて現実のものとなります。そのとき初めて神の御名によって語り、神の御名によって行動することができるのです。皆さんはこれまで「ああ、それはそんなに難しいことじゃない。話をするように頼まれたときや、神権の祝福を授けなければならないときには、靈感を受けられるのだから」というように、思い違いをしてきたかもしれません。また若い執事や教師の皆さんは「もっと年を取ったら、あるいは宣教師に召されたら、神が何を語り、行おうとしておられるか分かるだろう」と気楽に考えているかもしれません。

神が何を語り、何を行おうとしておられるかを知る必要のある瞬間について考えてみてください。神権のどの職にあっても、わたしたち全員が、そのような瞬間を経験したことがあるはずで。第二次世界大戦のさなか、わたしは合衆国東部の

会員の少ない地域で少年時代を過ごしました。教会員同士は遠く離れて住んでおり、ガソリンを買うのにも制限がありました。わたしは支部でたった一人の執事でした。会員たちは我が家で開かれる断食証会^{あかし}で断食献金の封筒を支部会長に渡しました。

13歳のとき、家族はユタに引っ越し、大きなワードに集うようになりました。最初に受けた責任は、家々を回って断食献金を集めることでした。封筒に書かれた名前の中に、モルモン書の3人の証人の一人と同じ名前があることに気づきました。意



気揚々とドアをノックすると、男性がドアを開け、わたしを怒ったようににらみつけ、どなって追い払いました。わたしは意気消沈してその家を後にしました。

もう70年近くがたちますが、そのとき何か言うべきことやなすべきことがあったのではないかと感じたのを今でも覚えています。その日、出かけるときに信仰を持って祈っていたら、その玄関でもう少し踏みとどまり、笑顔で「お会いできてうれしいです。以前あなたやご家族がしてくださった献金に感謝します。来月、またお会いできるのを楽しみにしています」と語るよう靈感を受けていたのではないかと思うのです。

もしわたしがそのように語り、行っていたとしたら、男性はもっといらいらして腹を立てていたかもしれません。でも、自分がどのように感じたかは分かります。悲しい思いや挫折感の代わりに、「よくやった」という温かな承認を心と思いを感じながらそこを立ち去ったことでしょう。

準備する時間がないときに、そのような瞬間が訪れることもあります。わたしはそれを何度も経験しました。それは何十年も前に、病院で起こりました。わたしと同僚は一人の父親から、命に関わる重傷を負った3歳の娘の命があと数分しかない^{しもべ}と医師から告げられたと聞きました。神の僕として、彼女の頭の包帯で覆われていない部分に手を置いたわたしは、神が何を語られ、何を行われるかを知る必要がありました。

「娘は生き延びる」という言葉が思いに告げられ、わたしはそれを声にしました。そこに居合わせた医師たちはあきれた声を上げ、じゃまだからどいてほしいとわたしに言いました。わたしは平安と愛を感じながらその病室を後にしました。その少女は生き長らえ、わたしがその町に滞在した最後の聖餐会^{せいさん}に、自分の足で通路を歩いて入って来たのです。その少女と家族のために主に仕えて語り、行ったことにつ



いて感じた喜びと満足感を今も忘れません。

病院で感じた思いと、執事のときに訪れた男性の家を後にしたときの悲しみとの差は、祈りと神権の力の関係について学んだことで生まれたものです。執事だったわたしは、神の御名によって語り、行動する力には啓示が必要であり、必要なときに聖霊を伴侶とするには祈りと信仰の業が欠かせないことを学んでいなかったのです。

断食献金を集めにその男性の家を訪れる前の晩、わたしは寝る前に祈りました。しかし、病院からの電話を受ける前、何週間、何か月もの間、祈りの規範に従い、ジョセフ・F・スミス大管長が教えたように、神権に力を込めるのに必要な靈感を頂けるよう努力を重ねました。スミス大管長は簡潔にこう述べています。

「わたしたちは多くの言葉を用いて神に叫び求める必要はありません。長い祈りで神をうんざりさせる必要はありません。わたしたち自身のために必要なこと、また末日聖徒としてなすべきことは、主の前にしばしば行って、わたしたちが主を覚えていること、進んで主の名を受け、主の戒めを守って義を行いたいと望み、主の御霊の助けを願っていることを明らかにすることです。」¹

またスミス大管長は、主の僕として神の代わりに語り、行動するために、何について祈るべきかに関して次のように教えました。「何のために祈っているのでしょうか。神があなたがたを認め、あなたがたの祈りを聞き、御霊によってあなたがたを祝福し……てくださるように祈ってください。」²

どの言葉を用いるかはそれほど問題ではありませんが、忍耐が必要となるでしょう。個人的に気づき、認めていただけるように、天の御父に近づくのです。神は全ての者のうえにおられる神であり、あらゆるものの父であられるにもかかわらず、御自分の子供一人一人に惜しみない関心に向けようとしてくださっているのです。だからこそ、救い主は「父よ、御名があがめられますように」³という言葉が使われたのでしよう。

ひざまずき、頭を垂れているときに敬虔なふさわしい思いを持つのは容易ですが、もっと気楽な、あるいは声に出さない祈りであっても、天の御父に近づいているのだという実感を持つことは可能ですし、神権の奉仕を行う際には、頻繁にそうする必要があります。日中ほとんどの場合は、周りにはうるさく、人に囲まれているでしょう。神は声に出さない祈りを聞いてくださいます

が、皆さんは気をそらすものを意識から締め出すすべを身につけなければなりません。なぜなら、神と交わる必要のある瞬間は、静かな時間に訪れるとは限らないからです。

スミス大管長は、神に仕えるあなたの召しに神が気づき、認めてくださるよう祈る必要があると言いました。神はすでにあなたの召しについて完全に、詳細にわたって御存じです。神が皆さんを召してくださいだったので、皆さんが自分の召しについて神に祈ることにより、神はさらに多くのことを示し、知らせてくださるのです。⁴

ホームティーチャーが祈りながらどんなことを行えばよいか、例を示しましょう。皆さんはすでに御存じだと思いますが、ホームティーチャーの義務とは――

「各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧め……

……常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強め……

教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計ら[い]……

また教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らうこと」です。⁵

経験豊富なホームティーチャーとその後輩同僚にとってでさえ、聖霊の助けなしにそれを行うのは明らかに不可能です。皆さんが仕えるよう召されている家族や個人について考えてください。人の判断や良い動機だけでは十分ではありません。

そこで、訪問先の人々の思いや、よく知らない人々、皆さんに自分のことを知ってもらいたいと思っていない人々の生活や心の問題を知る方法を求めて祈るのです。人々を助けるために神が皆さんに何をどのように望んでおられるかを知り、神がその人々に対して抱いておられる愛を感じながら最善を尽くしてそれを果たす必要がある

のです。

それほど重要で難しい神権の召しが与えられているからこそ、祈るとき、主の御霊が注がれるよう神に常に請い求めるように、とスミス大管長は勧めています。神が聖霊を常にわたしたちの伴侶としてくださるのは、わたしたちが聖霊を一度だけでなく、頻繁に必要としているからです。だからこそ、神の子供たちに仕えるうえで神の導きがあるよう、常に祈らなければならないのです。

御霊がともになれば、神権の本来の力を発揮できないので、あらゆる幸福の敵の標的になってしまいます。罪を犯すように誘惑されれば、御霊によって導かれる力は弱められ、神権における力も低下してしまいます。だからこそ、スミス大管長は、神が警告して下さり、悪から守られるよう

に常に祈らなければならないと語ったのです。⁶

神は多くの方法で警告してくださいませ。警告は救いの計画の一部です。預言者、使徒、ステーク会長、ビショップ、宣教師は皆、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、そして神聖な聖約を交わし、守ることによって災いから逃れるよう警告の声を上げています。

神権者である皆さんには、主の警告の声を発する責任があります。でもまずは自分自身が警告の声を聞く必要があります。日々の生活で聖霊を伴侶として守りを得なければ、霊的に生き残ることはできないからです。

それを得るためには祈り、努力しなければなりません。その導きがあつて初めて、暗黒の霧の中、細くて狭い道を見いだすこ

とができるのです。聖霊は皆さんの導き手となって、皆さんが預言者の言葉を研究するときに真理を明らかにして下さるのです。

その導きを受けるには、ただ何気なく聞いたり読んだりしているだけでは十分ではありません。真理の言葉が心に刻まれるように信仰をもって祈り、努力する必要があります。神がその御霊を注いでくださるよう、そして皆さんをあらゆる真理に導き、正しい道を示してくださるよう祈らなければなりません。神はそのようにして皆さんに警告を与え、人生にあつて、また神権の奉仕において、正しい道に導いてくださるのです。

総大会は、神の神権によって仕える力を主に強めていただくすばらしい機会です。この大会のためにも皆さんがしてくださ



たと確信していますが、祈りによって自分を備えることができます。この大会で祈りをささげる人々と信仰を共にすることができます。多くの人々に多くの祝福が注がれるように祈りがささげられるでしょう。

主の代弁者である預言者に御霊が注がれるように、また使徒や神によって召されたすべての僕のために祈りがささげられるでしょう。その僕には皆さんのように新たに召されたばかりの執事から経験豊富な大祭司まで全ての兄弟たちが含まれます。中には、間もなく霊界に召され、「良い忠実な僕よ、よくやった」⁷ という主の声を聞く年配の兄弟や若い兄弟たちもいるかもしれません。

この主の祝福の言葉を聞いて驚く人もいます。その中には地上の神の王国において高い職に就いたことのない人、自分の働きからは何の實りもなかったと感じている人、また奉仕の機会がなかったと感じている人もいます。また、この世での奉仕の期間が望んでいたほど長くなかったと感じている人もいます。

受けていた職や奉仕した時間は主にとって重要ではありません。ぶどう園の働き人についての主のとえの中で、働いた時間や場所に関わらず賃金が同じだったことから分かります。どのように奉仕したかで報酬が与えられるのです。⁸

現世というぶどう園での働きを昨晩の11時に終えた、愛する友である男性を知っています。彼は、何年も治療を受け、非常な痛みと困難を経験してきましたが、その間も自分の所属するワードで子供がすでに巣立っていった会員たちと何度も集会を開き、彼らを助ける召しを受け、果たしてきました。中には夫に先立たれた姉妹たちもいました。彼の召しはともに集い福音を学ぶことで慰めを見いだせるよう彼らを助けることでした。

余命わずかという最終宣告を受けたとき、彼のビショップは出張で町を離れてい



ました。2日後、彼は大祭司グループリーダーを通してビショップにメッセージを送り、自分の責任についてこのように伝えました。「ビショップは町を離れていらっしゃるの、わたしたちのグループの次の月曜の集会について計画を立ててみました。二人の会員がカンファレンスセンターの見学にわたしたちを連れて行ってください。何人かの会員に車を運転してもらい、ボーイスカウトの兄弟たちに車を押ししてもらいます。参加人数によっては、年配の自分たちだけで足りるかもしれませんが、必要な場合に備えて助けがあればなおよいでしょう。助けてくださる方々も家族を連れて来れば、良い家族活動になるかもしれません。以上、何かあれば計画の連絡を回す前にお知らせください。……ありがとうございます。」

ビショップは彼からの電話を受けて驚きました。自分の状態や自分の割り当てに対する勇敢な努力には全く触れることなく、「ビショップ、何かわたしにできることはありますか」と尋ねたのです。これほどの大きな重荷を抱えているにも関わらずビショップの重荷を思いやることができたのは、聖霊の影響以外に何ものでもありません。また、若いときにボーイスカウトの計画を綿密に立てたのと同じように、兄弟姉妹に仕えるための計画を練ることができたのもやはり、御霊によるものでした。

信仰の祈りをささげるとき、わたしたち

がどんな状況にあっても、神はわたしたちに神権の力をお与えになることができます。ただ必要なのは、神がわたしたちに何を語り、何を行うように望んでおられるかを御霊によって示していただけるように謙遜に祈り求め、そしてその賜物にふさわしい生活を続けることです。

父なる神が生きておられ、わたしたちを愛し、すべての祈りを聞いておられることを証します。イエスが生けるキリストであり、主の贖罪によってわたしたちは清められ、聖霊を伴侶とするにふさわしくなることを証します。信仰と従順によっていつの日か「良い忠実な僕よ、よくやった」という言葉を、喜びをもって耳にすることができることを証します。⁹ わたしたちが仕える主からこのすばらしい祝福の言葉を受けられるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』23-24
2. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』26
3. ルカ11:2
4. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 215-221 参照
5. 教義と聖約20:51, 53-55
6. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』26 参照
7. マタイ25:21
8. マタイ20:1-16 参照
9. マタイ25:21



トーマス・S・モンソン大管長

神権——た ま も の神聖な賜物

わたしたちはそれぞれ、かつて人類に授けられた最も貴い賜物の一つを託されています。

わたしが最も鮮明に記憶していることの一つは、執事に聖任されて初めての神権会に出席し、「神権持つ子らよ、来たれよ」¹と開会の賛美歌を歌ったことです。今晚、ここカンファレンスセンターと実際に全世界で集っている全ての人に、わたしはこの特別な賛美歌の精神に再び触れて、「神権持つ子らよ、来たれよ」と申し上げます。わたしたちの召しについてよく考えましょう。わたしたちの責任についてよく考え、義務を果たす決意をし、主イエス・キリストに従いましょう。年齢や、習慣や、国籍はさまざまですが、わたしたちは神権の召しにおいて一つに結ばれています。

わたしたち一人一人にとって、バプテスマのヨハネによるオリバー・カウドリとジョセフ・スミスへのアロン神権の回復は、非常に重要です。同様に、ペテロとヤコブとヨハネによるジョセフとオリバーへのメルキゼデク神権の回復は、大切な出来事です。

わたしたちが持つ神権に伴って与えられる召しと責任、義務をひた向きに果たしましょう。

わたしは執事定員会の書記に召されたとき、大きな責任を感じました。記録をと

ても注意深く作成しました。その召しの果たし方について自分が知る限りの最善を尽くしたかったからです。自分の働きを誇りに思いました。かつて受けたどの職においても、能力の限りを尽くして、できることをすべて行うというのがわたしの目標でした。

アロン神権に聖任されているそれぞれの若い男性が、聖任されている召しの神聖さとその召しを尊んで大いなるものとする機会について霊的な気づきを与えられるように、わたしは願っています。わたしは執事のときにそのような機会がありました。ビショップリックから頼まれて、教会から1マイル（約1.6キロ）ほどの所に住んでいる、外出できない人に聖餐を届けたときのことです。その特別な日曜日の朝、わたしがライト兄弟の家のドアをたたくと、「どうぞ」という弱々しい声が聞こえました。質素な家でしたが、部屋には主の御霊が満ちていました。わたしはライト兄弟のベッドのそばに行き、注意深くパンを彼の口元に持っていきました。それから水のカップを取り、飲めるようにしてあげました。わたしが帰ろうとすると、彼は涙を浮かべてこう言いました。「神の祝福がありますように。」そして、神はわたしを祝福し、聖餐

という神聖な象徴と、わたしが授かっている神権に対する感謝の念を与えてくださいました。

わたしたちのワードの執事や教師、祭司は、ユタ州クラークストーンにある、モルモン書の三人の証人の一人であるマーティン・ハリスの墓地へ行った思い出深い訪問を決して忘れないでしょう。わたしたちが彼の墓を表す丈の高い御影石の祈念碑の周りに集まり、定員会指導者の一人が「三人の証人の証」^{あかし}から感銘深い言葉を読んでくれたとき、その神聖な記録とそこに見いだされる真理に対するわたしたちの愛は深まりました。

その数年間のわたしたちの目標は、モーサヤの息子たちになることでした。彼らについて次のように述べられています。

「彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになっていた。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた。」²

若い男性の掲げる目標として、モーサヤの勇敢な義になつた息子たちのごようであ





と言われるようになること以上にふさわしい目標を考えられません。

18歳の誕生日が近づき、第二次世界大戦中に若者に求められた兵役義務を果たす準備をしていたとき、わたしはメルキゼデク神権を受ける推薦を受けました。しかし、面接のために、ポール・C・チャイルドステーク会長に電話する必要がありました。彼は聖典を愛し、聖文を理解している人でした。そして、他の人も皆同じように聖典を大切に、聖文を理解すべきであるというのが彼の考えでした。彼がかなり詳細かつ綿密に面接する人であることを何人かの友人から聞いていたので、わたしは自分の聖典に関する知識のなさをできるだけ知られたくないと思いました。そこで、電話したときに、次の日曜日の、彼の聖餐会が始まるまで1時間しかないタイミングで会うことを申し出ました。

彼の返事はこうでした。「おや、モンソン兄弟、それでは二人で聖典をじっくりと読む時間が足りませんね。」そして、彼は聖餐会が始まる3時間前の時間を提案し、印と参照の言葉が記入されている自分の聖典を持って来るようにとわたしに言いました。

日曜日に彼の家に行くと、温かく迎えられ、面接が始まりました。チャイルド会長はこう言いました。「モンソン兄弟、あなたはアロン神権を持っていますが、これまでに天使の働きを受けたことがありますか。」わたしは、「いいえ」と答えました。そのような資格があることを知っているかと尋ねられ、また「いいえ」と答えました。

するとこう言われました。「モンソン兄弟、教義と聖約第13章を暗唱してください。」

わたしは暗唱を始めました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と……」

「ストップ」とチャイルド会長は言いました。それから、静かに優しい声でこう忠告しました。「モンソン兄弟、あなたはアロン神権を持つ者として、天使の働きを受ける資格があることを決して忘れないでください。」

その日、部屋の中にまるで天使がいたかのような感じでした。わたしはその面接を一度も忘れたことはありません。わたしたちがアロン神権とメルキゼデク神権の責任と義務と祝福について人々とともに読むとき、わ

たしは今でもあのときの厳粛な雰囲気を感じます。神権の祝福は、神権者であるわたしたちだけでなく、わたしたちが仕える特権にあずかる家族やその他の人々にももたらされます。

わたしは長老に聖任されました。そして、海軍での軍務に就くために出発する日に、ワードのビショップリックの一人が、わたしを見送るためにわたしの家族や友人たちと一緒に駅に来てくれました。そして列車が出発する直前に、小さな本を手渡してくれました。それは『宣教師の手引き』でした。わたしは笑いながら、伝道に行くのではないことを告げました。

すると彼は、「とにかく持って行きなさい。役に立つから」と言いました。

実際にそれは役立ちました。わたしは衣服をしっかりと固定させ、しわがよらないようにするため、バッグの底に敷く硬い長方形のものが必要でした。『宣教師の手引き』はわたしが必要としていたものにぴったりで、12週間、バッグの中でその役目を果たしてくれました。

クリスマス休暇の前の夜、わたしたちは故郷のことを考えていました。兵舎は静かでした。ところがそのとき、隣のベッド



にいた友人によってその沈黙が破られました。モルモンの若者、レランド・メルルです。痛みにうめき始めたのです。わたしが理由を尋ねると、彼はとても具合が悪いと答えました。基地の医務室に行くことは望みませんでした。そうしたら翌日は家に帰れないということを知っていたからです。

時間がたつにつれて、ますます具合が悪くなるようでした。ついには、わたしが長老であることを知っていたので、彼はわたしに、神権の祝福を受けてほしいと言いました。

わたしはそれまで一度も神権の祝福を与えたことがなく、祝福を受けたこともあ

りませんでした。祝福が施されるのを見たこともありません。わたしが静かに助けを祈り求めると、バッグの底に『宣教師の手引き』があることを思い出しました。わたしはすぐにバッグの中身を出し、その本を常夜灯のところに持って行き、そこで病人への祝福の仕方を読みました。大勢の水兵が好奇の目で見守る中で、わたしは祝福を行いました。わたしがバッグに全ての物を戻している間に、レランド・メルルは子供のように眠りに就きました。そして翌朝、気分よく目覚めました。わたしたちは二人とも神権の力に深く感謝したのでした。

これまで何十年の間、わたしは、数え切れないほど、助けの必要な人々に祝福を受ける機会がありました。そのたびに、神がこの神聖な賜物を託してくださったことに深く感謝しました。わたしは神権を尊んでいます。何度も何度もその力を目撃してきました。その強さを目にしてきました。それによって行われた奇跡に驚嘆してきました。

兄弟の皆さん、わたしたちはそれぞれ、かつて人類に授けられた最も貴い賜物の一つを託されています。わたしたちが神権を尊び、常にふさわしく生活をするとき、わたしたちを通して神権の祝福が注がれます。わたしは教義と聖約 121 章 45 節に見られる次の言葉が大好きです。「あなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。」

神の神権を持つ者として、わたしたちは、主イエス・キリストの業に携わっています。わたしたちは主の召しに応じてきましたし、主の用向きを受けています。主について学び、主の足跡に従い、主の勧めに従って生活しましょう。そうすれば、わたしたちは主から召されるいかなる務めに対してもそれを果たす備えができます。これは主の業です。主の教会です。実に、主はわたしたちの司令官、栄光の王、まことに神の御子でられます。わたしは主が生きておられることを証します。これらを主イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

注

1. 「神権持つ子らよ」『賛美歌』199 番
2. アルマ 17:2-3



トーマス・S・モンソン大管長

神殿の祝福

神殿に入ると、ある種の霊性もたらされ、……平安を感じることができます。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この美しい復活祭の朝に、皆さんとともに大会に集い、世の救い主に思いをはせる機会に心から感謝しています。皆さん一人一人にわたしからの愛と挨拶を伝え、天の御父から靈感を受けて語ることができるよう祈ります。

教会の大管長に支持されて、この大会で7年になります。毎々が慌ただしく過ぎ去り、その間、幾つかの試練を経験しましたが、数えきれないほどの祝福も経験しました。そのような祝福の中で最も楽しく神聖だったのは、神殿の奉献と再奉献の機会にあずかったことです。

つい最近も、昨年11月ですが、完成したばかりの美しいアリゾナ州フェニックス神殿を奉献する特権に恵まれました。ディーター・F・ワークトドルフ管長、ダリン・H・オックス長老、リチャード・J・メインズ長老、リン・G・ロビンズ長老、ケント・F・リチャーズ長老が同行しました。奉献の前夜に見事な文化の祭典が開かれ、神殿地区から集まった4千人以上の若人がすばらしい発表をしてくれました。翌日、神聖かつ靈感あふれる3つのセッションで神殿が奉献されました。

神殿の建物は、教会の成長を如実に表しています。現在、儀式が行われている神殿が世界中に144、改装中の神殿が13、さらに建設中の神殿が13あります。既に

建設が発表された神殿が13ありますが、それらは工事が始まる前の様々な準備段階にあります。今年は、2つの神殿を再奉献し、新しい神殿を5つ奉献することになっています。それらの改修工事や建築工事はすべて今年完了する予定です。

この2年間、既に建設を発表した神殿の完成に力を注いできたために、追加の神殿建設計画を保留にしてきました。しかし、今朝、新たに3つの神殿の建設を発表できることを嬉しく思います。その場

所はコートジボワール・アビジャン、ハイチ・ポルトープランス、そしてタイ・バンコクです。これらの地域、そして世界中で神殿がある場所に住む忠実な会員にとって、何とすばらしい祝福が用意されていることでしょう。

新たな神殿の必要性を判断し、候補地を探すプロセスは継続しています。できるだけ多くの会員に、時間や資金面で大きな犠牲を払うことなく神殿に参入してほしいからです。これまで同様、神殿に関して何らかの決定が下されたら、随時お知らせします。

神殿について考えると、わたしはそこで受けるたくさんの祝福を思い浮かべます。神殿のドアから中に入るとき、わたしたちは世の雑念や混乱を外に置いてきます。この聖所の中には美と秩序があります。そこは心に平安を感じ、この世の煩い事から解放されている所です。

神殿に入ると、ある種の霊性もたらされ、人の心に感じられるいかなる感情よりも崇高な平安を感じることができます。救い主が語られた次の御言葉の真の意



味が理解できます。「わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」¹

そのような平安は、問題を抱えている心、悲しみに打ちひしがれている心、困惑している心、必死で助けを求めている心など、どんな心をも満たします。

最近、一人の青年に会って直接話を聞く機会がありました。この青年は助けを求めて神殿に入りました。何か月も前に、青年は南アメリカで伝道する召しを受けました。しかし、ビザの発行がかなり遅れた関係で、任地が変わり、合衆国で伝道することになりました。もともと召された地域で奉仕できなくなったために落胆はしたものの、新しい任地でも能力の限りを尽くして奉仕しようと心に決め、一生懸命に働きました。しかし、一緒に働いた宣教師たちとの好ましくない経験のために落胆してしまいました。彼らは福音を伝えることよりも楽しい時間を過ごすことに関心があるように思えたのです。

ほんの数か月で、この青年は深刻な健康上の試練に見舞われました。体の一部がまひしたのです。その結果、治療のために自宅へ帰されました。

数か月後、青年は完全に回復し、まひもなくなりました。もう一度宣教師として奉仕できるという連絡を受けました。その祝福は毎日の祈りに対する答えでした。唯一失望したのは、自宅へ帰される前と同じ伝道部に戻るといふ知らせでした。その伝道部で働く一部の宣教師の行動や態度が、あるべき姿とは懸け離れていると感じていたからです。

青年は宣教師として良い経験ができるという慰めと確認を求めて神殿に行きました。彼の両親もそのときの神殿参入で、息子が必要な助けを得られるようにと祈りました。

エンダウメントが終わって日の栄えの部屋に入ると、青年は椅子に座り、天の御父の導きを求めて祈り始めました。



間もなく、ランドンという名の青年が日の栄えの部屋に入ってきました。部屋に入るとすぐに、ランドンの目は、椅子に座って目を閉じ、明らかに祈っている青年に引き付けられました。ランドンはこの青年に話し掛けるべきだという明確な御霊のささやきを感じました。しかし、祈りをじゃますることにためらいを感じ、待つことにしました。数分たっても、青年はまだ祈り続けていました。ランドンはもうこれ以上御霊のささやきを後回しにできませんでした。彼は青年に近づき、肩にそっと手を触れました。青年は祈りが遮られたことに驚いて目を開けました。ランドンは静かにこう言いました。「あなたに話し掛ける必要があると感じました。理由はよく分からないのですが。」

二人は話し始めました。青年はランドンに心を打ち明けました。置かれた状況について説明し、最後に伝道について何らかの慰めや励ましを受けたいと言いました。ランドンはちょうど1年前に実り多い伝道から帰還したばかりで、自分の伝

道の経験、自分が直面した試練や不安、どのように主に助けを求めたか、そして自分が受けた祝福について話しました。ランドンの言葉に青年は慰めを得、安心感を覚えました。ランドンの伝道に対する情熱には感化力がありました。いつしか青年の恐れは消え去り、平安が訪れました。自分の祈りがこたえられたことに気づき、青年は心から感謝しました。

二人の青年は一緒に祈りました。それからランドンは、御霊のささやきに耳を傾けてよかったと思いながら、帰る準備をしました。ランドンが立ち去ろうとしたとき、青年はこう尋ねました。「どこで伝道したのですか。」この時点まで、二人ともどの伝道部で奉仕したか、互いに話していませんでした。ランドンが伝道部の名前を告げたとき、青年の目に涙があふれました。ランドンが伝道したのは、これから青年が戻ろうとしていたまさにその伝道部だったのです！

わたし宛ての最近の手紙で、ランドンは別れる前に青年が語ったことを教えて



中央初等協会会長
ローズマリー・M・ウィクソン

くれました。「わたしは天の御父が祝福してくださると信じていました。しかし、わたしの伝道部でかつて奉仕した人を助け手として遣わしてくださるとはまったく想像していませんでした。今、全てはよくなるのだということを知っています。」² 御父は誠実な心でささげられる謙遜な祈りを聞き、こたえてくださるのです。

兄弟姉妹の皆さん、人生に誘惑は付き物です。試練や困難は必ずあります。神殿に行くときに、神殿で交わす聖約を思い起こすときに、わたしたちは誘惑に打ち勝ち、試練を堪え忍ぶことができます。神殿でわたしたちは平安を見いだすことができるのです。

神殿の祝福はこの上なく貴重なものです。わたしが自分の人生で毎日感謝している祝福は、愛する妻フランシスとともに神殿の聖壇の前でひざまずき、二人を永遠につなぎ合わせる聖約を交わしたという祝福です。わたしにとって、彼女と再び一緒になれるという知識から受ける平安と慰めほど貴重な祝福はありません。

天の御父の祝福により、わたしたちが神殿での礼拝に対する特別な精神を持つことができますように。また、わたしたちが御父の戒めに従順であり、わたしたちの主、救い主、イエス・キリストの足跡を注意深くたどることができますように。わたしは証あかしします。イエス・キリストは贖あがない主であり、神の御子であられます。イエス・キリストこそ、最初の復活祭の朝に墓から出てこられた御方、神の全ての子供たちに永遠の命たまものの賜物をもたらして下さった御方です。このすばらしい日に、あの重大な出来事を祝う日に、主の偉大で驚くべき賜物に感謝の祈りをささげることができますように。そのようになりますように、主の聖なる御名みなにより祈ります。アーメン。■

信仰に立ち返る

わたしたちは皆、キリストを信じる信仰を強め、それぞれの旅の途中で喜びを見いだすことができます。

モ
ンソン大管長、この復活祭の朝に、生ける預言者の声を聞けることに心から感謝します。大管長の言葉、特に「人生の旅路に喜びを見いだす」¹ ように、また「未来は皆さんの信仰と同じく希望に満ちています」² という勧告を大切に思っています。

今年、初等協会の子供たちは「主はわたしを愛してくださる」を歌い、イエス・キリストを信じる信仰の喜びと輝きを分かち合っています。子供たちは「主のため心ささげる、確かに主は愛してくださる」という真理を歌います。³ 初等協会の子供

たちのように、わたしたちも皆、キリストを信じる信仰を強め、それぞれの旅の途中で喜びを見いだすことができます。

最近扶助協会の集会で、自分の改心の旅路について話す若い母親の言葉に耳を傾けました。彼女は教会で育ち、両親から福音を教わりました。初等協会と若い女性とセミナーに出席しました。彼女は真理を学び見つけるのが大好きで、いつも理由を知ろうとしました。ラッセル・M・ネルソン長老はこう言っています。「主は知りたいと願う人にしか教えることができます。」⁴ この女性は教えられる



注

1. ヨハネ 14 : 27
2. トーマス・S・モンソンが所有する手紙から。



状態にありました。

高校を卒業すると、彼女は大学に進学し、帰還宣教師と神殿で結び固められ、かわいい子供たちが生まれました。

探求心に富んでいたこの母親は、質問を続けました。しかし、質問が難しくなるにつれ、答えも得にくくなりました。時には答えがない、あるいは平安をもたらす答えがないこともありました。やがて、答えを見つけようとすればするほど疑問が湧き、信仰の根幹に関わることにまで疑問を抱き始めました。

混乱していた時期に、周囲の人から「わたしの信仰に頼ればいい」と言われたとき彼女はこう思いました。「できないわ。この問題を抱えていない人には分からないもの。」彼女はこう説明します。「疑問を持たない人たちがわたしを尊重してくれるのなら、わたしもその人たちの喜んで尊重したいと思いました。」実際、多くの人々がそうしてくれました。

「両親はわたしの気持ちを知っていて、そっとしておいてくれました。自分で解決しようとしている間、わたしを愛してくれました」と彼女は言いました。彼女のビショップもよく面接をして、信頼していると言ってくれました。

ワードの会員もためらわずに愛を示したので、彼女は受け入れられていると感じていました。彼女のワードは完璧を装う場ではなく、養いの場でした。

彼女はこう振り返ります。「興味深いことに、当時わたしは、亡くなった祖父母と

強いつながりを感じていました。祖父母はわたしを応援し、頑張るように励ましてくれました。『知っていることに集中しなさい』と言っているように感じました。』

支援してくれる人が大勢いたにもかかわらず、彼女はあまり教会に行かなくなりました。彼女はこう言います。「教会から離れたのは、不品行のせいでも、霊的なことに無関心になったせいでもなく、戒めを守らない言い訳や逃げ道のためでもありませんでした。『自分は何を本当に信じているのか』という疑問の答えを見つける必要があったからです。』

その頃、彼女はマザー・テレサの言葉を読み、彼女も同じような気持ちになったことを知りました。1953年の手紙にマザー・テレサはこう記しています。「わたしが主の業を台なしにしないように、そして主が御自身を現されるように、わたしのために特別に祈ってください。なぜなら、わたしの中に恐ろしい闇があり、全てが死んでいるかのようだからです。『この業』を始めた頃から、このような状態が続いています。わたしに勇気を賜うよう主にお願ひしてください。』

ペリエ大司教はこう返信しています。「親愛なるマザー、神があなたを導いてくださいます。あなたは自分で思っているほどの闇の中にはいません。従うべき道がすぐに明らかにならないことも往々にしてあります。光を求めて祈りなさい。決断を急がず、人の意見とその根拠に耳を傾けなさい。必ず役に立つことが見つかるでしょう。

……信仰と祈りと論理に導かれ、正しい目的を持っていれば、それで十分です。』⁵

全ての答えが得られなくても、全てに明瞭さを感じられなくても、マザー・テレサが自分の宗教に従えたのなら、自分にもできるかもしれないと彼女は思いました。信仰を持って小さな一歩を踏み出し、さらに一歩進み、信じている真理に集中し、その真理で思いと心を満たすことができるのです。

当時を振り返って彼女は言います。「わたしの証^{あかし}は灰の山になっていました。燃え尽きていたのです。残っていたのはイエス・キリストだけでした。疑問を持つときも、主は決して見離したりなさいません。戒めを守ろうとしている人に門は開かれているのです。祈りと聖文研究が非常に大切になりました。』

信仰を築き直す第一歩として、彼女は基本的な福音の真理から始めることにしました。初等協会の歌集を買って歌の歌詞を読むと、それらは彼女の宝となりました。彼女は心の重荷が軽くなるよう信仰を求めて祈りました。

疑問に感じる言葉に遭遇したときは、「一呼吸おき、全体像を見て、福音を自分に当てはめてみました。」彼女は言います。「『これは自分と家族にとって正しい道だろうか』と自問しました。時には、『子供たちにどうなってほしいのか』と自問しました。すると、神殿結婚をしてほしいと思っていることに気づきました。そのときに、信じる気持ちが心に戻ってきました。』

ジェフリー・R・ホランド長老はこう言っています。「謙遜、信仰、聖なる御霊^{みたま}の影響〔は〕いつもあらゆる真理の探究の要素となります。』⁶

彼女はモルモン書の起源に疑問を抱いていましたが、モルモン書の中の、自分が真理だと知っている事柄は否定できませんでした。救い主をよりよく知ろうと新約聖書を集中的に学びました。「しかし、結局、モルモン書に戻りました。モルモン



書からイエス・キリストと贖い^{あがな}について読むと、とても良い気持ちでしたからです。」

彼女の結論はこうでした。「モルモン書の中の真理について自分で霊的な経験をする必要があります。」彼女は実際にそれを経験し、こう説明しました。「モーサヤ書を読んだとき、自分は完全に導かれていると感じました。『神を信じなさい。神がましますことと、神が……万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄すべては理解しないということ信じなさい。』」⁷

その頃、彼女に初等協会の伴奏者として奉仕する召しが与えられました。「その召しに安心しました」と彼女は言います。「子供たちが初等協会に行くのを望んでいたし、その召しなら子供たちと一緒にいることができます。それに、教師として教える準備はまだできていませんでしたから。」奉仕している間も、周りの人々の温かさを感じました。「いらっしゃい。あなたが今どんな段階にあっても、あなたを受け入れます。今のあなたにできる奉仕をしてください」と。

初等協会の歌の伴奏をしながら彼女はよく考えました。「これはわたしの大好きな真理。証もできる。自分が知っていて信じていることだけを話そう。完全な知

識ではないけれど、それがわたしのささげもの。心を注いだ事柄はわたしの中で成長する。福音の本質に立ち返り、確信を感じられるのはすばらしいことだわ。」

その日曜日の朝、この若い姉妹が自らの旅路について語るのを聞きながら、人は皆贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを思い出しました。⁸ また、ジェフリー・R・ホランド長老の勧めも頭に浮かびました。「すでに知っていることに固くしがみついても、新たな知識を得るまで、強くあってください。」⁹

彼女のレッスンの間、より深く理解したことがありました。それは、心から知りたいと思う疑問は、熱心に求め、戒めを守って生活するときに答えが与えられるということです。信仰はそのときの論理の限界を超越できることを思い出しました。

わたしはこの若い母親を温かく支えた人々のようにになりたいと心から思います。ディーター・F・ワークトドルフ管長が言ったように、「わたしたちは皆、神の光を求めつつ弟子としての道を歩む巡礼者なのです。光の多い少ないによって人を責めることなどしません。むしろ、どのような光の人をも養い励まし、はっきりと明るく輝く本物の光になれるように助けます。」¹⁰

初等協会の子供たちが「子供のいのり」を歌うときに、こう尋ねます。「お父さま、[本当におられるの。]子供たちのいのりをきいてくださるの。」¹¹

わたしたちも「天の御父は本当におられるのか」と疑問に思うことがあるかもしれませんが、結局あの女性のように、静かで簡潔な確信という答えを受けて喜ぶのです。そのような簡潔な確信は、主の御心が自分のものとなるときに与えられると証します。現在地上に真理があり、主の福音が末日聖徒イエス・キリスト教会にあることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「人生の旅路に喜びを見いだす」『リアホナ』2008年11月号、86
2. トーマス・S・モンソン「元氣を出しなさい」『リアホナ』2009年5月号、92
3. 「主はわたしを愛してください」『2015年度 分かち合いの時間、ならびに聖餐会での発表の概要——わたしは救い主が生きておられることを知っています』28-29
4. ラッセル・M・ネルソンの言葉。M・ラッセル・バラード、「What Came from Kirtland」(ブリガム・ヤング大学ファイアサイド、1994年11月6日)、speeches.byu.eduで引用
5. Mother Teresa: Come Be My Light—The Private Writings of the Saint of Calcutta, ブライアン・コロディチュク編(2007年)、149-150
6. ジェフリー・R・ホランド「恐れることはない。ただ信じなさい」(ジェフリー・R・ホランド長老とのタペ、2015年2月6日)、lds.org/broadcasts
7. モーサヤ4:9
8. ヒラマン5:12 参照
9. ジェフリー・R・ホランド「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号、94
10. ディーター・F・ワークトドルフ「光と真理の証を受ける」『リアホナ』2014年11月号、22
11. 「子供のいのり」『子供の歌集』6-7



七十人
ジョセ・A・ティシエラ長老

主を仰ぎ見る

救い主に対する理解を深めるなら、喜びに満ちた生活をしたいという望みは強くなり、喜びを得られるという確信が得られ……ます。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この総大会に参加し、皆さんの前に立つことができるのは大きな喜びです。これまで何年もの間、総大会で与えられる知恵と勧告、慰めと警告に満ちた言葉に耳を傾けてきたことは、ティシエラ姉妹やわたしたちの家族、そしてわたし自身にとって、計り知れない祝福となりました。

一年のこの特別な季節、特に復活祭の安息日に当たる今日、わたしの人生における救い主の教えと優しく愛に満ちた主の模範の意義を深く思わずにはいられません。

イエス・キリストについての理解が深ま

れば、未来への希望が膨らみ、不完全なわたしたちでも、義にかなった目標を達成できるという自信も強まります。さらには、同胞に仕えたいという望みが深くなります。

主は言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」¹ 主を求め、主の臨在を感じることは、日々の探求であり、努力する価値があります。

兄弟姉妹の皆さん、現代はどの時代にも増して、イエス・キリストの教えとその贖罪しよくざいについて理解を深めるための特別な機会とリソースが自由に利用できる時代です。こうしたリソースを適切に活用することは、わたしたちが喜びに満ちた実り多い生活を送るための助けとなります。

救い主は、ぶどうの木と枝のたとえで次のように言われました。「わたしにつながっていないさ。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていないよう。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができない。」²

わたしたちの生活におけるキリストの偉大な役割に対する理解が深まるにつれ、わたしたちはこの死すべき世におけるわたしたち自身の目的をさらに意識するようになります。その目的とは喜びを得ることです。だからと言って、試練や困難を経験し

ないということではありません。時には、幸福になることなど不可能だと思えるような、深刻で複雑な状況も経験します。

この世の生涯かんなんに艱難は付き物ですが、義にかなった生活をし、キリストとつながっていることで得る喜びを持ち続けることができます。それをわたしは自分自身の経験から知っています。最終的には、そうした艱難がわたしたちを豊かにし、清め、わたしたちが存在する目的とイエス・キリストの贖罪についての理解を深めてくれることがよくあります。完全な喜びは、イエス・キリストを通じてのみ、得ることができるのです。³

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人につながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」⁴

救い主に対する理解を深めるなら、喜びに満ちた生活をしたいという望みは強くなり、喜びを得ることができるとい確信が得られることを、わたしは信じています。その結果、たとえ困難な状況にあっても、もっと熱心に一日一日を生き、もっと熱心に神の戒めを守ることができるようになります。

今日できることを明日に延ばさないようにしましょう。今こそキリストのみもとに来るときです。「[キリストを]信じるならば、今日と呼ばれるうちに働くであらう」⁵とあるからです。

毎日、キリストの教えに度々触れることを考えなければなりません。日々のささやかで簡単な振る舞いや行動は、次の結果を生じます。

1. 自分の人生における主の意義についての理解を深めてくれます。
2. その理解を若い世代に伝えるのを助けてくれます。そして彼らは、福音に誠実に生きるわたしたちの模範を目に



するときに、必ず御父と御子イエス・キリストの愛を感じるでしょう。

では、キリストとその使命に対する証^{あかし}を強めるうえで、現代における魂の乳香となる簡単な行動にはどのようなものがあるでしょうか。



上：総大会の様子は飛行機の中からも受信できる。左：2014年の『ナショナル・ジオグラフィック』(National Geographic) 誌の写真コンテストで優勝した写真。中央の女性は「肉体はそこにあっても、本当の意味ではそこにはいない」というメッセージを他の乗客に明確に伝えている。



2014年の『ナショナル・ジオグラフィック』誌の写真コンテストには、150か国以上のプロと熱心なアマチュアカメラマンから、9,200通の応募がありました。優勝した写真は、満員列車の中央にいる一人の女性を撮ったものでした。彼女の携帯電話から出た光が彼女の顔を照らしています。他の乗客に対する彼女のメッセージは明白です。自分の肉体はそこにあっても、本当の意味ではそこにはいないというメッセージです。⁶

モバイル・データ、スマートフォン、ソーシャル・ネットワークが、この世における人の在り方やコミュニケーション方法を大きく変えました。

このデジタル時代には、永続する喜びに満ちた生活に欠かせないものを奪ってしまうような場所や活動に、わたしたちは瞬時に移動し参加できてしまいます。

このネットワーク中心の生活を放任すれば、一緒に生活している自分の家族よりも、会ったこともない知らない人との関係の方を重視することになり得ます。

その一方で、優れたオンラインのリソースが祝福となっているのは誰もが知っていることです。その中には、教会が開発した、聖典や総大会の文字や音声、イエス・キリストの生涯と教えたビデオ、家族歴史を記録するためのアプリ、靈感あふれる音楽を耳にする機会もあります。

オンラインにアクセスしているときに何を選び優先するかは、重大な結果をもたらします。それらが、わたしたちの霊的な進歩と福音における成長を、また、よりよい世界に貢献しさらに生産的に生活したいという願いを決めることになり得るのです。

そこで、わたしは健全にオンラインを利用するための3つの簡単な習慣を紹介したいと思います。これらの習慣によって、天の御父とその御子イエス・キリストの教えにさらに近づくために必要とされる日々の自己評価ができるようになります。

習慣その1：教会の公式ウェブサイトから必要なリソースを得る

週に何度もこうしたリソースを閲覧すれば、わたしたちは福音の教えに常に敏感になり、家族や友人に、一番大切なものについて考え、思い巡らすように励ますことができるようになります。

習慣その2：教会の公式ソーシャル・ネットワークに登録する

これをする、主と主の教えに対する研究を深め、求めるうえで欠かせないコンテンツが画面に出てきて、福音を理解したいという望みを強めてくれます。もっと大切なことは、キリストがわたしたち一人一人に願っておられることを忘れないでおくことができるということです。



管理ビショップリック
ジェラルド・コセービショップ

「よい農夫のいないところに、よい土壌はない」⁷と言われるように、最初から、指と心でアクセスするものに優先順位をつけておかなければ、オンラインによるよい収穫はありません。

習慣その3：モバイル機器から離れる時間を設ける

しばらく電子機器を脇に置き、その代わりに聖典のページをめくったり、家族や友人と会話したりする時間を取ると気分が一新されます。特に主の日には、新しいメッセージや投稿を絶えず確認することなしに聖餐会^{せいさん}に出席する、ということから得られる平安を味わってください。

モバイル機器からしばらく離れる習慣により、人生観は広がり、豊かなものになります。人生は、4インチの画面に閉じ込められたものではないからです。

主イエス・キリストは言われました。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。」⁸ 神は、わたしたちが喜びと神の愛を感じることを願っておられます。キリストは、わたしたち一人一人がそのような喜びを味わえるようにしてくださいます。わたしたちは、キリストをさらによく知り、福音に従って生きるための方法を持っているのです。

戒めを守るときにそのような喜びがあることを証します。また、天の御父と御子である救い主の愛につながっているときに、平安と安心を感じられることを証します。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 6:36
2. ヨハネ 15:4
3. ヨハネ 15:11 参照
4. ヨハネ 15:5
5. 教義と聖約 64:25
6. “Photo Contest 2014”, National Geographic, photography.nationalgeographic.com/photography/photo-contest/2014/ 参照
7. 作者不詳
8. ヨハネ 15:9

あなたにとって福音は 今でも すばらしいものですか

福音のすばらしさに驚くことは信仰のしるしです。それは、自分の生活や周りの物事の中に主の御手^{みで}を認めることです。

妻 とわたしは、5人の子供たちを華の都パリ近郊で育てるというすばらしい経験をしました。そこに住んでいた間、子供たちにこの世界の驚くべきものを発見する機会をたくさん与えたいと思いました。毎年夏には、ヨー

ロッパ各地の最も価値ある記念碑や史跡やすばらしい自然を見物しようと家族で長い旅行をしました。パリ近郊で22年間生活した後、ついに引越すことになりました。子供たちがわたしのところに来て、こう言った日のことをまだ覚えていま





す。「父さん、本当に恥ずかしいよ。僕たちずっとここに住んでいるのに、一度も行ったことがないんだよ、エッフェル塔に。」

世の中にはすばらしいものがたくさんあります。しかし、それらが常に目の前にあると、ありふれたものになってしまうことがあります。見えているのに実際は見えておらず、聞こえているのに本当は聞いていないのです。

地上で教導の業を行われているときにイエスは弟子たちにこう語られました。

「あなたがたが見ていることを見る目は、さいわいである。

あなたがたに言っておく。多くの預言者や王たちも、あなたがたの見ていることを見ようとしたが、見ることができず、あなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである。」¹

救い主の時代に生きていたらどうだったろうかとわたしはよく考えます。自分が主の足もとに座っている姿を想像できますか。主に抱き締められたとしたら、主が人々に仕えておられるのを見たらどうでしょうか。それでも、主を見た多くの人は、まさしく神の御子が彼らの中におられることが「見え」ていませんでした。

わたしたちも特別な時代に生きる特権を受けています。古代の預言者は回復の

業を「驚くべき業……まことに驚くべき業と不思議」と考えていました。² これまでの神権時代の中で、これほど多くの宣教師が召され、これほど多くの国が福音の伝道を許可し、これほど多くの神殿が世界中に建てられたことはありません。

末日聖徒であるわたしたちにとって、すばらしい出来事は個人の生活の中でも起きています。これには個人の改心や祈りに対する答え、そして毎日神が注いでくださる憐れみ深い祝福も含まれます。

福音のすばらしさに驚くことは信仰のしるしです。それは、自分の生活や周りの物事の中に主の御手を認めることです。わたしたちの驚きは霊的な強さも生みます。その驚きは、信仰にしっかりつかまり続け、救いの業に携わる力を与えてくれます。

しかし、注意しましょう。驚く能力は、はかないものです。時がたつと、戒めを表面的に守るようになっていたり、無関心になっていたり、飽きたりして、福音の最も驚くべきしるしや奇跡に対してさえ心が鈍ってくるかもしれません。

モルモン書には、メシヤがアメリカ大陸を訪れる前に今とよく似た時代があったことが記されています。突然、主の降誕のしるしが天に現れました。人々は驚きのあまり謙遜になり、ほとんどの人が改心し

ました。しかし、わずか4年後に「民は前に聞いたあの数々のしるしと不思議を忘れ始め、またしるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなってきた。……彼らはかつて見聞きしたすべてのことを信じなくなりました。」³

兄弟姉妹、福音は今でもあなたにとってすばらしいものですか。今でも見、聞き、感じ、驚くことができますか。それとも、あなたの霊のセンサーは待機モードになったりしていませんか。あなたの状態がどのようなものであっても、次の3つを行うようにお勧めします。

第1に、福音の真理を発見、または再発見することに決して飽きないでください。作家のマルセル・ブルーストはこう述べています。「真の発見の旅とは、新しい景色を探ることではない。新しい目で見ることなのだ。」⁴ あなたは聖句を読んでいるときに主から個人的に話しかけられているようだと思つて感じたときのことを覚えていますか。聖霊の甘美な影響を初めて感じたときのことを思い出せますか（それはあなたが聖霊を認識する前のことだったかもしれません）。それらは、神聖で特別な瞬間ではありませんでしたか。

わたしたちは毎日、飢え渇きながら霊的な知識を求めべきです。この個人的な



習慣は学習と瞑想めいそうと祈りの上に築かれます。時にわたしたちは次のように考えるように誘惑されます。「今日は聖典を研究する必要はない。だって前に全部読んだのだから。」あるいは「今日は教会に行く必要はない。だって新しいことは何もないのだから。」

しかし、福音は決して枯れることのない知識の泉です。毎週の日曜日に、全ての集会に、全ての聖句に、新たに学び、感じることでできる何かがあります。信仰をもって「捜せ、そうすれば、見いだすであろう」という約束にすぎません。⁵

第2に、福音の分かりやすくして簡潔な真理の上に信仰を築いてください。わたしたちの驚きの基礎を成すべきものは、わたしたちの信仰の中心的な原則、聖約と儀式の純粋さ、そして最も簡素な礼拝行為の中にあるべきです。

ある姉妹宣教師が、アフリカの地方部大会で出会った3人の男性の話をしてくれました。彼らは教会がまだ組織されていない辺境の村から来ていました。そこには15人の忠実な会員と20人ほどの求道者がいました。この男性たちは大会に出席するため、仲間から預かった什分の一じゅうぶんを携えて、雨季のためぬかるんでいた480キロメートル以上におよぶ道のりを、2週間以上かけて歩いて来ました。彼らは丸1週間滞在して、次の日曜日に聖餐せいさんを受ける特権にあずかろうと計画してい

ました。そして、帰る際にはモルモン書がいっぱい詰まった箱を頭に載せて行き、村の人々に配りたいと考えていました。

その姉妹宣教師は、この兄弟たちが見せた驚きの感性や、彼女が当たり前のように受けていたものを手に入れるためにその兄弟たちが払った心からの犠牲を見て、深い感銘あかしを受けたと証してくれました。

彼女はいぶかりました。「もしある日曜の朝、アリゾナの家で目覚めたときに車が故障していたら、わたしはわずか数百メートル先の教会まで歩いて行くだろうか。それとも、遠すぎるからとか、雨が降っているからとかいう理由で家にとどまっているだろうか。」⁶ これらはわたしたちすべてが考慮すべき良い問いかけです。

最後に、聖霊を伴侶にすることを求め、大切にしてください。福音のすばらしさのほとんどは五感では感知できません。これらは「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、……神〔が〕ご自分を愛する者たちのために備えられた」ことなのです。⁷

御霊みたまとともにあると、わたしたちの霊的な感覚が研ぎ澄まされ、記憶力が高められるので、目にした奇跡やしるしを忘れません。だからこそ、ニーファイ人の弟子たちはイエスが自分たちのもとを去られるときに、「自分たちが最も望んでいるもの〔すなわち〕聖霊が授けられるようにと」祈ったのです。⁸

彼らは自分の目で救い主を見、自分の

手で救い主の傷跡に触れましたが、彼らの証は神の御霊の力によって常に更新されなければ弱くなってしまうことを知っていました。兄弟姉妹、この貴い、驚くべき賜物たまもの、すなわち聖霊を伴侶にできるといふ賜物を失う危険を冒すことは決してしないでください。熱心に祈り、義にかなった生活をするにより聖霊を求めてください。

わたしたちが携わっている業が「不思議な驚くべき業」であることを証します。イエス・キリストに従うとき、神は「しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨みむねに従い聖霊を各自たまに賜うことによって」証されます。⁹ この特別な日に、福音の不思議と驚くべき業には全て、神の最も偉大な賜物がその根底しょくぞいにあることを証します。すなわち救い主の贖罪です。贖罪は、目的において一つであられる御父と御子がわたしたち一人一人に授けてくださった完全な愛の賜物です。皆さんとともに、わたしは「主イエスの愛に……〔そして〕奇しき業……にただ驚〔いています。〕」¹⁰

驚くべき福音のすばらしさを見る目、聞く耳、感じ取る心が、いつもわたしたちにありますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ルカ 10：23 - 24
2. 2 ニーファイ 27：26
3. 3 ニーファイ 2：1
4. "Marcel Proust," *Guardian*, 2008年7月22日付, theguardian.com/books/2008/jun/11/marcelproust.
5. マタイ 7：7
6. ロレイン・バード・ジェームソン, "The Giants of Kinkondja" (アフリカ南東地域ウェブサイトの記事, 2009年)を基に編集, web.archive.org/web/20101210013757/http://www.lds.co.za/index.php/news-a-events/news/aseanews/91-the-giants-of-kinkondja.
7. 1 コリント 2：9
8. 3 ニーファイ 19：9
9. ヘブル 2：4
10. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番



七十人
ブレント・H・ニールソン長老

ほうとう 放蕩息子を待つ

皆さんやわたしに啓示が与えられて、道に迷っている身近な人々に手を差し伸べるための最良の方法は何かを知ることができますように。

救い主は地上での教導の業の時間を、御自分の持つ癒やしと贖いの力について教えて過ぎされました。新約聖書のルカによる福音書第15章によれば、あるとき、主は罪人たちと一緒に食事をしていることで批判をお受けになりますが(ルカ15:2参照)、その機会に、迷い出た人々にどう対応するべきかを教えられました。

主は、批判した人たちに二つの大切な質問をされました。

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つかるまでは捜し歩かないであらうか。」(ルカ15:4)

「ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであらうか。」(ルカ15:8)

その後で、救い主は放蕩息子のたとえを教えられました。このたとえは、100匹の羊や10枚の銀貨についての話ではなく、いなくなった一人の大切な息子についての話です。このたとえを通じて、救い主は、家族が道から迷い出たらどう対応したらよいかを教えてくださいました。

放蕩息子は、今すぐに受け継ぎが欲しいと父親に告げます。彼は家庭や家族と

いう安全な場所を捨てて、この世の物を追い求めたかったのです(ルカ15:12-13参照)。救い主のたとえの中では、父親が息子に彼が受け継ぐ分を渡すという愛情のこもった対応をしていることに注目してください。もちろん、父親は息子が家にとどまるようにと全力で説得したことでしょう。しかし、成人した息子が一旦結論を出すと、この思慮深い父親は息子を出て行かせます。それから父親は心からの愛を示し、見守り、待ち続けるのです(ルカ15:20参照)。

わたしの家族にも同じような経験があります。信仰深い兄と弟、すばらしい姉、そしてわたしの4人は、模範的な両親の下で育

てられました。家庭では福音が教えられ、4人とも成人し、それぞれ伴侶と神殿で結び固められました。ところが、1994年、姉のスーザンが教会とその教えの一部に不満を抱くようになりました。教会の初期の指導者たちをあざ笑い、批判する人々の主張に姉は共感しました。彼女は生ける預言者や使徒に対する自分の信仰が弱まるのを許しました。やがて、疑いが信仰を打ち負かしました。姉は教会を去ることを選びました。スーザンは自分の経験が誰かの助けになることを願い、この話を紹介するのを許可してくれました。

すでに父に先立たれていた母と、わたしたち兄弟は非常に落胆しました。一体なぜ姉は信仰を捨てたのか、わたしたちには想像もつきませんでした。

兄も弟もわたしも、ビショップや定員会会長を務め、ワードや定員会において99人を残して一人を捜しに行き、救い出すという喜びを経験してきました。しかし、実の姉の場合は、救い出し、連れ戻すためのわたしたちの努力は、かえって姉を遠ざけてしまうだけでした。

姉に適切に対応するにはどうしたらよいか、天の導きを求めたとき、わたしたちは放蕩息子のたとえに出てくる父親の模範に従う必要があるということがはっきり





と分かりました。姉自身の選択ですから、比喩的な意味で行かせてあげなければなりません。わたしたちの心からの愛を彼女に知らせ感じてもらうことはできます。そこで、わたしたちは愛と思いやりの心を新たに、見守り、待ちました。

母はスーザンに対する愛と思いやりを持ち続けました。母は神殿に入るたびに、祈りの名簿にスーザンの名前を書き、希望を決して失いませんでした。兄夫婦は、当時、カリフォルニア州にいたスーザンの一番近くに住んでいたため、家族の行事にいつも彼女を招待しました。スーザンの誕生日には、毎年ディナーを準備しました。いつもスーザンと連絡を取り、彼らの心からの愛を知ってもらえるようにしました。

弟夫婦も、ユタ州にいるスーザンの子供たちとの交流を保ち、愛と思いやりを示し続けました。家族の集まりがあれば、いつもスーザンの子供たちを招待しました。やがて、スーザンの孫娘がバプテスマを受ける年齢になったとき、弟がその儀式を施しました。スーザンにはまた、決してあきらめない、優しいホームティーチャーと家庭訪問教師がいました。

わたしの子供の伝道や結婚のときは、スーザンを家族で祝う場に招待し、参加してもらいました。スーザンや彼女の子供たちがわたしたちと一緒に過ごし、彼らが愛され、家族の一員であることを感じてもらうように家族の行事を計画しました。スーザンがカリフォルニアの大学院か

ら上級学位を取得したときには、わたしたちは皆卒業式に集まって祝いました。彼女の選択については全てを受け入れることはできませんでしたが、彼女自身のことには心から受け入れました。わたしたちは愛し、見守り、待ちました。

2006年、スーザンが教会を離れてから12年が過ぎたその年、わたしの娘のケイティの夫が法科大学院で学ぶことになり、娘夫婦はカリフォルニアに引っ越し、スーザンと同じ市に住みました。この若い夫婦は、おばのスーザンに助けを求め、スー

ザンが大好きになりました。スーザンはわたしたちの2歳の孫娘ルーシーの面倒を見てくれました。夜はルーシーのおやすみのお祈りを助けてくれました。ある日、ケイティはわたしに電話をしてきて、スーザンは教会に戻ってくると思うかと尋ねました。わたしは「必ず戻ってくる。だから、これからも忍耐し続けよう」と答えました。さらに3年が過ぎました。変わらぬ愛をもって、見守り、待ちました。

6年前の今日、妻のマーシャとわたしはこのカンファレンスセンターの最前列に



座っていました。その日わたしは新しい中央幹部として支持を受けることになっていました。いつも御霊に敏感なマーシャは、わたしに次のようなメモを渡しました。「今こそスーザンが戻ってくるときだと思う。」娘のケイティは、わたしに会場から出て、スーザンに電話をして、その日の総大会を見るように勧めてはどうかと言いました。

この二人の偉大な女性に促され、わたしはロビーに出て、姉に電話をしました。留守番電話にメッセージを残し、総大会のその部会を見てほしいとだけ伝えました。そのメッセージを聞いた彼女は、うれしいことに、総大会の全ての部会を視聴したいと感じました。彼女はかつて愛していた預言者や使徒の話の聞き手でした。またそれまで聞いたことのない、ワークドナルフ管長やベドナー長老、クック長老、クリストファーソン長老、アンダーセン長老などの、新しい幹部の名前も耳にしました。この経験や、天から与えられたその他の特別な経験を通じて、姉はあの放蕩息子のように、本心に立ちかえりました(ルカ 15:17 参照)。預言者や使徒たちの言葉、そして家族の愛が、姉の心を動かして、姉は向き直ってふるさとへ向かう歩みを始めました。15年が経過して、かつて道から迷い出ている姉が見つかりました。見守り、待つことが終わったのです。

スーザンはこの経験を、モルモン書のリーハイと同じように表現しています。姉は鉄の棒から手を離し、暗黒の霧の中にいました(1ニーファイ 8:23 参照)。キリストの光が信仰を再び目覚めさせるまでは、迷い出ていることに気づけなかったと言いました。キリストの光は、世の中の経験と、主と家族が与えようとしているものの違いをはっきり示してくれました。

その後の6年間、奇跡が起きています。スーザンはモルモン書についての新たな証を得ました。彼女は神殿推薦状を受け、神殿の儀式執行者としても奉仕しまし



た。現在は、ワードの福音の教義クラスの教師をしています。天の窓が彼女の子供たちや孫たちにも開かれました。数々のつらい結果も味わいましたが、今ではまるで姉が教会を離れたことなどなかったかのような気がします。

皆さんの中にも、ニールソン家のように、一時的に道から迷い出た家族を持つ人が多くいることでしょう。100匹の羊を持つあらゆる人々に与えられた救い主の指示は、99匹をおいて、一匹を救出するために捜しに行きなさい、というものです。10枚の銀貨を持っていて1枚をなくした人々に与えられた救い主の指示は、見つかるまで捜しなさいというものです。そのなくしたものが、自分の息子や娘、兄弟や姉妹であって、その人が自分で去ることを選んだとしても、わたしたちが自分の家族の中で学んだことは、行えることを全て行った後で、心の底から愛し、見守り、祈り、主の御手が示されるまで待つということです。

おそらく、この経験を通してわたしが主から学んだ最も重要な教えは、姉が教会を離れた後に家族で聖文研究をしていたときに与えられました。ルカによる福音書第15章を家族で研究していたときに、息子のデビッドがそこを読んでくれました。放蕩息子のたとえを読んだとき、その日は、以前読んだときとはまったく違って聞こえました。どういうわけか、それまでいつもわたしは家に残った兄であると考え

ていました。しかし、その朝デビッドが読んでくれたとき、わたしも放蕩息子であることに気づいたのです。人は皆、御父の栄光を受けられなくなっています(ローマ 3:23 参照)。皆、癒やしていただくために救い主の贖罪を必要としています。皆、道に迷い、見つけてもらわなければならない存在なのです。その日に受けたこの啓示のおかげで、姉もわたしも救い主の愛と主の贖罪を必要とする存在であることに気づきました。スーザンもわたしも実は同じ家路をたどっていたのです。

たとえの中で、父親が放蕩息子を出迎える場面を語る救い主の御言葉には力があります。わたしたちが天の家に戻るとき、皆さんやわたしは御父とともに、同じような場面を経験することでしょう。その御言葉は、愛し、見守り、待つことによる父親について教えています。これがその御言葉です。「まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。」(ルカ 15:20)

皆さんやわたしに啓示が与えられて、道に迷っている身近な人々に手を差し伸べるための最良の方法は何か知ることができそうです。必要な場合には、忍耐し、天の御父や御子イエス・キリストのような愛を持ち、放蕩息子や放蕩娘を愛し、見守り、待つことができそうです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

あ わ 憐れみと愛の神の恵み

イエス・キリストは苦しまれ、死を受けられ、死からよみがえられました。それは、イエスが、永遠の命へとわたしたちを引き上げられるためです。

安全用のザイルやベルトなど、登山用具類は何も持たずに、14歳のジミーと19歳のジョンの兄弟（両者ともに仮名）は、わたしの生まれ故郷、ユタ州南部にあるスノー・キャニオン州立公園の切り立った溪谷の崖を登ろうとしていました。長く苦しい岩登りの末に山頂までようやく数メートルという所に来たとき、突き出た岩が行く手を妨げているのに気づき、二人は途方に暮れました。越えることも、引き返すこともできません。八方塞がりです。慎重に戦略を練り上げたジョンは、弟を安全にその岩の上に押し上げられるだけの足場を見つけました。しかし、自分自身を引き上げるのはとても無理です。手がかり、足がかりを見つけようと必死になればなるほど、筋肉はけいれんを起しそうになります。パニックに飲み込まれそうになり、死ぬかもしれないと思い始めました。

もう長く持ちこたえることができないジョンの選択肢は一つだけでした。まっすぐに跳び上がって、突き出た岩につかまることにしたのです。うまくゆけば、屈強な腕の力によって、安全に自分の体を引き上げることができるかもしれません。

彼はこう語っています。

「跳ぶ前、弟に、わたしがつかまれるだけのしっかりした枝を探しに行くようお願い

しました。しかし、岩だらけの山頂にそんなものがないことは分かっていました。必死の思いでついた嘘でした。それが、ジャンプに失敗し、落下して死ぬわたしの姿を見せないために、弟にしてやれるせめてものことでした。

弟の姿が見えなくなるのを待ち、最後

の祈りをささげました。わたしが家族を愛していることを家族に知ってほしいこと、そして、弟が無事に自力で家に帰れるよう祈りました。そして、跳びました。わたしにはまだ十分なアドレナリンが残っていました。跳び上がると岩を越えて肘の辺りまで腕が伸びました。しかし、岩の上に勢いよくついた手に触れたのは、砂だらけの平らな岩でした。しっかりつかまり、握ることのできる溝も突起もないまま、そこでぶら下がっていたときの砂の感触を今でも覚えています。砂だらけの表面から指が少しずつ滑り落ちていくのを感じました。自分の生涯もこれで終わりだと覚悟しました。

しかし、そのとき突然、夏の嵐の落雷のように、2本の腕が崖の縁から突き出たかと思うと、小さな手からは想像できないような力と決意をもって、わたしの手首をつかみました。忠実な弟は、ありもしない木の枝を探しには行かなかったのです。





兄が何をしようと考えているか、正確に把握し、一歩たりとも動きませんでした。弟はただ待ちました。黙って、息を殺して待っていました。わたしが愚かにも跳び上がろうとしていることを完全に分かっていたのです。そして跳び上がったとき、わたしをつかんで支え、落ちるのを防いでくれたのです。あの日、落ちれば必ず死に至る高い所で、なすすべもなくぶら下がっているわたしの命を、弟の力強い腕が救ってくれました。』¹

愛する兄弟姉妹の皆さん、今日は復活祭の日曜日です。わたしたちは(毎週聖餐の祈りで約束するように)いつも覚えていなければなりません、その中でも今日は一年で最も神聖な日です。わたしたちを墮落や弱点、悲しみや罪から救うために、死の深みに差し出された兄弟愛に満ちた手と、決意に満ちた腕を特別に覚えるための日だからです。ジョンとジミーの家族の報告によるこの物語を背景にして、わたしは主イエス・キリストの贖罪と復活に対する心からの感謝を表します。そして、わたしたちを「主イエスの愛」²に導き、主の愛の意味を伝える、神の神聖な計画の中にある幾つかの出来事に感謝を表します。

ますますこの世的になる社会では、アダムとエバやエデンの園の話や、二人が「幸

運な墮落」をして肉体を得た話をするのは異例なことであり、時代遅れと言われるでしょう。しかし、真理は簡潔です。実際にアダムとエバが存在したこと、そして二人が実際のエデンから墮落したことによってあらゆる結果が持ち込まれたことを理解しなければ、わたしたちはキリストの贖罪と復活を完全に理解することはできませんし、他に類を見ないキリストの誕生と死の目的を十分に理解することは不可能です。言い換えれば、そのような理解がなければ、クリスマスや復活祭を真に祝うことはできないのです。

それよりも前にこの惑星で何が起きたのかわたしは詳細に知っているわけではありません。しかし、わたしが確かに知っていることは、この二人が御父の神聖な御手の下で創造されたということ、二人はしばらくの間樂園のような環境で生活したということ、そこでは人の死はなく、将来家族をもうけることもなかったということ、二人は一連の選択によって神の戒めに背いたことで園を去ることになります。そのおかげで肉体の死を迎える前に子供をもうけることが許されたということです。³ 二人のこの状況をさらに悲しく、複雑にしたのは、彼らが背いたことで、神の御前から永遠に断ち切られるという、霊的な結果を招いたことでした。それ以

来、わたしたちはその墮落した世界に生まれたために、そして同じように神の律法に背いてしまったために、アダムとエバと同じ罰を宣告されたのでした。

何と痛ましいことでしょう。全人類は落ちるがままです。老若男女を問わず全ての人は肉体的に永遠の死に向かって転がり、霊的に永遠の苦悩に向かって進んでいます。それが人生の目的なのでしょう。それが人生の最終結果なのでしょう。わたしたちは皆、無慈悲な宇宙のどこかで、冷たい絶壁にぶら下がっているだけなのでしょう。一人一人がつま先をかける場所を探し求め、つかめるものを探しても、砂が指の下を流れていくだけで、救ってくれるものも、つかむものも、しがみつくものもないのでしょうか。むなしく存在するだけが人生の目的なのでしょう。できるだけ高く跳び、定められた齢60年と十歳をぶら下がり続け、そして、力尽きて落ち、永遠に落ち続けるだけなのでしょう。

そうした問いの答えは、明らかに、そして永遠に「否」です。古代や現代の預言者とともに、わたしは「すべての物事は、万事を御存じである御方の知恵によって行われてきた」⁴ ことを証します。こうして、アダムとエバの決断を予想しておられたわたしたち全ての父である神は、最初



の両親がエデンの園から足を踏み出した瞬間から、天の御使^{みつか}いたちを送られ、二人に対して宣言させました。その宣言は時代を下ってわたしたちにも伝えられています。それは、この一連の出来事全体が、わたしたちの永遠の幸福のために計画されたものであるという宣言です。そして、一人の救い主、すなわち神御自身の御子であり、使徒パウロが呼んだもう一人の「アダム」が備えられ、⁵ その御方が、最初のアダムの背き^{あがな}を贖うために、時の中間に降臨されるということも、この神聖な計画の一部でした。この贖罪は、肉体の死に完全な勝利をもたらすものであり、かつてこの世に生を受けた者、これからこの世に生を受ける者全てに、無条件の復活をもたらすものです。また、慈悲深くも、悔い改めて神の戒めに従順であることを条件として、アダムからこの世の終わりに至るまで、あらゆる人の個人的な罪^{ゆる}にも赦しをもたらされることになったのです。

主に聖任された証人の一人として、この復活祭の朝に宣言します。ナザレのイエスはこの世の救い主であられました。また、「最後のアダム」⁶ であり、わたしたちの信仰の導き手、完成者、そして永遠の命のアルファでありオメガであられました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」⁷ とパウロは宣言しました。また、預言者であり族長であったリーハイも宣言しました。「アダムが墮落したのは人が存在するためであ

り、……時が満ちると、人の子らを墮落から贖うためにメシヤが来られる。」⁸ そうした宣言の中で最も端的な教えが、モルモン書の預言者ヤコブが2日にわたって語った、イエス・キリストの贖罪に関する説教の一部です。「復活は、墮落のゆえに必ず人に及ばなければならない。」⁹

そして今日、わたしたちは、死からの復活と罪の赦しについては言うに及ばず、これまで経験したあらゆる失敗、知る限りのあらゆる悲しみ、あらゆる失意、直面したあらゆる恐れに対する勝利の賜物を祝います。その勝利は、2,000年ほど昔、エルサレムで、今日とほとんど同じようなある週末に起きた出来事のゆえに、わたしたちの誰もが手にすることができるのです。

罪も汚れもない聖なる御方である神の御子御自身がなされたことは、それまでに亡くなった人の誰もしなかったことであり、誰もなしえなかったことでした。それはゲツセマネの園での霊的な苦悶で始まり、カルバリで十字架にかけられ、美しい日曜日の朝、主のために提供された墓の中で完成しました。御自身の力で死からよみがえられた主の体は、二度と再び霊と離れることはありません。自らの御意志で、体を包んでいた埋葬のための亜麻布を外され、顔にかけてあった埋葬用の布は、聖典によれば「はなれた別の場所」¹⁰ に丁寧¹¹に置かれました。

最初の復活祭の贖罪と復活をめぐる一連の出来事には、最も重要な瞬間があり、最も寛大な賜物があり、最も耐え難い

痛みがあり、世界の歴史の中でも最も壮大に表された純粋な愛があります。神の独り子であるイエス・キリストは苦しまれ、死を受けられ、死からよみがえられました。それは、イエスが、夏の嵐の落雷のように、落ちていくわたしたちを力を込めてつかみ、支え、そしてわたしたちが主の戒めに対して従順であることを条件に、永遠の命へとわたしたちを引き上げられるためです。

復活祭の今日、キリストと御父に感謝します。御父がイエスを差し出されたのは、イエスが、御^み足に傷を負っても、なお死を克服して勝利のうちに立たれるためです。復活祭の今日、イエスと御父に感謝します。御父がイエスを差し出されたのは、イエスが、手のひらを突き抜かれ、手首に傷を負っても、なお無限の恵みの御手をわたしたちに差し伸べられるためです。復活祭の今日、イエスと御父に感謝します。御父がイエスを差し出されたのは、汗のしみが残る園について、釘^{くさ}が打ちこまれた十字架について、そして栄光に満ちた無人の墓について、わたしたちが賛美の歌を歌えるようにするためです。

救いの計画
いかに尊し
憐れみと愛の
神の恵み¹¹

復活された主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド所有の通信記録
2. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
3. 2ニーファイ2:19-29、特に20-23節およびモーセ5:10-11参照
4. 2ニーファイ2:24
5. 1コリント15:45参照
6. 1コリント15:45
7. 1コリント15:22
8. 2ニーファイ2:25-26
9. 2ニーファイ9:6
10. ヨハネ20:7
11. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112番



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

恵みの賜物

今日、そしていつまでも、神の恵みは、心が打ち砕かれ霊が悔いている誰もが受けることができます。

復 活祭の日曜日に、わたしたちは世界史上最も長く待ち望まれた栄えある出来事を祝います。

それは全てを変えた日です。

その日、わたしの人生は変わりました。

皆さんの人生も変わりました。

神の全ての子供たちの行く末が変わりました。

祝福に満ちたその日、わたしたちを捕えていた罪と死の鎖を御自身に受けられた人類の救い主が、それらの鎖を断ち切ってわたしたちを解き放してくださったのです。

わたしたちの愛する贖い主が犠牲をささげてくださったので、死のとげは失われ、墓は勝利を得ません。¹ サタンにはいつまでも支配する力はなく、わたしたちは「イエス・キリスト〔が〕死人の中からよみがえら〔れたこと〕により、……新たに生れ……て生ける望みをいだ〔いて〕」います。²

実に、使徒パウロが述べたとおり、わたしたちは「これらの言葉をもって互に慰め合〔う〕」ことができます。³

神の恵み

わたしたちは救い主の贖罪について度々語ります。それは正しいことです。

ヤコブの言葉を借りれば、「キリストの贖罪について語るのに、また……キリストについて完全な知識を得るのに、何の差し支えがあ〔る〕」でしょうか。⁴ ただし、あら

ゆる機会に「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言〔する〕」⁵ とき、わたしたちは神の御子がささげてくださった永遠の犠牲に対する畏敬の念と深い感謝の気持ちを決して失ってはなりません。

救い主の贖罪を、わたしたちの教えや会話の中で、あるいは心の中で、ごく当たり前のもののように軽んじることがあってはなりません。それは神聖かつ聖なるものであって、この「大いなる最後の犠牲」によって、キリスト・イエスは「その御名を信じるすべての人に救いを」もたらされたのです。⁶

不完全で、汚れていて、過ちを犯しやす

く、感謝の念を抱かないことが度々あるわたしたちを救うために神の御子が御自身を低くされたことを思うと、驚きを覚えます。わたしは自分の限られた思考力で救い主の贖罪を理解しようと努力してきましたが、思いつく唯一の説明は、神がわたしたちを深く、完全に、永遠に愛してくださっているということです。「キリストの愛」の「広さ、長さ、高さ、深さ」は、わたしにはまるで見当がつきません。⁷

その愛を力強く表しているものとして、聖文でしばしば神の恵みと呼ばれているものがあります。神の恵みとは、神から授けられる助けや力であり、この助けや力によって、わたしたちは現在の欠点と限界のある状態から、「真理と光を受け、ついに真理によって栄光を受けて、すべてのことを知る」昇栄した者となるのです。⁸

この神の恵みは非常に驚くべきものですが、しばしば誤解されていることがあります。⁹ それでも、もし神の永遠の王国においてわたしたちのために備えられているものを受け継ごうとするのであれば、わたしたちは神の恵みについて知らなくてはなりません。

そこで、わたしは恵みについて話したいと思います。特に、まず、恵みがどのようにして天の門を開くか、次に、どのように





フィンランド・ヘルシンキ

して天の窓を開くかについて話します。

第1——恵みは天の門を開く

わたしたちは皆「罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」、¹⁰「清くないものは、どのようなものでも神の王国に入ることができない」ので、¹¹ 全ての人は神のみもとに帰るにふさわしくありません。

たとえ全身全霊を尽くして神に仕えたとしても、十分ではありません。わたしたちはそれでもなお「ふつつかな僕」だからです。¹² 天への道を自分で勝ち取ることはできません。正義の要求が障壁として立ちばかり、わたしたちは自力では乗り越えられないのです。

しかし何の手立てもないわけではありません。

神の恵みが、わたしたちの大いなる永遠の望みです。

イエス・キリストの犠牲によって、憐れみの計画が正義の要求を満たし、¹³「人々が悔い改めを生じる信仰を持つようにするその道を設ける」のです。¹⁴

わたしたちの罪は、たとえ緋のようであっても、雪のように白くなります。¹⁵ わたしたちの愛する救い主が「すべての人のあがないとしてご自身をささげられた」ので、¹⁶ 主の永遠の王国への入り口がわたしたちに用意されているのです。¹⁷

門は開かれています。

しかし、神の恵みは単にわたしたちを以前の罪のない状態に回復するだけではありません。もし救いが間違いや罪を消し去るというだけの意味であるとすれば、それはそれですばらしいことなのですが、御父がわたしたちに望んでおられること



は成就しません。御父の目的ははるかに高いものであって、御父は御自分の息子や娘が御自分に似た者となることを望んでおられるのです。

神の恵みの賜物があるおかげで、弟子としての道は元いた場所に戻るのではなく、より高い所へ導くものとなるのです。

その道はわたしたちにはとても理解の及ばない高みへと続いています。天の御父の日の栄えの王国における昇栄へと続いていて、その場所で、わたしたちは愛する人たちに囲まれて、「御父の完全と御父の栄光」を受けます。¹⁸ 全てのものはわたしたちのものであり、わたしたちはキリストのもです。¹⁹ 実に、御父が持っておられる全てが、わたしたちに与えられるのです。²⁰

この栄光を受け継ぐためには、門が開かれているだけでは不十分です。変わりたいという心からの望みを持ってこの門から入らなければなりません。それは劇

的な変化であって、聖文では次のように表現されています。すなわち、「再び生まれ……〔、〕まことに、……神から生まれ、〔この世的で〕墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にな〔る〕」のです。²¹

第2——恵みは天の窓を開く

神の恵みが持つもう一つの働きは、天の窓を開くことです。神は天の窓を通して力と強さという祝福を注いでくださり、それがなければとうてい力の及ばないことを成し遂げる能力をわたしたちに授けてくださいます。神の驚くべき恵みによって、その子供たちは欺く者の隠れた危険を乗り越え、罪を克服し、「キリストによって完全になる」ことができるのです。²²

誰にでも弱さがありますが、克服することができます。実際、もしへりくだり、信仰を持つならば、神の恵みによって、弱さは強さとなり得るのです。²³

生涯を通じて、神の恵みは物質的な祝福と霊的な賜物をもたらし、それらはわたしたちの能力を大いに増し、人生を豊かにしてくれます。神の恵みはわたしたちを精練します。わたしたちが最高の自分になれるように助けてくれます。

ふさわしいと認められるのは誰か

聖書に、キリストがパリサイ人シモンの家を訪られたときのこと記されています。

表向きは、シモンは善良でまっすぐな人であるように思われました。宗教上のなすべき務めは常にこなしていました。律法を守り、¹ 什分の一を納め、安息日を守り、毎日祈り、会堂に行っていました。

しかし、イエスがシモンとともにおられたときに、ある女性がやって来て、涙で救い主の足を洗い、高級な油を主の足に注ぎました。

シモンはこの礼拝を見て快く思いませんでした。この女性が罪人であることを知っていたからです。もしイエスがそのこ

とを知らないなら預言者ではない、預言者ならばその女性が自分に触れるのを許さないだろうと考えました。

イエスはシモンの思いを見抜き、シモンの方を向いてお尋ねになりました。「ある金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひとりは五百デナリ、もうひとりは五十デナリを借りていた。

ところが、返すことができなかったので、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか。」

シモンは、多く赦してもらった方だと答えました。

それからイエスは一つの深い教えを授けられました。「この女を見ないか。……この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。」²⁴

この二人のうち、わたしたちはどちらに似ているでしょうか。

わたしたちはシモンのようでしょうか。自分の善い行いに自信を持ち、満足し、自分自身の義を頼みとしているでしょうか。わたしたちの標準に従って生活して

いない人に、もしかすると少しいだちを覚えているでしょうか。自動操縦で、さまざまなことを形だけ行い、集会に出席し、福音の教義クラスではあくびばかりして、聖餐式の間に携帯電話を確認しているでしょうか。

それとも、「自分は罪のゆえにどうにもならないほど完全に道をそれてしまった」と思っていたこの女性の方でしょうか。

わたしたちは多く愛しているでしょうか。

天の御父に恩を受けていることを理解し、心を尽くして神の恵みを請い求めているでしょうか。

ひざまずいて祈るとき、ヒット曲を集めたベストアルバムを再生するかのように自分自身の義を並べ立てるのでしょうか。それとも、自分の過ちを告白し、神の憐れみを請い、驚くべき贖いの計画に対する感謝の涙を流すのでしょうか。²⁵

救いは、従順という貨幣で買うことはできません。神の御子の血によって贖い取っていただくものなのです。²⁶ 自分の善い行いで救いを手に入れることができると考えるのは、航空券を買って航空会社のオーナーになったと思うようなもので

す。または、家賃を払って地球全体の所有権を得たと思うようなものです。

ではなぜ従うのか

恵みが神の賜物であるなら、なぜ神の戒めに従うことがそれほど重要なのでしょうか。なぜわざわざ神の戒めを守り、さらに言えば、悔い改めるのでしょうか。自分が罪深いことを認めて神に救っていただければ、それでよいのではないのでしょうか。

あるいは、パウロの言葉を借りて問うなら、「恵みが増し加わるために、罪にとどまるべき」でしょうか。パウロの答えは簡潔です。「断じてそうではない。」²⁷

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが神の戒めに従うのは、神を愛しているからです。

心と思いを尽くして神の恵みの賜物を理解しようと努めることを通して、わたしたちはますます柔和に感謝の念をもって天の御父を愛し、御父に従うことを望むようになります。弟子としての道を歩むとき、その道はわたしたちを精錬し、高め、より御父に似た者となるように助け、御父のみもとに戻れるように導いてくれます。「主〔なるわたしたちの神〕の御霊」が、「わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に……大きな変化を生じさせてくれます。」²⁸

ですから、わたしたちが神の戒めに従うのは、神の慈しみに対するわたしたちの限らない愛と感謝から生じる自然な結果なのです。このような心からの愛と感謝の気持ちを抱くとき、わたしたちの行いは神の恵みと奇跡的に結び合っ一つとなります。絶えず徳で思いが飾られ、神の前において自信が増します。²⁹

愛する兄弟姉妹の皆さん、忠実に福音に従って生活することは重荷ではありません。喜びに満ちた予行演習です。永遠の大なる栄光を受け継ぐための準備です。わたしたちが天の御父に従おうと努めるのは、わたしたちの霊の波長が霊的





な事柄にもっと合うようになるからです。存在することすら知らなかったような展望が開かれます。御父の御心みこころを行うとき、わたしたちに光と理解が注がれます。³⁰

恵みは神の賜物であり、神の戒めの一つ一つに従いたいというわたしたちの望みこそが、わたしたちが自分の不完全な手を伸ばして天の御父が授けてくださる神聖な賜物を得ようとする理由なのです。

自分の行えることの全てを

預言者ニーファイは、神の恵みについて理解するうえで役立つ重要なことを教えてくれています。「わたしたちは子孫ほらからと同胞に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めめるために、熱心に〔働き〕続けようと努めている。それは、わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知っているからである。」³¹

しかし、わたしたちはときどき、「自分の行えることをすべて行った後」という言葉を間違っまちがて解釈していることがないでしょうか。「行った後」は、「行ったので」と同じではないことを理解しておかなければなりません。

わたしたちは自分の行えることを全て「行ったので」救われるものではありません。わたしたちの中に、自分の行えることを全て行った人がいるでしょうか。神はわたしたちがあらゆる努力を尽くすまで、わたしたちの人生に手を伸べて救いをもたらす恵みを与えるのをお待ちになるのでしょうか。

求められていることを自分はいつも行えていないと落胆している人が大勢います。「心は熱しているが、肉体が弱い」ことを、彼らは身をもって知っています。³² 彼らはニーファイとともに声を上げて言います。「わたしの霊はわたしの罪悪のために嘆く。」³³

ニーファイは、救い主の恵みによって人は罪を克服することが可能となり、そのた

めの能力を授けられるということを知っていたに違いありません。³⁴ だからこそ、ニーファイは子孫と同胞に「キリストを信じ、神と和解するように」説き勧めようと非常に熱心に努めたのです。³⁵

結局のところ、それがわたしたちの行えることであり、現世での務めなのです。

恵みは誰もが受けることができる

あの最初の復活祭の日曜日に至るまでに救い主がわたしたちのためにくださったことを思うとき、わたしはいと高き神とその御子イエス・キリストに賛美の声を上げたくります。

天の門は開かれています。

天の窓は開かれています。

心が打ち砕かれ霊が悔いている人は誰でも、今日にでも、そして永遠に、神の恵みを受けることができます。³⁶ イエス・キリストは死すべき者の頭では理解の及ばない高みへと昇る道をわたしたちのために開いてくださいました。³⁷

わたしたちが新しい目と新しい心をもって、救い主の贖いの犠牲が持つ永遠の意義を理解することができますように。主の戒めを守り、喜びに満ちて「新しいのちに生きる」ことによって、³⁸ わたしたちが神への愛と、神の無限の恵みの賜物への感謝を示すことができますように。主であり贖い主であられるイエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。 ■

注

- 1 コリント 15:55; モーサヤ 16:8 参照
- 1 ペテロ 1:3; 強調付加
- 1 テサロニケ 4:18。13-17 節も参照
- モルモン書ヤコブ 4:12
- 2 ニーファイ 25:26
- アルマ 34:10, 15
- エペソ 3:18-19
- 教義と聖約 93:28
- 実に、わたしたちは「幼い子供であり、父がどれほどの大いなる祝福を御手の中に持っている、〔わたしたち〕のために備えておられるかをまだ理解していない。」(教義と聖約 78:17)
- ローマ 3:23
- 1 ニーファイ 15:34。1 ニーファイ 10:21; モーセ 6:57 も参照
- モーサヤ 2:21
- アルマ 42:15 参照
- アルマ 34:15
- イザヤ 1:18 参照
- 1 テモテ 2:6
- 2 ペテロ 1:11 参照
- 教義と聖約 76:56
- 教義と聖約 76:59 参照
- 教義と聖約 84:38 参照
- モーサヤ 27:25
- モロナイ 10:32
- エテル 12:27 参照
- ルカ 7:36-50; 強調付加
- キリストのパリサイ人と取税人のたとえはこの点をはっきりと説明している(ルカ 18:9-14 参照)。
- 使徒 20:28 参照
- ローマ 6:1-2
- モーサヤ 5:2
- 教義と聖約 121:45 参照
- ヨハネ 7:17 参照
- 2 ニーファイ 25:23; 強調付加
- マタイ 26:41; ローマ 7:19 も参照
- 2 ニーファイ 4:17
- 2 ニーファイ 4:19-35; アルマ 34:31 参照
- 2 ニーファイ 25:23
- 3 ニーファイ 9:19-20 参照
- 1 コリント 2:9 参照
- ローマ 6:4



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

選択の自由を保ち、 信教の自由を守る

選択の自由を忠実に用いるには信教の自由が不可欠……です。

今日は復活祭の日曜日、すなわち救い主イエス・キリストが全人類のために行ってくださった贖罪と復活をたたえて、感謝をもって記念する日です。わたしたちは、信教の自由と集会の自由、言論の自由、そして神から与えられた選択の自由という権利に感謝しつつ、主を礼拝します。

預言者たちが預言してきたように、わたしたちが生きるこの末日には、わたしたちが何者で何を信じているのかについて混乱している人が大勢います。ある人々は「そしる者、……善を好まない者」¹であり、別の人々は「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しと〔しています。〕」²

人々がわたしたちの信条にどう応じるかを選ぶときに、忘れてはならないのは、道徳的に選択する自由は神が御自分のあらゆる子供のために備えられた計画に欠かせない要素であるということです。前世で開かれた天上の会議で提示されたこの永遠の計画には、選択の自由が含まれていました。³

その大会議で、サタンとして知られるルシフェルは、自らの選択の自由を用いて神の計画に反対しました。神は次のように述べておられます。「サタンはわたしに背い

て、主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、……わたしは……彼を投げ落とさせた。」⁴

神はこう続けておられます。「また、彼は天の衆群の三分の一を、彼らの選択の自由によってわたしから背き去らせた。」⁵

その結果、天の御父の計画を拒み、ルシフェルに従うことを選んだ御父の霊の子らは、神聖な行く末を失いました。

イエス・キリストは御自身の選択の自由を用いてこう言われました。

「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」⁶

「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」⁷

イエスは、天の御父の計画を支持するために選択の自由を行使しました。そして、御父によって認められ、わたしたちの救い主として任命され、全人類のために^{あがな}贖いの犠牲を払うように予任されました。同様に、わたしたちも選択の自由を行使し、戒めを守ることで、自分が何者であるかを完全に理解し、天の御父が備えておられる全ての祝福を受けられるようになります。その中には、肉体を得て、進歩し、喜びを経験し、家族を持ち、永遠の命を受け継ぐことが含まれています。

戒めを守るためには、絶えず変化する個人の思いつきによってキリストの指導からそれないように、教会の公式の教義を知る必要があります。

わたしたちが今祝福を享受しているのは、前世で救い主に従うことを選んだためです。この話を聞いたり読んだりしている皆さんに申し上げます。皆さんが誰であろうと、どのような過去を持っていようと、覚えておいてください。もう一度前世と同じ選択をして主に従うのに遅すぎるといったことはありません。

イエス・キリストとその贖罪を信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、バプテスマを受けることにより、わたしたちは天から聖霊の賜物を受け取ることができます。この賜物は、知識と理解をもたらす、学び証を得るための導きと強さ、力、罪を克服するための清め、^{かんなん}艱難の中で忠実であるための慰めと励ましを与えてくれます。このたくいまれな御霊の祝福は、わたしたちの自由と、善を行う力を増し加えてくれます。「主の霊のあるところには、自由がある」からです。⁸

この終わりの時に霊的に自由に生きる上で理解しておくべきなのは、選択の自由を忠実に用いるには信教の自由が不可欠





であるということです。わたしたちはサタンがこの自由を与えまいとしていることを承知しています。サタンは天で道徳的な選択の自由を損なおうと試み、今は地上で信教の自由を損ない、反対し、混乱を広めようと躍起になっています。信教の自由とは何か、またそれが霊的な生活とわたしたちの救いそのものになぜ不可欠かについて混乱させようとしています。

わたしたちには末日聖徒として頼り、守るべき信教の自由の四つの隅石があります。

第1の隅石は、信じる自由です。何人も、神について信じていることのために個人や政府から批判や迫害や攻撃を受けるべきではありません。それは非常に個人的で、非常に大切な事柄です。信教の自由に関するわたしたちの信条について、教会の初期の時代に、次のように宣言されています。

「良心の自由な行使……を各個人に保証する法律を制定し、かつ固く守らないかぎり、いかなる政府も平和に存立することはできない。…

……文官は犯罪を阻止すべきであるが、決して人の良心を支配すべきではない。……〔また、〕決して心の自由を抑圧すべきではない。』⁹

以来、この基本的な信条の自由は、国連の世界人権宣言や、その他国内外の人権関連文書の中で認められてきました。¹⁰

信教の自由の第2の隅石は、自分の信仰や信条を人に伝える自由です。主はこのように命じておられます。「家に座してい

る時も」〔福音〕を子供たちに教え〔なさい〕。¹¹ また、弟子たちにもこう語っておられます。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」¹² 両親、専任宣教師、会員宣教師として、わたしたちは、主の教義を家族や全世界に教えるために、信教の自由によって頼っています。

信教の自由の第3の隅石は、宗教団体や教会を結成する自由と、他の人々と争うことなく礼拝する自由です。信仰箇条第11条にはこう宣言されています。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、また全ての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」国際人権関連文書や多くの国の憲法はこの原則を支持しています。

信教の自由の第4の隅石は、信仰に生きる自由、つまり家庭や礼拝所だけでなく公の場でも信仰を行使する自由です。主は、ひそかに祈るだけでなく、¹³ 出て行って「〔わたしたち〕の光を人々の前に輝かし、そして、人々が〔わたしたち〕のよいおこないを見て、天にいます〔わたしたち〕の父をあがめるように〔なる〕」¹⁴ ように命じておられます。

公の場で宗教を持ち出すと気分を害する人々がいます。自分の観点や行動を許容するよう社会に強く求めているその人々が、自分の観点や行動を許容してもらいたいと同じように願う信仰を持つ人々をなかなか許容できないことはよくあります。全般的にさまざまな宗教観に対する敬意は

急速に薄れており、信仰心を持つ人々や団体に対する社会的、政治的不寛容が蔓延しつつあります。

世の標準に屈し、信教の自由を放棄し、選択の自由を曲げるようにと迫る圧力が高まる中、モルモン書がわたしたちの責任についてどのように教えているかをよく考えてみてください。アルマ書には、アムリサイという「非常に狡猾」で「邪悪な男」が、民の王となって「教会の権利と特権を民から奪〔おうとした〕」と記されています。「これは教会の人々にとって……憂慮すべきこと」でした。¹⁵ 人々はモーサヤ王から、正しいと感じていることについて声を上げるよう教わっていました。¹⁶ そこで、彼らは「国の至る所で各々思いのままに、アムリサイに味方する者と反対する者が分かれて集まり、そこには、ひどい論争……が見られました」¹⁷

このような話し合いの中で、教会員とそうでない人々はともに集まり、思いを一つにし、聖霊の影響を受けました。「そして、民の声はアムリサイに反対であったので、彼は民を治める王になれ」ませんでした。¹⁸

イエス・キリストの弟子として、わたしたちには志を同じくする信仰心のある人々と手を取り合って、正しいことのために声を上げる責任があります。教会員は、教会を代表して話していると主張したり、ほめめかしたりすべきではありませんが、一市民の立場から、「各々思いのままに」¹⁹ 確信と愛をもって自分の証を述べるよう勧められています。

預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。

「わたしは自分が長老派、バプテスト、あるいは他の宗派の善良な人の権利を守るためにも〔モルモンに対するのと〕同じように命を差し出す用意ができていることを、天の前にあえて宣言します。末日聖徒の権利を踏みにじる考え方は、ローマカトリックや、あるいは信者が少なく、自分た



ちを守る力を持たない宗派の権利をも踏みしめるものです。

わたしの心を鼓舞するのは、自由を愛する思いです。すなわち全人類が民事上と宗教上の自由を得ることです。」²⁰

兄弟姉妹、わたしたちにはこれらの神聖な自由と権利をわたしたち自身と子孫のために守る責任があります。では、わたしたちに何ができるのでしょうか。

まず、情報を得ることができます。信教の自由に影響を与える可能性のある地域社会の問題に注意を払いましょう。

第2に、個々の立場で、同じように信教の自由に関心を寄せる人々と手を取り合っ、て、信教の自由を守るために一緒に働きましょう。

第3に、言葉と行いにおいて、自分の信条の模範となる生活を送ってください。宗教について語るよりも、その教えに沿った生活する方がはるかに重要です。

救い主の再臨は近づいています。この大義にあって遅れを取らないようにしましょう。司令官モロナイを思い出してください。モロナイが掲げた自由の旗にはこう書かれていました。「我々の神と宗教、自

由、平和、妻子のために」。²¹ 民の反応を忘れないようにしましょう。彼らは選択の自由を用いて、「走ってやって来て」、行動するという聖約を交わしました。²²

愛する兄弟姉妹の皆さん、歩くのではなく、走り出しましょう！ 選択の自由の祝福を受けられるように走り出しましょう。そのために、聖霊に従い、神の御心を行うために神から授けられた自由を行使しましょう。

この特別な復活祭の日に、イエス・キリストが御自身の選択の自由を用いて、御父の御心を行われたことを特別に証します。

救い主について、わたしたちは次のように歌います。「尊き血流し、命捨てて」。²³ 主がそうしてくださったおかげで、わたしたちは主の贖罪の力と祝福を通して「自由と永遠の命を選ぶ」貴い機会を得ています。²⁴ わたしたちが今日も、そして常に、自ら主に従うことを選ぶことができますように、イエス・キリストの聖なる御名により祈ります、アーメン。■

注

1. 2テモテ3:3
2. イザヤ5:20

3. モーセ6:56 参照
4. モーセ4:3
5. 教義と聖約29:36
6. アブラハム3:27
7. モーセ4:2
8. 2コリント3:17
9. 教義と聖約134:2, 4
10. 1948年12月10日に国連総会で採択された世界人権宣言 (un.org/en/documents/udhr) を参照。第18条にはこう記されている。「すべて人は、思想、良心及び宗教の自由に対する権利を有する。この権利は、宗教又は信念を変更する自由並びに単独で又は他の者と共同して、公的に又は私的に、布教、行事、礼拝及び儀式によって宗教又は信念を表明する自由を含む。」1953年9月3日に批准された、ヨーロッパ人権および基本的自由保護のための条約、第9条、conventions.coe.int/treaty/en/treaties/html/005.htm. も参照。
11. 申命11:19
12. マルコ16:15
13. マタイ6:6 参照
14. マタイ5:16
15. アルマ2:1-4 参照
16. モーサヤ29:25-26 参照
17. アルマ2:5; 強調付加
18. アルマ2:7
19. アルマ2:5
20. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』345
21. アルマ46:12
22. アルマ46:21
23. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112番
24. 2ニーファイ2:27



七十人
ケビン・W・ピアソン長老

命の木のそばにとどまる

リーハイの命の木の示現は、最後まで堪え忍ぶことについての力強いたとえです。

ヒーバー・J・グラント大管長が亡くなる少し前に、中央幹部の一人が大管長の家を訪問しました。その幹部が帰る前に、グラント大管長は、次のように祈りました。「おお、神よ、わたしが証を失わずに最後まで忠実であることができるよう祝福してください！」¹ 27年近く教会の大管長として務めを果たしていましたが、この祈りは大管長の熱烈な祈りでした。グラント大管長の模範は、どのような年齢であろうと、誰一人サタンの影響を受けない者はいないという力強い警鐘です。サタンの最も大きな二つの手段は、注意をそらせることと欺きです。

最後まで堪え忍ぶことは、真の弟子の特質であり、永遠の命を得るために不可欠なものです。しかし、試練や困難に遭うと、わたしたちは、単に「持ちこたえる」ようにとよく言われます。はっきり言いますが、「持ちこたえる」ことは福音の原則ではありません。最後まで堪え忍ぶとは、絶えずキリストのもとに来て、キリストによって完全となることを意味します。

もし最後まで堪え忍ぶことが永遠の命に不可欠のものであるならば、なぜわたしたちは忠実であることに苦闘するのですよ

うか。競合する優先順位のはざまに立つとき、わたしたちは苦闘します。表面的な従順や生ぬるい決意は信仰を弱めます。最後まで堪え忍ぶには、主と聖約に対する完全な忠誠が求められます。

リーハイの命の木の示現は、最後まで堪え忍ぶことについての力強いたとえです。リーハイの見た夢について祈りながら研究し、深く考えてください。そして、それを自分に当てはめてください。そうするときに、最後まで堪え忍ぶうえで助けとなる6つの重

要な原則について注意深く考えてください。

1. 忘れずに祈る

まず、リーハイは「暗くて寂しい荒れ野に」² 独りでいました。わたしたちは、各々暗くて寂しい時期を経験します。「祈りを忘るな、悩むとき。」³ ヒーバー・J・グラント大管長の模範に倣ってください。最後まで堪え忍ぶ力を求めて祈ってください。天の御父に、「お父様はわたしにさらに何をするようにお望みですか」と尋ねてください。

2. キリストのもとに来て、キリストによって完全になる

命の木はリーハイの夢の中で中心となるものでした。全てのことが命の木に向けられています。命の木はキリストを象徴しており、キリストは紛れもない神の愛の表れです。その実は主の無限の贖罪であり、神の愛の偉大なる証拠です。自分たちの愛する人々と永遠の命を受けることは、他の何よりも喜ばしく好ましいものです。この賜物を実現するには、わたしたちは、「キリストのもとに来て、キリストによって完全にならなければ」⁴ なりません。キリストは「道であり、真理であり、命で



〔す。〕⁵ わたしたちは何かを達成したり成功したりすることで人生を満たすことはできますが、最終的に、もし、わたしたちがキリストに従う聖約を交わし、それを忠実に守らなければ、わたしたちは大切なものを完全に逃すことになってしまおうでしょう。

3. 信仰をもって力強く進む

命の木、キリストに続く道があります。それは細くて狭い道であり、厳しく正しい道です。神の戒めは厳格ですが、制限を加えようとするものではありません。神の戒めは、霊的な危険や身体的危険からわたしたちを守り、わたしたちが道からそれるのを防いでくれます。

従順はキリストへの信仰を築きます。信仰は行動と力の源です。絶えず救い主の模範に従うことにより、霊的な力と能力が形成されます。人を強め、人に能力を与える贖いの力がなければ、道にとどまり堪え忍ぶことは不可能です。

「キリストを確固として信じ、……力強く進んでください。」⁶

4. モルモン書は霊的に生き抜くうえで の鍵である

人生の旅路は困難に満ちています。容易に注意をそらされたり、道からそれて迷ってしまうことがあります。試練は避けることのできないものであり、わたしたちの永遠の進歩に欠かせないものです。艱難に遭ったときは、自分には十分理解できないからといって、自分の知っていることを全否定しないでください。忍耐強くあってください。真理に固くついてください。理解できる日は必ず来ます。試練は、わたしたちの視界を曇らせ、心をかたくなにしてしまう暗黒の霧のようなものです。神の御言葉に「しっかりと……つかまりながら」⁷、御言葉に従って生活しなければ、わたしたちは、霊的な思いを抱くのではなく、むしろ、霊的に盲目になってしまいます。毎日、毎日、モルモン書と生ける預言者の



言葉を研究してください！それが霊的に生き抜くうえでの、また、欺かれないための鍵です。そうしなければ、わたしたちは霊的に道に迷ってしまいます。

5. 注意をそらされたり、欺かれたりしないようにする

注意を払うとは、注意深く関心を向けるということです。キリストを信じていない人々に注意を払っても、主を見いだすための助けとはなりません。知識を求めて「大きく広々とした建物」を探しても真理にたどり着くことはありません。そこには見つからないのです。救い主のみが「永遠の命の言」⁸をお持ちです。その他のものは全て単なる言葉にすぎません。大きく広々とした建物は、世の中の「うぬぼれた空想と高慢」⁹を象徴しています。言い換えると、注意をそらせることと欺きです。その建物は、全てを手に行っているかのように見える良い身なりをした人々で満ちています。しかし、その人々は救い主と救い主に従う人々をあげています。彼らは「常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない」のです。¹⁰ 政治的には正しいかもしれませんが、霊的には道に迷っているのです。

6. 命の木のそばにとどまる

リーハイのメッセージは命の木のそばに

とどまりなさいというものです。わたしたちは主に改心しているのでとどまるのです。アルマは次のように教えています。「見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼らを深い眠りから覚まされたので、彼らは目覚めて神に従った。」¹¹ 心を神に従わせるとき、聖霊によりわたしたちの本質が変わり、わたしたちは心から主に改心し、大きく広々とした建物を求めようとはしなくなります。もし深い改心をもたらす事柄をやめるならば、わたしたちは霊的に弱くなります。背教は改心と正反対のものです。

過去と現在の全ての宣教師、長老および姉妹の皆さん、単に伝道から帰還して、再びバビロンにどっぷりとつかり、価値のないビデオゲームの意味のないポイントを得点することに際限なく無駄な時間を費やしながら、霊的に深い眠りに陥らずにいることはできないのです。また、インターネットでポルノグラフィーにふけり、徳と貞節をないがしろにしながら、霊的に重大な結果に陥らないでいることもできないのです。御霊を失えば、皆さんは道に迷います。注意をそらされたり、欺かれたりしないようにしてください。

真の弟子は、意味のある個人の祈り、熱心な聖文研究、私生活での従順、および利己心のない奉仕を通して、日々目覚めて神に従い続けるのです。命の木のそばにとどまり、目を覚ましていてください。



数年前、ピアソン姉妹とわたしはワシントン州タコマ伝道部を管理するよう召されました。その召しにとても驚きました。少し不安な気持ちで、わたしは自分が勤めている会社の会長とCEO（最高経営責任者）に会い、伝道の召しを受けたことを伝えました。彼らはわたしが会社を辞める決断をしたことに腹を立てているのがはっきり分かりました。「いつこの決断をしたのか。なぜ前もって相談してくれなかったのか」と彼らは強い口調で尋ねました。

すぐに、はっきりとした深遠な答えが心に浮かびました。わたしは次のように答えました。「わたしは19歳のとき、神殿で救い主に従うという聖約を神と交わした際、この決断をしました。わたしはその聖約を基盤として自分の人生の全てを築いてきました。そして現在もそれを完全に守

るつもりです。」

ひとたび神と聖約を交わすと、引き返すことはできないのです。妥協したり、途中で諦めたり、疲れ果ててしまうという選択肢はないのです。神の王国においては、昇栄のための優秀さの基準があります。それには勇敢な弟子となることが求められています！ 平均的な、あるいは自己満足している弟子がいる場所はありません。平均は優秀の敵です。そして平均的な決意では最後まで堪え忍ぶことはできません。

もし皆さんがもがき、混乱し、霊的に道に迷っているのであれば、わたしが知っている正しい道に戻れる一つのことを行うようにお勧めします。再度、祈りながらモルモン書を研究することを始め、毎日、毎日、その教えに従って生活してください！ わたしは、モルモン書には、皆さんの生活

を変え、キリストに従う決意を強めてくれる深遠な力があることを証します。聖霊は皆さんの心を変え、「現在のことをありのままに」¹² 見ることができるように助けてくださいます。聖霊は、次に何をすべきかを皆さんに示してくださいます。これは皆さんに対するニーファイの約束です。

「わたしは〔彼ら〕に……だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。

わたし……は、……神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるように……〔彼ら〕に勧めた。」¹³

兄弟姉妹の皆さん、最後まで堪え忍ぶことは弟子にとっての大きな試験です。わたしたちが日々弟子として生活することで永遠の行く末が決まるのです。目を覚まして神に従い、真理に固くつき、神殿で交わした聖約を守り、命の木のそばにとどまってください。

わたしは復活された生けるキリストについて証します。わたしは主が生きておられることを知っています。わたしの最大の願いは、主の偉大な模範に従うという点において本当に最後まで誠実かつ忠実であること。主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. ジョン・ロンゲデンによる引用, Conference Report, 1958年10月, 70
2. 1ニーファイ8:7
3. 「部屋を出る前に」『賛美歌』78番
4. モロナイ10:32
5. ヨハネ14:6
6. 2ニーファイ31:20
7. 1ニーファイ8:30
8. ヨハネ6:68
9. 1ニーファイ12:18
10. 2テモテ3:7
11. アルマ5:7
12. モルモン書ヤコブ4:13
13. 1ニーファイ15:24-25



七十人
ラファエル・E・ピノ長老

福音がもたらす 永遠の観点

永遠に影響を及ぼす決断を下すには、福音の観点を持つことが
欠かせません。

モ ーセに与えられた啓示の中で、わたしたちは天の御父が御自分の目的を次のように宣言されたことを知らされています。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」¹ この言葉によれば、御父の望みは全ての人に満ちみちる喜びを得る機会を与えることです。末日の啓示は、天の御父が御自分の全ての子供たちのために偉大な幸福の計画を、すなわち、わたしたちが御父のみもとに戻ってともに住むことができるように非常に特別な計画を立てられたことを明らかにしています。

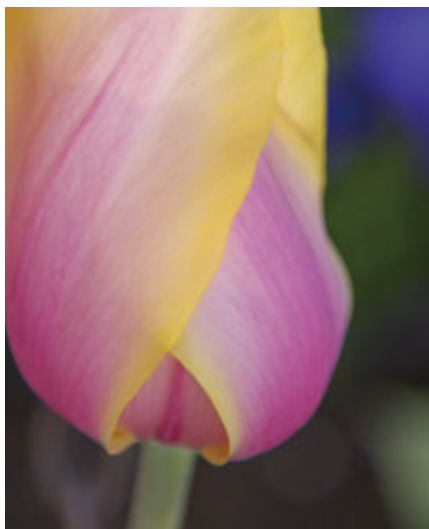
この幸福の計画を理解するとき、わたしたちは永遠の観点を得て、戒めや儀式、聖約、そして試練や艱難を真に尊ぶことができます。

アルマの次の言葉から一つの重要な原則が学べます。「そこで神は、贖いの計画を人々に示された後、……戒めを彼らに与えられた。」²

興味深いのは、その教えを授けられたときの順序です。天の御父はアダムとエバに、まず贖いの計画を教え、その後、戒めを与えられました。

これは偉大な真理です。神の計画を理解することは、戒めを守り、より良い決断をし、正しい動機を持つ助けとなるのです。

これまで教会で奉仕をしながら、わたしはさまざまな国で教会員が福音に献身し、忠実であるのを目にしてきました。中には政治的、社会的、あるいは経済的な紛争が起こっている国々もあります。これらの忠実な会員にわたしが度々見いだしてきた一つの共通点は、彼らが永遠の観点を持っているということです。福音がもたらす永遠の観点を持つことで、わたしたちは神の計画における自分の位置を理解し、困難を受け入れてそれらを経て進歩し、数々の決断を下し、神から賜った可能性を生活の中心に据えるようになります。



観点とは物事をある距離から見たときの見え方であり、物事の本当の意義を正しく理解させてくれます。

それは森の中において、木の前に立っている状態に似ています。少し後ろに下がらなければ、森の本当の姿は認識できないでしょう。以前コロンビアのレティシアでアマゾンのジャングルを訪れました。ブラジルとペルーの国境に近い場所です。上空を飛んで全体を眺めるまでは、ジャングルの大きさを理解できませんでした。

我が家の子供たちは、小さい頃、テレビの子供用チャンネルで『何が見えるかな?』(What Do You See?)という番組をよく見ていました。何かを間近から見た様子が画面に映し出され、見える範囲が少しずつ広がっていく間に子供たちはそれが何であるかを当ててののです。一度全体が見えれば、猫だ、飛行機だ、果物だ、などと容易に分かりました。

あるとき、その番組を見ていて、次のようなことがありました。何かを間近から見た様子が映し出されると、子供たちにはそれが醜いものに思え、不快にさえ感じられました。ところが、見える範囲が広がっていくと、とてもおいしそうなピザであることが分かったのです。そして子供たちはわたしに言いました。「お父さん、あんなピザを買ってちょうだい!」それが何であるかを理解すると、最初は不快に思えたものが、最後にはとても魅力的なものとなったのです。

もう一つの経験を紹介しましょう。我が家の子供たちはジグソーパズルが好きでした。きっと皆さんもパズルをしたことがあると思います。パズルにはたくさんの小さなピースでできているものもあります。息子の一人は(プライバシーを守るために名前は伏せておきますが)、以前は個々のピースに意識を集中していました。そしてここだと思った場所に収まらないと腹を立て、役に立たないピースだとみなし、捨てようとしていました。やがて、小さなピースの



一つ一つには、たとえそのときにはどこに収まるか分からないとしても、最終的に出来上がる絵の中で収まる場所があることを理解して、パズルがきちんとできるようになりました。

主の計画についてもこの考え方を当てはめることができます。それぞれの部分を切り離して思い悩む必要はなく、最終的にどのような結果となるかを心に留め、全体像に意識を向けるように努めるのです。主は個々のピースが計画の中でどの位置に収まるかを御存じです。全ての戒めは偉大な幸福の計画の中で永遠にわたって重要な意味を持っています。

永遠の意義を持つ決断を、現世の観点に立って下さないようにすることがきわめて大切です。永遠に影響を及ぼす決断を下すには、福音の観点を持つことが欠か

せません。

ニール・A・マックスウェル長老は次のように教えています。「究極の大きな希望にしっかりと『錨』を下ろしていても、さまざまな小さな希望を成就できない場合があります。わたしたちは昇給や特別なデート、選挙の勝利、大きな家などを望みますが、思い通りになるとは限りません。御父の計画を信じる信仰は、そうした身近な希望が破れたときでも、堪え忍ぶ力を与えてくれます。希望は、しばしの間無駄な努力に思えても、善き業に『努めて……従』うように励ましを与えてくれます(教義と聖約 58:27 参照)。」³

永遠の観点を持っていないと、あるいはそれを失うと、この世間的な観点を個人の標準として持ち、神の御心に添わない決断をしてしまう恐れがあります。

モルモン書には、ニーファイの執った態度とレーマンとレムエルの執った態度が述べられています。彼らは皆、幾つもの苦難や困難に遭いましたが、それに対して執った態度は非常に異なっていました。ニーファイは次のように言いました。「そして、主の祝福が大変豊かであったので、妻たちは荒れ野で生肉を食べて暮らしていたのに、子供に乳を十分飲ませ、しかもまことに男のように強かった。彼女たちはつぶやかずに旅に耐えるようになった。」⁴

一方、レーマンとレムエルは、激しく不平を言いました。「このように、いちばん年上のレーマンとレムエルは父に対してつぶやいた。彼らがつぶやいたのは、自分たちを造られたあの神の計らいを知らないためであった。」⁵「神の計らい」を知らずにいることや無視することは永遠の観点を失う原因の一つであり、不平を言うことはその症状のほんの一例です。レーマンとレムエルはニーファイと一緒にたくさんの奇跡を目にしながらも、次のように叫んで言いました。「我々は長年の間荒れ野をさまよってきた。そして、我々の妻は身重の体で身を粉にして働き、荒れ野で子を産み、ただ死ななかつただけであらゆる苦しみに遭った。妻たちは、このような苦難に遭うくらいなら、エルサレムを出る前に死んだ方がましだった。」⁶

遭遇してきた困難や苦難は似ていたにもかかわらず、両者の態度は非常に異なったものでした。明らかに、観点が異なっていたのです。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように書いています。「わたしたちの存在が現世で全て終わってしまうと考えるなら、苦痛、悲しみ、失敗、そして短命に終わる生涯は不幸なものだったと言えるでしょう。しかし、人生を永遠に続くものとしてとらえ、遠い昔の前世から、死を迎えた後に永遠に続く未来までを視野に入れるならば、全ての出来事を正しい見地に立って理解することができるでしょう。」⁷



十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

デビッド・B・ヘイト長老は、彫刻家ミケランジェロの話を通して、全てのことを正しい観点で見ることの大切さを説明しています。「彫刻家が大理石の塊をのみで彫っていたとき、一人の少年が毎日やって来ては恥ずかしそうに見ていました。その石からダビデが姿を現し、世界中の人々が称賛する像が完成すると、少年はミケランジェロに尋ねました。『この人が中に入っているってどうやって分かったの?』」⁸

その彫刻家が大理石の塊を見ていたときの観点は、彼が作業するのを見ていた少年の観点とは異なっていました。芸術家はその石の中に隠された可能性を見ていたので、芸術作品を生み出すことができたのです。

主はわたしたち一人一人について御自分が成し遂げたいことを分かっておられます。主はわたしたちの生活をどのように修正したいか分かっておられ、わたしたちには主に助言する権利はありません。主の思いはわたしたちの思いよりも高いのです。⁹

わたしたちの永遠の幸福のための計画を用意してくださった、愛と公正と憐れみに満ちた天の御父がおられることを証します。イエス・キリストが御父の御子であり、世の救い主であられることを証します。トーマス・S・モンソン大管長が神の預言者であることを知っています。これらのことをイエス・キリストの御名によって申し上げます、アーメン。■

注

1. モーセ 1:39
2. アルマ 12:32
3. ニール・A・マックスウェル「完全な希望の光」『聖徒の道』1995年1月号、40 参照
4. 1ニーファイ 17:2
5. 1ニーファイ 2:12
6. 1ニーファイ 17:20
7. 『歴代大管長の教え—スベンサー・W・キンボール』15
8. デビッド・B・ヘイト, "Your Purpose and Responsibility" (ブリガム・ヤング大学ディボーションナル, 1977年9月4日) 2-3, speeches.byu.edu
9. イザヤ 55:8-9 参照

御国が来ますように

主が来られることを思うと、わたしの心は高鳴ります。きっと息をのむすばらしさでしょう!その規模の大きさと雄大さ、広大さ、壮麗さは、これまで誰も見たことも、経験したこともないほどでしょう。

賛 美歌を歌いながら、この瞬間に200か国に住む何十万、いやおそらく何百万人の信仰を持つ聖徒たちが75の言語で耳を傾けていることを思い、深く感動しました。わたしたちは声を合わせて神に歌いました。

来ませ、王の王
待ちに待てり
かばいて 自由、
人に与う²

「来ませ、王の王。」³ わたしたちは、世界的な教会の信者の家族の一員であり、主イエス・キリストの弟子です。

わたしたちは御子の御名を受け、毎週

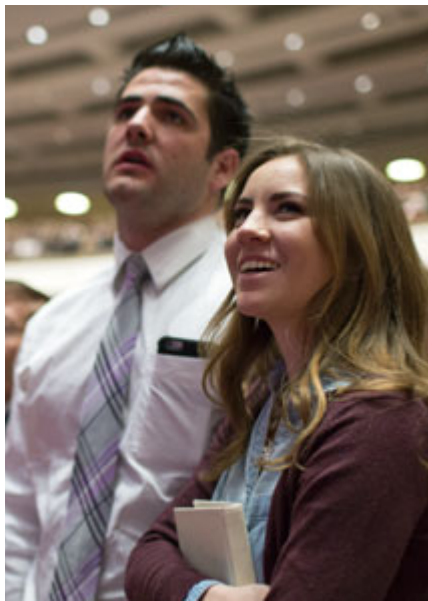
聖餐を受けるときに御子を覚えてその戒めを守ることを約束します。わたしたちは完全には程遠い存在ですが、自分の信仰を軽んじてはいません。主を信じ、主を礼拝し、主に従い、主を深く愛しています。主の大義はこの世で最も偉大な大義です。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは主の再臨に先立つ時代に生きています。これは古くから信者が待ち望んできた時です。わたしたちは、戦争と戦争のうわさのある時代、そして自然災害が起り、世が混乱と騒乱に苦しむ時代に生きています。

しかし、わたしたちが生きている時代は、福音が世界中に広められる栄光ある回復の時代、主が「義と神の力をもって」⁴「一つの清い民を……起こ[し]」⁵武装させると約束された時代でもあります。

わたしたちはこの時代を喜び、試練と不安には勇気をもって立ち向かうことができるように祈ります。中には他の人より深刻な試練を受ける人もいますが、試練は誰もが経験するものです。ニール・A・マックスウェル長老から、かつてこう言われました。「今万事順調なら、少し待っていない。」

主は「恐れることはない」⁶と繰り返し保証してくださっていますが、試練のただ中にあるときに現世の先をはっきりと見据



える観点をもち続けるのは、必ずしも簡単なことではありません。

永遠の視点をもち続けることについて、わたしはトーマス・S・モンソン大管長から大切なことを教えられました。

18年前、モンソン大管長とスイスを列車で旅していたときの事です。わたしは彼が負っている重い責任について尋ねました。彼の答えを聞いて、わたしの信仰は強められました。大管長はこう言いました。「大管長会では、この業を進めるためにできる限りのことをします。しかし、これは主の業であり、主がそれを導き、指揮を執っておられるのです。自分たちでは開けられない門戸を主が開き、想像もできない奇跡を起こされるのを目にして、わたしたちは感嘆するばかりです。」⁷

兄弟姉妹の皆さん、地上に主の王国を築くうえで主が行われる奇跡を認め、信じるならば、わたしたち自身の生活にも主の御手があることを認め、信じる助けになります。

主は「わたしにはわたし自身の業を行う能力がある」⁸と宣言しておられます。わたしたちはそれぞれの務めを果たすよう努力しますが、主こそ全ての設計者であられます。主は御父の指示の下でこの世界を造られました。「すべてのものは、この御方によって造られた。造られたもののうち、一つとしてこの御方によらないものはなかった。」⁹ わたしたちが霊の目を覚まし注意していれば、主の御手が世界中に、そして自分自身の生活にも及んでいるのに気づくことができます。

一つ例を挙げましょう。

1831年、教会員がわずか600人しかいなかったとき、主は次のように宣言されました。「神の王国の鍵は地上の人にゆだねられており、あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進むであろう。」¹⁰

預言者ニーファイは、わたしたちの時代

には地上の人口と比較して教会員の占める割合は「小さ〔い〕」が、「地の全面にいる」のを予見していました。¹¹

主の御手はその王国の建設に関わっているのが分かる3つの良い例が、モンソン大管長によって今日発表された3つの神殿の建設です。数十年前ですら、ハイチとタイとコートジボワールに神殿ができると誰が想像できたでしょうか。

神殿をどこに建設するかは、単なる地理的要素によって決定されるわけではありません。主から預言者に与えられる啓示によるものであり、達成されるべき大いなる業があることと、何世代にもわたって神殿を大切に、維持する義にかなった聖徒たちがいることの表れです。¹²

ちょうど2年前、妻のキャシーとハイチを訪問しました。トーマス・S・モンソン長老が30年前にその国を奉獻したのを記念し、わたしたちはハイチの聖徒たちとともにポルトープランスを見下ろす高台に集まりました。2010年のハイチの壊滅的な地震を誰も忘れることはないでしょう。忠実な会員と、ほぼ全員がハイチ人から成る勇敢な宣教師たちの働きにより、教会はこの島国において発展し続け、強くなっています。このような神の聖徒たちが白い衣をまとい、聖なる神権の力をもって主の宮で聖なる儀式を管理し執行するのを思い描くだけで、わたしの信仰は鼓舞されます。

美しいバンコクに主の宮が建つのを誰が想像できたでしょうか。大多数が仏教徒のこの国ではクリスチャンはわずか1パーセントにすぎません。ハイチの場合と同じように、主はバンコクでも地上の選民を集められました。数か月前にタイを訪れたとき、サーティットとジュハマス・カイ

ワルワタナ、そして彼らの子供たちに会いました。サーティットは17歳で教会に入り、母国で伝道しました。その後、インスティテュートでジュハマスと出会い、二人はマニラ神殿で結び固められました。1993年、カイワルワタナ夫妻は居眠り運転のトラックにはねられ、サーティットには胸から下にまひが残りました。それでも彼らの信仰は揺らぎませんでした。サーティットはバンコクのインターナショナルスクールの教師として尊敬を集め、タイ・バンコク北ステークのステーク会長を務めています。神の奇跡は驚くべき御業だけでなく、わたしたち個人の生活にも及ぶのが分かります。

コートジボワールにおける教会の奇跡は、2組の夫婦の名を挙げずには語れま





せん。フィリップとアネリス・アサード、それからルシアンとアガサ・アフーイです。彼らは新婚時代に教会に入りました。一組はドイツで、もう一組はフランスで改宗しました。1980年代、フィリップとルシアンは神の王国の建設のためにアフリカの祖国に帰るべきだという強い印象を受けました。ドイツ人であるアサード姉妹に

ボワールで初めて出会い、一緒に日曜学校を始めました。30年前のことです。今、この美しいアフリカの国には8つのステークがあり、2万7,000人の会員がいます。アフーイ夫妻は今も気高い奉仕を続けています。アサード夫妻も同様で、最近ガーナ・アクラ神殿での伝道を終えたばかりです。

わたしたちは、他の人の生活に主の御手を見ることができても、「どうしたら自分の生活の中に主の御手をもっとはっきり見ることができるだろう」と考えがちです。

救い主は言われました。

「疑ってはならない。」¹⁶

「恐れることはない。」¹⁷

「あなたがたの父〔が知らずに〕……一羽の〔すずめ〕も地に落ちることはない。

それだから、恐れることはない。〔なぜなら、〕あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者〔だから〕である。」¹⁸

敵に囲まれた若者が預言者エリシャに「ああ、わが主よ、わたしたちはどうしましょうか。」¹⁹と叫んだことを覚えているでしょうか。

エリシャは答えて言いました。

「『恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。』

「〔それから〕エリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼〔は〕火の馬と戦車が山に満ちて〔いるのを見た。』」²⁰

皆さんが戒めを守り、自分の生活において主の御手を認められるよう信仰をもって祈るとき、主は皆さんの霊の目をこれまで以上に大きく開き、皆さんが独りではない



左ページ上：トーマス・S・モンソン大管長は1983年、ハイチを訪問し同国を奉獻した。上：コートジボワールの開拓者であるフィリップとアネリス・アサード夫妻（左）とルシアンとアガサ・アフーイ夫妻。左ページ：タイ・バンコクのサーティット・カイワルワタナステーク会長と妻のジュハマス姉妹。

神の御手が業を進めているのが分かるでしょうか。ハイチの宣教師や、タイのカイワルワタナ夫妻の生活に神の御手があるのが分かるでしょうか。アサード夫妻とアフーイ夫妻の生活に神の御手があるのが分かるでしょうか。皆さんの生活にも神の御手があるのが分かりますか。

「すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかには、人はどのようなことについても神を怒らせることはない。」¹³

神の奇跡はハイチ、タイ、コートジボワールにとどまりません。周りを見てください。¹⁴「神は

……すべての民を心にかけられる……。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神の憐れみの心は全地のうえに及んでいる。」¹⁵

とって、家族から遠く離れることや、アサード兄弟が熟練の機械技師としての職を捨てることに同意するには、非常に大きな信仰が必要でした。2組の夫婦はコートジ



とはっきり分かるようにして下さるとお約束します。

聖文はわたしたちに「将来の出来事を確固として信じ続け」²¹ なければならないと教えています。将来の出来事とは何でしょうか。救い主はこう祈られました。

「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

御国が来ますように。みこころが天で行われるとおりに、地にも行われますように。」²²

わたしたちは皆で、「来ませ王の王」と歌ったばかりです。

主の栄光に満ちた再臨の日を待ち望むとき、わたしたちの信仰は増します。主が来られることを思うと、わたしの心は高鳴ります。きっと息をのむすばらしさでしょう！ その規模の大きさと雄大さ、広大さ、壮麗さは、これまで誰も見たことも、経験したこともないほどでしょう。

その日、主は布に包まれて飼葉おけに寝かせられた状態²³ ではなく、「天の雲の中に、力と大いなる栄光とをまとって、すべての聖なる天使たちとともに」来られるのです。²⁴ 「天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響く」²⁵ のが聞こえ、太陽と月は光を与えず、「もろもろの星はその場所から投げ落とされる」²⁶ でしょう。皆さんやわたし、あるいはわたしたちの後に続く「聖徒たちは地の四方から出て来」²⁷ て、「身を交えられて、主に会うために引き上げられ

【ます】。²⁸ 義のうちに亡くなった人々もまた、「天の……ただ中で主に会うために引き上げられる」²⁹ のです。

それから想像を絶するようなことを経験します。主は、「すべての肉なるものがともにわたしを見る」³⁰ と言われました。どのように起きるのでしょうか。わたしたちには分かりません。しかし、わたしは預言されたとおりに起きると証します。わたしたちは敬虔にひざまづくことでしょう。「また、主は声を発し、地の果てに至るすべての者がそれを聞く。」³¹ 「それは大水のとどろきのような、また激しい雷鳴のような声であ[る]。」³² 「[それから]、主すなわち救い主が、その民のただ中に立[たれる]」³³ のです。

それから、天の使いと地上の聖徒たちが感動的な再会を果たします。³⁴ しかし、イザヤは何よりも大切なことをこう宣言しています。「地のすべての果は、われわれの神の救を見」³⁵ て、主は「すべての肉なるものを治める」³⁶ と。

その日、懐疑論者は口を閉ざします。なぜなら、イエスがキリストであり、神の御子、世の救い主、贖い主であることを「すべての耳が……聞き、すべてのひざがかがみ、すべての舌が告白するから[です]。」³⁷

今日は復活祭です。わたしたちは主の栄光に満ちた復活と、わたしたち自身の約束された復活を喜びます。主の再臨を待ち望み、それに備え、その時を心の中で、

そして家族や友人と、繰り返し思い描きましょう。主と同じく、わたしたちも「御国がきますように。みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」³⁸ と祈りましょう。主は生きておられると証します。^{あかし} 「来ませ、王の王。」イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

- 総大会は94言語に翻訳されていますが、全ての言語が全部の部会に対して同時通訳を提供しているわけではありません。この大会の日曜午後の部会は75の言語で同時通訳が提供されました。
- 「来ませ、王の王」『賛美歌』29番
- 2015年3月31日火曜日、大管長会事務局はわたしに電子メールで、わたしの総大会のお話は4月5日の日曜午後の部会の中で、「来ませ、王の王」を全員で歌った直後であると知らされました。パーリー・P・プラットの詩によるこの末日の偉大な賛美歌の言葉は、救い主が地上に戻って来られることに対する謙遜な願いが込められています。この賛美歌は、恐らくどの賛美歌よりも力強く、この大会のわたしのメッセージを表現していると思います。世界各地にいる信仰深い聖徒たちが復活祭の日曜日に、声を合わせ、神に向かって、「来ませ、王の王、待ちに待てり」と歌うことの意味を思い、わたしの心は深く感動しました。総大会の選曲について、わたしは何も提案しませんでした。そのことを考えると、音楽を担当する人たちがわたしの大会説教のタイトルが「御国が来ますように」であることを知って、救い主の再臨に関するこの賛美歌を選んでくれたのではないかと考えています。後で知ったのですが、タバナクル合唱団の指揮者たちはこの賛美歌を3月の始めに大管長会に推薦していたということです。それは、翻訳のためにわたしが自分のお話を大管長会事務局に送付した日より数週間も前のことです。前回「来ませ、王の王」が総大会の全体で歌う賛美歌に選ばれたのは2002年10月の大会でした。わたしたちはそれぞれが自分の分を果たすように努めますが、全体をとりまとめておられるのは主であられます。
- 1 ニーファイ 14:14
- 教義と聖約 100:16
- 教義と聖約 10:55
- 個人的な経験、1997年5月
- 2 ニーファイ 27:20
- ヨハネ 1:3
- 教義と聖約 65:2
- 1 ニーファイ 14:12
- 2001年の秋、ブラジルに住んでいた頃、わたしは大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長にクリチバに住む聖徒たちのすばらしい事柄について熱心に話しました。ゴードン・B・ピンクレー大管長にそのことを伝えてほしいと



七十人
ホルヘ・F・ゼバヨス長老

願っていました。ファウスト管長はわたしの言葉を述べてこう言いました。「ニール、わたしたちは大管長を説得しません。神殿をどこに建設するかは、主とその預言者の間で決められることです。」ブラジル・クリチバ神殿が奉獻されたのは2008年でした。

- 13. 教義と聖約 59: 21
- 14. 主の御手による大きな奇跡の一つは、アメリカ合衆国において主の王国が全ての州の町々に及んだことです。一つの例を紹介しましょう。2006年5月、わたしはテキサス州デントンでステーキ大会を管理する割り当てを受けました。宿泊したのはステーキ会長のボーン・A・アンドラス会長宅でした。アンドラス姉妹がデントンにおける初期の教会の話をしてくれました。教会はアンドラス姉妹の両親であるジョン・ポーター、マーガレット・ポーター夫妻から始まりました。最初は日曜学校だけだったそうです。しかし、ポーター家族がラグズデール家族に福音を紹介し、次にラグズデール家族がノーブル家族とマルティノ家族に紹介しました。もちろん、宣教師の大きな貢献もあり、多くの家族が教会に入りました。西部からデントンに引っ越してきた人々もいました。当時小さな支部だった所には、現在4つのステーキがあります。16歳で改宗したマルティノ家の息子の一人は、現在教会の中央幹部として奉仕しています。
- 15. アルマ 26: 37
- 16. マタイ 21: 21
- 17. マルコ 5: 36
- 18. マタイ 10: 29, 31
- 19. 列王下 6: 15
- 20. 列王下 6: 16 - 17
- 21. モーサヤ 4: 11
- 22. マタイ 6: 9 - 10; 教義と聖約 65: 6 も参照
- 23. ルカ 2: 12
- 24. 教義と聖約 45: 44
- 25. 1テサロニケ 4: 16
- 26. 教義と聖約 133: 49
- 27. 教義と聖約 45: 46
- 28. 教義と聖約 88: 96
- 29. 教義と聖約 88: 97
- 30. 教義と聖約 101: 23
- 31. 教義と聖約 45: 49
- 32. 教義と聖約 133: 22
- 33. 教義と聖約 133: 25
- 34. モーセ 7: 63 参照
- 35. イザヤ 52: 10
- 36. 教義と聖約 133: 25
- 37. 教義と聖約 88: 104
- 38. マタイ 6: 10

あなたが責任を負うなら

義務を学び、正しく決断し、その決断に従って行動し、御父の御心を受け入れて、力強く進もうではありませんか。

わたしがほんの12歳のとき、生まれ故郷のチリ北部の町に、宣教師が福音を宣べ伝えるために初めてやって来ました。小さな支部に通い始めて6か月たったある日曜日、聖餐のパスをしていた宣教師からパンを差し出されました。わたしはその宣教師を見て、静かに言いました。「頂けません。」
「どうして?」と宣教師は尋ねました。



「教会の会員ではないからです。」
その宣教師は信じられずに、大変驚いた顔をしました。恐らくこう思ったのでしょう。「この若い男性は集会に毎回出席しているのに。教会員でないはずはない。」

翌日、宣教師は我が家にやって来て、家族全員に福音を教えようと力を尽くしてくれました。しかし、わたしの家族は福音に関心はなく、わたしが半年以上教会に毎週出席し続けたことだけをよりどころとして、宣教師は教え続けてくれました。そして、ついに待ち望んでいた時がやって来ました。宣教師からイエス・キリストの教会の会員になるよう勧められたのです。わたしは未成年なので両親の許可が必要だと宣教師は言いました。わたしは宣教師とともに父のもとへ行きました。父はきっと「おまえが成人して自分で決められるようになってからにしなさい」と愛情を込めて言うに違いない、とっていました。

宣教師が父と話している間、わたしは父が何かを感じて、わたしの望んでいる許可をくれるようにと必死に祈りました。宣教師に対する父の答えはこうでした。「長老、この半年間、息子ホルヘが毎週日曜の朝早起きして、一番良い服を着、教会まで



歩いて行くのを見てきました。教会から息子が受けた影響は良いことばかりでした。」それから、驚いたことにわたしに向かってこう言いました。「おまえがこの決断に対して責任を負うなら、バプテスマを受けることを許可しよう。」わたしは父に抱きついてキスをし、バプテスマを許可してくれたことに感謝しました。翌日、わたしはバプテスマを受けました。先週は、人生のその重要な出来事からちょうど47年目でした。

わたしたちはイエス・キリストの教会の会員としてどのような責任を負っているのでしょうか。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう語っています。「わたしたちには二つの大きな責任があります。その一つは自分自身の救いを求めることであり、次が隣人に対する義務を果たすことです。」²

つまり、御父がわたしたちに与えられたおもな責任は、自分自身の救いと人々の救いを求めることです。ここで言う救いとは、御父が従順な子供たちのために備えておられる最も高い栄光に到達することを指します。³ わたしたちは、託されたこの責任、しかも自ら引き受けたこの責任に基づいて、優先順位や望み、決意、日々の行動を決定しなければなりません。

イエス・キリストの贖罪によって昇栄が本当に可能であると理解した人にとっては、昇栄が得られないことは罰の定めを受けるのも同じです。したがって、成功の反対が失敗であるように、救いの反対は罰の

定めです。トーマス・S・モンソン大管長は、「優れた可能性に手が届くことを知れば、人は、並んでいることにそう長くは耐えられません」⁴ と語りました。それならば、昇栄が可能であると知ったわたしたちが、昇栄に劣るものに満足することなどできるでしょうか。

天の御父に対する責任を果たしたいという望みを全うし、御自分ようになってほしいという御父の期待に応える助けとなる、4つの重要な原則を紹介したいと思います。

1. 義務を学ぶ

神の御心を行い、神への責任を負うならば、まず自分に対する神の御心を学び、理解し、受け入れ、それに従って生活しなければなりません。主は言われました。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」⁵ 御父が何を期待しておられ、何をしよう望んでおられるかを理解しなければ、正しいことを行いたいという望みを持つだけでは十分ではありません。

『不思議の国のアリス』の物語の中で、どちらに進めばよいか分からないアリスはチェシャ猫に尋ねます。「教えてちょうだい。どちらの道を進めばいいの?」

猫は答えました。「君がどこを目指しているかによるよ。」

アリスは「どこでもいいわ」と言います。「それならどっちに進んでもかまわない

さ」と猫は言います。⁶

しかし、わたしたちは「人を幸せにする好ましい」⁷ 実のなる木に至る道、つまり、「命にいたる……道」が狭いことを知っています。その道を旅するには努力を要します。そして、その道を「見いだす者が少ない」⁸ のです。

ニーファイは「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」⁹ と教え、さらに、「聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう」¹⁰ と付け加えています。このように、わたしたちの義務を教えてくれるのは、古代や現代の預言者を通して与えられるキリストの御言葉と、聖霊を通して受ける個人の啓示です。

2. 決断する

福音の回復、戒め、召しに関する義務、あるいは神殿で交わす聖約について学んだとしても、わたしたちはその新しい知識に従って行動するかどうか選ばなければなりません。人はそれぞれ自らの意思に基づいて、バプテスマや神殿の儀式などの聖約を交わします。誓いを立てることは古代の信仰生活で普通に行われていたため、昔の律法には「わたしの名により偽り誓って……はならない」¹¹ と記されています。しかし、救い主は時の中間に、「しかり」は「しかり」、「否」は「否」の意味で言うように教えたときに、戒めを守るより高度な方法を教えられました。¹² わたしたちの言葉は相手に対する誠実さや忠実さを十分に証明するものでなければなりません。その相手が天の御父であれば、なおさらです。約束を守るとは、自分の言葉が誠実で正直であることを示します。

3. 決断に従って行動する

義務を学び、学んで理解したことに従って決断したら、その決断に従って行動しなければなりません。

中風の人が癒やしを受けるために連れ



て来られたときに、御父との約束を果たすという主の固い決意がはっきりと示されました。「イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、『子よ、あなたの罪はゆるされた』と言われ」¹³ ました。イエス・キリストの贖罪はわたしたちが罪の赦しを受けるために欠かせませんが、主が中風の男を癒やされたのは、あの大きい出来事の前でした。救い主がゲツセマネと十字架で苦しまれる時はまだ来ていなかったのです。にもかかわらず、イエスは中風の男に、立ち上がって歩く力を授けただけでなく、罪の赦しをお与えになりました。こうして主は、御父と交わした約束を必ず果たし、約束したことをゲツセマネと十字架上で実行するという明確なしるしを示されたのです。

わたしたちが選んで歩む道は狭く、前途にはさまざまな試練が待ち受けています。道からそれず、力強く進むためには、イエス・キリストを信じる信仰と最善の努力が必要です。たとえ自分を取り巻く状況の全てを理解できなくても、悔い改め、従順で、忍耐強くなければなりません。人を赦し、学んだことや自分が選んだことに従って生活しなければなりません。

4. 御父の御心を進んで受け入れる

弟子であるためには、義務を学び、正しく決断し、その決断に従って行動することに加えて、たとえ神の御心が自分の義にかなった望みや好みとは異なっても、御心を進んで受け入れる気持ちと能力を高めていかなければなりません。

わたしは、あの重い皮膚病を患った男性に感動し、彼を称賛します。彼は主のみもとに「願いにきて、ひざまずいて……『みこころでしたら、きよめていただけるのですが』」¹⁴ と言いました。彼の望みは義にかなっていましたが、何も要求せず、ただ主の御心を進んで受け入れようとしたのです。

何年も前に、わたしの親しくしている信仰篤い夫婦が、長い間祈り、待ち望んでいた息子を授かりました。友人夫婦と当時は一人っ子だった娘は、生まれたばかりの男の子をかわいがり、一家は喜びに包まれました。ところがある日、予期せぬことが起こりました。まだ3歳前後のその幼い男の子が、突然昏睡状態に陥ったのです。事情を知ったわたしはすぐ友人に電話し、つらい状況にいる彼らの力になりたいと伝えました。しかし、彼の答えはわたしの教

訓となるものでした。こう言ったのです。「息子のみもとに連れて行くことが御父の御心ならば、ぼくたちとしてはそれでいいのです。」友人の言葉には、不平や反抗心や不満はみじんもありませんでした。逆に、その言葉から感じ取れたのは、つかの間であっても、幼い息子に恵まれたことに対する主への感謝と、自分たちに対する御父の御心を全て受け入れようとする気持ちだけでした。数日後、幼子は日の栄えの住まいに行きました。

義務を学び、正しく決断し、その決断に従って行動し、御父の御心を受け入れて、力強く進もうではありませんか。

父が47年前に許してくれたわたしの決断に対して、心からの感謝と喜びを感じています。時を経て、父が出した「その決断に対して責任を負う」という条件とは、天の御父に対して責任を果たし、自分自身と同胞の救いを求めることにより、御父がわたしに期待し、望んでおられるような人物に近づくことだと理解するようになりました。この特別な日に、父なる神と、御父の愛しておられる御子が生きておられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
ジョセフ・W・シターティ長老

注

1. 次のことに注意を向けてください。「聖餐の儀式は教会員のために執行されるが、ビショップリックは教会員だけのために配られることを発表するべきではない。また、教会員でない人が聖餐を取るのを妨げるような行為をするべきではない。」(『手引き第2部 教会の管理運営』20.4.1)
2. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス』270
3. 教義と聖約 132:21-23 参照
4. トーマス・S・モンソン「救助へ向かう」『リアホナ』2001年7月号, 58
5. 教義と聖約 107:99
6. ルイス・キャロル, Alice's Adventures in Wonderland (1920年), 89
7. 1ニーファイ 8:10
8. マタイ 7:14
9. 2ニーファイ 32:3
10. 2ニーファイ 32:5
11. レビ 19:12
12. マタイ 5:37 参照
13. マルコ 2:5
14. マルコ 1:40

生めよ、増えよ、 地を従わせよ

天の御父は、わたしたちが御自分に似た者となるように、
生み、増え、地を従わせよと命じ、それができるよう
祝福してくださいました。

タバナクル合唱団の皆さん、世の救い主を賛美する美しい歌をありがとうございます。

父なる神が神の形にかたどって人を造るよう独り子に命じたとき、御父は子供たちを祝福して言われました。「生めよ、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また……地に動くすべての生き物を治めよ。」¹ わたしたちの現世の旅は、神からこの命令と祝福を受けて始まったのです。愛にあふれる御父は、わたしたちに、生み、増え、治めよという命令と祝福をお授けになりました。それは、わたしたちが成長して御自分のようになれるようにするためでした。

兄弟姉妹の皆さん、神が持っておられる3つの重要な特質について今日わたしがお話する間、皆さんの信仰と祈りをお願いします。わたしたちに与えられた神聖な責任、神聖な特質を伸ばして人生の旅を実り多いものとし、神聖な行く末を達成できるようにするという、御父から頂いた命令を、わたしたちがよく理解して果たすことができるように祈っています。

第1に、神は実を結ぶよう命じられました。

実を結ぶということに関して重要でありながらも見過ごされがちなのは、地上に神の王国をもたらすという務めです。救い主は次のように教えておられます。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。……」

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」²

わたしたちが実を結ぶには、キリストに従い、他の人たちがキリストのもとに来るよう助け、「イエス・キリストの名を受け……最後までイエス・キリストに仕え[る]」³ 必要があります。

今日、生ける預言者と使徒は、わたしたち一人一人が各自の能力と機会に応じて救いの業に熱心に携わるよう、声を上げて呼

びかけています。

この呼びかけに応じて多くの実を結ぶためには、まず「柔和で心のへりくだった人」⁴になることです。そうすれば、聖なる御霊^{みたま}の勧めに従い、交わした聖約を全て守って、さらにキリストに近づくことができます。⁵ 慈愛の賜物^{たまもの}を求めて受けることができます。そして、自分の家族、先祖、会員または会員でない隣人や友人に、イエス・キリストの福音を受け入れるよう勧める力が得られます。

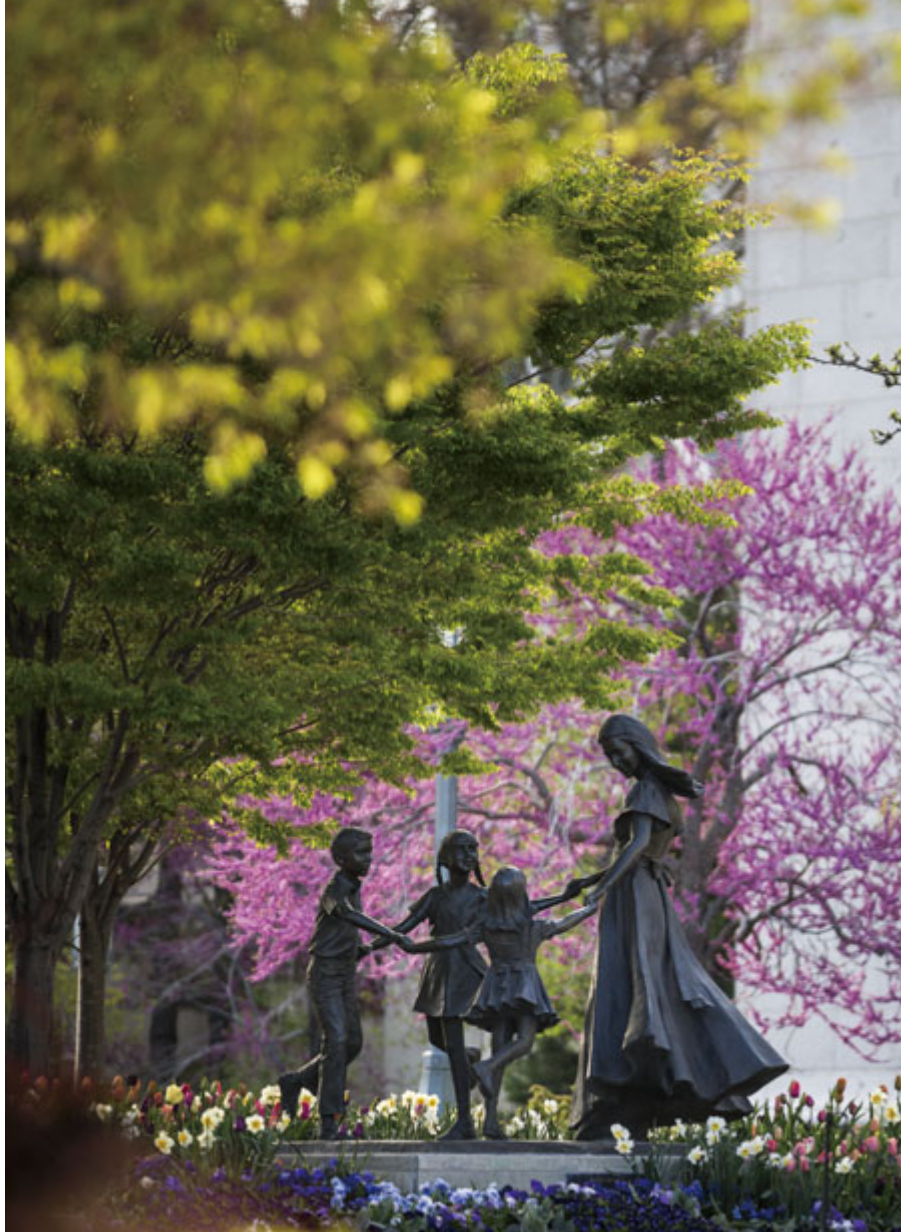
慈愛の精神で働くことは義務ではなく、喜びです。困難は信仰を育む良い機会となります。わたしたちは「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神〔の慈しみ〕の証人」⁶となります。

わたしたちは皆、救いの業に熱心に携わる能力と義務があります。救い主はわたしたちに、約束の伴う責任を与えられました。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。」⁷

第2に、神は増えるよう命じられました。

わたしたちの肉体は神から頂いた祝福です。肉体を授かったのは、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」⁸ という天の御父の業を成し遂げるためです。肉体はわたしたちがやがて神のようになるための神聖な手段です。

肉体があるおかげで、天の御父に従った霊の子供たちは、この地上での生活を経験することができます。⁹ 子供を産むということは、この地上での生活を享受する機会を他の霊の子供たちにも与えるということです。この世に生まれてくる霊は皆、神の戒めに従うならば成長して昇栄するこ



とができます。

男女間の結婚は、増えよという命令を果たすために神が定められた制度です。同性間のつながりでは子孫を増やすことができません。

法律と律法に基づいて結婚し、神殿で結び固められ、結び固めの聖約を尊ぶならば、両親と子供は、愛と実りある人生への備えという最高の経験をすることができます。そのようにする人々は、神と交わした聖約に従うことのできる理想的な環境で生活するのです。

天の御父はわたしたちを愛しておられます。ですから、忠実でありながらも、自分にはどうすることもできない理由で、聖約の結婚と子供という祝福を享受していない、または、享受することができない御父の全ての子供たちに対して、御父は御自

分が定められたときに、これらの祝福を受けられることができるようにしてくださいました。¹⁰

生ける預言者と使徒は、永遠の結婚の聖約を交わす機会のある全ての人に、知恵と信仰をもって前へ進むよう勧告してきました。わたしたちはその神聖な機会を、この世の物を追い求めるために引き延ばすべきではありませんし、結婚相手が見つからないほど高い理想を思い描くべきでもありません。

永遠の結婚の聖約によって結び固められ、聖約を守ることによって実りある生活をしている全ての人に与えられている約束は、サタンにはその人々の永遠の夫婦としての土台を壊す力がないということです。

第3に、神は地を従わせるよう命じられました。



地を従わせ、全ての生き物を治めるとい
うことは、これらを管理し、神の御心¹¹を
成し遂げ、神の子供たちの目的に添わせる
ということです。従わせることには、自分
の肉体を制御する力を身につけることも含
まれます。¹² それらの無力な犠牲になるこ
とや、それらを神の御心に反する方法で用
いることは**含まれません**。¹³

地にあるものを従わせる力を伸ばすた
めには、まず謙遜になって自分の人間的な
弱さを認め、キリストとその贖いを通して
力が得られることを認めなければなりません。
なぜなら、「キリストは[こう]言われた」
からです。「あなたがたはわたしを信
じるならば、わたしの心になうことを何
事でも行う力を持つであろう[。]」¹⁴ この
力は主の戒めに従って行動するときと与え
られます。御霊の賜物を求め、才能を伸ば
すことによって、わたしたちはこの力を伸
ばすことができます。

わたしはアフリカの多くの家族に見られ
る典型的な貧しい環境で生まれ育ちまし
た。わたしは両親の助けによって教育を
受けることにより、そのような環境を克服
する力を得ました。自分がどのような人物
になれるかという展望を育んでいくこと
は、わたしの成長に不可欠でした。その
後、結婚して間もない頃、妻とわたしは回
復された福音を見だし、福音を通じて霊
的な導きという偉大な祝福を常に受けて
きました。人並みの試練やチャレンジを
経験しましたが、主に助けを求めるとき、
平安と慰めをもたらす答えを見だしたの
で、くじけることはありませんでした。

今日の人間社会には、不道徳、ポルノグ
ラフィー、武力衝突、公害、薬物の乱用、
貧困といった問題が威を振るっています。
世の多くの人が、神の御心よりもあえて
「悪魔の意志と肉の思いに」¹⁵ 自らを従わ
せているからです。「彼らは主の義を打ち
立てるために主を求めようとせず、すべ
ての人が自分の道を、自分の神の像を求
めて歩む。その像は俗世の形であり、その
本質は偶像のそれである。」¹⁶

しかし、神は御自分の助けを受けて、試
練を克服し、堪え忍ぶように、全ての人に
勧めておられます。

「わたしは神である。わたしは世界を造
り、また人々を、彼らが肉体にある前に

造った。

……あなたがわたしに心を向け、わたし
の声を聴き、そして信じ、あなたのすべて
の背きを悔い改め、まことに水の中で、
……独り子……イエス・キリストの名に
よって……バプテスマを受けるならば、あ
なたは聖霊の賜物を受けるであろう。す
べてのものをその名によって求めれば、何
でも求めるものはあなたに与えられるであ
ろう。」¹⁷

自分には神のようになる可能性があるこ
とを理解し、主イエス・キリストの贖いか
ら得られる力に心から頼る忠実な末日聖
徒は、生まれながらの弱点があっても力を
与えられ「何事でもすることができ[ます。
]」¹⁸ 多くの人を束縛に陥れてきた悪の
誘惑に打ち勝つ力が与えられるのです。
パウロは次のように教えています。

「神は真実である。あなたがたを耐えら
れないような試練に会わせることはないば
かりか、試練と同時に、それに耐えられる
ように、のがれる道も備えて下さるのであ
る。」¹⁹

「主ご自身、試練を受けて苦しまれたか





十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

らこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。』²⁰

天の御父は、わたしたちが御自分に似た者となれるようにするために、生み、増え、地を従わせよと命じ、それができるよう祝福してくださいました。わたしたち一人一人が、選ぶ事柄に応じて実際に成長し、御父のようになることができるよう、助けが得られるようにしてくださいました。わたしたちが皆、自分に授けられた神聖な特質を伸ばす展望を頼りに、全ての神聖な特権を求め、神聖な行く末を達成できるような生活を送れますように。

わたしは父なる神とその愛する御子、救い主イエス・キリストが現実に生きておられることを証します。御父が輝かしい幸福の計画を立ててくださったこと、今日の地上における生ける預言者、わたしたちが愛し支持するトーマス・S・モンソンに鍵が授けられていることを証します。わたしたちが御父の全き祝福にあずかることができるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

- モーセ2:28; モーセ2:26-27; 創世1:26-28も参照
- ヨハネ15:5, 7-8
- 教義と聖約20:37
- モロナイ7:44
- モーサヤ3:19 参照
- モーサヤ18:9
- ヨハネ15:16
- モーセ1:39
- モーセ5:10-11 参照
- 『手引き第二部—教会の管理運営』1.3.3; エズラ・タフト・ベンソン「独身の姉妹たちに」『リアホナ』1989年2月号, 101-103 参照
- モルモン書ヤコブ2:18-19 参照
- 1コリント6:19-20; ガラテヤ5:16-25; 1テサロニケ4:3-7; 2テモテ2:22 参照
- モルモン書ヤコブ2:12-16, 20-21 参照
- モロナイ7:33
- 2ニーファイ10:24
- 教義と聖約1:16
- モーセ6:51-52
- アルマ26:12
- 1コリント10:13
- ヘブル2:18

安息日は喜びの日

安息日の行動が喜びと歓喜をもたらすということ、どのように確認できるでしょうか。

愛

する兄弟姉妹の皆さん、この2日間の大会は素晴らしいものでした。霊を鼓舞する音楽と力強い祈りによって、わたしたちの心は高められました。光と真理のメッセージによって霊が教化されました。この復活祭の日曜日に、わたしたちは再び心一つにして、預言者を遣わしてくださいました神に心からの感謝をささげます。

それぞれ自分に問いかけてみてください。「この大会中に聴いて感じた事柄により、自分はどのように変わるだろうか」と。皆さんの答えがどのようなものであっても、わたしは、皆さんの安息日に対する気持ちと行いを吟味するようにお勧めします。

わたしは、安息日を「喜びの日」と呼んだイザヤの言葉に心を引かれました。¹しかし、安息日が皆さんやわたしにとって本当に喜びの日となっているでしょうか。

わたしは何年も前に外科医として多忙であったとき、初めて安息日に喜びを見いだしました。安息日が自分の癒やしの日になったのです。週末になると、わたしの両手は、石けんや水や剛毛ブラシで繰り返しごしごし洗ったために荒れていました。難しい仕事の重荷からの解放も必要でした。待ち望んでいた休息が日曜日に与えられました。

救い主は、「安息日は人のためにあるも

ので、人が安息日のためにあるのではない」と言われたとき、何を意味されたのでしょうか。²わたしは、次のことを理解するように望んでおられたと信じています。それは、安息日はわたしたちに対する主からの賜物であり、厳しい日常生活からの真の休息と、霊的また肉体的に再生する機会を与えるものであるということです。神はわたしたちにこの特別な日を、娯楽や日常の仕事のためではなく、職務からの休息と、肉体的また霊的な安らぎのために与えてくださったのです。

ヘブライ語で、安息という言葉は「休息」を意味します。安息の目的は世界の創造に遡ります。主は6日間働かれた後、創造の業を休まれました。³後に、十戒をモーセに啓示されたとき、神はこう命じられました。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」⁴その後、エジプトでの奴隷の状態からイスラエルが救い出されたことを覚える日として、安息日が守られました。⁵おそらく最も重要なのは、主が御自分の民を聖められることを絶えず思い起こさせる永遠の契約として安息日が与えられたことでしょう。⁶

さらに、今日わたしたちは、イエス・キリストの贖罪を記念して安息日に聖餐を受けます。⁷そうすることで、進んで主の聖なる御名を受けることを聖約するのです。⁸

救い主は御自分のことを安息日の主と呼



ばれました。⁹ 安息日は主の日なのです。繰り返し、救い主は安息日を守るように、¹⁰ あるいは安息日を聖別するように¹¹ 求めてこられました。わたしたちはそうすることを聖約しているのです。

どのような方法で安息日を聖別するのでしょうか。わたしがまだ若かったとき、安息日に行くことと行ってはならないことについて他の人々がリストにしたものを学習しました。程なくして、安息日に対する自分の行いと態度が自分と天の御父の間のしるしであると聖典から学びました。¹² そのことを理解すると、もう行うことや行わないことのリストは不要でした。ある活動が安息日にふさわしいかどうか判断する必要がある場合、こう自問するだけでした。「自分は神にどんなしるしを差し出そうとしているだろうか。」この質問は安息日についての選びをきわめて明確にしました。

安息日に関する教義は昔からありましたが、それが約束を伴う新しい聖約の一部としてこの末の日に新たにされました。次の力強い神の言葉をお聞きください。

「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげな

ければならない。

まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。……

また、この日には、……あなたの食物を真心を込めて準備して、あなたの断食が完全になるように、……あなたの喜びが満たされるようにするだけである。……

あなたがたが、感謝して、楽しげな心と表情をもって、……これらのことを行うな

らば、……地に満ちているもの……は、あなたがたのものとなる。」¹³

この言葉の壮大さを考えてください。地に満ちているものが、安息日を聖く保つ人々に約束されています。¹⁴ イザヤが安息日を「喜びの日」と呼んだのも当然です。

安息日の行動が喜びと歓喜をもたらすということを、どのように確認できるでしょうか。教会に行くこと、聖餐を受けること、与えられた奉仕の召しを熱心に果たすことに加えて、他に何が安息日を喜びの日とする助けになるでしょうか。主に愛を示すために、皆さんはどのようなしるしを主に差し出しますか。

安息日は家族のきずなを強めるすばらしい機会です。結局、神は、御自分の子供であるわたしたち一人一人がエンダウメントを受けた聖徒として、神殿で家族として先祖や子孫と結び固められ、御自分のもとに帰って来るように望んでおられるのです。¹⁵

自分の子供たちに福音を教えるとき、安息日は喜びの日となります。親としてのわたしたちの責任はきわめて明白です。主はこう言っておられます。「シオンにおいて、……子供を持つ両親がいて、八歳のと





きに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」¹⁶

何年も前に大管長会は充実した家族の時間を持つことの大切さを強調し、次のように述べました。

「親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教えることに全力を尽くしてくださいようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、他のどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものではなくして決まっています。」¹⁷

わたしはこの勧告について考えると、もう一度若い父親に戻りたいと思うほどで

す。現在、親の皆さんは、安息日やその他の日における家族の時間をもっと有意義なものとするうえで助けとなる、次のような素晴らしいリソースを利用できます。LDS.org, Mormon.org, 聖書ビデオ, モルモンチャンネル, メディアライブラリー, 『リアホナ』などです。これらのリソースは、親が子供たちを教える神聖な義務を果たす際に非常に有益なものです。義にかなって注意深く親の務めを果たすこと以上に重要な務めはありません。

福音を教えるときに、皆さんはより多くのことを学びます。これが、主の福音を理解するのを助ける主の方法なのです。主はこう言っておられます。

「あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。

熱心に教えなさい。……教義において、福音の律法において、……神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。」¹⁸

このような福音の研究により、安息日が喜びの日となります。家族の人数や家族構成、住む場所にかかわらず、この約束は果たされます。

家族との時間の他に、家族歴史活動か

ら安息日の本当の喜びを味わうことができます。皆さんよりも前にこの世にきた家族、すなわち、この世にいる間に福音を受け入れる機会がなかった人々を探して見つけ出すことで、非常に大きな喜びを得ることができます。

わたし自身がそれを直接目にしてきました。数年前に、わたしの愛する妻ウェンディーは、家族歴史の探求を行う方法を学ぼうと決心しました。最初はゆっくりでしたが、少しずつ、この神聖な業を進めるのがどれほど容易か分かるようになりました。あれほど楽しそうな妻を見たことはありません。皆さんも他の国や家族歴史センターに出かけて行く必要はありません。家でコンピューターやモバイル機器を使って、儀式を待ちわびている人々を見つけることができます。先祖を見つけ、霊の獄から解放することによって、安息日を喜びの日としてください。¹⁹

他の人々、特に、体調の良くない人々や、孤独な人々、あるいは困っている人々に奉仕することによって、安息日を喜びの日としてください。²⁰ 彼らの霊を高めることにより、自分の霊も高められるのです。

イザヤは安息日を「喜びの日」と述べたとき、それを喜びの日とする方法も教えま



した。こう述べています。

「わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、……〔主を〕尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、

その時あなたは主によって喜びを得〔る。〕」²¹

安息日に自分の「楽しみ」を追い求めないためには、自己訓練が必要です。自分が望むものを諦めなければならないかもしれませんが、主によって喜びを得る選択をすれば、安息日を週日のように過ごすことはないでしょう。日常の仕事やレクリエーション活動は別の日に行うことができます。

次のことを考えてみてください。什分の一を納めることにより、わたしたちは収入の10分の1を主にお返しします。安息日を聖く保つことにより、7日のうちの1日を主にささげます。そのように、わたしたちには、毎日命を与えてくださる主にお金と時間をささげる特権があります。²²

神を信じる信仰は安息日に対する愛を生み出し、安息日を信じる信仰は神に対する愛を生み出します。神聖な安息日は実に喜びの日です。

この大会が終わろうとしている今、わた

したちは、どこに住んでいても自分の家族や隣人、友人の中で信者の模範にならないべきではないことを知っています。²³ まことの信者は安息日を聖く保ちます。

モルモン書を書き終えたときのモロナイの最後の嘆願で、わたしの話を結びます。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、……あなたがたは、……キリストによって聖められる。」²⁴

心から愛を込めて、皆さんにわたしの祈り、証、そして祝福を残します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. イザヤ 58:13
2. マルコ 2:27
3. 創世 2:2-3 参照
4. 出エジプト 20:8。申命 5:12; モーサヤ 13:16; 18:23 も参照
5. 申命 5:14-15 参照。週に7日働こうとする人々は、基本的に奴隷の状態にある。仕事か、おそらくはお金か、いずれにしてもそのような人々は奴隷である。週に7日働く大金持ちには裕福な奴隷である。
6. 出エジプト 31:13, 16 参照
7. 教義と聖約 59:12 参照。十字架上で亡くられるに先立ち、主は過越の祭のときに弟子

たちの間で聖餐を定められた(マタイ 26:26-28; マルコ 14:22-24 参照)。復活された主は、古代アメリカの民の間で主の贖罪を記念する聖餐を定められ(3ニーファイ 18:1-12; モロナイ 4:1-3; 5:2 参照)、また近代にそれを回復された(教義と聖約 20:77, 79 参照)。わたしたちはバプテスマのときに主の戒めを守るという聖約を交わすが、聖餐を受けることは、その聖約を更新することである(教義と聖約 20:68 参照)。

8. 教義と聖約 20:37, 77 参照
9. マタイ 12:8; マルコ 2:28; ルカ 6:5 参照
10. 出エジプト 31:13; レビ 19:3, 30; 26:2; 教義と聖約 68:29 参照
11. エゼキエル 20:20; 44:24 参照
12. 出エジプト 31:13; エゼキエル 20:12, 20 参照
13. 教義と聖約 59:9-10, 13, 15-16
14. レビ 26:2-4 参照
15. 教義と聖約 128:15-18 参照
16. 教義と聖約 68:25, 強調付加。モーセ 6:58-62 も参照
17. 大管長会の手紙, 1999年2月11日付; 『手引き 第二部一教会の管理運営』1.4.1で引用
18. 教義と聖約 88:77-78
19. イザヤ 61:1; 教義と聖約 128:22; 138:57-59 参照
20. マタイ 25:35-40 参照
21. イザヤ 58:13-14, 強調付加
22. モーサヤ 2:21 参照
23. 1テモテ 4:12 参照
24. モロナイ 10:32-33

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教が掲載されている最初のページを示しています。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン	(119) ニール・L・アンダーセンは、トーマス・S・モンソン長老(当時)から、主は扉を開け、奇跡を起こしてくださいと言われる。タイのある夫婦は、夫がまひを負ってからも、忠実であり続ける。コートジボワールで出会った後、2組の末日聖徒の夫婦はそこに神の王国を築く。
ウィルフォード・W・アンダーセン	(54) アメリカ先住民の男性が、医師に自分はダンスを教えられが、そのためには音楽を聞かなければならないと伝える。
デビッド・A・ベドナー	(46) デビッド・A・ベドナーは少年のとき、店の窓を割った後、牢屋に入れられることを恐れる。
リンダ・K・パートン	(29) ある父親が、庭の周りに張り巡らされたひものフェンスの中にいれば安全だと子供たちに話す。主は、ある姉妹が夫とともに御霊を招く家庭を築けるように導かれる。
ジェラルド・コセー	(98) パリ近郊に22年住んでいながら、コセー家族はまだエッフェル塔に行っていなかったことに気づく。3人のアフリカ人男性は、300マイル(480キロ)の道のりを歩いて、地方部大会に出席し、自分の一を納め、モルモン書を手に入れる。
D・トッド・クリストファーソン	(50) D・トッド・クリストファーソンは、母親としてふさわしくないと感じている女性を励まし、彼女のために祈る。
L・ホイットニー・クレートン	(36) 飛行機事故に遭いながらも生き延びた7歳の少女は、遠くの光に向かってよめきながらも歩き続け、無事に救助される。
クエンティン・L・クック	(62) クエンティン・L・クックのおじは第二次世界大戦で戦闘中に亡くなる。サモアの教会員は自分の病気について祈りたいと思い、どこが悪いのかを知るために医師の診察を受ける。
チェリル・A・エスプリン	(8) チェリル・A・エスプリンは集会に出席し、そこで姉妹たちは真理と聖霊は家庭と家族に悪に対抗する力を与えることを学ぶ。チェリル・A・エスプリンの曾祖父の姉は、証を伝えるべきだという力強い促しを感じる。
ヘンリー・B・アイリング	(17) 事故で幼い息子を亡くし、悲しみに暮れる両親に対して、御霊は慰めと力を与える。 (22) ヘンリー・B・アイリングは、自分が納めた断食献金がサイクロンによって大きな被害を受けたバヌアツの聖徒たちを助けると考えて祝福を感じる。ある姉妹が、シエラレオネ内戦中に自分や他の教会員を支えてくれた断食献金に対する感謝を表す。 (84) 13才のヘンリー・B・アイリングが断食献金を集めている途中で、ある男性から出て行けと言われる。ヘンリー・B・アイリングは、けがをした子供に生き延びるという祝福を与えるように靈感を受ける。聖霊が、死期の近い男性に召しを果たして奉仕するよう靈感を与え、ビショップが背負う大きな重荷を感じられるよう導かれる。
ラリー・M・ギブソン	(77) ラリー・M・ギブソンの父親が、永遠の行く末を思い出せるように息子に銀貨を与える。ラリー・M・ギブソンが息子たちと19時間かけて50マイル(80キロ)を歩く。
ジェフリー・R・ホランド	(104) ある若い男性が、渓谷の崖から落ちそうになった兄の手首をつかみ、引っ張ることで彼を安全に救い出す。
トーマス・S・モンソン	(88) トーマス・S・モンソンは執事するとき、病気の男性に聖餐を届けることを祝福と感じる。トーマス・S・モンソンはマーティン・ハリスの墓を訪れ、モルモン書への愛を育む。トーマス・S・モンソンは、海軍にいたとき友人に神権の祝福を授け、友人が癒やされる。 (91) ある男性が伝道部に戻ることにして神殿で祈った後、同じ伝道部で伝道した帰還宣教師から確認の答えを受ける。
ブレント・H・ニールソン	(101) ブレント・H・ニールソンと家族はあまり活発に教会に集っていない家族に忍耐強く愛を示し、教会に戻れるよう助ける。
ポニー・L・オズカーソン	(14) 1850年のイタリアで、ある若い女性が暴徒にひるまず立ち向かう。ポニー・L・オズカーソンの娘が、自分の子供の学校で母親の役目について擁護する。
ボイド・K・パッカー	(26) ボイド・K・パッカーが、将来の妻となるドナ・スミスからクッキーとキスをもらうために、大学の彼女の教室の外で待つ。
ケビン・W・ピアソン	(114) ヒーバー・J・グラント大管長は、終わりまで忠実にいられるよう祈る。ケビン・W・ピアソンは、伝道部長の召しを受けるために仕事をやめる。
ラファエル・E・ピノ	(117) ラファエル・E・ピノの子供たちは、あるテレビ番組とジグソーパズルから観点を大切にすることを学ぶ。少年がミケランジェロに、なぜ大理石の塊の中にダビデの像があると分かったかを尋ねる。
テール・G・レンランド	(56) 南アフリカのある母親が娘に粘り強くあることについて教える。宣教師が、同僚に対して忍耐強くあるようにという靈感を受ける。
マイケル・T・リングウッド	(59) マイケル・T・リングウッドはセミナーの間や伝道中に、最も大切な奉仕は、神だけが気づいてくださる奉仕であると学ぶ。
ウリセス・ソアレス	(70) ある執事がクラスメートにボルノグラフィーについて警告する。ウリセス・ソアレスは伝道中、サタンは僕の証の力をじゃますることはできないと学ぶ。
ジョセフ・W・シターティ	(126) ジョセフ・W・シターティは良い教育を受けることによって、貧しい環境から抜け出す。
キャロル・M・スティーブンス	(11) キャロル・M・スティーブンスは、アメリカ合衆国アリゾナ州に住むアメリカ先住民の姉妹を訪れる。彼女は、すべての人を自分の孫のように考えている。
ディーター・F・ワークトルフ	(80) ロシアのある知事は訪問中の大使たちに良い印象を与えるために農民たちを集め、張りぼての店を作る。ステーキの指導者が、自分の本来の教導の業に焦点を当てて目標を立てる。
ローズマリー・M・ウィクソム	(93) あまり教会に来ていない姉妹が福音を学び、モルモン書を読み、家族やワードの会員たちから助けを受け、信仰をもう一度新たにします。
ホルヘ・F・ゼバヨス	(123) 12才のホルヘ・F・ゼバヨスの父親は、息子が教会に入るのを許可する。忠実な夫婦は赤ん坊が亡くなったとき、天の御父の御心を受け入れる。



大会を生活に取り入れる

以下の活動と質問を、家族で話し合ったり、独りで深く考えたりするときのきっかけとなるよう活用してみてください。

子供向け

- 十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、近所の店の窓を誤って割ってしまって恐れを感じたときの話をしています(46ページ)。それから、イエス・キリストに頼り、従うならば、恐れではなく平安を感じることができると教えています。子供たちが救い主に頼ることができるよう、日々どのように助けられるでしょうか。難しいときにもキリストにあって力強く進むよう教えるにはどうすればよいでしょうか。
- 中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹は、庭に囲いのない家に家族で引っ越したときの話をしています(29ページ)。父親は庭の周囲にひもを張って境界が分かるようにして、ひもの中に入れば安全だと子供たちに言いました。子供たちは、ボールがひもを越えていっ

たときでもこの指示に従いました。両親はどのように子供たちの安全を守れるでしょうか。親に聞き従うことによりどのような祝福が受けられるでしょうか。天の御父はどのような境界線をわたしたちに与えておられるでしょうか。

- 管理ビショップリック第一顧問のジェラルド・コセービショップは、地方部の集會に出席するために泥でぬかるんだ道を2週間歩き続けたアフリカの3人の男性について話しています。3人は、家に帰る前に聖餐を受けられるよう、1週間滞在した後、村の人たちに配るためのモルモン書が詰まった箱を頭に掛けて持ち帰りました。あなたは、福音はすばらしいものだと思いますか。福音に従って生活するために、あなたはどのような犠牲を進んで払いますか。

青少年向け

- この大会では、多くの話の中で家族と家庭の重要性について採り上げられていました。例えば、中央若い女性会長のボニー・L・オスカーソン姉妹は教会員に「家庭を、神殿に次ぐ聖い場として擁護[する]」よう求めました(14ページ)。家庭を擁護するために、あなたは何かができるでしょうか。家庭を神聖な場所にするために、あなたは何かができるでしょうか。
- 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、安息日の自分の行いと態度は、天の御父と自分の間で交わすしるしだと教えています(129ページ)。ネルソン長老の話を読み、次の日曜日について考え、「神にどのようなしるしを送りたいだろうか」と自問するとよいでしょう。
- 七十人のウリセス・ソアレス長老は、司令長官モロナイの模範に従った執事について話しました(70ページ)。クラスの友達がボルノグラフィーの画像を携帯電話で見ているのに気づいたこの若い男性は、それはよくないことだからやめた方がよいと言いました。一人の友人はやめました。正義と選ぶための力を得るにはどうすればよいでしょうか。安全に楽しめるものを知るにはどうすればよいでしょうか。
- ほぼあらゆる情報とメディアにアクセスできる電子機器は強力なツールだと思うかもしれませんが、しかし、じっくりとこう考えたことはありますか。「自分は電子機器に支配されているのではないだろうか。」七十人のジョセ・A・ティシエラ長老はこのように言っています。「しばらく電子機器を脇に置[く]……と気分が一新されます。」(96ページ)試してみましょう。これから数日以内に、1日を選んで電子機器を使わないで過ごしてみましょう。気が乗らないかもしれませんが、友人や家族と話したり思い出を作ったりする時間をいつもより多く過ごせることに驚くでしょう。

- 断食は、霊的な力を真剣に受けるための最良の方法の一つです。大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は、イエスは荒れ野におられたときに断食と祈りにより、サタンの誘惑に耐える力を得られたと述べています(22ページ)。次の断食日曜日に、イエスの模範に従って目的をもって断食をしてみましょう。神の助けや守りも得られるでしょう。

成人向け

- 総大会で、何人かの話者が、社会と救いの計画における結婚と家族の重要性について話しました。31ページでパートン姉妹が尋ねている5つの質問に答え、最も身近な人たちを高め、さらに愛するためにできることについてよく祈りながら考えてみるとよいでしょう。さらにイエス・キリストを中心とした家庭を築き、互いによりよく支え合うためにはどうすればよいか、家族で話し合しましょう。
- トーマス・S・モンソン大管長は、神殿での礼拝からもたらされる祝福について話しています。例えば、霊性、平安、誘惑や試練を克服するための力などです(91ページ)。「神殿に入ると、ある種の霊性がもたらされ、人の心に感じられるいかなる感情よりも崇高な平安を感じる事ができます。」神殿参入をさらに意義深いものにするために、あなたにはどんなことができるでしょうか。
- イエス・キリストを信じる信仰は行動の原則です。七十人会長会のL・ホイットニー・クレイトン長老はこう述べています。「わたしたちが偶然祈ったり什分の一を支払ったりしないのと同様、わたしたちは偶然救い主や主の福音を信じるようになることはありません。……わたしたちは積極的に信じることを選ぶのです。」(36ページ)

この話と、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の話(32ページ)、中央初等協会会長のローズマリー・M・ウィクソム姉妹の話(93ページ)、ジェラルド・コセービショップの話(98ページ)、七十人のケビン・W・ピアソン長老の話(114ページ)を読んで、イエス・キリストとその福音を信じる信仰を強める方法を書き出した後、信仰が増したことにより得られると約束されている祝福を書き出すとよいでしょう。



- 十二使徒定員会のジェフリー・R・ホルランド長老は、救い主の贖罪と復活は「世界の歴史の中でも最も壮大に表された純粋な愛」であると教えています(104ページ)。あなたの思いや言葉、行いを、救い主が行ってくださったことへの感謝をさらに表すものとするにはどうすればよいでしょうか。
- 大管長会第二顧問のディーター・F・ウークトドルフ管長は、恵みという奇跡の賜物と、従順ならびに悔い改めの大切さについて説明しました。「心と思いを尽くして神の恵みの賜物を理解しようと努めることを通して、わたしたちはますます柔和に感謝の念をもって天の御父を愛し、御父に従うことを望むようになります。」(107ページ) 恵みについてさらに学ぶために、次の参照聖句を読むとよいでしょう。ローマ3:23:6:1-4;2 ニューファイ25:23, 26; モーサヤ2:21;5:2;27:25; アルマ34:10, 15; エテル12:27; モロナイ10:32 ■





ドミンゴ神殿である。この神殿は同じ島にあるが、ハイチから行くと約1日かかる。

コートジボワール・アビジャン神殿

コートジボワールは人口約2,000万人の国で、そのうち2万7,000人以上が教会の会員である。伝道活動が正式に始まったのは1988年である。最も近い神殿はガーナ・アクラ神殿であり、340マイル(約550キロ)離れた所にある。

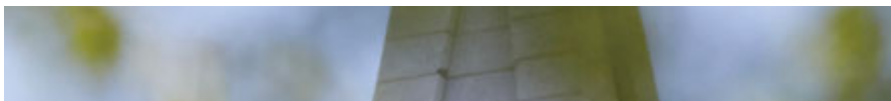
タイ・バンコク神殿

タイは人口約6,700万人の国で、そのうち約1万9,000人が末日聖徒である。教会は1966年に正式にタイで組織された。タイ・バンコク神殿にはタイに住む末日聖徒だけでなく、東南アジアに住む全ての末日聖徒が参入することになる。現在のところタイから最も近い神殿は中国香港神殿であるが、1,000マイル(約1,610キロ)以上離れた所にある。

その他の神殿に関するニュース

2015年に予定されているアルゼンチン・コルドバ神殿、アメリカ合衆国ユタ州ペイソン神殿、ペルー・トルヒーヨ神殿、アメリカ合衆国インディアナ州インディアナポリス神殿、メキシコ・ティファナ神殿の5つの神殿のオープンハウスと文化の祭典、儀式開始の年月日は、既に発表されている。改築したメキシコ・メキシコシティー神殿が再奉献されるのも2015年である。

教会はこの2年間、既に建設を発表した神殿の完成に力を注いできた。先に述べた3つの新しい神殿に加え、儀式が行われている神殿が144、改装中の神殿が5、建築中の神殿が13ある。また、これ以前に建設が発表された13の神殿は、工事開始前の様々な準備段階にある。■



新たに3つの神殿の建設が発表される

神 殿の建設がハイチ・ポルトープランス、コートジボワール・アビジャン、そしてタイ・バンコクで計画されていると、総大会日曜午前の部会でトーマス・S・モンソン大管長が発表した。どれもその国初の神殿建設となる。神殿の具体的な場所は後日発表される予定である。

「これらの地域、そして世界中で神殿が

ある場所に住む忠実な会員にとって、何とすばらしい祝福が用意されていることでしょう」とモンソン大管長は述べた。

ハイチ・ポルトープランス神殿

ハイチは人口約1,000万人の国で、そのうち2万人以上が末日聖徒である。伝道活動が正式に始まったのは1980年である。最も近い神殿はドミニカ共和国サント

新たに支持された 指導者

七 十人第一定員会で奉仕するため5人の新たな中央幹部が総大会で支持された。キム・B・クラーク長老、アレン・D・ヘイニー長老、ボン・G・キーチ長老、ウーゴ・モントヤ長老、バーン・P・スタンフィル長老である。

中央若い男性会長会も新たに支持された。スティーブン・W・オーウェン会長、ダグラス・D・ホームズ第一顧問、M・ジョセフ・ブラフ第二顧問である。

中央初等協会会長会顧問も新たに支持された。メアリー・L・ダラム姉妹が第二顧問として奉仕するよう召された。ローズマリー・M・ウィクソム姉妹は引き続き会長を務め、これまで第二顧問を務めていたチェリル・A・エスプリン姉妹が第一顧問として奉仕することになった。

新たに召された指導者の経歴は、140 - 144 ページに記載されている。■



バチカンサミットに おける アイリング管長

大 管長会第一顧問ヘンリー・B・アイリング管長は、2014年11月18日にバチカン市国で開かれたカトリック教会主催の国際超宗教サミットにおいて、「幸せな結婚生活のルネサンス」を提唱した。「補い合う男女」という表題のもとに行われたこのサミットには、23か国から14の宗教の指導者が集結した。

「男女は結婚の絆で結ばれるならば、本人とその家族、周囲の人々を幸せにする卓絶した力を持つようになります」とアイリング管長は述べた。■

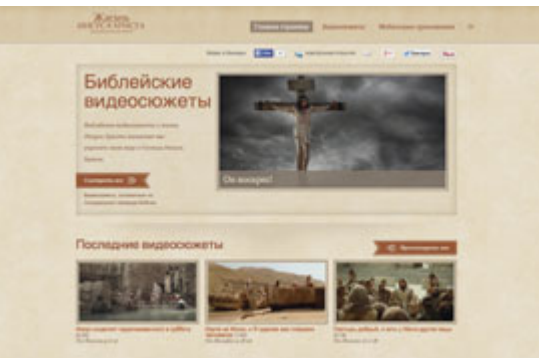
モルモン書が110の 言語で出版

モ ルモン書は最近コスラエ語版が出版されたことにより、翻訳言語が110に達した。コスラエはミクロネシア連邦内の島である。

コスラエ語版モルモン書は2015年7月に出版される。デジタル版は3月にLDS.orgだけでなく携帯アプリの「福音ライブラリ」と「モルモン書」で利用できるようになった。教会は現在、聖典のテキストが印刷に回されると同時にデジタル版を公開している。これにより会員は新たに翻訳された聖典をはるかに早く読むことが可能になる。

聖典の新たな言語への翻訳は、今後2年間に複数発表されるであろう。2015年だけでもモルモン書は新たに3つの言語で出版され、合本（モルモン書と教義と聖約、高価な真珠を1冊にまとめたもの）はさらに5つの言語で出版される。これらの言語のデジタル版が公開される際には、該当する言語を話す会員に、その旨が通知される。■





聖書ビデオで信仰を強める

あなたは今年、BibleVideos.org と「聖書ビデオ」アプリで The Life of Jesus Christ Bible Videos (聖書ビデオ「イエス・キリストの生涯」) を見ることによって、イエス・キリストを信じる自分自身の信仰と他の人の信仰を強くすることができます。

信仰を築いてくれるこのビデオは、他の教会の信者にも無償で提供されている。救い主のメッセージを全世界のできる限り多くの人々に伝え、ビデオを視聴する人が救い主の愛を感じ、さらに救い主のようになりたいという思いを抱けるよう助けるためである。

教会はこの3年間で聖書関係のビデオを92本制作しており、半数以上が英語からスペイン語やポルトガル語、イタリア語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、韓国語、日本語、中国語に翻訳されている。

ベドナー長老夫妻が答える質疑応答番組

十 二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老とスーザン夫人が答える「Face to Face 質疑応答」という生放送番組には、世界中の青少年が参加するとよい。

青少年は、2015年5月12日山間夏時間の午後6時に始まる双方向対話のストリーム配信を生で視聴して、これに参加することができる。このストリーム配信は、LDS.org と LDS Youth Facebook ページ、青少年の活動サイト (lds.org/youth/activities)、モルモンチャンネルの YouTube ページで視聴することができる。この放送は10の言語(英語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、韓国語、日本語、中国語)に同時通訳される。

青少年は、この番組の開催前でも開催



中でも質問を寄せることができ、#LDSface2faceで双方向のやり取りを続けることもできる。

「青少年の皆さんには、このイベントに備えてどんな質問をするかをよく考える際に、御霊の導きを求めるよう勧めます」とベドナー長老は言う。「御霊があれば、わたしたちは皆、ともに学ぶのです。」■

ヤングアダルト対象のディボーショナル

七十人会長会のリン・G・ロビンズ長老は、2015年5月3日(日曜日)の山岳部夏時間午後6時からヤングアダルト向けの全世界ディボーショナルで話す。この放送は、2015年に3回計画されている全世界ディボーショナルの2回目である。

18歳から30歳までの全てのヤング

アダルト、および高校もしくは同等の学校を卒業予定の生徒の参加が勧められている。教会衛星システムやインターネット、その他のメディアで視聴することができる。ディボーショナルを基に作成される資料を devotionals.lds.org で入手することもできる。■

ウェブサイトでは話題の記事

末日聖徒は、地元地域改善のためにどんなことをしているだろうか。MormonNewsroom.orgにアクセスして見てみよう。以下に挙げるのは、国際ニュースルームウェブサイト在最近投稿された記事の例である。

ニュージーランドとバヌアツ

サイクロン・パムが太平洋の小さな島国バヌアツを襲ったとき、ニュージーランド・オークランドの末日聖徒は教会の人道支援部門に支援を仰ぎながら、この暴風雨の被害者を救助するために集結した。できる限り多くの被災者を助けるために、食糧の入ったコンテナボックスを2,000個用意した。ボックスいっぱい詰めたのは、小麦粉、米、果物の缶詰、豆、コンビーフ、魚、クラッカー、レーズン、麺、粉末チョコ

レートミルク、缶切りである。ボックスは、水を運ぶなど他の用途にも使うことができる。

ドミニカ共和国とカナダ

ドミニカ共和国とカナダでは、国際女性の日を記念する国連主催の行事に、末日聖徒の女性が参加した。世界における女性の多くの貢献をたたえるために、1,200人以上の女性がドミニカ共和国の複数の地域の教会の集会所に集まった。行事には宗教界や市民、軍部の各指導者らが参加し、プログラムには音楽やスピーチが盛り込まれた。カナダでは、末日聖徒の女性が扶助協会について紹介し、扶助協会が「世界で奉仕するすばら

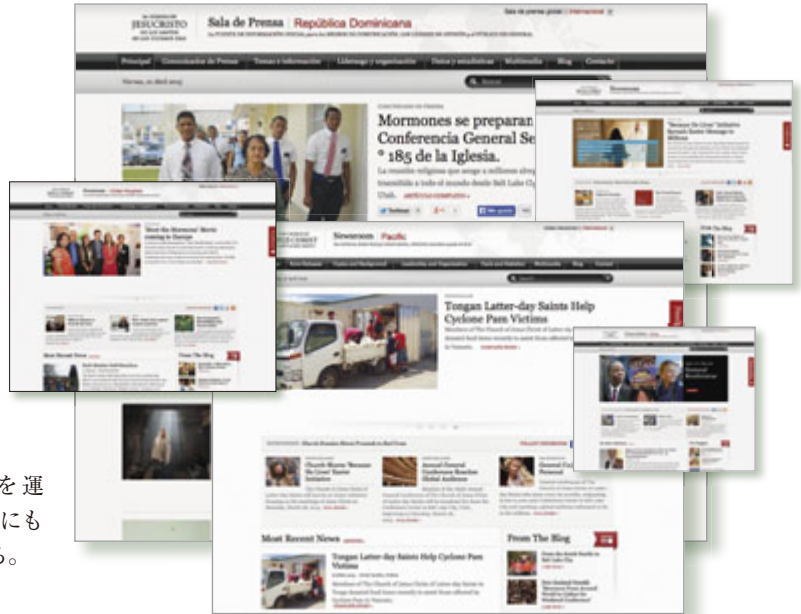
しい組織」であることに触れて、その日を祝った。

イギリス

イギリス・コベントリーワードの女性たちの当初の目標は、アフリカの貧しい子供たちのためにドレスを100着縫うことだった。ところが終わってみると、縫い上げたドレスは230着以上になっていた。このシンプルなドレスは枕カバーから作ったもので、簡単に作ることができる。ある姉妹は裁縫の経験はなかったにもかかわらず、3着作ることができた。

アメリカ合衆国アーカンソー州

アーカンソー州リトルロックステーキは、さまざまな宗教を持つ地元住民を対象に、信教の自由をテーマにしたデイボーションを開催した。カトリックやメソジスト、イスラム教徒のコミュニティー代表者や福音主義のラジオパーソナリティーなど、600人以上が出席した。さまざまな宗教を持つ人が参加したこのイベントでは州副知事のビデオメッセージが流され、州上院議員が閉会の祈りをささげた。両者ともバプテスト派である。主催者はこのイベントによって「理解の橋」が築かれたと言っている。■



さらに使いやすくなるLDS.org

LDS.orgはこの5月にメニュー構造を刷新し、ナビゲーションを簡素化する。教会が常に改良を加えているこの公式ウェブサイトの最新版は、自分流のアレンジがさらにしやすくなり、使い勝手も良くなる。

開発者やデザイナーらが、何年にもわたるユーザーからのフィードバックにさ

らなる調査結果を組み合わせ、より直感的なメニューを作ったのである。新しいナビゲーションではコンテンツやリソースが著しく簡単に探せるようになったことが、テストで明らかになっている。

会員が新しいサイトに慣れるようにLDS.orgの使い方のビデオツアーも用意されている。■



キム・B・クラーク長老

七十人第一定員会

最初の示現の記録

最初の示現に関するジョセフ・スミスの4つの記述は、現在10の言語で読むことができます。これには josephsmithpapers.org からアクセスすることができ、そこにあるオンラインビューアーからは、原文や日記にもアクセスすることができます。■



キム・ブライス・クラーク長老が生徒および教師として教育にささげてきた生涯は、七十人第一定員会での新しい割り当てにおいて益をもたらすでしょう。クラーク長老は2015年4月4日に支持され、ブリガム・ヤング大学アイダホ校学長としての割り当てを終える数週間後に、この奉仕を始めます。

「5歳のときから学校にいます」と、この新たに召された七十人は話します。「学んだり教えたりするのが大好きです。」

クラーク長老は1949年3月20日、ユタ州ソルトレーク・シティーで、メルリンとヘレン・マー・クラーク夫妻の3人のうちの最初の子供として生まれました。11歳までソルトレーク・シティーで子供時代を過ごし、父親の仕事でワシントン州スポケーンに移りました。

ユタ州プロボにあるブリガムヤング大学に通うことを計画していましたが、高校2年生のとき他の選択肢を探求する必要を感じ、マサチューセッツ州のハーバード大学に出願することを決めました。そこは結局30年以上住むことになる場所でした。

ハーバード大学で1年間勉強した後、1968年から1970年まで、クラーク長老はドイツ南部伝道部で奉仕しました。帰還するとブリガム・ヤング大学に通い、間もなくワードでスー・ロレイン・ハントと出会いました。それから数か月後の1971年6月14日、二人は結婚しました。夫妻には7人の子供がいます。

結婚後間もなく、夫妻はマサチューセッツ州ボストン地域へ移り、クラーク長老は再びハーバード大学に入学しました。長老はここで、学士号、修士号、博士号を全て経済学の専門で取得しました。1978年にハーバードビジネススクールの職員となり、その後1995年には同スクール学部長に指名されました。2005年にブリガム・ヤング大学アイダホ校の学長に指名され、10年近く務めました。

クラーク長老は、長老定員会会長、ワード幹部書記、ビショップリック顧問、ビショップ、高等評議員、ステーク伝道部会長顧問、地域七十人として奉仕してきました。■

わたしたちの時代のための教え

2015年5月から10月までの間、メルキゼデク神権および扶助協会の第4日曜日のレッスンは、2015年4月の総大会の説教の中から一つあるいは複数の説教を選んで準備してください。2015年10月の第4日曜日のレッスンについては、2015年4月または10月のどちらの総大会から選んでもかまいません。ステーク会長および地方部会長は、それぞれの地域で使う説教を選んでください。あるいは、その責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。

第4日曜日のレッスンに出席する人は、選ばれた説教を事前に研究するよう奨励されています。これらの説教は、conference.lds.org から多くの言語で視聴および閲覧できます。(訳注——ldschurch.jp からアクセスできます。「福音ライブラリー」「総大会」の順にクリックしてください。「リアホナ」総大会号を閲覧するには「福音ライブラリー」「教会機 関誌」「リアホナ」の順にクリックし、2015年5月号のアイコンをクリックしてください。) ■



アレン・D・ヘイニー長老

七十人第一定員会

アレン・デッカー・ヘイニー長老は、2015年4月4日に七十人第一定員会の会員として支持されました。

ヘイニー長老は1958年8月29日、バン・ロイドとサラ・ルル・ルイス・ヘイニー夫妻の間に生まれました。

ユタ州ローガン生まれですが、ユタ州北部およびカリフォルニアのシリコン・バレーの町々で青少年の時期を過ごしました。5つの異なる小学校、2つの中学校、最後はユタ州バウンティフルにある高校に通いました。

このさまざまな経験は、「毎年のように場所が変わり、再び最初から友達を作らなければならなかったのが、あらゆる人を理解することを学ぶことについて素晴らしいレッスンを教えてくれました」と長老は話しています。「教会について素晴らしいと思うことの一つは、人々と関わり合い、異なる生い立ち、経験、才能、能力の中に価値を見いだす機会を与えてくれることです。」

ヘイニー長老は1977年から1979年にアルゼンチン・コルドバ伝道部で奉仕しました。

ブリガム・ヤング大学で政治学の学士号を取得し、1985年、法務博士号を取得するため同大学のJ・ルーベン・クラーク法科大学院に進みました。

ラーサム・アンド・ワトキンス法律事務所のサンディエゴ支所で働き始める前に、カリフォルニア州サンディエゴの第9巡回控訴裁判所で1年間、裁判書記を務めました。およそ5年前、兄弟とともに自身の法律事務所を立ち上げました。

ヘイニー長老は、長老定員会会長、ワード若い男性会長、セミナー教師、高等評議員、ビショップ、ステーキ会長、地域七十人としても奉仕しました。

ブリガム・ヤング大学に通っているときにデボラ・ルース・ホールと出会い、二人は1983年12月19日、ソルトレーク神殿で結婚しました。夫妻には6人の子供がいます。

ヘイニー長老は12歳のとき、初めてモルモン書を読んで印をつけたときの自分の証^{あかし}について、感極まりながら話しました。「信じなかったことも、祈らなかったことも記憶にありません。」■



ボン・G・キーチ長老

七十人第一定員会

ボン・G・キーチ長老の生涯を決定付けた瞬間は、合衆国最高裁判所で、ワレン・E・バーガー最高裁判官およびアントニン・スカリア判事と一緒に司法書記の任務を終え、弁護士として本格的に働く準備をしていたときにやってきました。

合衆国のどの都市でも、多くの異なる有名法律事務所でも働くことができました。しかし、キーチ長老と妻のバーニス・ピム・キーチはどうすべきか靈感を求めて祈りました。しばらく祈り求めた後、夫妻はユタ州ソルトレーク・シティーに戻り、長老はカートン・マッコスキー法律事務所でも働きました。

当時、キーチ長老は家族の近くにいたために、最新の司法関係の仕事をする機会を犠牲にするかもしれないと思いました。しかし、教会の主任外部法律顧問として、キーチ長老は信教の自由に関する憲法問題および先例を作る訴訟を扱いました。長老は合衆国内のほとんど全てのおもな宗教団体の代理人を務めました。「そのような素晴らしい顧客のために、重要な問題について働くことができ本当に幸せでした」と話しました。

キーチ長老は1960年3月17日、ユタ州プロボで、ゲリーとディアン・キーチ夫妻の間に、4人の子供のうち最初の子供として生まれました。ユタ州プレゼントグローブに移るまで、家族はユタ州オレムに住んでいました。長老は将来の伴侶とともにそこで高校のセミナー評議会に奉仕しました。

キーチ長老はドイツ・デュッセルドルフ伝道部で奉仕し、ドイツ人を愛するようになりました。伝道地から帰還すると、1981年11月21日、ソルトレーク神殿でバーニス・ピムと結婚しました。夫妻には6人の子供がいます。キーチ長老は1984年、ブリガム・ヤング大学を政治学の専門で卒業し、1987年、同大学で法律学の学位を取得しました。

2015年4月4日に七十人第一定員会に支持されたキーチ長老は、ビショップリック、高等評議会で、またステーキ会長、地域七十人として何年にもわたり奉仕してきました。■



ウーゴ・モントヤ長老

七十人第一定員会

ウーゴ・モントヤ長老は七十人第一定員会に召されたとき、当然ながら圧倒されるような気持ちになりました。しかし、新しい中央幹部のための訓練集会で聞いたトーマス・S・モンソン大管長の次のような思いやりのある言葉に、慰めを見いだしました。「皆さんがこの場にいるのは、救い主を愛しているからです。」モントヤ長老は、新しい召しによって自分が主の用向きを果たす職に就いたことを知り、胸が高鳴るのを感じました。

「わたしは救い主を愛しています。行くように求められる場所にはどこへでも行きます」と長老は言います。「行くよう求められることはどんなことでもするつもりです。言うように求められることは何でも言います。」モントヤ長老は、教会の第185回年次総大会の土曜午後の部会で支持を受けました。

また、長老は自身の家族の信仰の受け継ぎの中に強さを見いだしています。長老の曾祖父ラファエル・モンロイは、メキシコにおける教会歴史上、中枢的な人物です。1915年、モンロイ兄弟と会員仲間のピセンテ・モラレスは、メキシコ革命の最中に革命派のグループに捕まりました。この二人の男性は、数々の要求の一つとして、もし自分の宗教を捨てるなら解放してやろうと言われました。

二人はその要求を拒み、一団が発砲した銃弾に倒れて亡くなりました。

モントヤ長老は、曾祖父の模範が自分の生涯に力強い影響力を与え続けていると言っています「わたしは自分が正しいことを行っていると知っているときに感じる信仰あかしと証によって、恐れを克服することができることを学んできました。」

モントヤ長老は1960年4月2日に、カリフォルニア州フレズノで、アベル・モントヤ・モンロイとマクロピア・モンロイのもとに生まれました。長老はその生涯の大半をメキシコで過ごしてきました。

エルモシージョでマリア・デル・カルメン・バルバストロと結婚し、二人は1983年4月6日に、アリゾナ州メサ神殿で結び固められました。夫妻には、5人の子供がいます。

1979年から1981年まで、メキシコシティー北伝道部で専任宣教師として働いた後、長老はワード若い男性会長、高等評議員、ビショップ、ステーキ会長、地域会計監査員、地域七十人などを歴任しました。

1986年にソララ州立大学から農業工学の学位を得て卒業しました。ゼロックスで幾つかの管理職を務め、教会のインスティテュートの教師としても働いてきました。■



バーン・P・スタンフィル長老

七十人第一定員会

バーン・ペリー・スタンフィル長老は、偶然の一致などというものはないと信じています。この人生には、ある目的のために人々同士の交わりがあること、また主は御自身の子供たちが他の人にとっての祝福となるよう靈感を与えることがおできになることを信じています。

スタンフィル長老は福音において他の人々に仕え、教え導くこと、特に一人一人と個別に働くことを楽しんでます。

1957年8月8日にジェド・スタンフィルとベギー・スタンフィルのもとに生まれたスタンフィル長老は、モンタナ州タウンセンド近くの牧場で育ちました。長老は勤勉に働くことの価値について学び、救い主イエス・キリストに対する証あかしを培いました。4人の子供のうち3番目であるスタンフィル長老には、教会で忠実に奉仕してきた二人の兄と妹が一人います。

「わたしたちの弱さにもかかわらず、生活の中に主の手があります」と長老は言います。「妻もわたしも完全な人間ではありません。完全な家族を持っているわけでもありません。わたしたちは日々自分の人生を生きようと努力し、主に自分の人生の一部になっていただくこうとしている、ごく平凡な人間です。

フランスのトゥールーズで専任宣教師として奉仕した後、ブリガム・ヤング大学で農業経済学の学位を得るために勉学に励んでいるとき、長老はアリシア・コックスと出会い、結婚しました。二人は1980年12月17日に、ソルトレーク神殿で結婚しました。

卒業後、スタンフィル家族は、長老が家族の農場管理を助けられるようにモンタナ州に戻りました。農場では、牛や干し草、穀物などの管理に携わりました。1998年に長老は家業を売却し、不動産と金融商品の資産管理、並びに慈善事業や私有地所に関わる仕事を始めました。

スタンフィル長老はビジネスと楽しみの両方の面で航空機と関わりを持ってきました。民間用の固定翼機と回転翼機の両方の操縦資格を持っています。

妻とともに4人の娘を育てるのに加えて、スタンフィル長老は教会で長老定員会会長、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、地域七十人として奉仕する機会を得てきました。七十人第一定員会への召しを受けたとき、長老は第六定員会で奉仕していました。■



メアリー・R・ダラム

中央初等協会会長会第二顧問

メアリー・リチャーズ・ダラム姉妹は自身の結婚生活を通じて、家庭生活と教会の召し、職業など数々の責任による必要のバランスを取る一方で、自分や夫が主を第一にすると、万事がうまく運ぶことに気づくようになりました。「これはすばらしいことです。主を信頼するなら、主は祝福して下さいます」とダラム姉妹は言います。

このことは姉妹が何度も繰り返し理解してきたテーマです。夫がステーキ会長会で働いていたとき、姉妹はワード若い女性会長として奉仕するよう召されました。後に2000年から2003年まで、夫が日本東京伝道部を管理していたとき、夫妻はともに奉仕しました。今や姉妹は、夫が地域七十人としての奉仕を始めるときに、中央初等協会会長会の第二顧問として働くことになります。

「わたしたちが互いに、また主とくびきをともにするとき、万事がさらにうまく運んでいます」と姉妹は述べています。

メアリー・ルシル・リチャーズは1954年3月15日にバージニア州ポーツマスで、L・ステファン・リチャーズ・ジュニアとアネット・リチャーズのもとに生まれました。ユタ州ソルトレーク・シティーに居を構える前、父親が医学の学位を得るまでの間、一家はミネソタ州ミネアポリスに引っ越しました。

両親と大勢の親族の信仰と愛に育まれて、姉妹は福音が真実であると知るようになりました。「福音に従った生活を送ったことは幸せな経験でした。それはつらいものではなく、とても楽しいものでした」とダラム姉妹は言っています。

若い女性だった頃、姉妹は結婚する若い男性を見つけることの大切さに感銘を受け、そのことを日々の祈りと毎週の断食によって重要視しました。高校卒業後、ブリガム・ヤング大学でダンスのクラスに出席し、当時ユタ大学に通っていたマーク・ダラムと出会いました。「すぐに彼の善良さに気づきました」とダラム姉妹は言っています。

二人は1974年に、ソルトレーク神殿で結婚しました。夫妻には7人の子供がいます。

ダラム姉妹は、ステーキ扶助協会会長、ワード扶助協会会長会顧問、福音の教義クラスの教師、ワード若い女性会長を歴任しましたが、最近では初等協会中央管理会の一員として働いていました。■



スティーブン・W・オーウェン

中央若い男性会長

スティーブン・W・オーウェンは14歳のとき、毎週近所の人の広々とした庭の芝刈りと、菜園の雑草抜きをするために雇われました。「その芝生を刈るのに3日かかりました」と、2015年4月4日に中央若い男性会長として支持されたオーウェン兄弟はほほえみながら語ります。

年若いスティーブンがようやく仕事を終えると、賢明な雇用主はスティーブンが見落とした雑草を指摘するために、庭を一緒に散歩するように頼みました。

「彼はどの雑草も全部引き抜く必要があることを教えてくれました」とオーウェン兄弟は言います。「それがわたしの最初の仕事であり、義務を引き受けるとはどういうことかを理解させてくれました。」

オーウェン兄弟はその年に、芝生や庭の手入れをすることにはるかに勝る教訓を学んだことでしょう。その教訓の一つは、満足感とは難しい事柄を正しい方法で行う中で得られるものであるということが分かったことです。また指導者の価値についても学びました。

その隣人はただ、スティーブンが最善を尽くすことを期待したのです。「彼がわたしにこう言っているかのようなのでした。『わたしには君がどのような人物になれるかが分かっている。君を助けたいんだ。』」

教会の若い男性一人一人が、可能なかぎり最高の神権者になれるよう助けてくれる指導者を必要としていると、オーウェン兄弟は付け加えました。「わたしは青少年に対して深い共感の念を抱いています」と長老は言っています。「青少年たちを愛しています。この時期は、彼らの残りの生涯に向けて規範を定める重要な時期であることを知っています。」

オーウェン兄弟はテキサス州サンアントニオ伝道部で奉仕し、その後、ボーイスカウト隊長、ワード若い男性会長、ピショップ、高等評議員、ステーキ会長を歴任しました。

ユタ州ホラデイの出身です。また、2005年から2008年まで、カリフォルニア州アルカディア伝道部を管理し、その地で夫人のジェーン・ストリンガム・オーウェンとともに奉仕しました。二人は1979年12月28日にユタ州プロボ神殿で結婚しました。夫妻には5人の子供がいます。

1958年3月22日、ユタ州ソルトレーク・シティーでゴードン・オーウェンとキャロライン・オーウェンのもとに生まれました。ユタ大学で財政学の学位を取り卒業しました。ユタ州プロボのグレートハーベストブレッド社の社長を務めています。■



ダグラス・D・ホームズ

中央若い男性会長会第一顧問



M・ジョセフ・ブラフ

中央若い男性会長会第二顧問

「今の青少年の世代は以前のどの世代よりも、従順に対するより優れた理解力を有しています。わたしはそれが主の時刻表に含まれている事柄であり、わたしたちが暮らす時代に向けての準備であると思います」と、2015年4月4日に中央若い男性会長会第一顧問として支持されたダグラス・D・ホームズ兄弟は語ります。

ホームズ兄弟は1961年2月27日にユタ州ソルトレーク・シティーでディー・W・ホームズとメルバ・ハウエル・ホームズのもとに生まれ、ユタ州コットンウッド・ハイツで育ちました。

1980年から1982年までスコットランド・グラスゴー伝道部で奉仕した後、ホームズ兄弟は1986年にブリガム・ヤング大学で生活科学の学士号を取得しました。また続けて、当大学のマリョットスクールオブマネジメント校から経営学の修士号を取得しました。

卒業後、3年間経営コンサルタントとして働いた後、通信業界で華々しい経歴を築き始め、メディア・ワングループの戦略および企業開発担当の取締役副社長になりました。2000年から2010年に伝道部会長としての召しを受けるまでの間、そして再び2013年から、長老は投資および不動産開発において自営業を営んでいました。

長老は非営利団体に自分の時間と才能の多くをささげ、ユタ州の「デービス郡ユナイテッド・ウェイ」、「ペアレンツ・フォー・チョイス・イン・エデュケーション」、デービス郡の「セーフハーバー・ウィメンズシェルター」、「アカデミー・フォー・クリエイティングエンタープライズ」の役員会で奉仕してきました。

また、ワード伝道主任、ワード若い男性会長、ビショップ、つい最近まではステーキ会長会の顧問として奉仕してきました。2010年から2013年までミシガン州デトロイト伝道部を管理しました。

1985年6月22日、エリン・スー・トゥーンとソルトレーク神殿で結婚しました。夫妻には6人の子供がいます。

「わたしたちは生活の中で御言葉の力を目にしてきました。それが預言者の言葉であろうと、聖典の言葉であろうと、聖霊のささやきであろうと同じです」とホームズ兄弟は語りました。■

M・ジョセフ・ブラフはグアテマラ・グアテマラシティー中央伝道部の会長として奉仕した(2011年から2014年までの)3年間に、自身の父親と義理の父親をともに亡くしました。

葬儀のためにブラフ姉妹が合衆国に戻ることもできましたが、夫妻は、どちらの場合にもブラフ姉妹がグアテマラにとどまり、伝道活動が続けることに決めました。「わたしたちにはできる限りそのままとどまって働いた方が良いと分かっていました」と、2015年4月4日に中央若い男性会長会第二顧問として召されたブラフ兄弟は語ります。「彼女の父親もわたしの父親も、まさにわたしたちにそうするよう望んでいたことでしょう。」

ブラフ兄弟は1963年12月11日にユタ州ソルトレーク・シティーで、モンティ・J・ブラフとエイダ・B・ブラフのもとに生まれました。そして青少年時代をユタ州ファーマントンとワイオミング州ロバートソンで過ごしました。後に七十人の一員として奉仕することになるジョセフの父親が伝道部会長として召されたときに、家族はミネソタに引っ越ししました。父親が伝道部会長としての奉仕を終えたとき、ジョセフは高校3年生でした。高校に復学する代わりに、ジョセフは高校卒業認定試験を受け、その後すぐにユタ州オグデンのウェバー州立大学に進みました。

しかし、両親はジョセフに、セミナリー4年間の修了証を受けて卒業するようにと強く求めました。将来の伴侶となるエミリー・ジェーン・トンブソンに出会ったのは、ジョセフがデービス高校でセミナリーに出席していたときのことでした。二人は1985年4月25日にソルトレーク神殿で結婚しました。夫妻には4人の子供がいます。

二人が結婚する前、ブラフ兄弟はグアテマラ・ケツアルテナンゴ伝道部で宣教師として奉仕しました。当時伝道部会長であったホルヘ・H・ベレス会長は、「わたしの人生に最も影響を及ぼす人」となった、とジョセフは語っています。

ユタ州ローテーション・モルディング社の創業者であり経営者でもある長老は、ユタ大学で財政学の学士号および経営学の修士号を取得しました。教会では、ビショップ、ワード若い男性会長、高等評議員を歴任しました。■



「み前にぬかずき」 アネット・エベレット画

「み前にぬかずき
み言葉, 感謝す
心はみたまに
触れつつ, うたうよ
麗うるわしきみ言葉
導きたまえや
強く耐ゆえて行かん
み言葉, 従い」
(『賛美歌』89 番)



トーマス・S・モンソン大管長は第 185 回年次総大会で次のように語った。
「天の御父の祝福により、
わたしたちが神殿での礼拝に対する特別な精神を持つことができますように。
また、わたしたちが御父の戒めに従順であり、
わたしたちの主、救い主イエス・キリストの
足跡を注意深くたどることができますように。
わたしは^{あかし}証します。イエス・キリストは^{あがな}贖い主であり、神の御子です。
イエス・キリストこそ、最初の復活祭の朝に、墓から出て来られた御方、
神の全ての子供たちに永遠の命の^{たまもの}賜物をもたらしてくださった御方です。」

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

